

美沢川流域の遺跡群XVI

—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第2分冊

美々8遺跡低湿部

平成3年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



美沢川流域の遺跡群XVI

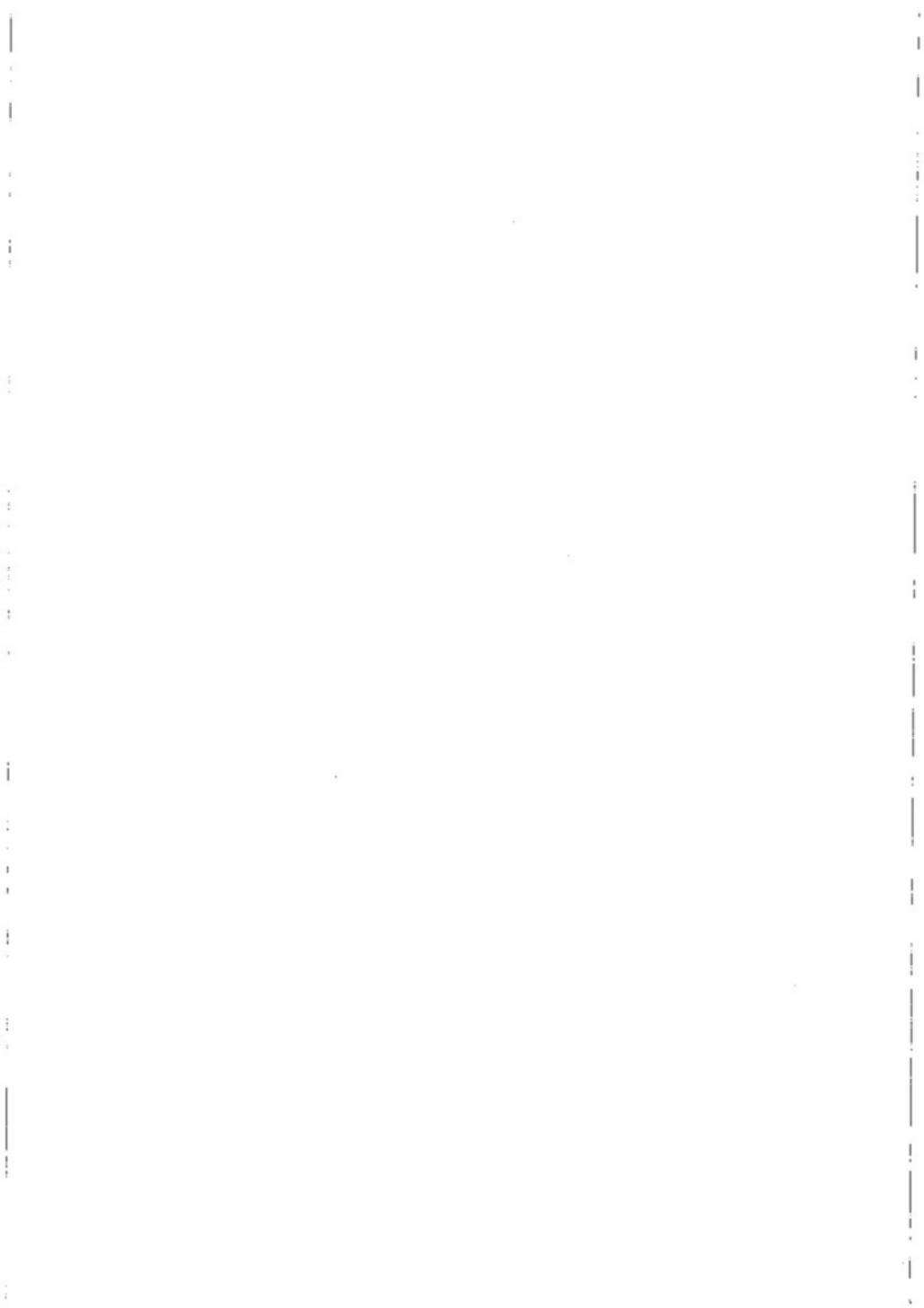
—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第2分冊

美々8遺跡低湿部

平成3年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





1 A'地区回転式雕頭鉤中柄部と魚突き鉤台部



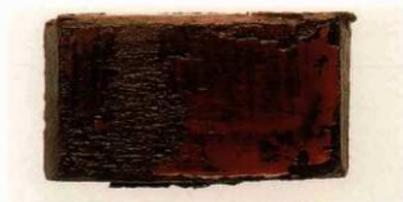
1 A'地区早稲出土状況



2 メカジキの線刻画が描かれた早稲水振部



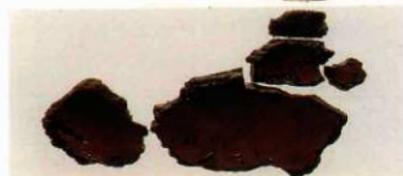
1 樹皮製鞘と山刀柄



A'429



CI 黒
44



CI 黒
45
同上
内面

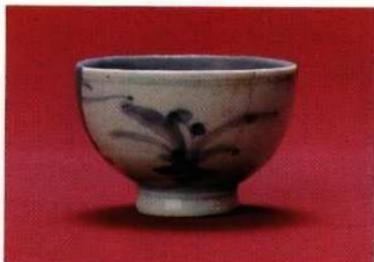


同上
底

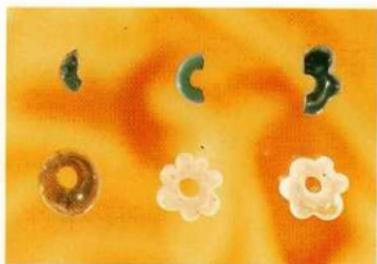
2 漆塗椀・鉢・漆器類



1 C地区I黒層漆塗碗(46)



2 A'地区伊万里焼碗(16)



3 A'地区ガラス玉(1~6)



4 A'地区信楽焼槽鉢(15)



5 キセル管首・吸口

目 次

□ 絵

記号などの説明

V 美々8遺跡低湿度部の調査(平成3年度)

1	調査の概要	1
(1)	調査要項	1
(2)	調査体制	1
(3)	調査の経緯	1
2	遺跡の位置と環境	3
(1)	位置と環境	3
(2)	遺跡の層序	3
3	調査と整理の方法	7
(1)	発掘区の設定	7
(2)	調査の方法	8
(3)	整理と保管の方法	12
(4)	有機質遺物の保存処理	15
(5)	金属製品の保存処理	16
(6)	各種分析と試料のサンプリング	16
4	調査結果の概要	17
5	A'地区の調査	23
(1)	遺構とその遺物	23
1)	建材群(木組)	23
2)	双礫・集石	40
(2)	包含層の遺物	41
1)	土器・陶磁器	41
2)	石器・石製品、礫	42
3)	ガラス製品	52
4)	金属製品	53
5)	木製品・樹皮製品・繊維製品	56
6)	自然遺物	132
6	B地区の調査	133
(1)	包含層の遺物	133
1)	土器	133
2)	石器・礫	133
3)	金属製品	136
4)	木製品	137
5)	自然遺物	143

7 C地区の調査	144
(1) 表土層の遺構	144
1) 杭穴	144
(2) 第0黒色土層の遺構とその遺物	144
1) 建物跡	144
2) 木組	147
3) 立杭	147
4) 杭穴	153
5) 集石	153
6) 焼土	153
7) クルミ集中	154
8) 炭化物集中	154
(3) 第0黒色土層の遺物	156
1) 石器・石製品、礫	156
2) 金属製品	156
3) 木製品・樹皮製品	157
4) 自然遺物	167
(4) 第I黒色土層の遺構とその遺物	168
1) 立杭	168
2) 杭穴	168
3) 双礫	173
4) 集石	173
5) 炭化物集中	173
(5) 第I黒色土層の遺物	175
1) 土器	175
2) 石器・石製品、礫	175
3) 金属製品	181
4) 木製品	181
5) 自然遺物	192
(6) 第II黒色土層の遺物	192
8 各種分析	193
(1) 美々8遺跡低湿度部出土の動物遺存体 千歳市教育委員会 高橋 理	193
(2) 植物遺存体について	195
(3) 金属製品について	196
(4) 樹種同定	197
9 まとめ	199
(1) 遺構	199
(2) 遺物	200
引用・参考文献	202
写真図版	
V 美々8遺跡低湿度部の調査	203

挿 図 目 次

図V- 1 低湿部の位置 …………… 2	図V- 36 A'地区金属製品 (2)…………… 55
図V- 2 A'・C地区地形図、土層断面 位置図、土層模式図…………… 4	図V- 37 A'地区木製品 (1)…………… 63
図V- 3 A'・C地区土層断面図 ……… 5	図V- 38 A'地区木製品 (2)…………… 64
図V- 4 発掘区の設定…………… 7	図V- 39 A'地区木製品 (3)…………… 65
図V- 5 調査区現況図…………… 9	図V- 40 A'地区木製品 (4)…………… 66
図V- 6 安全対策と機材の配置…………… 10	図V- 41 A'地区木製品 (5)…………… 67
図V- 7 クラムシェル調査…………… 11	図V- 42 A'地区木製品 (6)…………… 68
図V- 8 水洗・保管・搬送状況…………… 13	図V- 43 A'地区木製品 (7)…………… 69
図V- 9 土層剥取りと保存処理…………… 14	図V- 44 A'地区木製品 (8)…………… 70
図V- 10 B地区遺物分布図…………… 18	図V- 45 A'地区木製品 (9)…………… 71
図V- 11 A'・C地区遺構位置図 ……… 19	図V- 46 A'地区木製品 (10)…………… 72
図V- 12 A'・C地区遺物分布図 ……… 21	図V- 47 A'地区木製品 (11)…………… 73
図V- 13 A'地区建材群出土状況図 …… 25	図V- 48 A'地区木製品 (12)…………… 74
図V- 14 A'地区建材 (1) ……………… 27	図V- 49 A'地区木製品 (13)…………… 75
図V- 15 A'地区建材 (2)…………… 29	図V- 50 A'地区木製品 (14)…………… 76
図V- 16 A'地区建材 (3)…………… 30	図V- 51 A'地区木製品 (15)…………… 77
図V- 17 A'地区建材 (4)…………… 31	図V- 52 A'地区木製品 (16)…………… 78
図V- 18 A'地区建材 (5)…………… 32	図V- 53 A'地区木製品 (17)…………… 79
図V- 19 A'地区建材 (6)…………… 33	図V- 54 A'地区木製品 (18)…………… 80
図V- 20 A'地区建材 (7)…………… 34	図V- 55 A'地区木製品 (19)…………… 81
図V- 21 A'地区建材 (8)…………… 35	図V- 56 A'地区木製品 (20)…………… 82
図V- 22 A'地区建材 (9)…………… 36	図V- 57 A'地区木製品 (21)…………… 83
図V- 23 A'地区建材 (10)…………… 37	図V- 58 A'地区木製品 (22)…………… 84
図V- 24 A'地区双礫・集石 …………… 40	図V- 59 A'地区木製品 (23)…………… 85
図V- 25 A'地区土器・陶磁器 …………… 41	図V- 60 A'地区木製品 (24)…………… 86
図V- 26 A'地区石器・石製品 …………… 43	図V- 61 A'地区木製品 (25)…………… 87
図V- 27 A'地区礫グラフ・表 (1)………… 45	図V- 62 A'地区木製品 (26)…………… 88
図V- 28 A'地区礫グラフ・表 (2)………… 46	図V- 63 A'地区木製品 (27)…………… 89
図V- 29 A'地区礫グラフ・表 (3)………… 47	図V- 64 A'地区木製品 (28)…………… 90
図V- 30 A'地区礫グラフ・表 (4)………… 48	図V- 65 A'地区木製品 (29)…………… 91
図V- 31 A'地区礫グラフ・表 (5)………… 49	図V- 66 A'地区木製品 (30)…………… 92
図V- 32 A'地区礫グラフ・表 (6)………… 50	図V- 67 A'地区木製品 (31)…………… 93
図V- 33 A'地区礫グラフ・表 (7)………… 51	図V- 68 A'地区木製品 (32)…………… 94
図V- 34 A'地区ガラス玉 ……………… 52	図V- 69 A'地区木製品 (33)…………… 95
図V- 35 A'地区金属製品 (1)…………… 54	図V- 70 A'地区木製品 (34)…………… 96
	図V- 71 A'地区木製品 (35)…………… 97

図V-72	A'地区木製品 ⑥	98	図V-104	C地区0 黒層集石	153
図V-73	A'地区木製品 ⑦	99	図V-105	C地区0 黒層焼土	154
図V-74	A'地区木製品 ⑧	100	図V-106	C地区0 黒層石器・石製品	155
図V-75	A'地区木製品 ⑨	101	図V-107	C地区0 黒層礫グラフ・表	155
図V-76	A'地区木製品 ⑩	102	図V-108	C地区0 黒層金属製品	156
図V-77	A'地区木製品 ⑪	103	図V-109	C地区0 黒層木製品 (1)	159
図V-78	A'地区木製品 ⑫	104	図V-110	C地区0 黒層木製品 (2)	160
図V-79	A'地区木製品 ⑬	105	図V-111	C地区0 黒層木製品 (3)	161
図V-80	A'地区木製品 ⑭	106	図V-112	C地区0 黒層木製品 (4)	162
図V-81	A'地区木製品 ⑮	107	図V-113	C地区0 黒層木製品 (5)	163
図V-82	A'地区木製品 ⑯	108	図V-114	C地区0 黒層樹皮製品	164
図V-83	A'地区木製品 ⑰	109	図V-115	C地区I 黒層立杭断面図	168
図V-84	A'地区木製品 ⑱	110	図V-116	C地区I 黒層遺構位置図	169
図V-85	A'地区木製品 ⑲	111	図V-117	C地区I 黒層遺構位置図	170
図V-86	A'地区木製品 ⑳	112	図V-118	C地区I 黒層立杭	171
図V-87	A'地区木製品 ㉑	113	図V-119	C地区I 黒層双礫・集石	174
図V-88	A'地区纖維製品・樹皮製品	114	図V-120	C地区I 黒層土器	175
図V-89	A'地区樹皮製品	115	図V-121	C地区I 黒層石製品	176
図V-90	B地区石器	133	図V-122	C地区I 黒層礫グラフ・表 (1)	177
図V-91	B地区礫グラフ・表 (1)	134	図V-123	C地区I 黒層礫グラフ・表 (2)	178
図V-92	B地区礫グラフ・表 (2)	135	図V-124	C地区I 黒層金属製品 (1)	179
図V-93	B地区金属製品	136	図V-125	C地区I 黒層金属製品 (2)	180
図V-94	B地区木製品 (1)	138	図V-126	C地区I 黒層木製品 (1)	183
図V-95	B地区木製品 (2)	139	図V-127	C地区I 黒層木製品 (2)	184
図V-96	B地区木製品 (3)	140	図V-128	C地区I 黒層木製品 (3)	185
図V-97	B地区木製品 (4)	141	図V-129	C地区I 黒層木製品 (4)	186
図V-98	C地区表土層遺構位置図	145	図V-130	C地区I 黒層木製品 (5)	187
図V-99	C地区0 黒層遺構位置図	146	図V-131	C地区I 黒層木製品 (6)	188
図V-100	C地区0 黒層立杭断面図	147	図V-132	C地区I 黒層漆器(右下は A'地区)	189
図V-101	C地区0 黒層立杭 (1)	148	図V-133	C地区II 黒層土器・石器	192
図V-102	C地区0 黒層立杭 (2)	149			
図V-103	C地区0 黒層立杭 (3)	150			

表 目 次

表V-1 A'地区掲載建材 (1) 38	表V-27 B地区掲載木製品142
表V-2 A'地区掲載建材 (2) 39	表V-28 B地区自然遺物143
表V-3 A'地区双碟・集石計測値 40	表V-29 C地区0 黒層掲載立杭151
表V-4 A'地区掲載土器・陶磁器 42	表V-30 C地区0 黒層立杭152
表V-5 A'地区掲載石器・石製品 42	表V-31 C地区0 黒層杭穴152
表V-6 A'地区掲載ガラス製品 52	表V-32 C地区0 黒層集石計測値153
表V-7 A'地区掲載金属製品 55	表V-33 C地区0 黒層炭化物集中154
表V-8 A'地区掲載木製品 (1)116	表V-34 C地区0 黒層掲載石器・石製品 155
表V-9 A'地区掲載木製品 (2)117	表V-35 C地区0 黒層掲載金属製品156
表V-10 A'地区掲載木製品 (3)118	表V-36 C地区0 黒層掲載木製品165
表V-11 A'地区掲載木製品 (4)119	表V-37 C地区0 黒層掲載木製品・樹皮製品166
表V-12 A'地区掲載木製品 (5)120	表V-38 C地区0 黒層自然遺物167
表V-13 A'地区掲載木製品 (6)121	表V-39 C地区I 黒層掲載立杭172
表V-14 A'地区掲載木製品 (7)122	表V-40 C地区I 黒層立杭172
表V-15 A'地区掲載木製品 (8)123	表V-41 C地区I 黒層杭穴172
表V-16 A'地区掲載木製品 (9)124	表V-42 C地区I 黒層炭化物集中173
表V-17 A'地区掲載木製品 (10)125	表V-43 C地区I 黒層双碟・集石計測値 174
表V-18 A'地区掲載木製品 (11)126	表V-44 C地区I 黒層掲載土器175
表V-19 A'地区掲載木製品 (12)127	表V-45 C地区I 黒層掲載石器・石製品 175
表V-20 A'地区掲載木製品 (13)128	表V-46 C地区I 黒層掲載金属製品179
表V-21 A'地区掲載木製品 (14)129	表V-47 C地区I 黒層掲載木製品190
表V-22 A'地区掲載木製品 (15)130	表V-48 C地区I 黒層掲載木製品・漆器191
表V-23 A'地区掲載木製品 (16)131	表V-49 C地区I 黒層自然遺物192
表V-24 A'地区自然遺物132	表V-50 C地区II 黒層掲載土器・石器192
表V-25 B地区掲載石器133	
表V-26 B地区掲載金属製品136	
8 各種分析 (1) 表1 C地区0 F-1 出土動物遺存体194	
8 各種分析 (2) 表1 美々8遺跡遺構出土植物遺存体195	

口 絵 目 次

口絵1-1 A'地区回転式離頭鉗中柄部と魚突き鉤台部	口絵4-1 C地区I 黒層漆塗碗(46)
口絵2-1 A'地区早稲出土状況	口絵4-2 A'地区伊万里焼碗(16)
口絵2-2 メカジキの線刻画が描かれた早稲水掻部	口絵4-3 A'地区ガラス玉(1~6)
口絵3-1 樹皮製鞆・山刀柄	口絵4-4 A'地区借来壳播鉢(15)
口絵3-2 漆塗碗・鉢・漆器類	口絵4-5 キセル雁首・吸口

図 版 目 次

V 美々8遺跡低湿度部の調査

図版V-1-1	低湿度調査前状況	205	図版V-14-5	A'地区釘・葉莖	218
図版V-1-2	低湿度調査状況	205	図版V-14-6	A'地区木製品出土状況	218
図版V-2-1	調査準備工事状況	206	図版V-15-1	A'地区調査状況	219
図版V-2-2	低湿度埋戻し状況	206	図版V-15-2	A'地区櫃(1)出土状況	219
図版V-3-1	A'地区クラムシェルに よる包含層採取	207	図版V-15-3	A'地区回転式離頭橋中 柄 ⁰⁰ 出土状況	219
図版V-3-2	A'地区クラムシェルに よる包含層採取	207	図版V-15-4	A'地区櫃(5)出土状況	219
図版V-3-3	A'地区クラムシェルに よる包含層堆積	207	図版V-16-1	A'地区横楯 ⁰⁰ 出土状況	220
図版V-4-1	A'地区クラムシェルにより 採取した包含層の調査状況	208	図版V-16-2	A'地区漆器(429)出土 状況	220
図版V-4-2	A'地区完掘状況	208	図版V-16-3	A'地区樹皮製小刀鞘 ⁰⁰ 出土状況	220
図版V-5-1	A'地区人力調査状況	209	図版V-16-4	A'地区縄(403)出土状況	220
図版V-5-2	A'地区土層断面	209	図版V-16-5	A'地区魚突き鉤台 ⁰⁰ 出土 状況	220
図版V-5-3	A'地区土層断面	209	図版V-17-1	A'地区木製品(1)	221
図版V-6-1	A'地区建材群調査状況	210	図版V-18-1	A'地区木製品(2)	222
図版V-6-2	A'地区建材群調査状況	210	図版V-19-1	A'地区木製品(3)	223
図版V-6-3	A'地区建材群調査状況	210	図版V-20-1	A'地区木製品(4)	224
図版V-6-4	A'地区建材(1)	210	図版V-21-1	A'地区木製品(5)	225
図版V-7-1	A'地区建材(2)	211	図版V-22-1	A'地区木製品(6)	226
図版V-8-1	A'地区建材(3)	212	図版V-23-1	A'地区木製品(7)	227
図版V-9-1	A'地区建材(4)	213	図版V-24-1	A'地区木製品(8)	228
図版V-10-1	A'地区建材(5)	214	図版V-25-1	A'地区木製品(9)	229
図版V-11-1	A'地区土器	215	図版V-26-1	A'地区木製品 ⁰⁰	230
図版V-11-2	A'地区土器	215	図版V-27-1	A'地区木製品 ⁰¹	231
図版V-11-3	A'地区土器	215	図版V-28-1	A'地区木製品 ⁰²	232
図版V-12-1	A'地区石器・石製品	216	図版V-29-1	A'地区木製品 ⁰³	233
図版V-13-1	A'地区鉄鍋 ⁰⁰ 出土状況	217	図版V-30-1	A'地区木製品 ⁰⁴	234
図版V-13-2	A'地区鉄鍋	217	図版V-31-1	A'地区木製品 ⁰⁵	235
図版V-14-1	A'地区鉄製品	218	図版V-32-1	A'地区木製品 ⁰⁶	236
図版V-14-2	A'地区銭貨	218	図版V-33-1	A'地区木製品 ⁰⁷	237
図版V-14-3	A'地区キセル雁首・ 吸口	218	図版V-34-1	A'地区木製品 ⁰⁸	238
図版V-14-4	A'地区刀装具・銅製品	218	図版V-35-1	A'地区木製品 ⁰⁹	239
			図版V-36-1	A'地区木製品 ⁰⁰	240
			図版V-37-1	A'地区木製品 ⁰¹	241

図版V-38-1	A'地区繊維製品・樹皮製品	242	図版V-49-1	C地区0黒層石器・石製品	253
図版V-39-1	B地区クラムシェルによる包含層採取	243	図版V-49-2	C地区0黒層キセル	253
図版V-39-2	B地区埋戻し状況	243	図版V-49-3	C地区0黒層角釘(2)出土状況	253
図版V-40-1	B地区クラムシェル足場造成状況	244	図版V-49-4	C地区0黒層金属製品	253
図版V-40-2	B地区包含層積載状況	244	図版V-50-1	C地区0黒層木製品出土状況	254
図版V-40-3	B地区水面下の包含層採取状況	244	図版V-50-2	C地区0黒層アシ茎出土状況	254
図版V-40-4	B地区作業ヤード包含層撤入状況	244	図版V-50-3	C地区0黒層あか汲み(1)出土状況	254
図版V-40-5	B地区遺物出土状況	244	図版V-50-4	C地区0黒層濯濯部(2)出土状況	254
図版V-40-6	B地区遺物採取状況	244	図版V-50-5	C地区0黒層有孔板(3)出土状況	254
図版V-40-7	B地区遺物出土状況	244	図版V-51-1	C地区0黒層木製品(1)	255
図版V-41-1	B地区石器	245	図版V-52-1	C地区0黒層木製品(2)	256
図版V-41-2	B地区金属製品	245	図版V-53-1	C地区0黒層木製品・樹皮製品	257
図版V-41-3	B地区木製品(1)	245	図版V-54-1	C地区I黒層 I S-2	258
図版V-42-1	B地区木製品(2)	246	図版V-54-2	C地区I黒層立杭20土層断面	258
図版V-43-1	C地区準備工事状況	247	図版V-54-3	C地区I黒層立杭39土層断面	258
図版V-43-2	C地区準備工事状況	247	図版V-54-4	C地区I黒層立杭	258
図版V-43-3	C地区冠水状況	247	図版V-55-1	C地区I黒層土器	259
図版V-43-4	C地区カマ柄工事状況	247	図版V-55-2	C地区I黒層土器出土状況	259
図版V-43-5	C地区調査状況	247	図版V-56-1	C地区I黒層石製品(3)出土状況	260
図版V-44-1	C地区調査状況	248	図版V-56-2	C地区I黒層石製品	260
図版V-44-2	C地区完掘状況	248	図版V-56-3	C地区I黒層鉄鍋	260
図版V-45-1	C地区土層断面	249	図版V-56-4	C地区I黒層鉄鍋(1)出土状況	260
図版V-45-2	C地区調査状況	249	図版V-57-1	C地区I黒層鉄鍋	261
図版V-46-1	C地区0黒層枕穴39・50土層断面	250	図版V-57-2	C地区I黒層カスガイ	261
図版V-46-2	C地区0黒層立杭19土層断面	250	図版V-57-3	C地区I黒層鉄鍋(2)出土	
図版V-46-3	C地区0黒層立杭24土層断面	250			
図版V-46-4	C地区0黒層立杭26土層断面	250			
図版V-47-1	C地区0黒層木組・立杭	251			
図版V-48-1	C地区0黒層 0F-1	252			
図版V-48-2	C地区0黒層 0F-1				

	状况	261	图版V-58-1	C地区I黑漆木製品(1) ...	262
图版V-57-4	C地区I黑漆山刀柄(2)		图版V-59-1	C地区I黑漆木製品(2) ...	263
	出土状况	261	图版V-59-2	C地区II黑漆土器·	
图版V-57-5	C地区I黑漆木製品(7)			石器	263
	出土状况	261	图版V-60-1	A'地区履·建材出土	
图版V-57-6	C地区I黑漆漆器④出土			状况	264
	状况	261			

V 美々8遺跡低湿部の調査（平成3年度）

本章は、平成3年度に発掘調査された低湿地に関する埋蔵文化財発掘調査報告である。

1 調査の概要

(1) 調査要項

事業名 新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査

事業委託者 北海道開発局札幌開発建設部

所在地 千歳市美々1,292-133ほか

遺跡名 美々8遺跡（低湿部） J-03-94

調査面積 1,161 m²

発掘期間 平成3年7月11日～平成3年10月20日

整理期間 平成4年4月12日～平成5年3月26日

(2) 調査体制

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

調査部長 森田 知忠

調査第3課長 千葉 英一（美々8遺跡発掘担当者）

主任 西田 茂（ ” ）

主任 工藤 研治（ ” ）

主任 田口 尚（ ” 、平成3年度分整理担当者）

主任 葛西 智義（ ” ）

嘱託 菅川 洋一

嘱託 鈴木 信

嘱託 村田 大

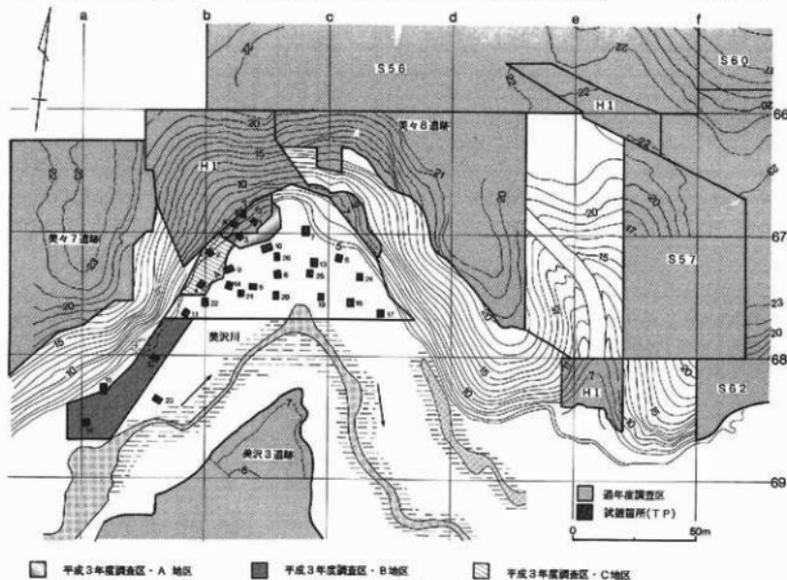
写真技師 菊池 慈人

(3) 調査の経緯（図V-1）

美々8遺跡の発掘調査は昭和56年の台地部の調査が初年度であり、本年度で7年度目となる。そのうちの低湿部は美沢川左岸湾入部の現水面下に位置し、発掘調査が平成2年から実施され、本年度が2年度目にあたる。

北海道開発局は、新千歳空港B滑走路建設のために美沢川をボックスカルバート（函渠）切り替え、早急に低湿部の盛土転圧を行う予定であった。しかし、平成元年の美々8遺跡斜面部の発掘調査中に道跡や枕穴群が美沢川の水面下に続いていることが判明した。その報告を受けた北海道教育委員会（以下道教委）は、工期の切迫していることから直ちに北海道開発局と協議し、平成元年7月、低湿地部を埋立てパットホウによる試掘調査を実施した。その結果、江戸時代前葉から中葉（アイヌ文化期）のアイヌの民具を含む多量の木製品、繊維製品が検出され、美々8遺跡の低湿部として新たに4,375 m²を調査予定地に追加した。しかし、発掘調査に当たっては、豊富な湧水量はもとより包含層が流水性の高い火山灰層に挟まれていることや地下に支笏湖を起源とする被圧地下水が存在することなどが問題となり、発掘調査時の安全確保や調査の長期化が懸念された。試掘調査のみでは遺構の有無や膨大な出土量の予想される包含層の状態などに不明な点が多く、具体的な調査計画、遺物の整理・保管施設・保存処理計画の作成にはデータ不足であった。そこで道教委、北海道開発局、当センターの3

者は幾度も協議を重ね、具体的な低湿部内部のデータ収集と安全な調査工法の検討を含めた発掘を実施することで合意した。平成2年度は予備的調査として道跡や枕穴群が続く斜面部を含んだ低湿部縁辺を発掘区に設定し、215 m² (A 地区) の調査を実施した。発掘に先立ってコアボーリング調査を行い、包含層や湧水の状況の把握に努めた。調査工法については、腐植泥と火山灰が交互に重なる軟弱地盤であることから一般的な鋼矢板打設工法では被圧地下水の噴出を誘発させる危険があり、ウエルポイント工法で強制的に排水すると地盤沈下を誘発し現滑走路や建設中のボックスカルバート(函渠)に悪影響を与えることが予想された。各種工法を検討した結果、カマ場排水による法付オープンカット工法が採用された。発掘に先立って、安全確保のために準備工事を行い調査を実施した。その結果、低湿部の縁辺部においては、人力による発掘調査が可能と確認できた。そして、平成2年度は調査区を埋戻さずに冠水状態のまま越年させた。平成3年度は、低湿地部縁辺部に図V-1のように3地区を設定し、各々の調査区の状況にあった各種調査方法を検討しながら1,161 m²の調査を実施した。A'地区(143 m²)は、平成2年度のクリアランス部にあたり、冠水状態の越年のために軟弱地盤となっていることが予想された。そのため地盤の状況を判断しながら、人力調査とクラムシェルによる包含層採取調査を併用した。B地区(797 m²)は、美々7遺跡崖下の美沢川河道に沿った細長い地区である。試掘調査やボーリング調査の結果から地盤が軟弱であり法面の安全確保が難しく、遺物も希薄と予想されたためクラムシェルによる包含層採取調査のみを実施した。C地区(221 m²)はA'、B地区に挟まれた低湿部の縁辺に位置し、平成2年度調査区に隣接する地点であることから法付オープンカット工法による人力調査が可能と判断された。本年度は各地区ごとに調査方法が異なり、調査面積も一挙に前年の約5倍となることから、北海道開発局、工事業者、当センターの3者が現地調査工法、作業工程、機器の配置等について入念な打合せを幾度も行ない調査を実施した。(田口 尚)



図V-1 低湿部の位置

2 遺跡の位置と環境

(1) 位置と環境

美々8遺跡周辺は、文献史料によると18世紀後半に「ユウフツ越」、「シヨツ越」と呼ばれ、日本海側と太平洋側とを結ぶ交通路の中継点であった。このような状況は寛文7年(1667年)の頃までは遷れるようである。これまでの発掘調査では、本遺跡の下流側において、文化4年(1808年)頃から安政4年(1857年)にかけて物資の運搬に使われた道跡と小休所が発見され、文献史料の内容を裏づけている。低湿部では上述した時期を遡る遺構と遺物が存在しており、先駆的な様相を示す貴重な遺跡である。なお、本遺跡から太平洋までは直線距離で、約18km程である。

(2) 遺跡の層序(図V-2・3)

調査区は美沢川の現水面下の標高2.5m~6mの範囲にある。低湿部の層序は台地部分、斜面部分から連続している。そして、標高5mを境にしてそれより上は斜面部分と同じで、それより下は0黒層、I黒層が層厚を増して幾層にも分かれ、Us-b火山灰、Tm火山灰も認められて細分が可能になる。なお層名は従来と同じである。

盛土：平成元年度の試掘調査時に、重機の足場として埋められたもの。

流動したTa-a層：試掘調査時に押しされた排土や増水時の二次堆積。

現表土：明褐色泥炭層。上部は草本の根、地下室、葉柄、葉が腐植せずに残る。

流動したTa-a層：紡錘形を呈する薄層の斜交成層をなす。間歇的水流による二次堆積。

旧表土：褐色泥炭層。0B層より腐植は進んでいない。植物根、地下室が残る。Ta-aを少量含む。平成4年度の調査では遺構と遺物が発見されており、台地上の表土-2層に相当する。

Ta-a層：樽前a降下火山灰層。1739年(元文4年)降下。層厚は20~40cm。

0B層：褐色泥炭層。標高5m位から泥炭化し始め、標高4.5m以下から植物繊維が富む。腐植はやや進んでおり根、地下室がよく残存している。炭化物和破碎されたようなTa-bパミスを含む。層厚は5~20cm。C地区では南へ行くほど薄くなる。

Ta-b層：樽前b降下火山灰層。1667年(寛文7年)降下。層厚は2~4cm。

IB₁層：褐色泥炭層。標高4.8m以下から植物繊維が富む。腐植は進んでおり根が残存。層厚は10cm前後でC地区中央、土層断面-2付近で厚くなる。

Us-b層：有珠b降下火山灰層。1663年(寛文3年)降下。IB₁層の上部に散布。層厚は約0.5cm。

IB₂層：黒色泥層。標高4.8m以下から発達する。腐植は進んでおり根はあまりみられない。C地区の北端ではあまり発達していないようである。1~2mmの磨滅したTa-cパミスを含む。層厚は10~15cm。C地区中央、土層断面-2付近で厚くなる。

Tm層：若小牧火山灰層。10世紀中頃降下。標高4m以下に薄層として残る。層厚は約2.0cm前後。

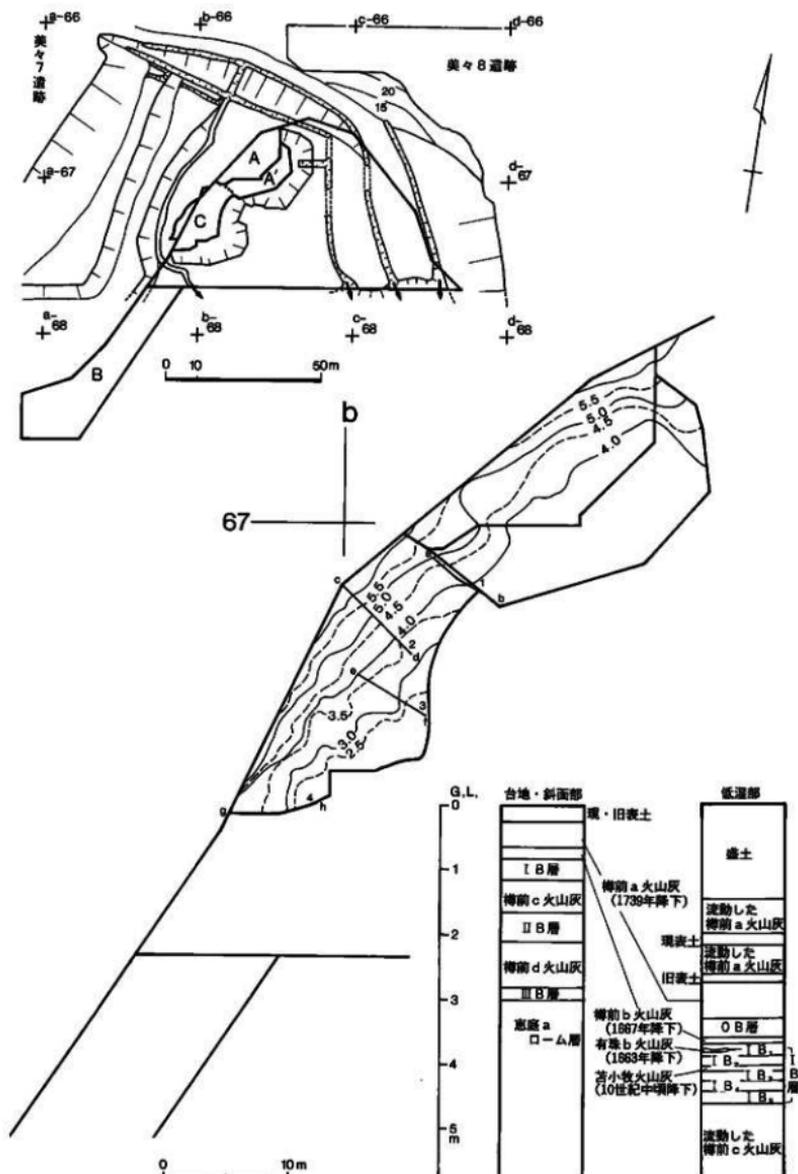
IB₃層：暗褐色泥炭層。標高4.8m以下から植物繊維に富む。根が多く残存している。倒木が多くみられる。標高の高い部分では径2mm~2cmの磨滅したTa-cパミスを多く含む。層厚は5~50cm。C地区の南へ行くほど厚くなる。

IB₄層：黒色泥層。標高4.2m以下から発達する。腐植はよく進んでおり根はあまりみられない。層厚は5~50cm。C地区の南へ行くほど厚くなる。

IB₅層：暗褐色泥炭層。標高4m以下から植物繊維に富み、根が多く残存。標高の高い部分では径2mm~2cmの磨滅したTa-cをブロックで多く含む。層厚は10~50cm。C地区中央で厚くなる。

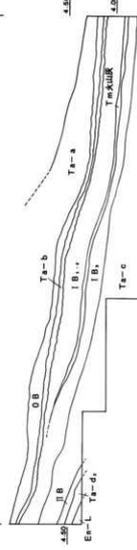
Ta-c層：樽前c降下火山灰層。平成4年度の調査結果から標高2.5m以下では水成の二次堆積層となっていることが判明した。

(鈴木 信)



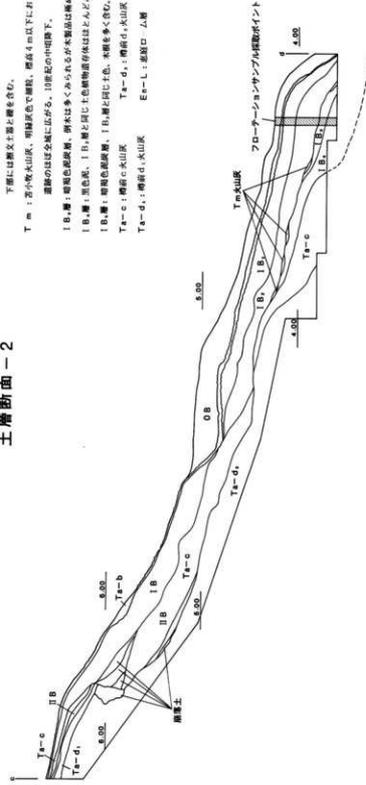
図V-2 A・C地区地形図、土層断面位置図、土層模式図

土層断面—1



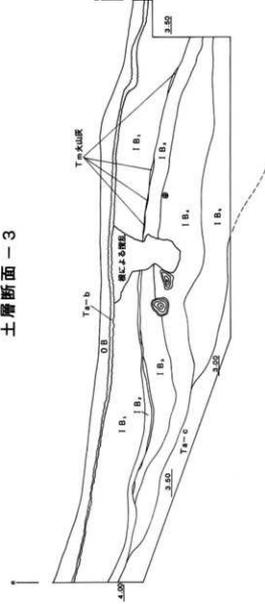
T a-a : 褐色赤土山灰、1200年層下。
 O B層：褐色砂状腐葉、I B層と同じ白色、水質組成を多量に含む。
 T a-b : 褐色赤土山灰、深度5m以下においてほぼ連続するものなる層行となる100年層下。
 U a-b : 在来赤土山灰、緑灰色で粗粒。I B層上面中に散在する、1000年層下。

土層断面—2

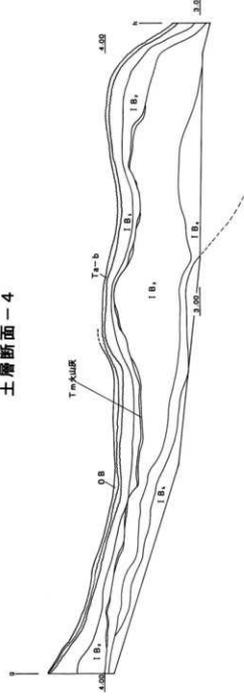


I B層：褐色砂状腐葉、O B層と同じ白色、水質組成を多量に含む。
 I B層：褐色砂、I B層と同じ白色、水質組成はO B層よりI B層に比べて少ない。
 T m : 赤小粒火山灰、明緑灰色で粗粒、深度4m以下において薄層として連続のほぼ全層に広がる、1000年層の中間層下。
 I B層：褐色砂状腐葉、腐葉は多くみられるが水質組成は極めて少ない。
 I B層：褐色砂状腐葉、腐葉は多くみられるが水質組成は極めて少ない。
 I B層：褐色砂状腐葉、I B層と同じ白色粗粒層が厚くみられる。
 T a-c : 褐色赤土山灰 T a-d : 褐色赤土山灰
 T a-d : 褐色赤土山灰 E a-L : 虚開口、△層

土層断面—3



土層断面—4



図V-3 A・C地区土層断面図

3 調査と整理の方法

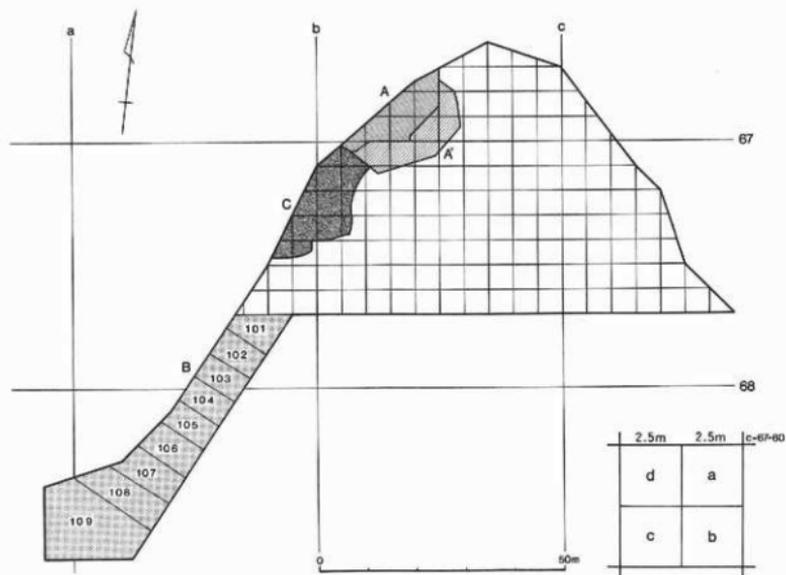
(1) 発掘区の設定 (図V-4)

調査区は平成2年度調査終了区をA地区とし、本年度は調査方法に合わせてA'地区(143m²)、B地区(797m²)、C地区(221m²)の3地区に調査区を分割した。以下地区別に発掘区を説明する。

A'地区:平成2年度調査区南側の退避、歩行、作業のためのクリアランス部分である。人力調査とクラムシェルによる包含層採取併用地区である。発掘区は従来どおり、50m四方の大区画を基本区画とした。それを5m四方の小区画に100分割したものを基本単位として「c-67-60」のように呼称した。遺物を土壌ごとにとり上げた場合などは、小区画をさらに1m四方に25分割し「c-67-60-22」のように呼称した。また、クラムシェルによる包含層採取調査の精度を人力調査に近づけるためクラムシェルバケットの最大幅(約2.5m×1.0m)に合わせて5m四方の小区画を2.5m四方に4分割し、その区画に時計回りにa、b、c、dと付して「c-67-60-a」のように呼称した。

B地区:美々7遺跡崖下の旧美沢川河道に沿った、基本区画に斜行した細長い地区である。クラムシェルによる包含層採取のみの地区である。泥水を貯めたままの調査となるため、水面への基本単位設定が困難であることや基本単位に従うと区画の大きさが不規則となり作業効率の低下を招くことから、対岸とクラムシェル足場を見通し、クラムシェルバケットの最大幅約3つ分(約7.5m)に合わせて北東から南西に向かって「101区」～「109区」のように平行線で新たに9区画を設定した。

C地区:A地区に隣接した低湿部縁辺部分の人力調査のみの地区である。A'地区同様に従来どおりの50m四方の大区画を基本区画とし、それをさらに5m四方の小区画に100分割したものを基本単位として「c-67-80」のように呼称した。なお、2.5m四方の区画は設定していない。(田口 尚)



図V-4 発掘区の設定

(2) 調査の方法(図V-5・6・7、図版V-1~5、39・40)

遺跡の現況は、平成2年度とは大きく変化し、美沢川の表層水はボックスカルバート中に切り替えられ、対岸の美沢3遺跡側から美々8遺跡調査区間際まで盛土工事が行われている。残された湿地部分と小さな流路を旧美沢川と呼称する。

調査の方法は、平成2年度の実績や他府県の調査例を参考にした。以下、新たに実施されたグラムシェルによる包含層採取調査を中心に地区別に概略を説明する。

A地区の調査

人力調査:平成2年度は冠水状態で越年したため、周辺の環境整備、排水溝の整備、排水を行った後、敷き詰められたブルーシートを剥がす作業から始めた。この地区は当初はグラムシェルによる包含層採取調査のみが予定されていた。地盤が予想以上に安定していたことから、状態を判断しながら0黒層の一部を人力で発掘調査した。調査用機材は昨年と大きく変わらない。平成2年度調査区に土嚢を積み排土場所としたため、ベルトコンベアは使用していない。カマ場は昨年度のものを利用した。微細遺物密集箇所の排土及び土壌はポンプ排水を利用して水洗選別した。

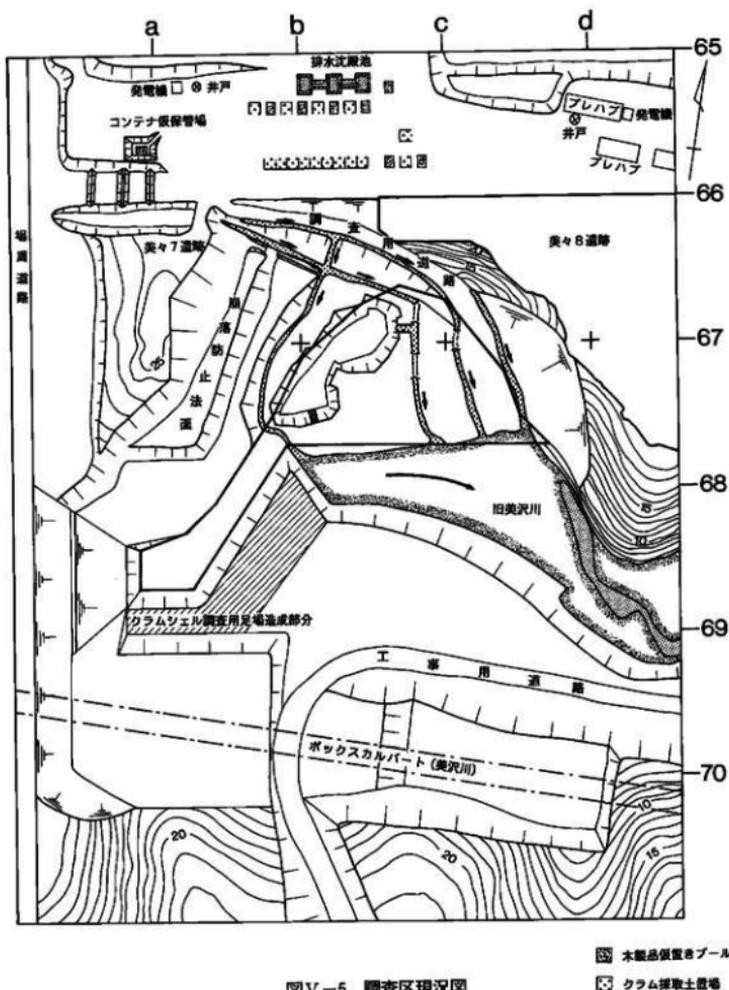
グラムシェル調査:人力調査終了直後に、グラムシェル通行のための調査用道路の補修・拡張工事が始められた。足場設置のための盛土工事及び覆工板(鋼鉄板)の敷設工事は、旧美沢川付近の盛土が軟弱で、採取地点が足場から非常に近いことから特に慎重に行われた。包含層の採取には、小型無線機を付けた2名の調査員(以下調査員A、B)が立会い、次のような手順で実施された。①調査員Aが調査区内でグラムシェルに採取地点の指示を行い、盛土上の調査員Bに採取地点、層位、採取回数を無線連絡する。ポンプ排水を行いながらの採取であったので、採取地点を確認しながら設定した区画どおりに採取出来た。②調査員Bはグラムシェルに堆積場所を指示し、採取地点、層位を明記した旗(ピンボールに布粘着テープを貼ったもの)を立てる。なお、採取した包含層は、覆工板上、敷設した足場板上、盛土上に地点ごとに堆積した。③グラムシェル撤去後、遺物採取を行った。遺物採取後の排土はすべて水洗選別し微細遺物の検出に努めた。排土は基本的に低埋部のポンプ排水を利用して水洗し、残り一部はホイローダーでトラックに積載し、台地上に運搬して井戸水で水洗選別した。

B地区の調査

準備工事:各地区の調査に先立って、B地区のグラムシェル用の足場造成工事が行われた。工事にはグラムシェルのアーム長、実用角度、旋回範囲を考慮し、盛土高、法面角度、掘削範囲を決定した。グラムシェルバケットの到達限界(約20m)を越えないように、調査範囲を法況として足場を造成した。足場には覆工板を敷設し、強化した。盛土除去は試掘調査やボーリング調査時のデータから、層厚を推定して実施した。なお、ポンプ排水が出来なかったため、泥水中の深さの判断はバケットとワイヤーに付された1mごとのペンキで判断し、採取土壌中のTa-a層を盛土除去終了の判断とした。

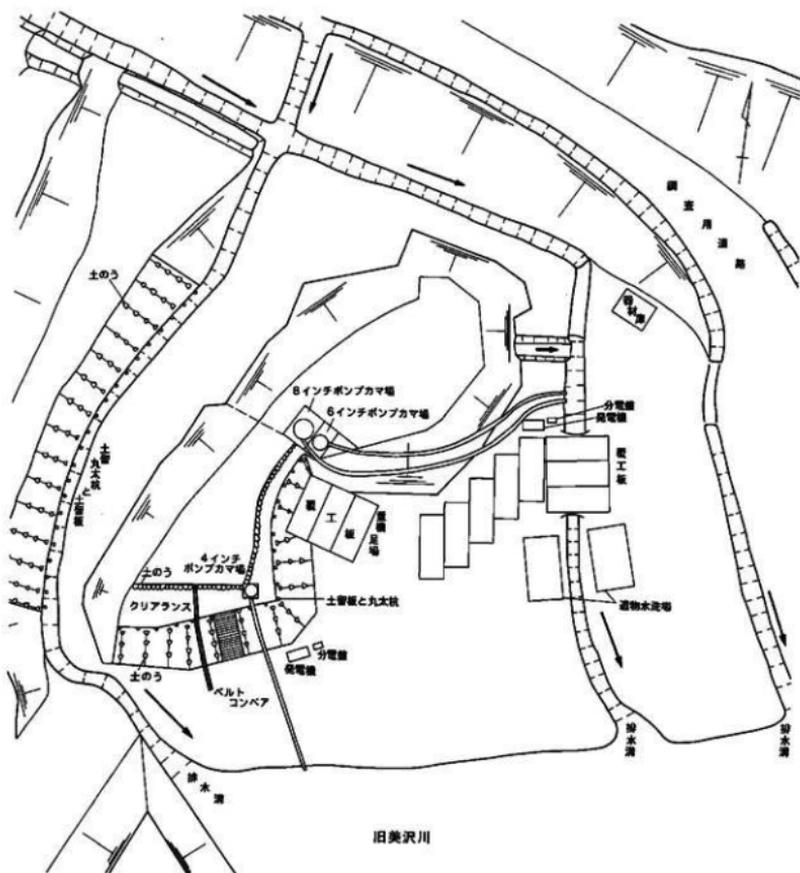
遺物の水洗および水漬保管のために、西側作業場所にも井戸を設置した。また、採取包含層がヘドロ状態となるため、足場板で「コ」の字に囲った区画を作成し、流失・混入を避けた。その周辺には、簡易プールを設置した。水交換、遺物水洗、土壌水洗選別による排水は、深掘りした3連の沈搬池で浸透させた。包含層の運搬はトラック1台にバケット2~4回分とし、4台トラック2台で行った。調査地点と作業場所が離れ、しかもジェット機や機器などの騒音がひどいことから、調査員3名(以下A、B、C)が小型無線機を使用して、細かな連絡を取りながら作業を進めた。

グラムシェル調査:グラムシェルの包含層採取作業の流れは、①グラムシェル足場に調査員Aが張り付き、トラック積載された包含層の状態、火山灰の種類、遺物の有無を確認し、次の地点、採取深度、採取完了の判断をする。②調査員Aはトラックに採取地点、深度、採取回数を明記した旗を手渡



図V-5 調査区現況図

し、台地上の調査員 B にトラックの発進及び現在の進捗状況を連絡する。③包含層をトラックで台地上の作業区画まで運搬する。④調査員 B は、トラックの到着を調査員 A に連絡し、トラックに堆積場所を指示し、旗を立てる。また、包含層の堆積状況(量など)、区画の空きスペース、現在の進捗状況を調査員 A に連絡する。⑤調査員 C は作業員に遺物採取作業の区画、採取した遺物の水洗、遺物水漬用簡易プールの場所を指示し、プールに採取地点、深度、採取回数を明記した旗を立てる。⑥調査員 C はプール内の遺物の選別・分類を行い、終了した遺物からコンテナヤシール容器に水漬されプレハブ



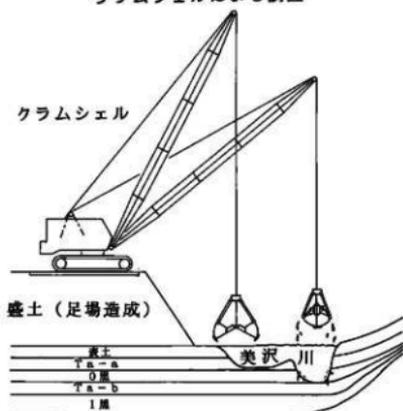
図V-6 安全対策と機材の配置

に運ばれる。プールは次の採取区画の水漬場所となるので、洗浄と水交換を行う。⑦採取された包含層が長時間放置される場合は、乾燥を避けるためブルーシートで覆う。また、水の蒸発及び腐敗に注意し、水交換や水位の調節を行う。なお、調査区は包含層採取後に直ちに埋め戻された。

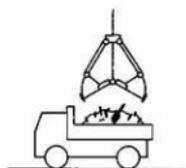
C地区の調査

準備工事：調査区が美々7遺跡の座下となるため、崩落などの危険が予想された。そのため法面掘削にかかる美々7遺跡の調査を先に終了させ、危険防止のための大規模な法面掘削を行った。また、次年度の現調査用道路の切替えを考慮した措置でもある。調査区はA地区から続く低湿地縁辺であり、人力調査のみの調査内容であることから昨年度同様の法付オープンカット工法が採用された。したがって、発掘調査に先立つ準備工事も昨年度同様の手順で実施され、掘削工事、土留工事、法面養生、カマ場工事、水替・排水工事、ベルトコンベア設置工事の順で実施された。ただし、A・A'地区か

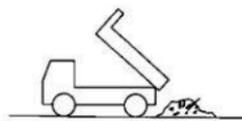
クラムシェルによる調査



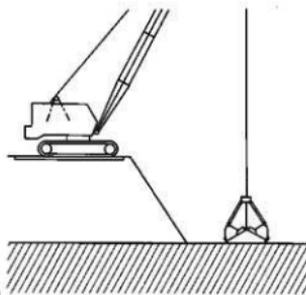
1 クラムシェルバケットで包含層を採取



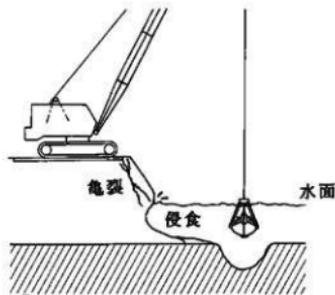
2 4tトラックに積載し、台地上に運搬



3 台地上の作業ヤードに堆積



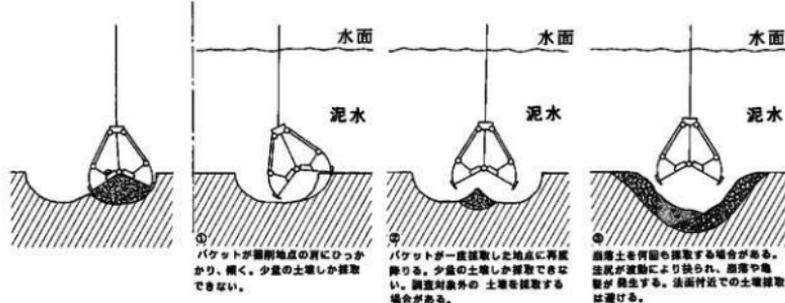
4 ポンプ排水による調査の場合



5 無排水による調査の場合

A 採取位置や土層が視認でき、ブロックで包含層を採取可能。

B 泥水のため採取位置や土層が視認できない。堆積土が硬み、ヘッド状となる。掘削時に土層を確認する。



図V-7 クラムシェル調査

らの湧水が多量であったことからA'地区との境界に6・8インチのカマ場を事前に設置してからの準備工事となった。排土は、運搬捨土せずに、旧美沢川を埋立てるように徐々に廃棄した。

越冬措置

本年度はポンプ排水を行いながら、カマ場や土留杭・板をすべて撤去し、本調査に向け調査区A'地区、B地区、C地区を完全に埋め戻し整地した。しかし、盛土上面まで湧水が噴出しているため非常に軟弱な地盤となった。

遺物の取上げ

美々8遺跡低湿度部(北埋調報77)の方法に従い、遺物は基本的に写真撮影後、1/10の出土状況図を作成し、発掘区・層位・座標値等を記録後取り上げている。ただし、平成3年度A'地区の人力調査時の出土地点計測及び出土状況図作成は、大型建材、各種製品を中心として最低限にとどめた。その他遺物は、グラムシールによる包含層採取と同様に2.5m²四方のグリッド(区画)で取り上げた。B地区の出土遺物については、出土区画と深度を明記した。C地区については、切片・木端などの小片木製品を除いて出土地点計測及び出土状況図を作成した。遺物には土器・土製品(赤)、石器・石製品・礫・ガラス製品(青)、木製品・繊維製品(緑)、金属製品(黄)、自然遺物・その他(白)のように色別したカードをチェック付きビニール袋に入れ添付した。木製品等は出土後直ちに濡らせた不織布やスポンジ等で養生し、スタッキングとアンビタッチで遺物カードを結び付けた。小型のものや接合資料は穴あきビニール袋に入れ、それ以外は直接コンテナに水漬した。出土した各種製品、加工度の高い木製品はシール容器に別保管した。金属製品は、出土後直ちに取上げ、簡単なクリーニング後にアルコール脱水し、シリカゲルを入れたシール容器に密封保管した。(田口 尚)

(3) 整理と保管の方法(図V-8)

整理・保管は、美々8遺跡低湿度部(北埋調報77)の方法に従い、遺物の状況に応じて新たな方法を検討している。また、本年度は遺物の種類、量とも昨年と比べて膨大なものとなっており、特に木製品等や自然遺物については未分類・未集計のものが残っている。今後、平成4年度以降の遺物と合わせて、整理を継続する予定である。

土器・陶磁器・石器・石製品・礫・ガラス製品:従来どおりの整理・保管方法を実施した。現場整理事務所では水洗、分類・注記まで行った。実測図の作成は、原寸を基本とした。石器・石製品・礫は石質・計測値を記録し集計した。土器・陶磁器の破片はビニール袋に、復元土器は段ボール箱に収納した。石器・石製品・ガラス玉はカードと共にチェック付ビニール袋及びプラスチックサンプルケースに収納した。礫などはコンテナに収納した。

木製品:現場では、分類・加工度・大きさ等で発掘終了まで各種シール容器・蓋をしたコンテナに水漬し、プレハブ及び屋外に積み置きた。大型遺物は搬送用の木箱ができるまで簡易プール(約3.6m×1.8m×0.4m)に土嚢袋を四角く積上げ、ブルーシートで覆って水を貯めたもので保管した。

水洗・水漬・水交換は井戸を掘削し地下水を使用した。脆弱遺物・重要遺物については、随時札幌のセンターに搬送し整理作業・保存処理を開始した。搬送にはコンテナ・木箱収納台帳を作成し、コンテナ内の養生、水抜き後に8tトラック2台、木箱は4tのユニック車2台に積載された。搬入されたコンテナ等には水道水を給水し、数段重ねて保存処理室、廊下の棚、廊下の棚隙間、屋外水槽、ユニットプレハブに水漬保管した。

実測図は基本的に原寸で作成し、樹皮・炭化・塗彩などを色分けし、観察記録や計測値なども同時に記載している。写真撮影は基本的に実測図作成後に行っているが、重要遺物や脆弱な遺物については随時撮影している。



1 台地上に井戸設置



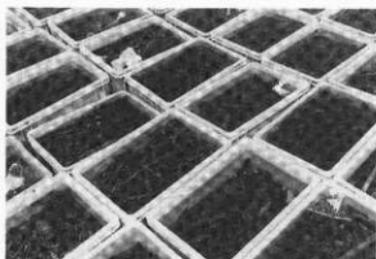
2 台地上の遺物水洗・水洗選別



3 ポンプ排水による水洗選別



4 簡易プールによる木製品の水漬保管



5 コンテナによる木製品の水漬保管



5 埋納保管実験の準備



6 周囲の補強



7 埋納作業



8 8t車による木製品搬送

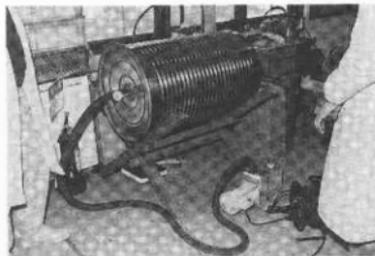


9 ユニック車による大型木製品の搬送

図V-8 水洗・保管・搬送状況



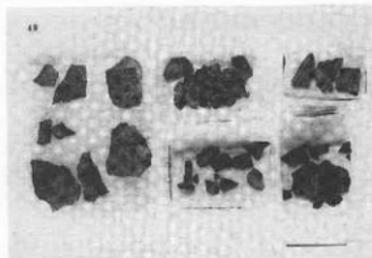
1 土層剝取り作業



2 金属製品の樹脂減圧含浸装置



3 木製品のPEG含浸槽2号機



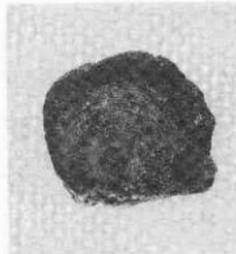
4 鉄鍋の保存処理前



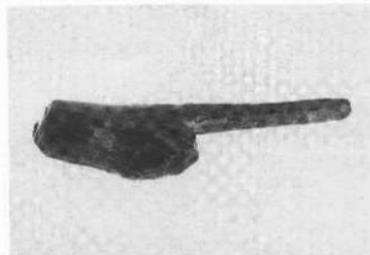
5 鉄鍋の保存処理後



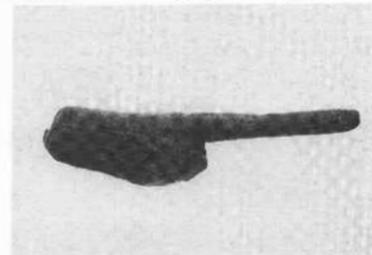
6 水浸出土材の自然乾燥



7 同一材のPEG含浸後



8 木製品のPEG含浸前



9 木製品のPEG含浸後

図V-9 土層剝取りと保存処理

金属製品：湿気を避けるためシリカゲルを入れたシール容器やポリシーラーで密封保管し、木製品とは別の温度差の少ない部屋を選び、保管している。実測図は原寸で作成し、観察記録や計測値なども同時に記載した。写真撮影は保存処理前と処理後を撮影し、修復時の参考にしていく。また、必要に応じてX線透視撮影も実施し、クリーニングや構造調査の参考としている。

自然遺物：獣骨・堅果類・硬質菌類、貝殻皮は日陰で風乾後に泥等を落した。現場で十分な乾燥が出来なかったものは、恒温乾燥器を使用し強制的に乾燥させた。土壌とともに小ブロックで採集した遺物は、水洗選別（ウォーターセレーション）や浮遊選別（フローテーション）を実施し、微細試料の抽出に努めた。抽出した遺物はカードと共に、薬用カプセル、チャック式ビニール袋、プラスチックサンプルケース、フィルムケースに収納してコンテナで保管した。一部の試料については同定及び集計が完了しているが、まだ十分な整理が出来ていない。基本・比較試料を揃え、平成4年度以降の遺物と合わせて継続して整理・分類・集計を行う予定である。

冬期の保管：木製品などの水漬遺物は凍結の危険性があり、廊下、保管室にはビニールシートを張り、中にオイルヒーターを置き5℃以上の温度を保つようにしている。屋外水槽には断熱材を浮かべ、ユニットプレハブにもオイルヒーターを設置している。また、急激な温度変化などを事前に察知できるように毎日、気温・水温を記録している。

平成3年度は木製品保管の一手段として、現場埋納保管実験（図V-8-5～6）を試みた。千歳空港敷地内の冬期間の凍結深度は、地表面から-1.0～-1.2mと言われており、これ以上の深さで木製品を埋納すれば冬期間の凍結や急激な温度変化もなく、多量の木製品の保管が可能との仮説であった。自然木や雑木を蓋付コンテナに入れ、水漬（多量、少量）、ホウ酸+ホウ砂溶液漬、泥漬の各状態に置きブルーシートで覆い、2m程の盛土をして越冬実験した。結果は、いずれも良好なものではなかった。腐朽菌を繁殖させ、通常の保管に比べ劣化が著しかった。なお、泥漬のものは完全に腐敗していた。今後は地中の温度計測などを含めた総合的な実験が必要であろう。（田口 尚）

(4) 有機質遺物の保存処理（図V-9）

有機質遺物の保存処理は、基本的に美々8遺跡低湿度（北埋調報77）の方法に従っている。

木製品・繊維製品・樹皮製品は、保存処理作業のための木製品番号（木No.）を別に与え、台帳と観察カードを作成して各作業工程の管理に使用している。木製品のラベルはバウチラミネートで半永久的なものとし、さらに写真撮影した遺物のシール容器には、ラミネートした写真を添付している。

保存処理にはポリエチレングリコール含浸法を採用し、1号機（内寸長さ175cm×幅70cm×深さ70cm）、2号機（内寸長さ100cm×幅100cm×深さ70cm）、3号機（内寸長さ175cm×幅70cm×深さ70cm）の3台のPEG含浸槽が稼働している。さらに大型建材などの処理を目的とした4号機（内寸長さ400cm×幅120cm×深さ100cm）を導入する予定である。また、真空凍結乾燥機を導入してマニトール（20%）とPEG4000（40%）を使用した真空凍結乾燥法を実施し、多量の小型遺物を短期間に処理する予定である。繊維製品は、小型のビニールハウスをPEG含浸槽の上に置き、その余熱と赤外線ランプによりPEG4000の100%を加熱して含浸させている。樹皮製品については、PEG4000を60～70%まで含浸後、徐々に乾燥させている。漆器類については、未処理であり、純水を入れたシール容器で密閉して冷蔵庫に保管している。

図V-9-6・7は水浸出土材（ナナカマド属 含水率407%）の自然乾燥とPEG4000処理後の比較である。6は著しく収縮し、周囲に深い亀裂がはいり、原形を留めていない。7はPEGの含浸により黒色化した。大きな収縮や変形は認められない。8・9は木製品（リンゴ属？ 股木で芯持ち材）の保存処理前とPEG4000処理の比較である。9の表面には処理前に比べ亀裂が認められる。このよう

に芯持ち材の場合は、処理後に若干の収縮や亀裂が認められるが自然乾燥とは比較にならないほど良好な処理結果である。また、PEG処理後の重量変化記録から、完全な乾燥に最低2～3か月を要することが判った。したがって、その間は収縮などに注意し、出来る限り安定した保管環境に置くことが望ましい。

また、現場終了後の土層断面の検討材料として土層断面剥ぎ取りを行っている。（田口 尚）

(5) 金属製品の保存処理（図V-9）

金属製品の保存処理は、基本的に美々8遺跡低湿度部（北埋調報77）の方法を用いた。

金属製品には保存処理作業のための金属製品番号（金No.）を別に与え、台帳と観察カードを作成し、各作業工程の管理に使用している。今回の鉄製品の処理には作業の簡単なプライマルMV-1を使用した。鉄分の溶脱した鉄鍋などは、バラロイドB72を含浸・塗布した。銅製品・真鍮製品はベンゾトリアゾール入りアクリル樹脂（インクララック）を塗布した。

図V-9-4・5は鉄分の溶脱した鉄鍋（図V-124-1）の保存処理前と保存処理後である。復元・補修にはエポキシ樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストを使用した。処理後の遺物は、シリカゲルを入れたシール容器に密封保管した。小型や器厚の薄いものは脱気パックし脱酸素剤を同時に封入し保管している。

今後のクリーニング作業には、エアブレイシブや集塵器等を導入し、作業の効率化をはかる予定である。（田口 尚）

(6) 各種分析と試料のサンプリング（図V-9）

ガラス製品材質調査：破片試料3点を奈良国立文化財研究所 肥塚 隆保氏に分析依頼している。

金属材質調査：岩手県立博物館 赤沼 英男氏に依頼した。鉄製品は鋳造品と鍛造品から、それぞれ小型電動彫刻機で小片を採取して解析試料とした。銅・真鍮製品は蛍光X線分析を行った。

浮遊選別（フローテーション）：C地区の焼土、炭化物集中、タルミ集中からは土壌サンプルをすべて採取した。これらの比較試料としてc-67-91ベルトから各層位の土壌を採取した。試料の抽出はフローテーションマシンを用いて、プロジェクト・サイズ方式（プロジェクト・サイズ 1989年）で行った。

水洗選別（ウォーターセパレーション）：A'地区の人力調査の一部とクラムシェルによる包含層採取調査の全土壌について実施した。方法は4mmメッシュの洗浄カゴを用い、ポンプ排水や井戸水で水洗した。

2つの方法で得られた試料のうち、植物遺存体を北海道大学文学部 吉崎 昌一氏に、動物遺存体を千歳市教育委員会 高橋 理氏に依頼した。

樹種同定：農林水産省森林総合研究所 平川 康彦氏に依頼し、製品及び加工度の高い木製品について切片を採取して同定した。

なお、平成4年度は当センターに走査型電子顕微鏡が導入され、樹種同定をはじめ各種分析に活用している。（田口 尚）

4 調査結果の概要

低湿度の遺構・遺物は水陸交通の分岐点として、あるいは美沢川で行われたサケ・マス漁や太平洋でのメカジキ漁などの生業、そして低地で営まれた日常生活と深く関わるものである。

A'地区の調査(図V-11・12)

層位は、先述した調査方法のために0黒層とI黒層が混在し、斜面部付近ではII黒層も含まれる。人力調査による出土遺物の主体は0黒層であり、わずかにI黒層上位のものが混入する。

遺構は平成元年度の斜面部調査時の道跡の繋がりを想定し、精査したが道跡を確認出来なかった。それに変わって、道跡の延長線を通るように倒壊した建物跡の建材群が0黒層から検出された。桁材には等間隔に抉りがあり、柱材には桁や梁の受部がある。これらに母屋、垂木、それらの補助木と考えられる建材が折り返っていた。他の遺構には双礎1ヶ所、非常に小規模な集石3ヶ所がある。C地区の例からI黒層と推測される。

遺物は土器・陶磁器41点、石器・石製品33点、礫・礫片2,589点、ガラス製品6点、金属製品55点が出土したほか、アイヌの木製民具を含む木製品・繊維製品・樹皮製品が約63,000点出土した。

陶磁器、ガラス製品、金属製品、木製品等は、17世紀末～18世紀前葉のアイヌ文化期に相当する遺物である。土器は縄文時代早期の東剣路IV式土器、統縄文時代の土器・北大式土器、内黒の土師器などの擦文時代のものがある。北大式土器はB地区の破片と接合した。陶磁器は近世の伊万里焼の碗、信楽焼の挿片が建材群の分布域から出土した。石器・石製品は石鏃、つまみ付ナイフ、石斧が斜面部から出土した。すり石、大小の砥石は擦文時代以降のものであり、火打石は近世のものであろう。礫は砂岩、片麻石、泥岩の楕円礫、楕円扁平礫、棒状楕円礫が多い。ガラス製品には、所謂アイヌ玉と呼ばれる蜜柑玉、平玉がある。金属製品は建材群の分布域から出土し、内耳主体の鉄鍋片、刀子などの茎、キセル雁首・吸口、刀の籠(はばき)のほか、北宋銭の天禧通宝、景祐元宝、嘉祐通宝、元豊通宝、明銭の洪武通宝などがある。木製品は多種多様であり、土木・建築材、交通具、漁撈具、狩猟具、切道具、農耕具、食用具、燈火暖房用具、加工具、漆器類が出土した。紐や縄、樹皮製の結束具、木材加工時の削り屑や木端もある。生活用具の多くはアイヌの民具であるが、本州から搬入された和産物も含まれる。その再加工も行われていた。注目される遺物にはメカジキの線刻画の描かれた早鞆(サッカイ)をはじめ、車鞆(カンチ)、舟のあか汲み(ワッカケ)、魚突き鉤台(マレ・ニヒビ)、回転式離頭鉤(キチ)の中柄・柄(オツ)・指掛部(オツケン)、小刀(マキリ)樹皮製鞘、鉤形の木罅(ニシタツ)、焼けた筒状シラカバ樹皮(チノイエタツ)と燈火用樹皮挟み木(スネニ)、ヒキリ板、横楕(トウチ)などがある。これらの分布域も建材群の周辺に集中している。土壌の水洗選別では、ガラス玉、銭貨などのほかカワシンジガイ殻皮、オニクルミ、クリ、スモモ、キハダなど多量の自然遺物が検出されている。

B地区の調査(図V-10)

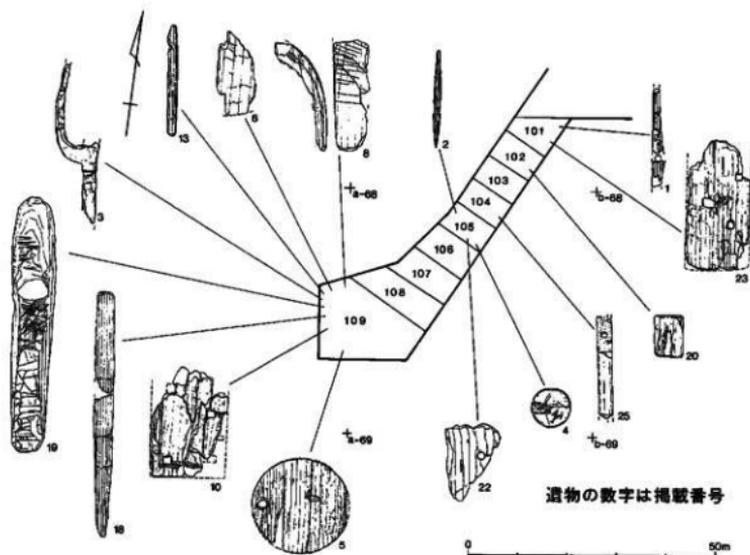
クラムシェル足跡法面の保護や排水なしの調査ため包含層全部を採取できなかった。遺物の所属層位は不明である。木製品は予想以上に多く、昨年の美々7遺跡0黒層の道跡や以前に表採された伊万里焼の磁器片などから掘部分に、A'地区同様に生活空間があったものと考えられる。

土器7点、石器4点、礫・礫片288点、金属製品4点、木製品等約6,000点、自然遺物が検出された。遺物には、縄文時代の土器、A'地区の破片と接合した北大式土器、擦文時代の土器、石鏃、つまみ付ナイフ、散弾銃の薬莢、ボルトなどがある。木製品には車鞆受軸部(タカマ)、回転式離頭鉤の中柄状のもの、曲げもの底、樽の蓋、管状製品、容器片、鉈などの作業台、縁付有孔角板材、薄径目録状板、有孔板材、建材などがある。礫は砂岩、チャート、泥岩の楕円礫、楕円扁平礫が多い。

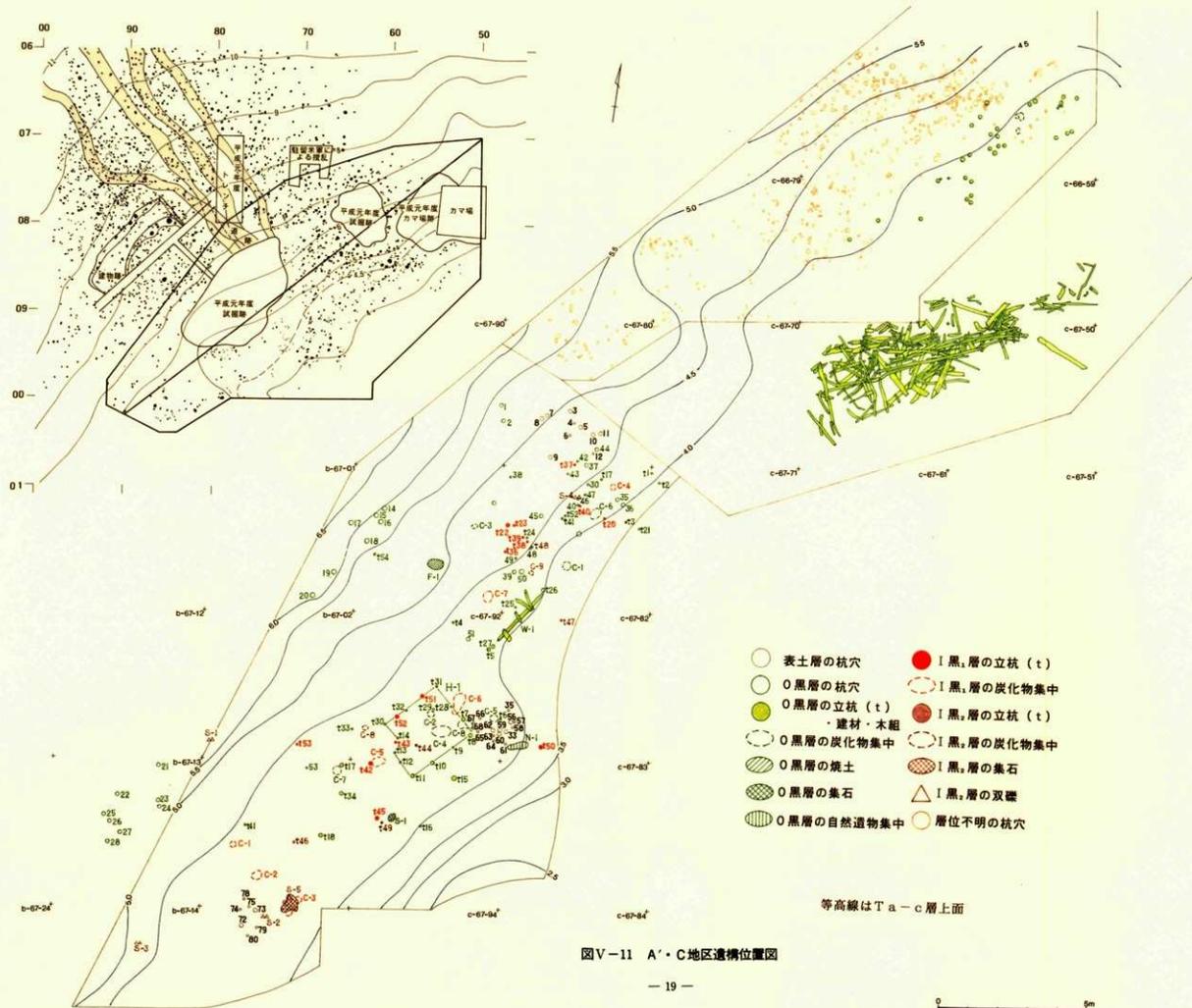
C地区の調査(図V-11・12)

土器21点、石器・石製品9点、礫・礫片825点、金属製品161点、木製品等約24,000点のほかに、フローテーション等により多量の自然遺物が検出された。調査ではI黒層がI黒₁層～I黒₂層の5層に細分され、表土～I黒₁層の各層から遺構・遺物が確認された。木製品がI黒₁層以下にも残存し、今後の調査で分層発掘も可能であることが判明した。なお、I黒₁層はTa-b層に近い年代と推測される。

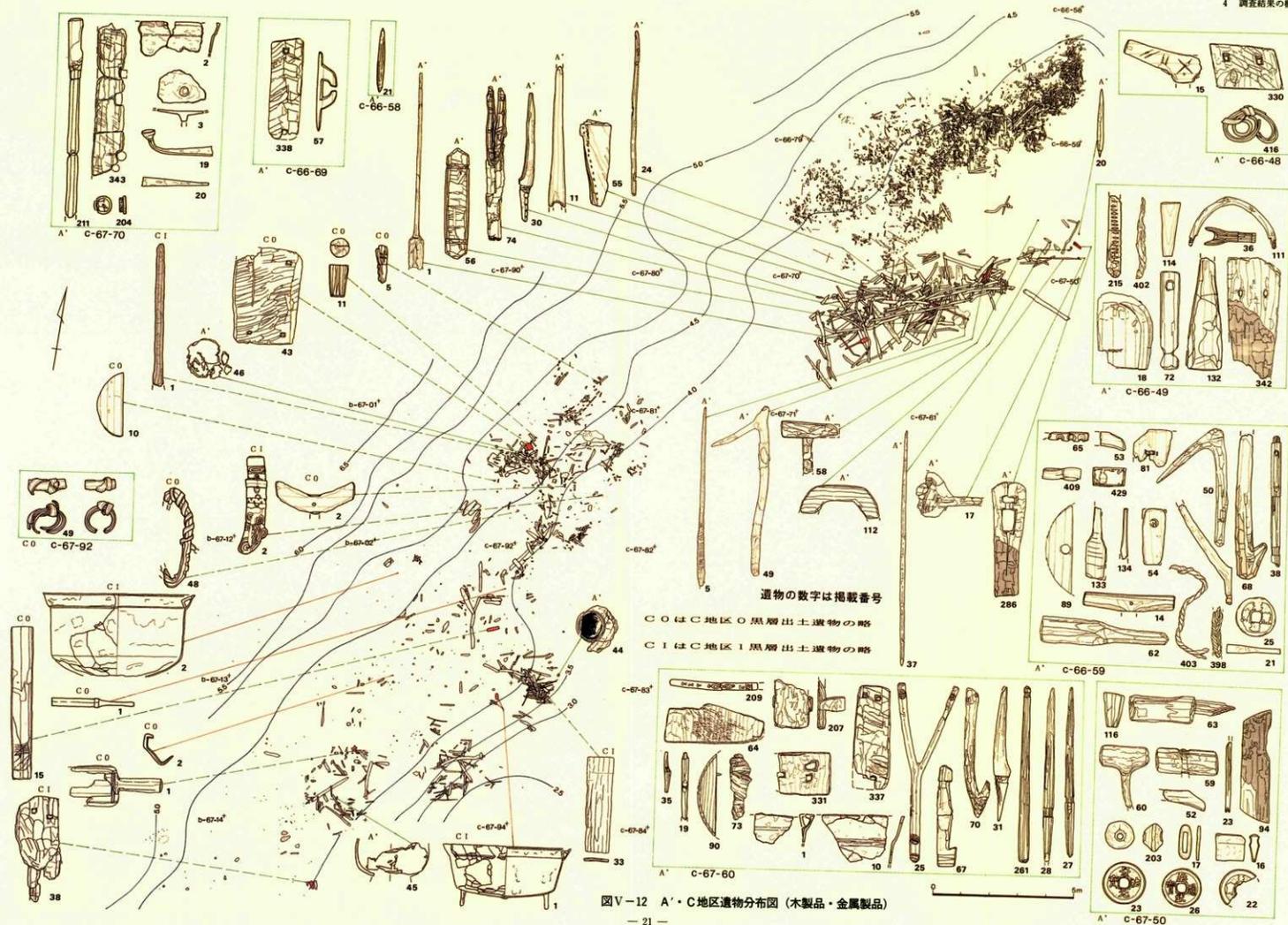
表土層からは、枕穴33か所が確認されたが遺物は出土していない。0黒層からは、柱の残る掘建柱建物跡1か所、立杭と横木による木組1か所、立杭33か所、枕穴37か所、集石1か所、焼土1か所、クルミ集中1か所、炭化物集中8か所が確認された。焼土(0F)-1からはサケ、マイワシ、コイなどの骨片とアワ、キハダ等の種子が検出された。炭化物集中(0C)-6からはヒエ、ハマナス、キチゴ、ブドウ等が検出された。遺物には火打石、たたき石、軽石製火皿?があり、断面六角形で古式の水口キセルに似た真鍮製吸口も出土した。礫は泥岩や砂岩の楕円礫、楕円扁平礫が多い。木製品には倒入れ(オイベツ)、握握部、樽の栓、樽側板、箸状製品、串状製品、有孔板材、樹皮製把手等がある。I黒₁層からは、I黒₁層で立杭15か所、枕穴1か所、炭化物集中7か所、I黒₁層で立杭5か所、双環4か所、集石1か所、炭化物集中2か所が確認された。炭化物集中(IC)-5からはマタタビ、タラノキ、ブドウ等の種子が検出された。遺物には擦文時代の土器、砥石、加工痕のある軽石、棒状の礫のほか、内耳鉄鍋、カスガイがある。I黒₂層の礫は泥岩、砂岩、片麻岩の楕円礫、楕円扁平礫が多く、I黒₂層では泥岩の楕円礫、楕円扁平礫が多い。木製品にはアイヌ文様の彫刻がある山刀(タンロ)の柄、底に「上」と朱書きされた漆塗碗、箸状製品、串状製品、有孔板材などがある。II黒層からは縄文時代早期のコッタロ式土器、石鏃、石斧、礫が出土した。(田口 尚)



図V-10 B地区遺物分布図



図V-11 A'-C地区遺構位置図



5 A'地区の調査

当初はクラムシェルによる包含層採取のみが予定されていたことは、調査の方法でも説明した。ここで若干の補足をする。人力調査は遺物の折損や破損を最小限とし、少しでも調査記録を採集する目的から急速、実施されたものである。日程の合間を縫って、遺物の密集地点のみを10日間程の日程で調査（遺物採集のみの部分もある）した。その結果、平成2年度の調査以上に大型の建材やメカジキの線刻面の描かれた早稲をはじめ、魚突き釣台、回転式離頭船の中柄・棹・指掛部、小刀樹皮製鞘などの木製品を良好な状態で取上げることができた。さらにガラス玉、銭貨、自然遺物等の微細遺物の存在が判明したため、採取した包含層をすべて水洗選別してその検出に努めた。しかし、このような調査方法であったため、遺構と遺物の検出層位についての充分な確認はできなかった。人力調査地点の遺構や遺物が0黒層主体で、わずかにI黒層上位のものを含むと判断されたのみである。クラムシェル採取の包含層については0黒層とI黒層のものが混在し、斜面付近の一部ではII黒層のものまでを含んでいる。したがって、人力調査以外で検出され土器、石器・石製品、礫・礫片等の所属時代については、型式・形態の判るもの以外は特定できていない。陶磁器、木製品類、金属製品、ガラス製品等については、C地区の調査やこれまでの調査結果から17世紀中葉～18世紀前葉の時代が主体と考えられる。また、I黒層上面の遺物については、木製品や金属製品の種類や状態からTa-b火山灰（1667年 寛文7年）の降下年代に非常に近いと推定される。

以上の経過を経て、遺構は建材群（木組）1か所、双礫1か所、集石3か所確認され、遺物は土器・陶磁器41点、石器・石製品33点、礫・礫片2,589点、ガラス製品6点、金属製品55点の他、木製品・繊維製品・樹皮製品等約63,000点を採集することができた。木製品類、自然遺物などの有機性遺物については、分類・集計を継続中である。

(1) 遺構とその遺物

1) 建材群（木組）（図V-13～23、表V-1・2、図版V-6～10）

位置 平成2年度のクリアランス部分。c-66-59、c-67-50、c-66-69、c-67-60

規模 斜面の等高線とほぼ並行するように、柱、桁・梁と考えられる建材群が折り重なり約11.0m×約3.5mの範囲に細長く分布する。ただし、調査地点が平成2年度の作業スペースであったことから、踏み込みなどによる折損が多くあり、両端の加工部を欠損しているものは自然木と区別がつかず取り上げてしまった場合もある。また、法面下付近は、出水及び崩落の危険から十分な調査ができていない。建材は法面下に何本も突き刺さっている状態であったので、建材群の分布は図示した範囲より広いものと推定される。長短太細合わせておよそ300本以上の規模であったのであろう。

確認 既に平成2年のc-67-50の4インチポンプのカマ揚掘削時に出土した柱頭に受部構造のある柱材（北埋調報77 図VI-35）が報告されており建材の存在は知られていた。今年度はトレンチを兼ねた排水溝の掘削作業中に枝払い痕のある大型の建材の重なりを発見した。Ta-a層（昨年のクリアランス部分はTa-a層を除去していない。昨年度の数回の冠水による二次堆積を含む）を除去しながら、その重なりのある面（0黒層）を追い範囲を広げた結果、アイヌの家屋（チセ）の柱材や桁材に似た多数の建材が横たわっていることを確認した。

特徴 多数の枕状材のほか、上部に受け部構造を持つ柱と考えられる数本の材、桁や梁のような表裏に決りのある材、屋根の垂木状の材などが、一見すると不規則とも思える配置の中にある程度方向性を持つことを確認できた。建材はすべて枝払いされている。

1～3・5・15・17などの長尺の建材は棟木材、桁・梁材と考えられ、建材群の中央を貫くように東西方向に配置されている。他の材の上に乗っていたように建材群の上段に位置する傾向がある。11・

14・16は柱材で、柱頭を建材群中央を貫く棟木材、桁・梁材の方向に向けている。これらと同様に柱材の多くは、捻じれ込みながら倒壊したように柱頭を建材群の中央へ向け、先端部を外に向けて倒れている場合が多い。また、西側に分布する8・9・12・21・34等の柱材は先端部を西に向けて東西方向に倒れ、それと直角をなすように柱材の19・33が南北方向に倒れている。33には挟り部があり柱材の12と直交して組合う。33は柱としたが挟りがあるため桁或いは梁とも考えられる。6・8・13・19・34等の径15cm以上の柱は、主柱と考えられる。24・29等は建材群中央を貫く棟木材、桁・梁材と直交しており、垂木と考えられる。20・32等は母屋と考えられ、20は29の下に位置し直行している。母屋・垂木としたものの径は5cm前後で、折損しているものが多い。少し離れた東側の柱材の13は昨年度の柱材(北埋調報77 図VI-35)と対になるものであろう。また、法面下の建材との関係するかもしれない。これらの建材の位置や方向性から、最初に中央の柱がねじれるように内に倒れだし、続いて西側から東側に向かって倒れ、上部の棟木・桁が最後に落ちたと推測できそうである。

建材の長さ、太さ、量や構造から判断して、アイヌの片流れ屋根の構造を持つもの(ニアツセ)や拝み屋根の小屋(エウカオマツ、ムネウカオマツ)よりは構造的にしっかりしている。通常の「チセ」等と比較すると貧弱な構造と考えられる。しかも、屋根を葺いた葺が確認できなかった。ここでは、葺き以外(樹皮、ササ、ゴザ、ムシロ等)の「チセ」に近い構造の建物と考えておく。C地区では押しつぶれたアシの茎(図V-50-2)が一定方向に並んで検出されている。

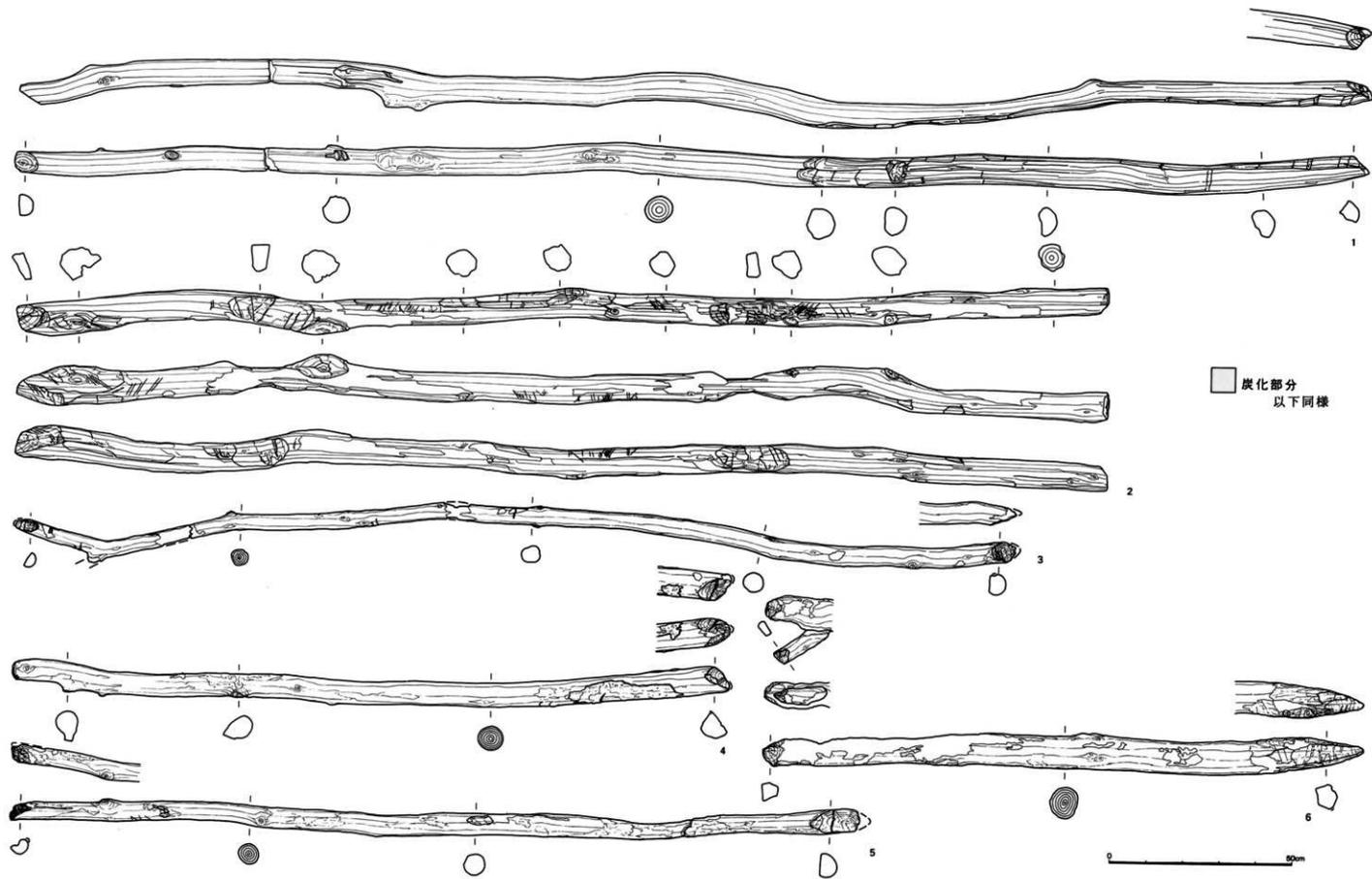
周辺からは、建材群とともに陶磁器、木製生活用具、漁撈具、加工具、燈火・暖房用具、内耳鉄鍋、キャセル、銭貨等の金属製品、ガラス玉等が出土しており住居の可能性もある。縄や紐、結束部のある樹皮は建材や用具を縛ったり、各種生活用具を釣下げるためのものと考えられる。また、昨年出土した早稲(北埋調報77 VI-20-1)や板綴舟片(北埋調報77 VI-20-2・3)もc-67-50出土であり、本年度もメカジキの描かれた早稲はじめ、各種の糧、舟用具が建材群と共に出土していることから、舟着場にかかわる舟小屋あるいは小休所とも考えられる。

建材(表V-1・2参照):材の名称は出土状況から判断されたものである。1は棟木である。最大の長さもつ材で、両端が鋭角に削りだされ、片側1方に約150cmの平坦面が削り出されている。材をさらに長く繋ぐための接合面の可能性がある。2・3・5・15・17・33は桁・梁と考えられる両端部加工の材である。2は2か所に表裏の挟りがある。棟木、桁・梁など材は樹皮が剥き取られ、長さが140~365cmもあるにもかかわらず、径6~11cmと比較的に細い。20は母屋と考えられ、側面に刻目列が認められる。24・29・40は垂木と考えられる。4・6~14・16・18・19・21・22・25・34・35・39は柱材と考えられる。表面に樹皮が残されたものが多い。18は先端加工がなく桁・梁の可能性もある。7は角釘やカスガイが打ち込まれたような断面四角錐の孔が多数あけられ、先端部は角孔を切っている。再利用された材であらう。4・18・21・22・25・33・35・39は径8~10cmのもの、9・10・11・12・14・16・25は径10cm以上のもの、6・8・13・19・34は径15cm以上のものであり、15cm以上の柱材は主柱を成すと考えられる。枕頭に受部構造をもつものには6・8・9・10・25・39のように股木部分利用して「Y」字状の受部としたものと11・12・13・19のように対面する2面削りにより「A」字状の受部としたものがある。先端部加工の多くは、2面削りや3面削りで鋭角となっており、受け部の構造のあるものは、多面削りとなっている場合が多い。その他、26~28・32は両端部加工の50cm前後の補助木である。32には階段状の挟りがある。37・38・43~45のような割杭や23・30・31・36のような杭状材も多数検出された。23・30・36は部分的に炭化している。41・42のような長い先端部をもつ棒状の材もある。端部側には平坦面が作出されている。(田口 尚)

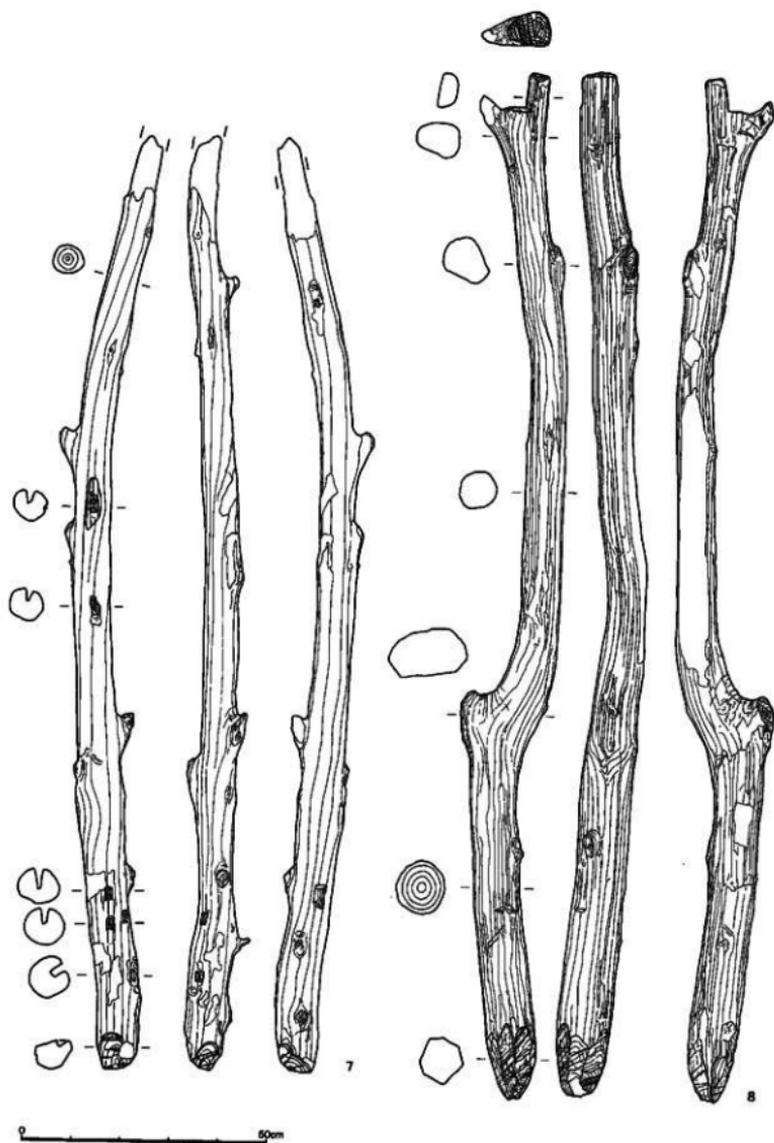


図V-13 A'地区建材群出土状況図

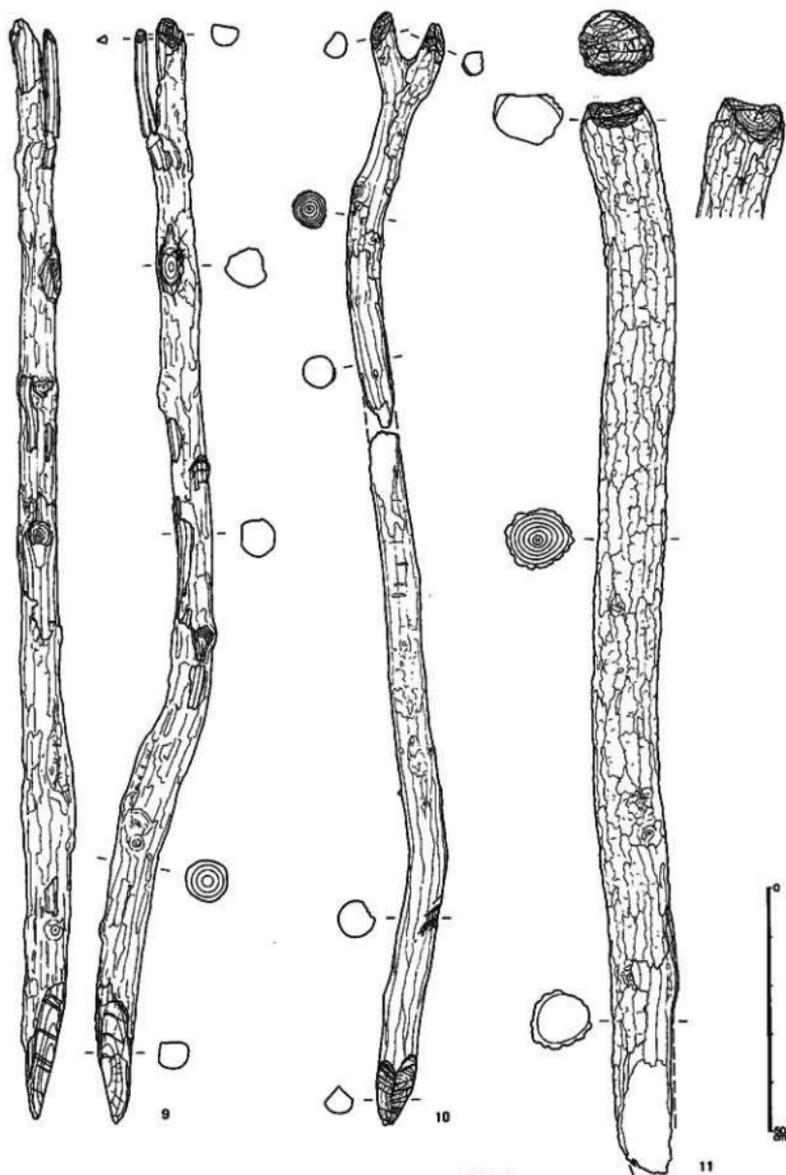
遺物の数字は掲載番号



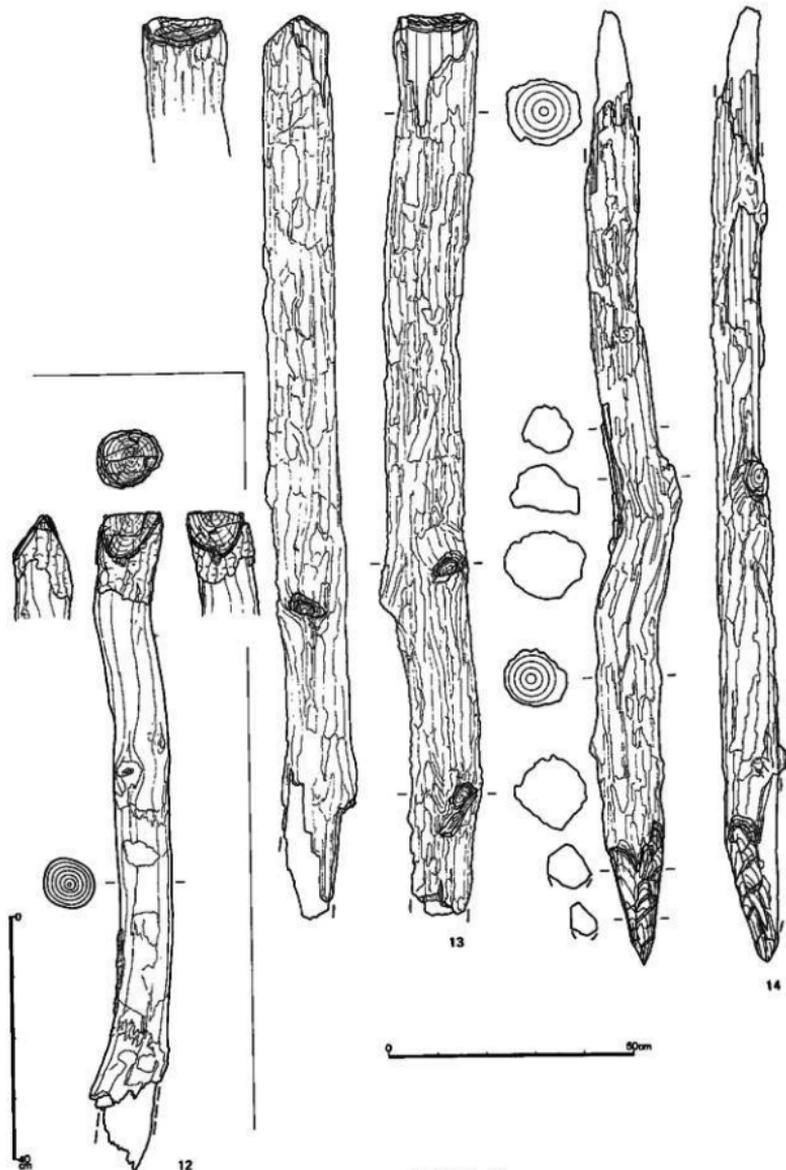
图V-14 A地区建材(1)



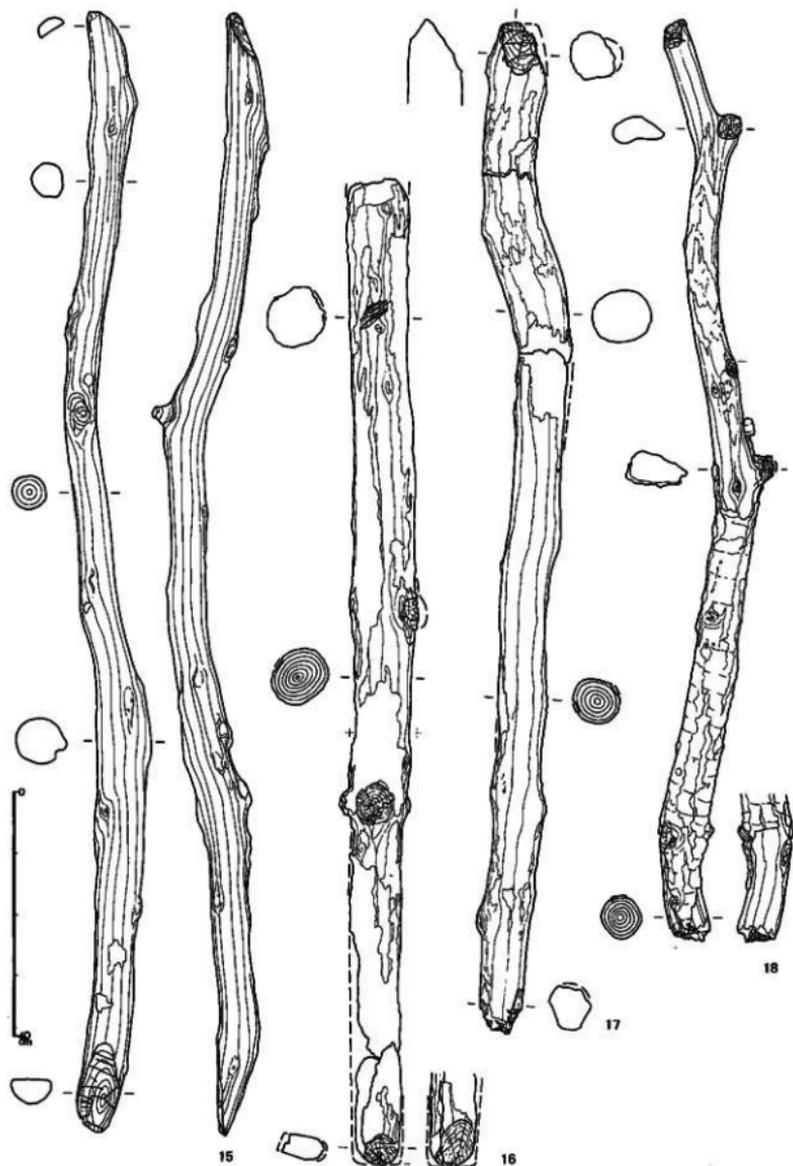
図V-15 A'地区建材(2)



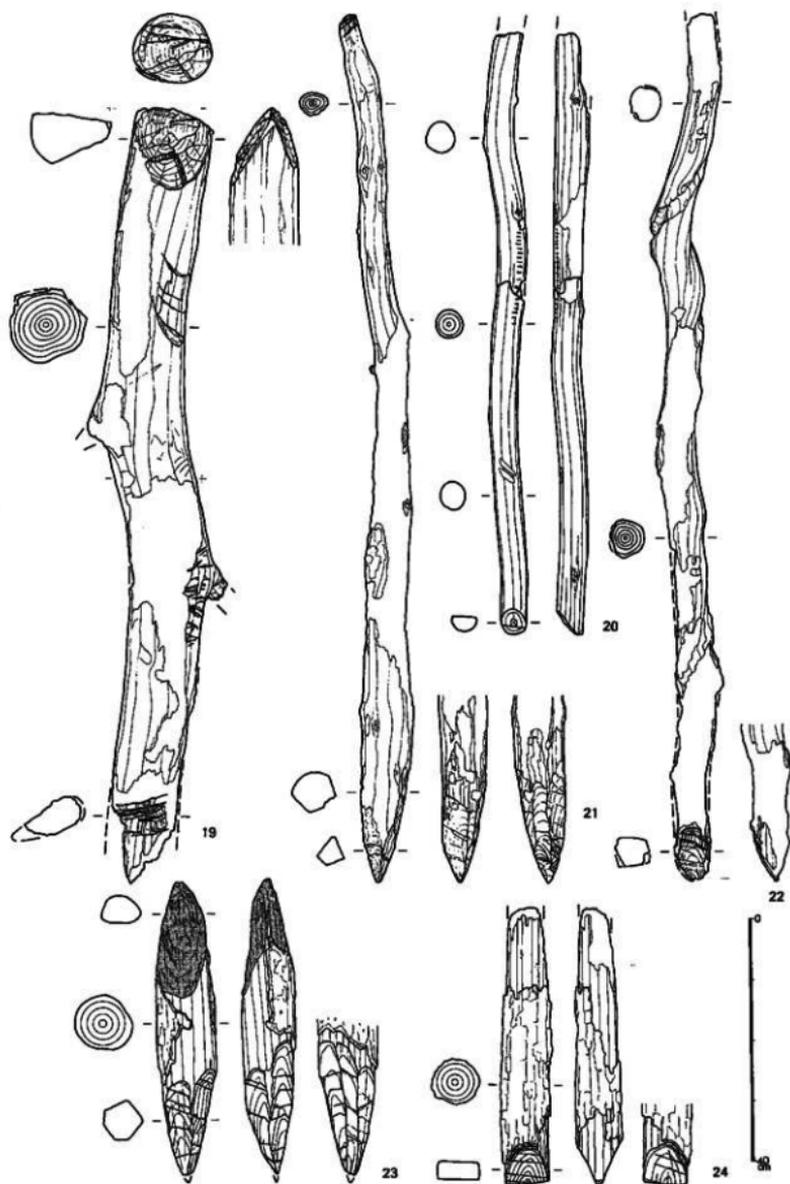
図V-16 A'地区建材(3)



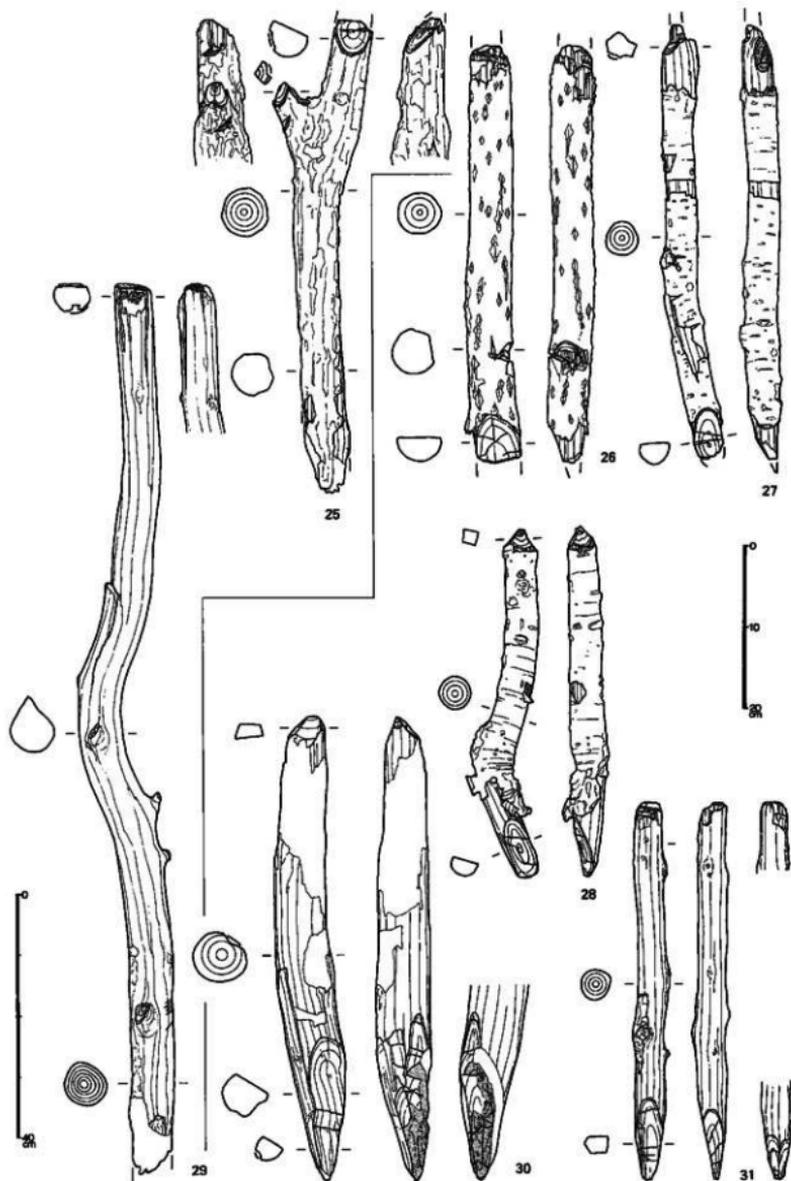
図V-17 A'地区建材(4)



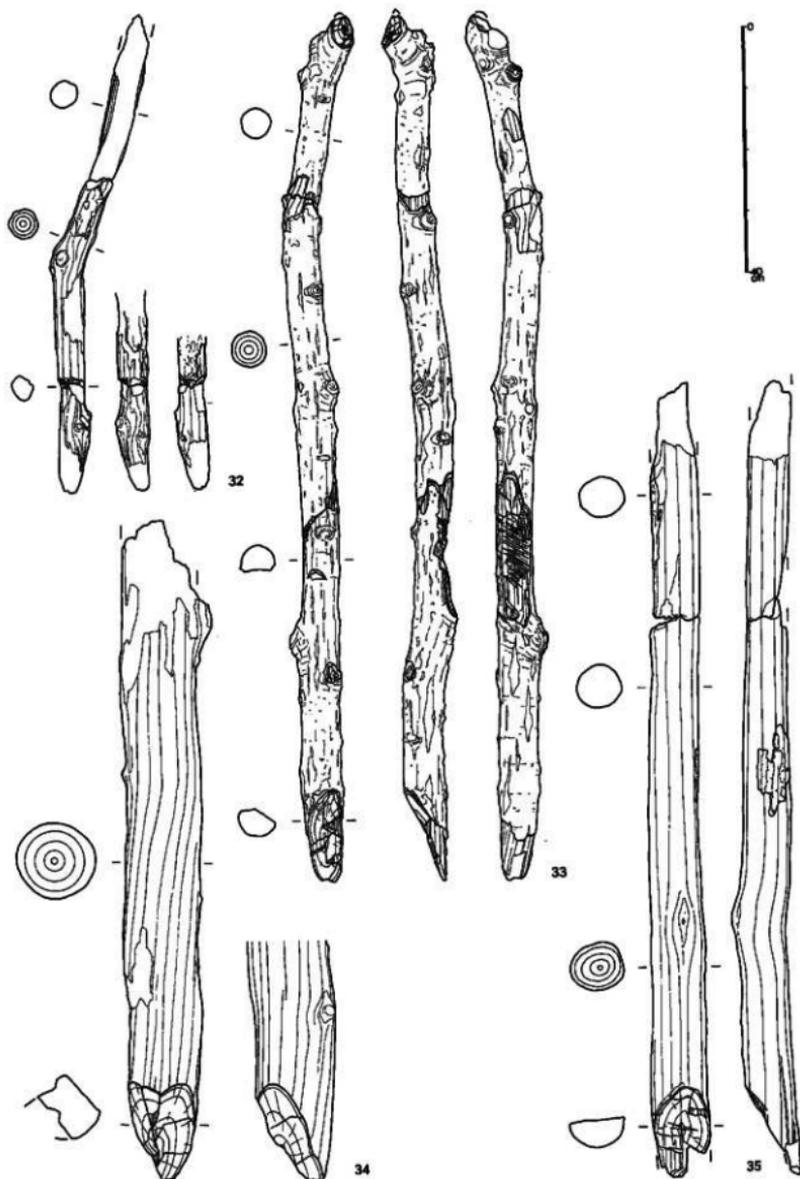
図V-18 A'地区建材(5)



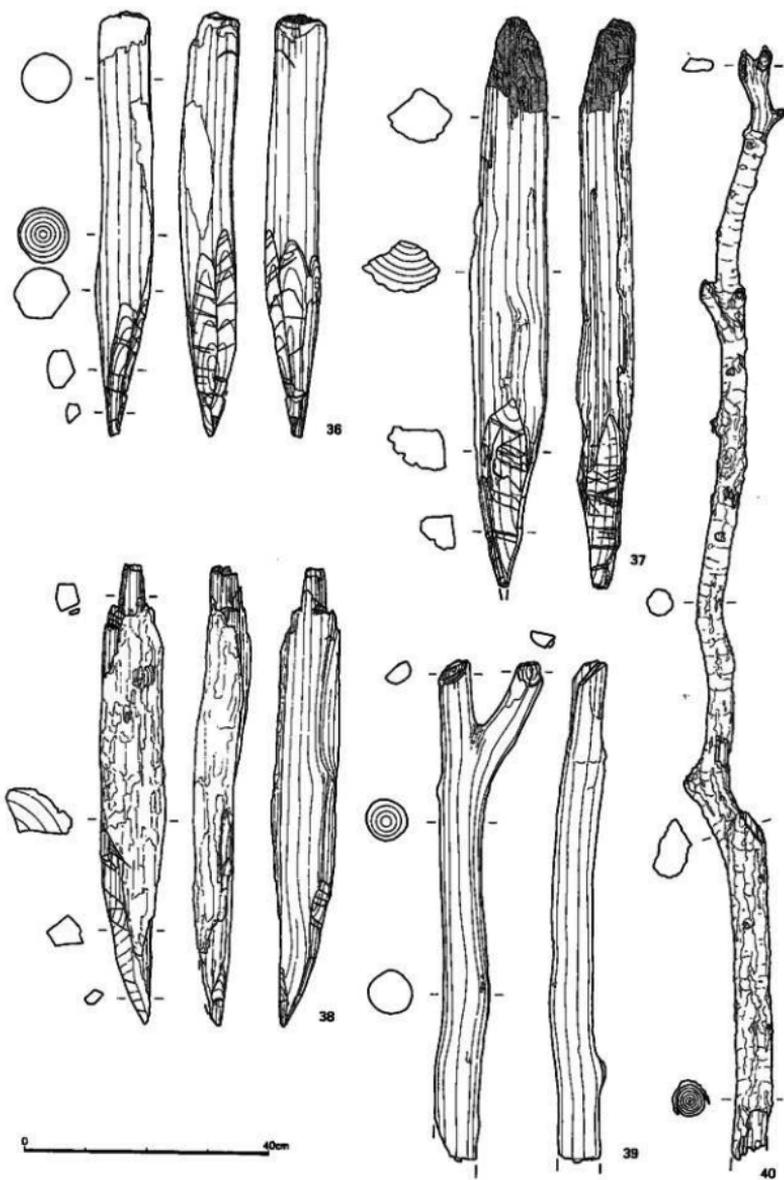
图V-19 A'地区建材(6)



図V-20 A'地区建材(7)



図V-21 A'地区建材(8)



図V-22 A'地区建材(9)

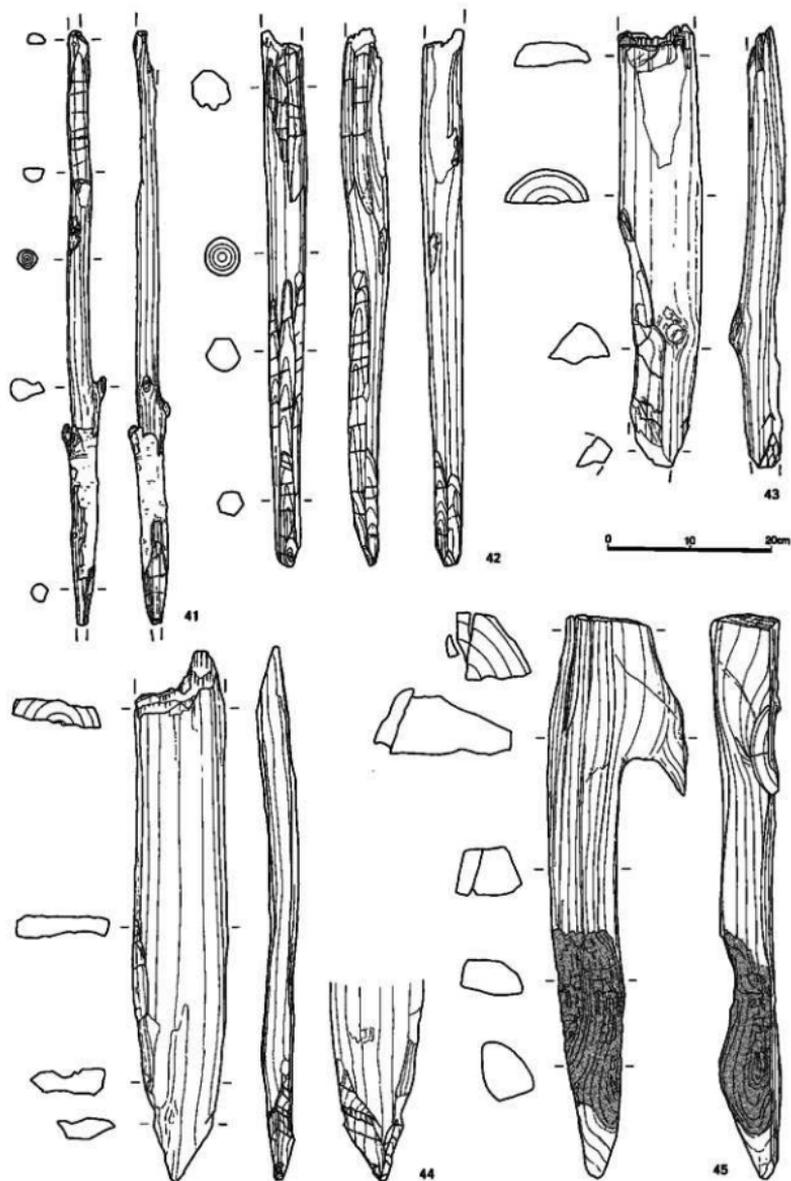


图 V-23 A'地区建材 (0)

表V-1 A'地区補綴建材(1)

Gはグリッド型上げ。

*は接合資料。 ※は中間部をわずかに欠損する。 数値は標準値。

脚 目 No	材 名	区 称	取上 No	計測値 (m)		重量 (g)	樹 皮 厚	木 取 材	樹 種	点 数	備 考
				長さ	幅						
1	8201 768 榎木	c-67-50-60	11	4365.0	8.5	11.0	4590.0	丸木	2	2	両端部加工で1面削り・2面削り。一方に平面面作出。
2	8202 742 桁・梁	c-67-50-60	20	295.9	9.3	10.8	3390.0	丸木	1	1	両端部加工で平面・2面削り。2か所に葉葉状がある。
3	8203 766 桁・梁	c-67-60-c	G	(271.5)	5.9	6.1	4730.0	敷木	1	1	一端木で欠損。1面削り。
4	8204 767 柱	c-67-50-a-d	18	195.0	8.0	7.8	6250.0	丸木	1	1	両端部加工で平面・2面削り。
5	8205 710 柱	c-67-50-60	49	(229.8)	6.4	8.4	5014.0	丸木	3	3	両端部加工で2面削り・2面削り。
6	8206 717 柱	c-67-60-a	16	162.9	11.4	8.6	7852.0	丸木	2	2	柱頭「Y」字状。尖端部5面削り。極鋭角。
7	8207 797 柱または桁	c-67-60-a	109	(191.4)	10.8	11.2	8590.0	丸木	1	1	舟形。カスガイの打込部。尖端部3面削り。極鋭角。
8	8208 741 柱	c-67-60-a	14	207.2	18.0	11.0	12330.0	丸木	1	1	柱頭「Y」字状。受部角形。尖端部7面削り。極鋭角。
9	8209 763 柱	c-67-60-a-d	157	222.0	10.8	10.6	10450.0	丸木	1	1	柱頭「Y」字状。尖端部交差する2面削り。極鋭角。
10	8210 703 柱	c-67-60-a-b	197	224.0	14.6	7.7	8399.0	丸木	2	2	柱頭「Y」字状。尖端部交差する2面削り。極鋭角。
11	8211 746 柱	c-67-50-60	67	(219.0)	14.7	13.1	28990.0	丸木	1	1	柱頭「A」字状。対面2面削り鋭角。尖端部欠損。
12	8212 745 柱	c-67-60-d	54	(107.0)	10.6	10.0	5100.0	丸木	3	3	柱頭「A」字状。対面2面削り鋭角。尖端部欠損。
13	8213 769 柱	c-67-60-a	196	(182.5)	17.5	16.5	24000.0	丸木	1	1	柱頭「A」字状。対面2面削り鋭角。尖端部欠損。
14	8214 762 柱	c-67-60-a	131	(182.5)	13.9	12.9	14500.0	丸木	1	1	柱頭欠損。尖端部3面削り。極鋭角。
15	8215 761 桁・梁	c-67-50-a-d	10	180.5	8.7	8.6	6950.0	丸木	1	1	両端部加工で1面削り・1面削り。
16	8216 765 柱	c-67-60-a-b-d	191	(159.8)	11.2	12.7	9240.0	丸木	2	2	柱頭欠損。尖端部対面する2面削り。鋭角。
17	8217 738 桁・梁	c-67-60-d	65	(165.2)	10.2	9.3	8450.0	丸木	2	2	両端部加工で2面削り・1方は粗削り切端多量。
18	8218 764 柱または桁	c-67-60-a-c-d	182	148.8	9.6	8.9	3950.0	丸木	1	1	両端部加工で1面削り・1方は粗削り切端多量。
19	8219 744 柱	c-67-60-c-d	51	(125.9)	16.0	12.0	11860.0	丸木	1	1	柱頭「A」字状。対面2面削り鋭角。鋭り。極鋭角。
20	8220 718 舟型	c-67-60-b-c	3	(97.2)	5.1	5.3	1556.0	丸木	2	2	一端欠損。1面削り鋭角。表面に削目がある。
21	8221 706 柱	c-67-60-d	151	139.3	8.6	7.7	3629.0	丸木	1	1	尖端部4面削り。極鋭角。柱頭切端多量。
22	8222 711 柱	c-67-60-a-d	183	(139.2)	7.6	7.0	3584.0	丸木	1	1	尖端部対面する2面削り。鋭角。表面が滑着。
23	8223 721 枕	c-67-60-a	179	48.3	9.6	8.7	2060.0	丸木	1	1	尖端部6面削り。極鋭角。端部欠損。
24	8224 740 榎木	c-67-60-d	78	(45.5)	8.2	7.5	1965.0	丸木	2	2	尖端部対面2面削り鋭角。端部欠損
25	8225 737 柱	c-67-50-d	69	(76.0)	14.5	9.1	3060.0	丸木	1	1	柱頭「Y」字状。尖端部欠損。
26	8226 774 榎木	c-67-50-d	84	(50.5)	5.5	5.0	985.0	丸木	1	1	両端部加工で1面削り・切端多量。
27	8227 710 榎木	c-67-60-d	161	52.6	4.6	4.5	591.0	丸木	1	1	両端部加工で1面削り・凸形の削りだし。
28	8228 734 榎木	c-66-59-c	60	42.5	5.0	4.4	482.0	丸木	1	1	両端部加工で1面削り・4面削り。

表V-2 A'地区埋藏建材(2)

木器 No	取上 No	株 No	名	計測値 (cm)	縦断 (g)	樹皮 痕	木直	樹種	点数	備	考
				長さ 幅							
29 8229	712	c-67-40-b-d	垂木	(143.5) 10.4 5.3	4834.0	○	丸木		1	一端欠損。1面削りの平坦面。	
30 8230	723	c-67-60-a	枕	56.7 6.9 6.5	1420.0	○	丸木		1	尖端部2面削り磨削で炭化。端部2面削り。補脚木?	
31 8231	725	c-67-60-a	枕	45.9 4.1 4.1	402.3	○	丸木		1	尖端部4面削り磨削。端部切痕多量。	
32 8232	735	c-66-63-b	柱	7(76.8) 5.4 5.9	1200.0	○	丸木		2	両端部欠損。一方に扶り部作出。分相顯著。	
33 8233	743	c-67-80-c-d	柱または桁・梁	139.5 8.0 7.0	3330.0	○	丸木		3	両端部加工で1面削り・柱尻欠損。扶りに互の擦多量。	
34 8234	732	c-67-60-a-d	柱	(108.5) 14.5 16.3	11150.0	○	丸木		1	枕頭欠損。尖端部2面削り磨削角。	
35 8235	746	c-67-60-a-b	柱	(128.0) 9.2 8.8	6006.0	○	丸木		2	枕頭欠損。尖端部1面削り磨削角。	
36 8236	726	c-67-60-a	枕	68.2 8.9 8.7	3010.0	○	丸木		1	尖端部4面削り磨削角。端部平坦切痕多量。	
37 8237	729	c-67-60-c-d	枕	92.0 12.6 9.1	5900.0	○	1/4削		1	尖端部2面削り磨削角。端部炭化。	
38 8238	750	c-66-59-67-50	枕	74.3 10.4 7.2	2390.0	○	1/4削		1	尖端部2面削り磨削角。端部凸形の削出し。	
39 8239	731	c-67-50-d	柱	(61.7) 8.2 8.2	3030.0		段木		1	柱頭「Y」字状。尖端部欠損。	
40 8240	715	c-66-53-b	垂木	(179.0) 7.7 8.2	3013.0	○	丸木		1	一方欠損。一端は柱尻欠損。	
41 8241	736	c-67-50-60	枕状木製品	(71.9) 3.3 3.3	373.0	○	丸木		1	尖端部交差する2面削り磨削角。一方に平坦面作出。	
42 8242	730	c-67-60-a	枕状木製品	(64.6) 5.0 5.1	840.0		丸木		1	尖端部6面削り磨削角。一方に平坦面作出。	
43 8243	733	c-67-60-a	枕	(53.6) 10.0 5.6	1165.0	○	欄干		1	両端部欠損。尖端部1面削りか?	
44 8244	722	c-67-60-a	枕	(64.4) 11.3 3.8	1390.0		段目		1	尖端部3面削り。端部欠損。	
45 8245	727	c-66-59-b-c	枕	68.4 16.7 7.7	2820.0	○	1/4削		1	尖端部炭化。端部平坦面。ベタのようなものか?	

2) 双礫・集石 (図V-24、表V-3)

双礫

位置 c-67-60-a

規模 1が1,276g、2が4,426g

調査 建材群の下位で検出。

特徴 珪岩の歪角礫と安山岩の歪角礫によって構成されている。1が1,276g、2が4,426gで2は1の3.5倍の重量を持ち、双礫としては重量差が大きく、特異な例である。

集石

位置 c-67-50-a、c-67-60-d

規模 3~6は42.6g~687g、7~10は20.7g~1,519g、12~14は826g~1,795g

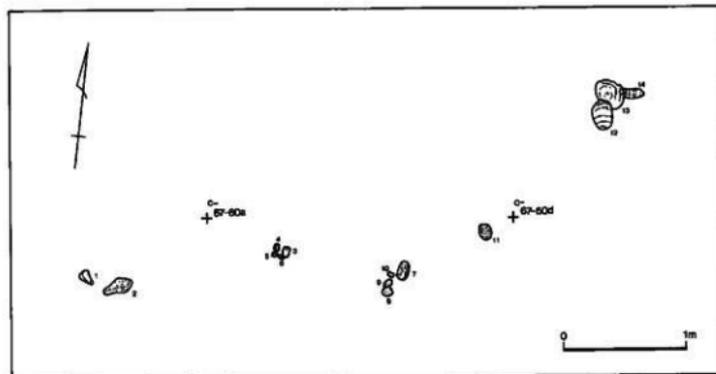
調査 建材群の下位で検出。双礫に較べてやや下位の層順から出土している。

特徴 3~6・7~10・12~14が3ヶ所に集まっている。集石としては礫の数が少なく、特異な例である。集石ごとの特徴は12~14の重量が極めて重いことのほかはみあたらない。各集石とも岩質は砂岩と片麻岩が多く、形態は楕円礫と円扁平礫が多い。

(鈴木 信)

表V-3 A'地区双礫・集石計測値

図番号	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材・石質	備考	図番号	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材・石質	備考
3	14.41×11.99×6.43	1276	珪岩 歪角礫	楕円型平礫	8	9.21×8.28×3.97	323.2	砂岩 円礫	楕円型平礫
2	23.99×13.22×11.95	4426	安山岩 歪角礫	楕円型	9	8.92×2.89×1.74	46.8	砂岩 円礫	楕円型平礫
5	19.12×8.46×8.28	587	珪岩 円礫	楕円型	10	3.79×2.78×1.66	20.7	珪岩 円礫	楕円型
4	8.58×4.39×3.02	94.4	片麻岩 円礫	楕円型平礫	11	14.64×10.98×3.90	822	片麻岩 円礫	楕円型平礫
6	6.38×4.33×1.62	62.9	片麻岩 円礫	楕円型平礫	12	17.60×12.81×4.45	1795	片麻岩 円礫	楕円型平礫
8	8.15×2.74×1.51	42.6	砂岩 円礫	楕円型平礫	13	16.24×8.17×3.22	1074	片麻岩 歪角礫	楕円型
7	17.03×8.26×6.97	1519	片麻岩 円礫	楕円型	14	17.26×7.24×3.65	826	片麻岩 円礫	楕円型平礫



図V-24 A'地区双礫・集石

(2) 包含層の遺物

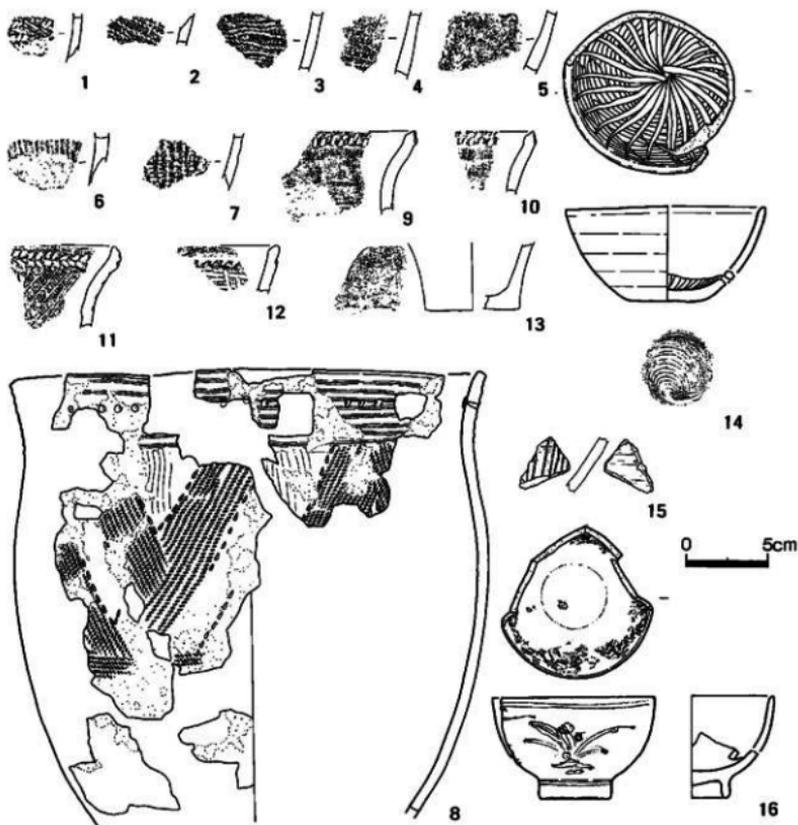
1) 土器・陶磁器 (口絵4-2・4、図V-25、表V-4、図版V-11)

縄文土器が12点、統縄文土器が4点、擦文土器が8点、近世の陶磁器が2点、不明が15点出土している。擦文土器は調査区東側のc-66-47、c-66-48に集中する。

縄文時代早期の土器(1~5): 全体がやや摩耗している東釧路IV式の深鉢胴部片である。

統縄文時代の土器(6~8): 6・7の縄文は縦走している。8は北大A式(田才 1983)に分類されるもの。この土器はB地区の102区・105区からも接合資料が出土している。

縄文時代の土器(9~14): 9~12は深鉢の口縁部。いずれも口縁部に刺突文を施す。13は深鉢の底部、外面はタテミガキ。14は内黒の土器器碗、底部には回転糸切り痕が付く。内面はヨコヘラミガキの後に放射状のヘラミガキが放射状に施される。体部外面に補修孔をもつ。



図V-25 A'地区土器・陶磁器

近世の陶磁器(15・16): 15は濡鉢の体部上半で、内面は摩耗していない。内外面に鉄釉を施す。胎土に大粒の長石が多量に含まれる。これらの特徴は信楽焼の製品と酷似する。16は伊万里焼の碗。呉須は全体に薄いが藍色によく発色している。高台皿付の釉を拭わず砂が熔着している。全体的に厚手で外底面は兜巾状に削りだされている。内面にはタールのようなものが付着している。17世紀後半のものか。

(鈴木 信)

2) 石器・石製品、礫(図V-26~33、表V-5、図版V-12)

石器が15点、フリート等が12点、石製品が6点出土しておりc-66-48に多く出土している。礫は1,078点、礫片は1,511点出土しておりc-66-59 a・b、c-67-60 a・bから多く出土している。

石器・石製品: 1~3は黒曜石製の石鏃ですべて凹基である。2は片面に主要剥離面を残す。4は頁岩製つまみつきナイフ。横長剥片を素材とする。腹面の打点側には厚みを減じるため調整が施される。周縁の調整は一側縁のみに施される。5は緑色泥岩製石斧。両主面には調整が施されず素材面を残す。基部側の破片で刃部からの衝撃によって折れている。6・7は片麻岩製すり石で扁平楕円礫の一端を使用している。6は風化が著しい。8・9はすり石で、8は泥岩、9は細粒砂岩。扁平楕円礫の一面を使用している。1~9は形態の特徴から縄文時代以前の石器とおもわれる。

10~13は暗赤色のチャートを素材とし、14はやや透明のメノウの転石を素材とした火打石。15は白色の珪岩を素材とした火打石。これらの使用部分は鋭角に交わる稜の長さが比較的長い部分を選択している。稜は使用によってつぶれている。16・17は凝灰岩製砥石。16は薄い板状の両主面を使用している。17は断面角柱状の2面を使用している。10~17は縄文時代以降の石器である。

礫(図V-27~33): グラフはA'地区出土の完形の礫1,078点(礫片1,511点)についての形態を岩質別に示した。縦軸は長さ/幅で平面を表し、横軸は厚さ/幅で断面形を表す。よって、縦軸の値が大きくなると平面形は棒状に近くなり、横軸の値が小さくなると断面形は扁平に近くなる。従って、グラフの破線で区画された領域は形態の違いを表している。

形態の名称は、初めに平面形の名、次に断面形の名を付け、それらを組み合わせることで礫の名称が立体的になるようにし、略号としてアルファベットを付した。

横軸値0.8~1.0、縦軸値2.0以上の形態が棒状礫で略号はa。横軸値0.5~0.8、縦軸値2.0以上の

表V-4 A'地区掘出土器・陶磁器

図番号	名称	発見区	図番号	名称	発見区
1	陶鉢 体部	c-66-48	1b-4	(京御路IV)	
2	陶鉢 体部	c-66-48	1b-4	(京御路IV)	10
3	陶鉢 体部	c-66-48a	1b-4	(京御路IV)	11
4	陶鉢 体部	c-67-70a	1b-4	(京御路IV)	12
5	陶鉢 体部	c-67-70a	1b-4	(京御路IV)	13
6	陶鉢 体部	c-67-70c	VI		14
7	陶鉢 体部	c-67-70d	VI		15
8	陶鉢 口縁-体部	c-67-70a-b-c-d	VI	(北大A類)	16
		京地区103・105区			17

表V-5 A'地区掘出土器・石製品

図番号	名称	発見区	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質	図番号	名称	発見区	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質
1	頁岩	c-67-69a	26.8×14.5×3.2	0.9	黒曜石	15	火打石	c-66-59a	19.1×17.1×14.8	4.5	チャート
2	頁岩	c-66-47c	14.2×13.0×3.2	0.7	黒曜石	11	火打石	c-66-48a	25.5×22.9×21.5	12.2	チャート
3	頁岩	c-66-48c	19.3×16.9×3.9	0.7	黒曜石	12	火打石	c-66-48b	33.1×23.9×24.9	17.5	チャート
4	つまみ付きナイフ	c-66-47c	62.0×36.5×12.0	18.9	頁岩	13	火打石	c-67-69d	31.8×19.2×20.5	11.2	チャート
5	片麻岩	c-66-47c	59.5×44.3×12.0	42.8	緑色片麻岩	14	火打石	c-66-48a	32.7×27.1×19.3	23.8	珪岩
6	すり石	c-67-69a	81.1×58.1×14.8	78.9	砂岩	15	火打石	c-66-48b	39.0×37.5×24.8	28.1	メノウ質頁岩
7	すり石	c-66-55b	49.3×71.1×22.0	219.3	片麻岩	17	砥石	c-66-48b	124.0×38.0×38.5	424.6	凝灰岩
8	すり石	c-67-70a	72.0×80.9×30.0	193.0	泥岩	16	砥石	c-67-69a	28.0×35.9×11.6	13.7	凝灰岩
9	すり石	c-66-48a	42.5×67.5×14.0	14.3	砂岩						

形態が棒状楕円礫で略号はb。横軸値0.5以下、縦軸値2.0以上の形態が棒状扁平礫で略号はc。横軸値0.5~1.0、縦軸値1.2と横軸値0.5~0.8、縦軸値1.0~1.2の形態が楕円礫で略号はd。横軸値0.5以下、縦軸値1.0~1.2の形態が円扁平礫で略号はe。横軸値0.8~1.0以下、縦軸値1.0~1.2の形態が球礫で略号はf。また、ドット記号に付くアンダーラインは礫の円磨度を表し、実線は歪円礫、線を付していないドットは円礫を表す。以下グリッドごとに特徴を述べてゆくことにする。

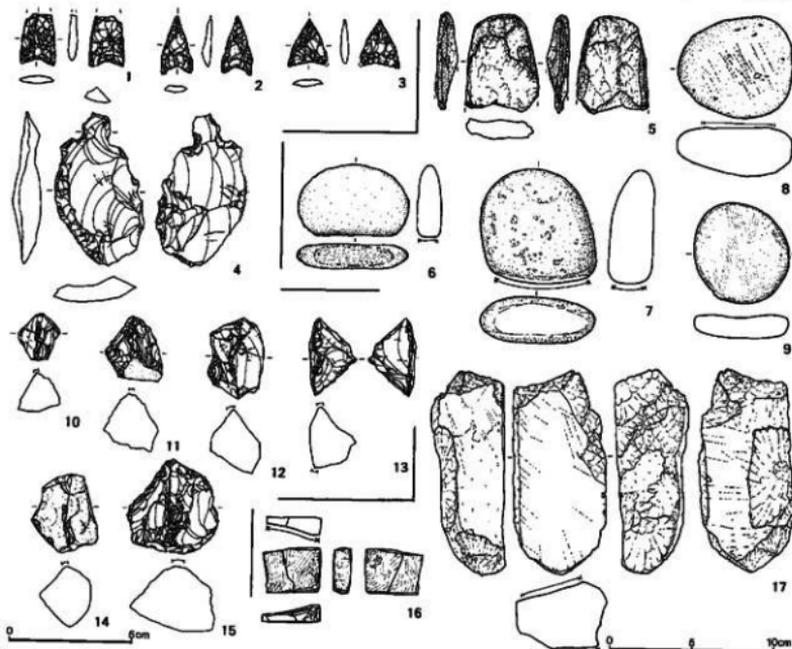
c-66-47: 礫全体の特徴は、横軸値0.3~0.8、縦軸値1.1~1.8付近に散在し、礫の形態は、棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫・球礫がある。

砂岩は横軸値0.66~0.35、縦軸値1.23~1.64に集中し、主に楕円礫(52.9%)・楕円扁平礫(29.4%)によって構成されている。泥岩の横軸値・縦軸値は砂岩よりも分散し、主に楕円礫(60.0%)によって構成されている。片麻岩の横軸値・縦軸値は泥岩よりも分散し、棒状礫・球礫を除いた形態が存在する。チャートの横軸値・縦軸値は泥岩と同様に分散し、主に楕円礫(75.0%)より構成されている。

岩質ごとの形態別重量については、砂岩と泥岩とチャートのピークがいずれも0~20gの範囲にあり、またこの範囲の中においても楕円礫が多い。

c-66-48: 礫全体の特徴は横軸値0.3~0.8、縦軸値1.2~2.0付近に集中し、棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫・球礫がある。

砂岩は横軸値0.33~0.76、縦軸値1.22~1.88に集中し、主に楕円礫(39.6%)・楕円扁平礫(50.0%)によって構成されている。泥岩は横軸値0.28~0.7、縦軸値1.15~1.8に集中し、主に楕円礫



図V-26 A'地区石器・石製品

(41.3%)・楕円扁平礫(39.1%)によって構成されており、砂岩と同じ形態が多い。片麻岩は横軸値0.28~0.52、縦軸値1.30~2.02に集中し、主に楕円扁平礫(68.0%)によって構成されている。チャートは横軸値0.33~0.76、縦軸値1.10~1.55に集中し、主に楕円礫(66.7%)によって構成されている。

岩質ごとの形態別重量については、砂岩は0~80gの間に集中し、ピークは0~20gにある。泥岩は0~20gの間に集中し、ピークも0~20gにある。片麻岩は60~80gの間に集中し、ピークは20~60gのゆるやかなものとなる。チャートは0~20gの間に集中し、ピークも0~20gの範囲にある。

c-66-49: 礫全体の形態の特徴は、横軸値0.25~0.65、縦軸値1.0~1.9付近に集中し、棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫がある。

砂岩は横軸値0.25~0.58、縦軸値1.00~1.82に集中し、主に楕円礫(21.4%)・楕円扁平礫(46.2%)・円扁平礫(23.2%)により構成されている。泥岩は横軸値0.30~0.72、縦軸値1.20~1.76に集中し、主に楕円扁平礫(53.3%)により構成されている。片麻岩は横軸値0.25~0.52、縦軸値1.00~1.56に集中し、主に楕円扁平礫(68.0%)により構成されており、砂岩と同じ形態が多い。チャートは横軸値0.40~0.90、縦軸値1.00~1.64に集中し、主に楕円礫(69.2%)により構成されている。

岩質ごとの形態別重量は、砂岩は0~120gの間に集中し、ピークは20~80gの間に集中し、ピークは20~40gにあるが比較的緩やかである。チャートは0~20gの間に集中し、ピークも0~20gにある。

c-66-59: 礫全体の形態の特徴は、横軸値0.19~0.80、縦軸値1.0~2.04付近に集中し、棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫がある。

砂岩は横軸値0.19~0.66、縦軸値1.00~2.01に集中し、主に楕円礫(29.5%)・楕円扁平礫(44.3%)によって構成されている。泥岩は横軸値0.28~0.62、縦軸値1.15~2.04に集中し、主に楕円扁平礫(55.6%)によって構成されている。片麻岩は横軸値0.20~0.63、縦軸値1.12~2.00に集中し、主に楕円扁平礫(60.8%)によって構成されており、泥岩と同じ形態が多い。チャートは横軸値0.32~0.80、縦軸値1.00~1.92に集中し、主に楕円礫(52.1%)によって構成されている。

岩質ごとの形態別重量については、砂岩は0~160gの間に集中し、ピークは20~80gにある。泥岩は20~80gの間に集中し、ピークは40~60gにある。片麻岩は20~180gの間にやや集中し、ピークは40~60gにある。チャートは20~80gの間に集中し、ピークは20~40gにあるが高くない。

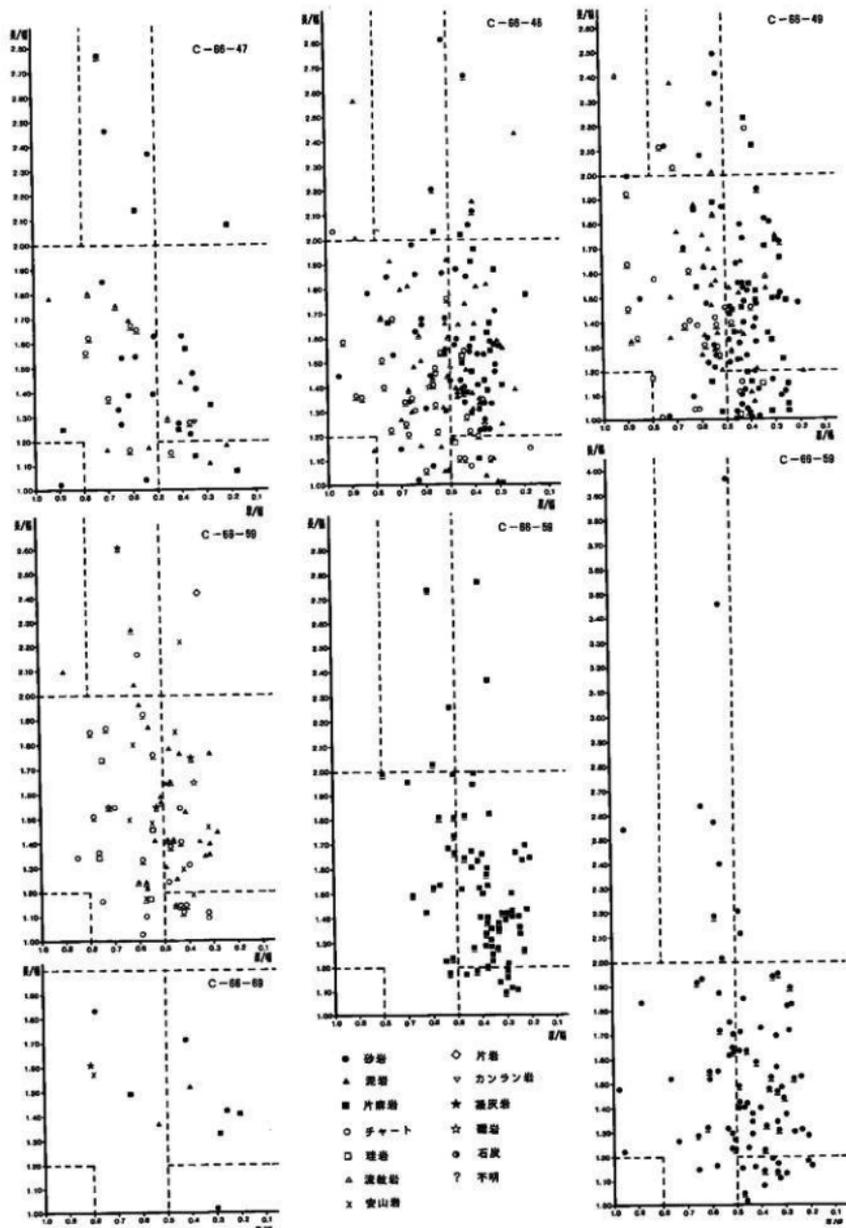
c-66-69: 礫全体の形態の特徴は、横軸値0.20~0.81、縦軸値1.33~1.84付近に分散し、楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫がある。岩質ごとの形態別重量については、いずれの岩質についても集中はみられない。

c-66-50: 礫全体の形態の特徴は、横軸値0.20~0.80、縦軸値1.00~2.44付近に集中し、棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫・球礫がある。

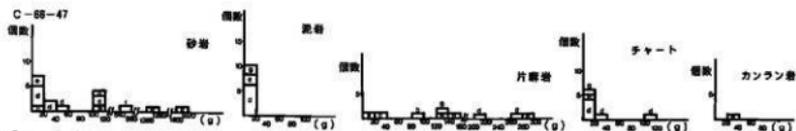
砂岩は横軸値0.22~0.71、縦軸値1.23~1.94に集中し、主に楕円礫(27.8%)・楕円扁平礫(40.3%)によって構成されている。泥岩は横軸値0.27~0.62、縦軸値1.23~1.98に集中し、主に楕円礫(44.1%)・楕円扁平礫(26.5%)によって構成されている。片麻岩は横軸値0.22~0.51、縦軸値1.05~1.81に集中し、主に楕円扁平礫(54.5%)によって構成されている。チャートは横軸値0.46~0.88、縦軸値1.00~1.56に集中し、主に楕円礫(54.2%)によって構成されている。

岩質ごとの形態別重量については、砂岩ピークは0~20gにある。泥岩は20~100gの間に集中し、ピークは0~20gにある。チャートは0~80gの間に集中し、ピークは0~20gにある。片麻岩のピークは60~80gにある。

c-66-60: 礫全体の形態の特徴は、横軸値0.20~0.75、縦軸値1.00~1.90付近に集中し、棒状礫・



図V-27 A'地区騒グラフ・表(1)



C-66-47

円筒径	形類	個数	百分率
円17	棒状積内環	2	11.8
円100	積内環	9	52.9
	積内扁平環	5	29.4
	%球環	1	5.9
個	%		

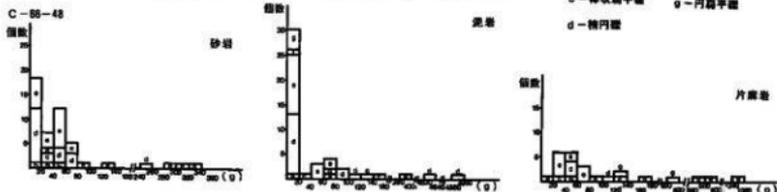
円筒径	形類	個数	百分率
円7	積内環	4	57.1
円100	積内扁平環	1	14.3
	%	2	28.6
個	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円8	棒状積内環	1	12.5
円83.9	棒状扁平環	1	12.5
	積内環	1	12.5
個	積内扁平環	3	37.5
	%	2	25.0
円1	棒状積内環	1	10.0
個	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円8	積内環	6	75.0
円100	積内扁平環	1	12.5
	%	1	12.5
個	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円1	積内扁平環	1	100
個	%		

- a-棒状環 e-積内扁平環
- b-棒状積内環 f-積内環
- c-棒状扁平環 g-円筒平環
- d-積内環



C-66-48

円筒径	形類	個数	百分率
円9.0	棒状積内環	2	5.1
円84.8	積内環	13	33.3
	積内扁平環	17	43.6
	%球環	1	2.6
個	円筒平環	4	10.3
	%		
円7	積内環	6	85.7
円15.2	積内扁平環	1	14.3
	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円6	棒状環	1	15.7
円15.4	積内環	2	39.3
	積内扁平環	1	16.7
個	%	2	39.3
	%		
円2.6	積内環	18	72.0
円80.8	積内扁平環	3	12.0
	%	4	16.0
個	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円4.3	棒状積内環	1	2.3
円89.6	棒状扁平環	1	2.3
	積内環	18	41.9
個	積内扁平環	23	63.6
	%		
円5	棒状積内環	1	20.2
円10.4	棒状扁平環	2	40.0
	積内環	1	20.0
個	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円2.5	棒状積内環	1	4.0
円100	棒状扁平環	1	4.0
	積内環	4	16.0
個	積内扁平環	17	68.0
	%	2	8.0

円筒径	形類	個数	百分率
円1	積内扁平環	1	100
個	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円2	積内環	1	50.0
円100	積内扁平環	1	50.0
	%		

円筒径	形類	個数	百分率
円1	積内環	1	100
個	%		

図V-28 A'地区磁グラフ・表(2)

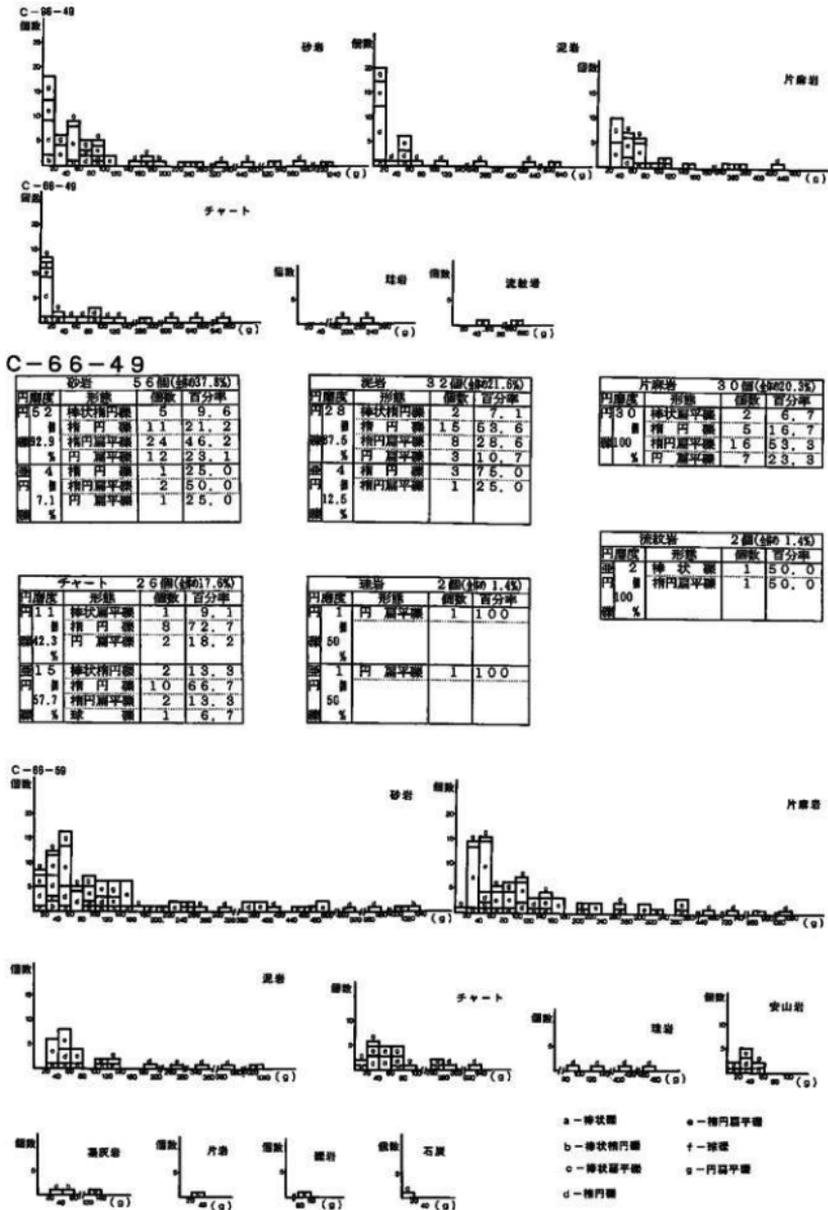


図 V-29 A'地区礫グラフ・表 (3)

棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫・球礫がある。

砂岩は横軸値 0.23~0.65、縦軸値 1.00~1.91 に集中し、主に楕円礫(32.6%)・楕円扁平礫(41.6%) によって構成されている。泥岩は横軸値 0.25~0.70、縦軸値 1.00~1.96 に集中し、主に楕円礫 (43.2%)・楕円扁平礫(27.3%) によって構成されている。片麻岩は横軸値 0.15~0.48、縦軸値 1.16~1.88 に集中し、主に楕円扁平礫(55.5%) によって構成されている。チャートは横軸値 0.43~0.82、縦軸値 1.11~1.60 に集中し、主に楕円礫(73.1%) によって構成されている。

岩質ごとの形態別重量については、砂岩は 20~100 g の間に集中し、ピークは 60~80 g にある。泥 岩は 0~140 g の間に集中し、ピークは 20~40 g にある。片麻岩は 0~200 g の間に集中し、ピークは

C-66-59

砂岩 88個(総計31%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 6.2	棒状楕円礫	1	1.6
	棒状楕円礫	6	9.7
	楕円扁平礫	2	3.2
	楕円礫	19	30.7
	円扁平礫	25	40.3
φ 70.5	円扁平礫	9	14.5
	%		
φ 206	棒状楕円礫	1	3.9
	楕円礫	7	26.9
φ 29.5	楕円扁平礫	14	53.8
	円扁平礫	4	15.4
総計 %			

片麻岩 74個(総計27.0%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 4.7	棒状楕円礫	2	4.3
	楕円扁平礫	1	2.1
φ 63.5	楕円礫	6	12.8
	楕円扁平礫	33	70.2
φ 27	楕円扁平礫	2	7.4
	楕円礫	9	33.3
φ 36.5	楕円扁平礫	12	44.4
	円扁平礫	4	14.8
総計 %			

泥岩 27個(総計11.7%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1.9	棒状楕円礫	1	5.3
	楕円扁平礫	1	5.3
φ 10.4	楕円礫	6	26.3
	楕円扁平礫	12	63.2
φ 8	棒状楕円礫	1	12.5
	楕円礫	3	37.5
φ 29.6	楕円扁平礫	3	37.5
	円扁平礫	1	12.5
総計 %			

チャート 23個(総計10.0%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1.2	棒状楕円礫	1	8.3
	楕円礫	6	50.0
φ 2.2	楕円扁平礫	3	25.0
	円扁平礫	2	16.7
φ 1.1	楕円扁平礫	9	64.5
	楕円礫	2	18.2
φ 47.6	楕円扁平礫	3	27.3
	円扁平礫		
総計 %			

安山岩 9個(総計3.9%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 8	棒状楕円礫	1	12.5
	楕円礫	3	37.5
φ 38.3	楕円扁平礫	3	37.5
	円扁平礫	1	12.5
φ 1	楕円礫	1	10.0
	%		
φ 11.1			
	%		
総計 %			

砂岩 4個(総計1.7%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 4	楕円礫	4	100
	%		
φ 100			
	%		
総計 %			

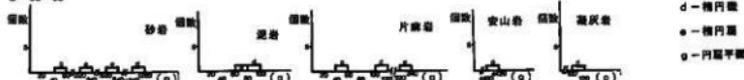
砂岩 1個(総計0.4%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1	楕円扁平礫	1	100
	%		
φ 100			
	%		
総計 %			

凝灰岩 9個(総計3.3%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 5	棒状楕円礫	1	33.3
	楕円礫	1	33.3
φ 100	楕円扁平礫	1	33.3
	%		
総計 %			

片麻岩 1個(総計0.4%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1	棒状楕円礫	1	100
	%		
φ 100			
	%		
総計 %			

石炭 1個(総計0.4%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1	楕円礫	1	100
	%		
φ 100			
	%		
総計 %			

C-66-68



C-66-69

砂岩 4個(総計3.4%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 4	楕円礫	1	25.0
	楕円扁平礫	2	50.0
φ 100	円扁平礫	1	25.0
	%		
総計 %			

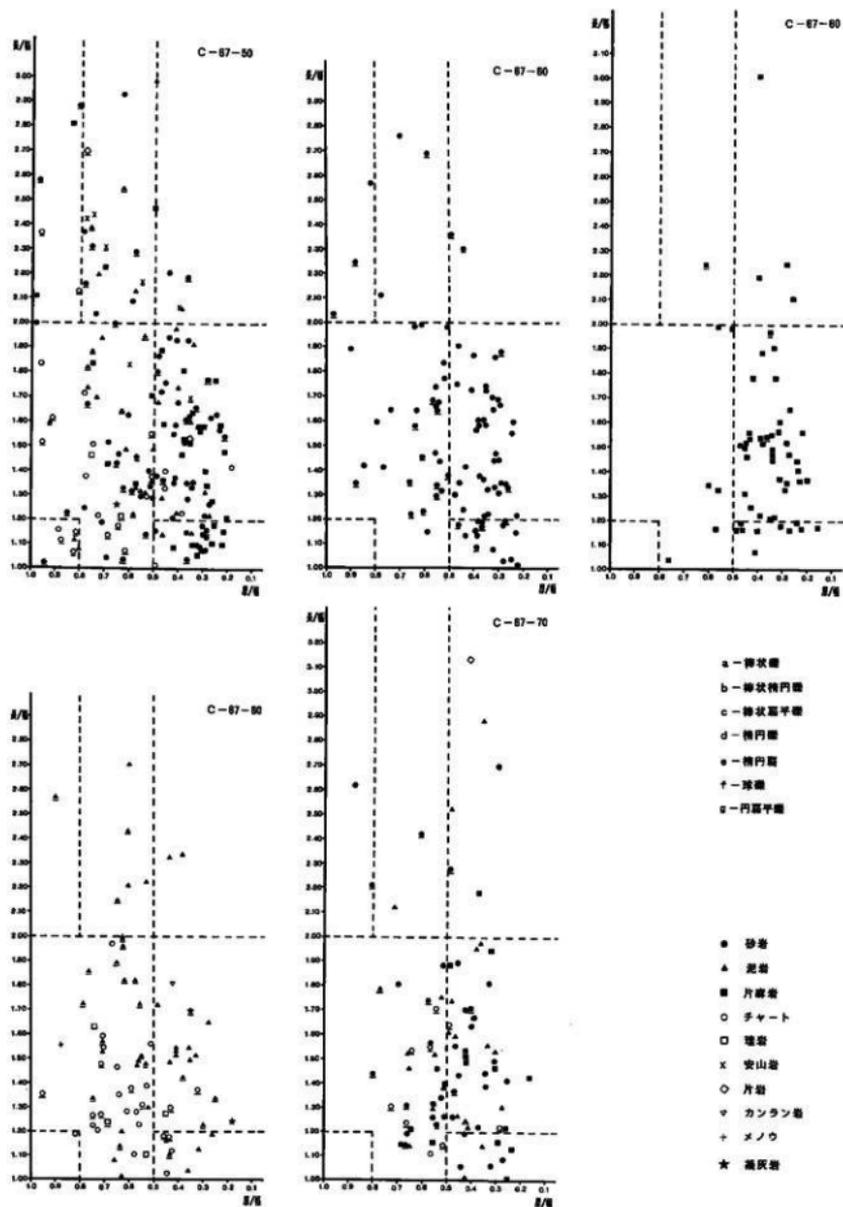
泥岩 2個(総計1.2%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 2	楕円礫	1	50.0
	楕円扁平礫	1	50.0
φ 100			
	%		
総計 %			

片麻岩 3個(総計21.3%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 3	楕円礫	1	33.3
	楕円扁平礫	2	66.7
φ 100			
	%		
総計 %			

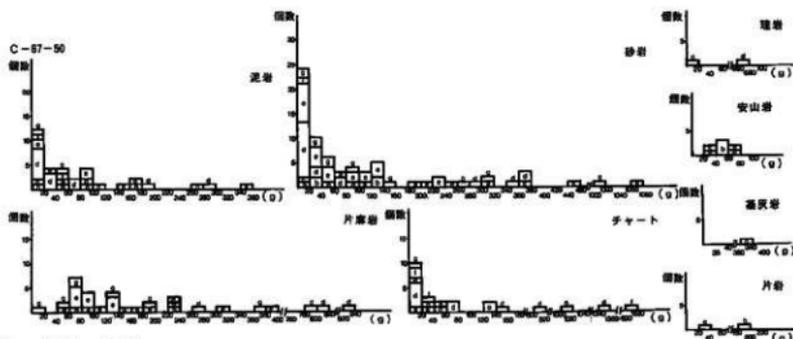
安山岩 1個(総計9.1%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1	楕円礫	1	100
	%		
φ 100			
	%		
総計 %			

凝灰岩 1個(総計8.1%)			
円周径	形態	個数	百分率
φ 1	楕円礫	1	100
	%		
φ 100			
	%		
総計 %			

図V-30 A'地区礫グラフ・表(4)



図V-31 A'地区礫グラフ・表(5)



C-67-50

砂岩 72個(総計11.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
円4.9	棒状礫	1	2.0
	棒状指円礫	4	8.2
	棒状扁平礫	1	2.0
	指円礫	11	22.4
	指円扁平礫	24	49.0
線61.8	円扁平礫	8	16.8
	%		
面23	棒状礫	2	8.7
	棒状指円礫	3	13.0
	棒状扁平礫	1	4.3
円	指円礫	9	39.1
31.9	指円扁平礫	5	21.7
	球礫	1	4.3
	円扁平礫	2	8.7
	%		

泥岩 34個(総計19.4%)			
円周径	形状	個数	百分率
円2.5	棒状指円礫	3	12.0
	棒状扁平礫	1	4.0
	指円礫	9	35.0
	指円扁平礫	8	32.0
線73.5	球礫	2	8.0
	円扁平礫	2	8.0
	%		
面9	棒状指円礫	2	22.2
円	指円礫	6	66.7
36.5	指円扁平礫	1	11.1
	%		

片麻岩 33個(総計18.9%)			
円周径	形状	個数	百分率
円3.2	棒状礫	1	8.1
	棒状指円礫	2	6.3
	指円礫	4	12.5
線77.0	指円扁平礫	17	63.1
	円扁平礫	8	25.5
	%		
面1	指円扁平礫	1	100
3.0			
	%		

チャート 24個(総計13.7%)			
円周径	形状	個数	百分率
円13	指円礫	7	53.8
	指円扁平礫	4	30.8
線54.2	球礫	1	7.7
	円扁平礫	1	7.7
	%		
面11	棒状礫	2	18.2
円	指円礫	6	54.5
45.8	球礫	3	27.3
	%		

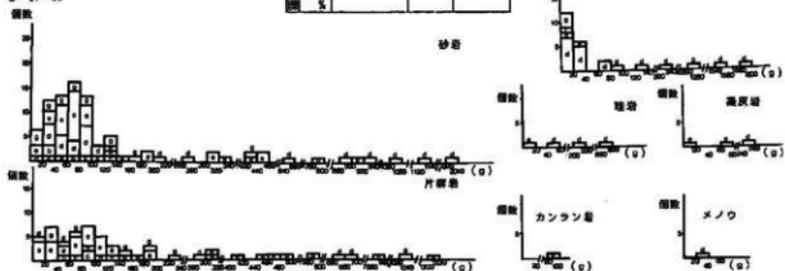
凝灰岩 2個(総計1.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
円1	指円礫	1	100
	%		
線50.0			
	%		
面1	指円礫	1	100
円			
50.0			
	%		

安山岩 7個(総計4.0%)			
円周径	形状	個数	百分率
円4	棒状指円礫	2	50.0
	棒状扁平礫	1	25.0
線77.1	指円礫	1	25.0
	%		
面3	棒状指円礫	2	66.7
円	指円扁平礫	1	33.3
42.9			
	%		

凝灰岩 1個(総計0.6%)			
円周径	形状	個数	百分率
円1	指円礫	1	100
	%		
線100			
	%		

片岩 2個(総計1.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
円1	指円扁平礫	1	100
	%		
線50.0			
	%		
面1	棒状指円礫	1	100
円			
50.0			
	%		

C-67-50



図V-32 A'地区礫グラフ・表(6)

20~40 g・80~100 gにある。チャートは20~40 gの間に集中し、ピークは0~20 gにある。

c-66-70：礫全体の形態の特徴は、横軸値0.23~0.70、縦軸値1.06~1.98付近に集中し、棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫がある。

砂岩は横軸値0.25~0.70、縦軸値1.06~1.90に集中し、主に楕円礫(27.8%)・楕円扁平礫(40.3%)によって構成されている。泥岩は横軸値0.27~0.65、縦軸値1.15~1.75に集中し、主に楕円礫

C-67-60

砂岩 89個(総0.8%)			
円周径	形状	個数	百分率
円6.7	棒状楕円礫	2	1.5
	棒状楕円礫	2	3.0
	楕円礫	13	26.9
楕75.3	楕円扁平礫	35	52.2
	円扁平礫	11	16.4
楕22.2	棒状楕円礫	2	9.1
	棒状楕円礫	1	4.6
楕10.0	棒状楕円礫	2	9.1
	楕円礫	11	50.0
楕4.7	楕円扁平礫	2	9.1
	円扁平礫	4	18.2

泥岩 44個(総0.8%)			
円周径	形状	個数	百分率
円2.5	棒状楕円礫	3	12.0
	棒状扁平礫	2	8.0
楕56.8	楕円礫	7	28.0
	楕円扁平礫	9	36.0
楕1.9	楕円礫	4	16.0
	棒状楕円礫	1	5.3
楕1.9	棒状楕円礫	2	10.5
	楕円礫	12	63.2
楕43.1	楕円扁平礫	3	15.8
	円扁平礫	1	5.8

片麻岩 57個(総0.5%)			
円周径	形状	個数	百分率
円5.4	棒状楕円礫	4	7.4
	楕円礫	6	11.1
楕4.7	楕円扁平礫	34	63.0
	円扁平礫	10	18.5
楕3.3	棒状楕円礫	1	33.3
	楕円扁平礫	2	66.7

チャート 26個(総0.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
円1.0	楕円礫	13	81.3
	球状礫	1	6.3
楕11.5	円扁平礫	2	12.6
	楕円礫	6	60.0
楕10.0	楕円扁平礫	2	20.0
	円扁平礫	2	20.0

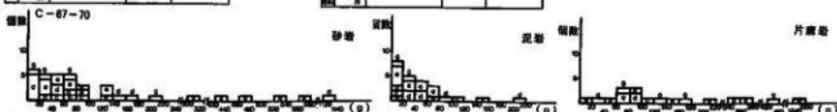
凝岩 4個(総0.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
楕1.8	楕円礫	2	66.7
	楕円扁平礫	1	33.3
楕1.0	楕円礫	1	100
	楕円礫	1	100

凝灰岩 3個(総0.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
楕1.2	楕円扁平礫	2	100
	楕円礫	1	100
楕33.3	楕円礫	1	100
	楕円礫	1	100

カンラン岩 1個(総0.0%)			
円周径	形状	個数	百分率
楕1.0	楕円扁平礫	1	100

B8低A'地区C67-60 メノウ 1個(総0.0%)			
円周径	形状	個数	百分率
楕1.0	楕円礫	1	100

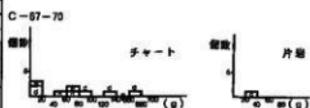
- a-棒状礫 d-楕円礫
b-棒状楕円礫 e-楕円扁平礫
c-棒状扁平礫 f-円扁平礫



C-67-70

砂岩 36個(総0.9%)			
円周径	形状	個数	百分率
円2.7	棒状礫	1	3.7
	棒状扁平礫	1	3.7
楕75.0	楕円礫	9	33.3
	楕円扁平礫	12	44.4
楕9.0	円扁平礫	4	14.8
	棒状礫	1	11.1
楕1.7	棒状楕円礫	1	11.1
	棒状楕円礫	1	11.1
楕5.0	楕円礫	5	55.6
	楕円扁平礫	1	11.1

泥岩 24個(総0.7%)			
円周径	形状	個数	百分率
円2.2	棒状楕円礫	1	4.5
	棒状扁平礫	2	9.1
楕1.7	楕円礫	7	31.8
	楕円扁平礫	10	45.5
楕1.0	楕円礫	2	9.1
	楕円扁平礫	1	50.0
楕4.3	楕円礫	1	50.0
	楕円扁平礫	1	50.0



片麻岩 18個(総0.5%)			
円周径	形状	個数	百分率
円1.7	棒状扁平礫	1	5.9
	楕円礫	4	28.6
楕4.4	楕円扁平礫	9	52.9
	円扁平礫	3	17.6
楕1.1	楕円礫	1	100
	楕円扁平礫	1	100
楕5.0	楕円礫	6	75.0
	楕円扁平礫	2	25.0

チャート 9個(総0.2%)			
円周径	形状	個数	百分率
楕1.1	楕円礫	1	100

片麻岩 1個(総0.1%)			
円周径	形状	個数	百分率
楕1.0	棒状扁平礫	1	100

図V-33 A'地区礫グラフ・表(7)

(44.1%)・楕円扁平礫(26.5%) によって構成されている。片麻岩は横軸値0.23~0.55、縦軸値1.13~1.54に集中し、主に楕円扁平礫(55.5%)によって構成されている。チャートは横軸値0.27~0.74、縦軸値1.12~1.70に散在し、主に楕円礫(66.7%)によって構成されている。

岩質ごとの形態別重量については、砂岩は0~100gの間に集中している。泥岩は0~80gの間に集中し、ピークは0~20gにある。片麻岩は60~100gの間に集中している。(鈴木 信)

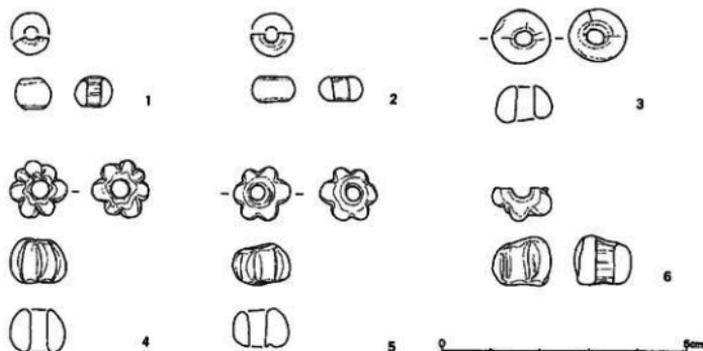
3) ガラス製品 (口絵4-3、図V-34、表V-6)

ガラス玉

所謂アイヌ玉(トンボ玉)が6点検出された。玉は色や筋のつけられたガラス製小玉で、紐を通す穴のあいた刺玉である。ガラス玉は、建材群の分布範囲を取り巻くように出土している。微細遺物のため、排土の水洗選別によって検出されたものが多い。

1は半分が欠損した、深緑色の丸玉に近い平玉である。2は半分が欠損した、水色の平玉である。3は半透明のうぐいす色で、丸みをもつ平玉である。4は筋の切れ目をやや不規則につけた、7房の透明な蜜柑玉である。側面はやや丸みをもつ。5は筋の切れ目をやや不規則につけた、6房の少し濁った白色透明の蜜柑玉である。側面はやや平たい。6は半分が欠損した、深緑色の蜜柑玉である。筋の切れ目はやや不規則であり6房と推定される。側面は他と比較して高く、不整形となっている。

低湿度部から検出された玉は、昨年のガラス玉、風化した琥珀丸玉をあわせると計8点となる。また、蜜柑玉(筋玉)は、筋の切れ目が不規則で少ないものが古いとされる。5・6はやや古手のものであろうか。なお、1・2・6は現在、奈良国立文化財研究所 肥塚 隆保氏に材質分析をお願いしている。(田口 尚)



図V-34 A'地区ガラス玉

表V-6 A'地区掲載ガラス製品

図番号	名 称	発 掘 区	遺物 番号	計 測 値				備 考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
1	平玉 (丸に近い)	c-66-49-c	G	0.70	(0.33)	0.60	0.22	※文献材質分析
2	平 玉	c-66-59-b	130	0.80	(0.45)	0.50	0.27	※文献材質分析
3	平 玉	c-67-60-a	G	1.10	1.05	0.70	1.15	
4	蜜 柑 玉	c-67-50-c	G	1.10	1.05	0.90	1.80	
5	蜜 柑 玉	c-67-60-c	G	1.13	1.04	0.80	1.22	※文献材質分析
6	蜜 柑 玉	c-67-50-d	G	1.13	(0.64)	1.00	0.96	

4) 金属製品 (口絵4-5、図V-35・36、表V-7、図版V-13・14)

A'地区全体では55点出土している。金属製品の分布は調査区南側のc-67-50, c-67-60, c-67-70に集中する。出土金属製品の中では鉄鍋が全体の61.8%と多数を占めている。また、中国銭はc-67-50に4点出土しており今までにない傾向を見せている。

鉄鍋(1~13): 1は内耳鉄鍋。口縁端面は内斜する。口唇は、断面が玉縁に近い三角形で内側に肥厚する。外帯は急角度に外反し、内面側の屈曲部分が段状になる。耳は断面が円形で割合と細い。2は口縁端面がほぼ水平である。口唇は、断面三角形で内側に肥厚する。外帯の屈曲はややゆるく段になる。3は足付きの鉄鍋の底部。足は断面が楕円形で、面取りが施されている。4は外帯と体部の境目の破片。内面側の屈曲は1と2の間くらい。5は口縁端面がわずかに外斜する。口唇は、断面が玉縁に近い長方形で内側に肥厚する。外帯は急角度に外反し、内面側の屈曲部分が段状になる。6は口縁端面がほぼ水平である。口唇は、断面三角形で内側に肥厚する。外帯の屈曲はややゆるく段になる。7は鉄鍋の外帯部分をふくむ体部。外帯の屈曲はゆるく段は不明瞭である。8は口縁端面が外斜する。口唇は、断面が三角形で内側に肥厚する。外帯は外反し、内面側の屈曲部分が段状になる。この鍋はほかのものに較べて重量があるので、鉄分の溶脱が少なかったであろう。9は口縁端面がほぼ水平である。口唇は、断面三角形で内側に肥厚する。外帯は急角度に外反し、内面側の屈曲部分が段状になる。10は口縁端面がほぼ水平である。口唇は外側に肥厚尖りぎみにする。外帯の屈曲はゆるく段は不明瞭である。段が不明瞭であること、外帯部分が肥大していることより吊り耳鉄鍋の可能性がある。11は鉄鍋の底部を含む体部。底部と体部との屈曲は明瞭で、135°位で交わる。底部は丸底。この鍋も8と同様に重量があるので、鉄分の溶脱が少なかったであろう。12は鉄鍋の底部。13は鉄鍋の底部。

不明鉄製品(14・15): 14の両面には木質痕が着いている。刀子の茎か。15はやや厚みがある。

刀装具(16・17): 16は鋼製の鍔(はばき)。17は鋼製の縁金具。

不明鋼製品(18): 18は非常に薄い。刀装具の一部か。

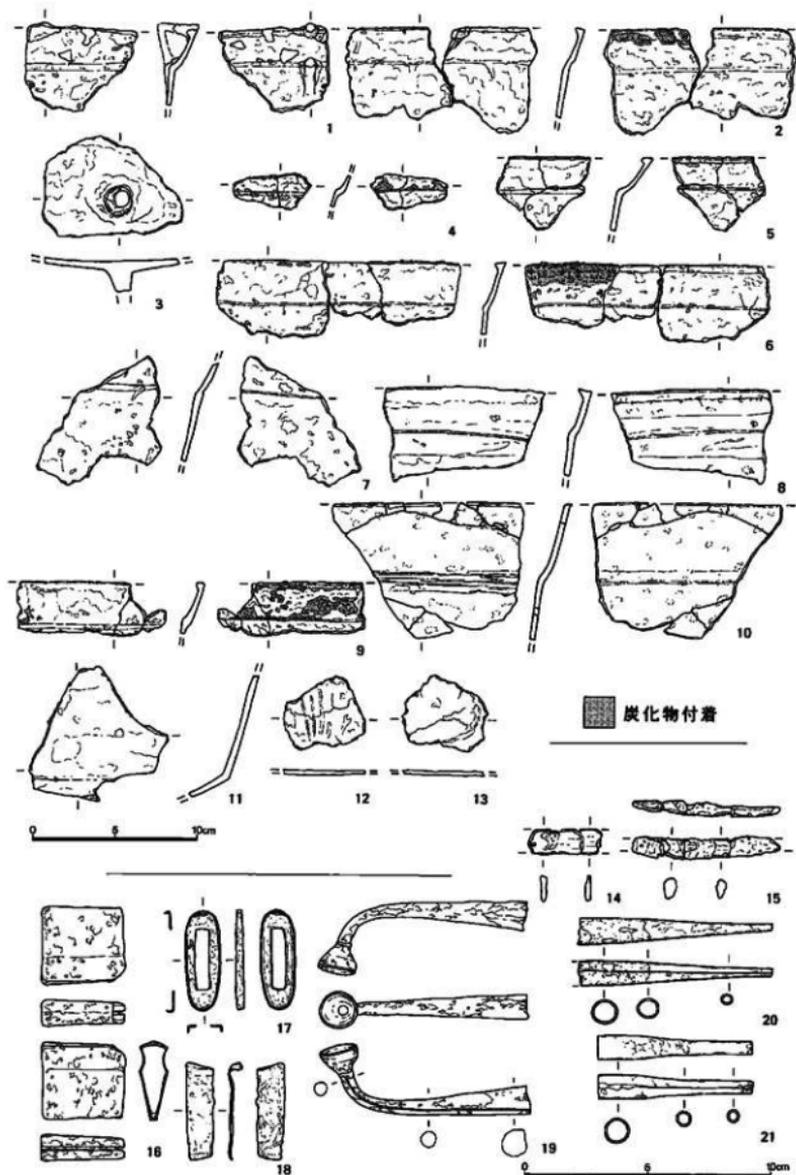
キセル(19~21): 19は真鍮製? 雁首。脂がえしの湾曲が大きく、補強帯が付かないことから古泉分類の雁首第Ⅱ類Bに入るもの。使用による脂がえし背面のつぶれや打撃痕は見られない。ラウとの接合部が少しつぶれている。20は真鍮製吸口で古泉分類の吸口第Ⅱ類B。19の真鍮製? 雁首と組み合わせられていたものか。21は真鍮製? 吸口で古泉分類の吸口第Ⅱ類B。20よりもやや厚手で肩がはっている。20の材質鑑定は赤沼氏による。

銭貨(22~27): 22は約1/2が残存し両面も摩耗しているので、銭名は判然としないが「天禧通寶」と判読できる。北宋銭で1017年初鑄。23は「景祐元寶」、北宋銭で1034年初鑄。24は約1/2が欠損しているが、面文の残りがよく文字が輪読の位置関係にあるので「嘉祐通寶」、北宋銭で1056年初鑄。25は全体的に摩耗しているので、銭名は判然としないが「元豊通寶」と判読できる。北宋銭で1078年初鑄。穿孔は垂飾に転用した際のものであろうか。26は「洪武通寶」、明銭で1368年初鑄。27は両面の腐食が著しく、銭名は判読できない。

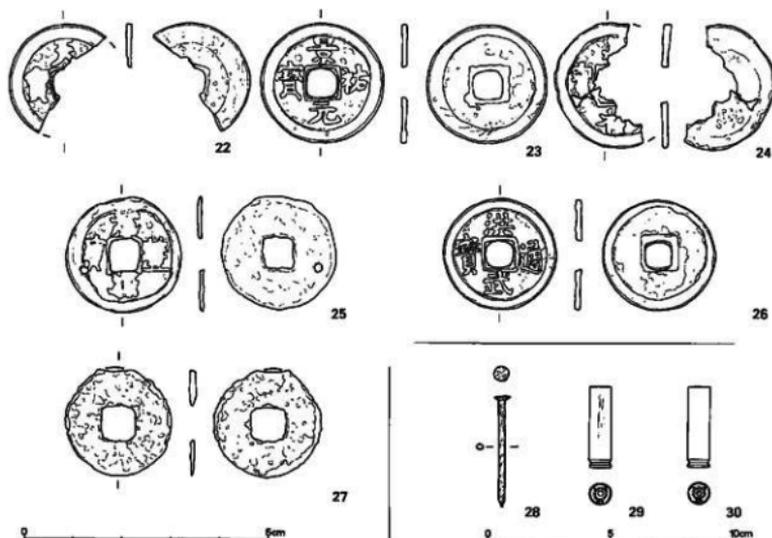
鉄釘(28): 洋釘、重量があるので、鉄分の溶脱が少なかったであろう。

薬莖(29・30): 朝鮮戦争当時にアメリカ軍が演習で残したものであろう。

(鈴木 信)



图V-35 A'地区金属製品(1)



図V-36 A'地区金属製品 (2)

表V-7 A'地区掲載金属製品

図番号	金属番号	名称	調査区	遺物番号	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量 (g)	断片数	材質	備考
1	30	内耳鉄線口鍔部	c-87-58b	G	(5.4) (6.8) 0.3	(2.2, 0.7)	7	鉄	バカロイドB72地層
2	25-26	鉄線 口鍔部	c-87-78a	G	(6.6) (11.7) 0.3	(4.8, 0.3)	3	鉄	バカロイドB72地層
3	25-6	鉄線 底面脚付	c-87-78a	G	(6.1) (8.5) 0.4	(4.6, 0.1)	1	鉄	バカロイドB72地層
4	25-8	鉄線 口鍔部	c-87-78a	G	(2.2) (4.7) 0.3	(4.4, 0.2)	2	鉄	バカロイドB72地層
5	31	鉄線 口鍔部	c-87-88b	G	(4.5) (5.7) 0.3	(14.0, 3)	3	鉄	バカロイドB72地層
6	24-8-2	鉄線 口鍔部	c-87-70a	G	(4.7) (14.8) 0.3	(4.2, 0.3)	3	鉄	バカロイドB72地層
7	24-3	鉄線 底面	c-87-70a	G	(7.9) (7.6) 0.3	(2.8, 0.1)	1	鉄	バカロイドB72地層
8	38	鉄線 口鍔部	c-87-80d	G	(5.7) (9.7) 0.3	(7.9, 0.1)	1	鉄	プライムM-V-1 鍔部合供
9	32	鉄線 口鍔部	c-87-80c	G	(3.5) (9.0) 0.3	(1.9, 0.1)	1	鉄	バカロイドB72地層
10	28	鉄線 口鍔部	c-87-80d	202	(8.3) (11.5) 0.4	(5.6, 0.3)	9	鉄	バカロイドB72地層
11	27	鉄線 底面	c-87-80d	181	(8.2) (8.5) 0.5	(6.2, 0.1)	1	鉄	プライムM-V-1 鍔部合供
12	37-8	鉄線 底面	跡 土	G	(4.4) (5.0) 0.2	(10.0, 1)	1	鉄	バカロイドB72地層
13	37-9	鉄線 底面	跡 土	G	(4.6) (5.2) 0.2	(9.0, 1)	1	鉄	バカロイドB72地層
14	41-8-8	不明 鉄製品	c-87-89a	G	(1.1) (3.0) 0.2	(2.0, 2)	2	鉄	バカロイドB72地層
15	29	不明 鉄製品	c-87-89b	G	(6.0) (1.0) 0.5	(3.0, 4)	4	鉄	バカロイドB72地層
16	63	鍔	c-87-58a	G	3.2 3.4 1.1	17.5	1	鋼	インクララック地層
17	73	鍔 金属	c-87-58d	G	4.1 1.5 0.3	2.8	1	鋼	インクララック地層
18	67	不明 鉄製品	c-87-58b	G	4.0 1.2 0.1	1.6	1	鋼	インクララック地層
19	66	キセル 鍔首	c-87-70a	G	8.6 1.2 1.0	6.6	1	真鍮?	インクララック地層
20	65	キセル 鍔口	c-87-70a	G	7.9 1.3 1.1	3.4	1	真鍮?	インクララック地層
21	62	キセル 鍔口	c-87-58d	G	6.8 1.0 1.0	4.4	1	真鍮?	インクララック地層
22	70	天胡造管	c-87-58a	G	2.2 (2.0) 1.1	0.7	1	真鍮?	インクララック地層
23	64	長槍元管	c-87-58a	G	2.5 2.5 0.1	2.8	1	鋼	インクララック地層
24	69	長槍造管	裏 鉄	G	2.5 (1.8) 0.2	1.3	1	鋼	インクララック地層
25	68	元管造管	c-87-58a	G	2.4 2.4 0.1	1.6	1	鋼	インクララック地層
26	71	天胡造管	c-87-58a	G	2.3 2.3 0.1	1.8	1	鋼	インクララック地層
27	74	古 鍔	c-87-80d	G	2.2 2.2 0.1	1.3	1	鋼	インクララック地層
28	38	釘	c-87-88b	G	4.5 0.7 0.6	1.6	1	鉄	プライムM-V-1 鍔部合供
29	61	鍔 鋼	c-87-70a	G	3.3 0.9 0.9	4.6	1	真鍮	インクララック地層
30	72	鍔 鋼	c-87-89a	G	3.3 0.9 0.9	4.6	1	真鍮	インクララック地層

5) 木製品・樹皮製品・繊維製品(口絵1~4、図V-37~89・132、表V-8~23、図版V-14~38)

遺物の分布密度は、建材群やその周辺に濃く、建材群と共に出土したものが多く、計測値及び樹種は一覧表に記してある。ただし、樹種同定は、抽出した一部の製品のみしか行っていない。今後、継続して実施する予定である。

早糧(1~5): 1は柄が3つに折れた状態で出土したが、全長193.9cm、柄部長158.4cm、柄部径3.4cmの完全な状態に復元できた。水掻部は肩の張出す幅広の形態で、断面は凸レンズ形である。水掻部の長さ35.5cm、幅14.1cm、厚さ2.5cmで、柄に近い表裏にアイヌ文様が彫刻が施されている。表面には、メカジキの長い物体を柄側に向けた全体像が精密な線刻画として描かれている。最初に胴部から尾鰭を描き、後で背鰭などをつけている。線刻画の大きさは長さ22.9cm、幅6.8cmで、背鰭が短く、腹鰭がないことからメカジキと確認できた。水掻部の先端部は尾鰭部分から割れ、欠損している。断面の厚さから後1~2cm程度長くなると考えられる。また、柄部末端に近い部分には2本組の短刻に挟まれた「X」字状の祖印(イトッパ)が刻まれている。末端部は断面長方形でやや摩耗していることから、握部が装着されていたと考えられる。木取りは板目で、樹種はサクラ属である。柄部が非常に長いことから外洋型ともなる板綴舟等の舟の櫂と考えられる。2~4は水掻部の肩が張出す形態の櫂の破損品である。2は1のような形態の柄と水掻部肩部分の破片と考えられる。3は水掻部の肩から柄にかけての破片であり、表面が炭化している。4は3と同様の部分で、他に比べて厚い。4の樹種はスギ属であることから和舟の櫂の可能性もある。5はほぼ完全な形で出土した、肩のない細長い水掻部の早糧である。水掻部の先端をわずかに欠損しているが全長143cm、柄の径2.9cm、水掻部幅6.5cmである。水掻部は全体の中央部付近から水掻部先端に向かって平坦面が徐々に削り出されており、断面は隅丸長方形となっている。水掻部の表面には削り出し時の工具の刃傷痕が多数残存している。柄部末端は細い楕円形で、わずかに摩耗していることから握部が装着されていたと考えられる。樹種はコナラ属である。6は肩の張出さない細長い水掻部の破片である。水掻部は柄部を削り込んで作出している。水掻部の断面は凸レンズ型である。7・8は肩の張出しのない細長い早糧あるいは車糧の水掻部の可能性がある。表面には削り出し時の工具の刃傷痕が多数残存している。

車糧(9~13): いずれも軸差込孔から欠損した柄部分であり、断面は隅丸の長方形となっている。9・10は軸差込部が幅広となるものであり、軸差込孔が2か所に存在する。軸差込孔は使用により表裏で径が異なり、断面が円錐台形となっている。9は縦方向に割れたもので、2か所とも径約3.0cmと推定される。10は9ほど軸差込部が幅広とならない。軸差込孔は欠損した方が径約3.0cm、その上が3.5cm×3.0cmの楕円形となっている。11~12は柄部から徐々に軸差込部が幅広となるものである。軸差込孔は1か所と推定される。11の柄部は残存している。軸差込孔は径約3.8cmと推定され最大である。12の軸差込孔は径約2.6cm、13の軸差込孔は径2.8cmと推定される。木取りは2か所に軸差込孔のある9・10が板目で、1か所の軸差込孔の11~13は柱目である。

櫂柄握部(14~16): 早糧の柄末端に装着される握部で、形態が「T」字形となるものと「Y」字形になるものがある。14は「T」字形である。柄挿入部は長方形で、表裏から目釘が打ち込まれ内部で交差している。15は片側端を欠損した「Y」字形である。柄挿入部は長方形で上部がやや狭くしており、1本の目釘打ち込まれている。側面には2本組の縦、斜めの短刻と「X」字状のイトッパが刻まれている。16は緩い「Y」字形であり、柄挿入部は長方形であったと推測される。

舟かた汲み(17・18): 17は先端部を欠損する。一木を横木取りして汲みだし部から握部までを削り出している。表面及び内面に削り及び削り痕が顕著に認められる。握部の断面は長方形である。器厚

が厚く、底面が丸いことから動物の餌入れ等の可能性もある。18は1/3程を欠損している。側縁は「く」の字状に斜めに立上り、欠損した尾部に向かってやや厚みを増す。内面の奥に小さな炭化部分がある。開口部は器厚は薄く、側縁部及び裏面の縁辺は斜めに摩耗している。当初は箕と考えていたが、小型で開口部の幅が狭く、欠損した尾部に握部が付く可能性もあるためあか汲みとした。

矢中柄部(19~22):19の先端部は鉛筆先のように、円錐形に削られている。胴部の返しのある平坦部には、「X」字状のイトタバが刻まれている。20・21の断面は丸く、先端部に向かって徐々に細くなる。先端部は使用により摩耗し、薄く削れている。20の基部は一段細く作出され、装着による摩耗が認められる。22は断面が角形となるものである。基部は胴部から鋭く作出されている。

矢柄部(23):「U」字状に扶られた矢筈部を残す矢柄である。樹芯をもつ丸木の表面を研磨したものである。先端部は刃物により切截されており、樹種はモミ属である。

弓状扶入付製品(24):丸木材の両端部及び中央部に扶りがある。中央部の扶りはやや平坦となっている。上端と中央部は同一面が扶られ、下端部の扶りはそれらと約90°ずれている。当初は、仕掛け弓の弓部を想定したが、樹種がモクレン属であることから別の用途を検討する必要がある

扶入付Y字状製品(25):「Y」字状の枝材の両上端・下部に扶りがあるものである。扶りの裏には平坦面が作出されている。上端部は稜を落すように削られ平坦となっている。Y字下部の先端は粗く削りだされ緩い鋭角となっている。

扶入付半割股木製品(26):段木材のつけ根を半載し、下端部にコケン頭状の扶りを出している。下端部には巻縛った痕跡が認められる。上端部は欠損しているが、表面の面取り調整と摩耗が認められ、何かに装着したと考えられる。

回転式離頭鉤中柄部(27~35):27・28は一本式の中柄である。先端部の断面はいずれも楕円形である。基部は槍部と密着させるための平坦面が削りだされ、樹皮や紐などで固定するための扶り部が作出されている。27の先端部は摩耗し、28の先端部は折損している。鉤先を装着し、漁に使用された痕跡であろう。29は同様の中柄である。先端部の断面は円形で、基部には扶りのほかに短剣が刻まれている。基部は極端に短く、意図的に切截された可能性がある。30・31は二本組合式の中柄である。先端部の断面は円形である。基部の密着面は平坦で共に扶りが廻り、表面に刻目列が付けられている。縛った紐などがずれないように工夫したものであろう。30の先端部は摩耗し、31の先端部はわずかに欠損しており使用痕と考えられる。32・33は形態が中柄部に似た粗い作りのものである。32の基部には紐を巻きつけた痕跡が認められる。2点とも非常に細く、ヤス等の可能性もある。34は先端部を欠損しており、基部に刻目が付けられている。35は回転式離頭鉤中柄部の二本組合式の片側のミニチュアである。表面にイトタバのような「H」字状の刻みが認められる。

回転式離頭鉤指掛部(36):柄部の最後部に装着される指を引っ掛ける部分である。鉤を投げる際の支点及び力点となる。

回転式離頭鉤柄部(37):一端を欠損し、表面の劣化が著しい。上部に中柄部を接合するための表面加工とコケン頭状の加工が認められる。

魚突き鉤台部(38):石突き部分は一段細く加工され、楔が打ち込まれている。石突き部を保護するために鹿角や金属製のリングがはめられていたと考えられ、その下部には樹皮などが巻かれていた痕跡が認められる。先は使用によりややささくれ、斜めにつぶれている。鉄鉤が乗る舟部分は、長さ10.5 cm、深さ7 mmで、上部に径7.5 mmの孔がある。舟部直下に紐がずれないように浅い段が作出されている。基部には平坦部を作出し、柄との接合面としている。表面から側縁にかけて、樹皮や紐で柄部と固定するための幅2 cmの帯状の浅い扶りがある。

柄・棒との接合部 (39~48) : 魚突き鉤台部または回転式離頭鉤中柄の柄や棒との接合部 (基部) である。いずれも柄に装着するための挟り部と裏面に平坦面が作出されている。挟り部は40・44~47のように帯状となるものと39・41~43のように両側縁だけの挟りのものがある。41には挟り部の下に斜めの刻目がある。48は挟り部から切取されている。

鋤形木鏝 (49~51) : 股木を利用した木鏝である。49は先端部のみを削りだしたもので、先は使用によりやや摩耗している。上部や下部は切取したままの状態で、表面に樹皮が残る。50は表面の調整加工が丹念に施され、握り部分がやや細くなるように加工されている。先端部には使用により摩耗している。51は柄部が欠損している。49同様に先端部のみ加工である。

小刀柄 (52・53) : いずれも縁部を欠損し、緩く湾曲した柄部の破片である。断面は楕円形で、柄頭は斜めにやや細く削り出されている。

小刀鞘 (54) : 二枚合わせの鞘の片側と思われるものである。表面に径1.4cmの巴文が非常に細かい線に刻まれている。

小刀樹皮製鞘 (55) : 一枚のシラカンパの樹皮を短軸方向に1回折り重ねた後、さらに長軸方向に1回折り畳んで鞘としている。縁は16か所の穿孔部を縫合し、さらに凸部は2か所の穿孔部を縫い留めている。数か所に縫合のための捻紐が残存していた。

鞘部材 (56) : 山刀等の鞘板と考えられる。表面の上部と下部には樹皮などで鞘を薄り、固定するための幅約1.1cmの帯状の溝が掘り込まれている。

鞘帯執部 (57) : 山刀等の鞘にサクラの樹皮等で装着し固定された、帯に引掛ける突起部分である。装着面には、上下にイトクバと考えられる「γ」字状の線刻が施されている。

縦樋 (58~61) : 58・59は柄を挿入する樋頭である。58は角形の断面の樋頭で楔の打ち込まれた長方形の柄が残存している。59は丸形の断面の樋頭で楔の打ち込まれた角形の柄が残存している。60・61は股木を利用して、幹を頭部、枝を柄としている。両端の敲打面に使用痕が顕著である。

横樋 (62) : 丸木を横長に粗く面取り加工し、敲打部から比較的滑らかに柄部を削り出している。敲打部には、つぶれや摩耗等の使用痕が認められる。

台木 (作業台) (63・64) : 63は敲打部から柄部を一回り細く削りだした横樋の形態である。敲打部には平坦面が作出され、平坦面には鉈等の切道具を使用した切傷痕が多数残存する。64は厚板の平坦面中央に、小刀・鉈等の刃を打ち当てた無数の線状切傷痕が残存する。組板の可能性もある。

木製発火具 (65・66) : 65は長さ7.8cm、幅1.4cmの断面平行四辺形のヒキリ板である。摩擦面と板底面が水平となるように加工しており、「V」字状の刻みのあるヒキリウスが板にたいして斜めに3か所に認められる。1か所は発火前に加工された摩擦中のヒキリギネの脱着防止用の凹み痕であり、中央2か所はウスの底面の周縁が凹み、中央部が盛り上がる断面となっている。アジサイ属等の髄の軟らかな樹種をヒキリギネとして使用した結果と考えられる。ヒキリ板の断面の形状からキリモミ式の可能性が高い。66は両端を欠損したヒキリ板である。いずれも樹種はイヌエンジュ属である。

炉鉤 (67~71) : 67はコケシの頭状に挟りだされた板材のものである。68・69は表面加工された股木材のものである。68は鉤部分の周辺が炭化している。70は表面に樹皮を残す、股木材のものである。上部は節目のためやや太くなっている。71は角材の下端部を、鉤状に挟り出している。

挟入付有孔板製品 (72) : 上部部に角孔あけられ、下部部は両側縁から挟られている。角孔に紐を通して挟り部に縛り、材の上下で炉鉤に付けられた紐の長さを調節するものであろうか。

燈火用筒状樹皮 (73) : 筒状に巻き縛られた炭化したシラカンパ樹皮である。

燈火用樹皮挟木 (74~77) : 74は丸木の表裏に平坦面を作出し、上部から割裂いて楔を挟んでいる。

75~77 は丸木が割裂かれ、割れ口の内面から表面にかけて炭化している。

有孔棒状製品 (78) : 棒状の丸木材の両端の表裏を抉り、角孔が開けられている。

有孔板製品 (79) : 楕円形板材の上部には円孔があけられ、下部に角孔があけられている。

曲物・折敷片 (80~88) : 80・86 は薄い柾目板である。曲物が伸びたものであろうか。81 は折敷の板で、サクラの樹皮が縫い込まれている。82・83 は曲物の薄い柾目板の破片で、木釘が残存する。表面に切傷痕が多数認められる。84・87 は薄い板目板であり、84 には側面に木釘穴がある。85 は木釘の残存する柾目板である。88 は柾目板で木釘穴がある。

桶・樽 (89~110) : 89 は樽の蓋で円孔があいており、側面に目釘穴がある。90~94 は稀ないし樽の蓋あるいは底板である。90 は柾目板であり、側面に木釘が残存する。91~94 は板目板であり、94 の表裏は炭化している。91・93 の側面には木釘穴があり、94 の側面には目釘が残存する。95・96・98・99 は木釘穴や木釘の残存する桶ないし樽を再加工して細くしたものである。97 は表面加工の粗い樽の底である。101 は柾目板であることから桶の側板片と考えられる。102~110 は板目板であることから樽の側板と考えられる。103 は内面に焼痕と底板をはめた痕跡が残る。104・105 は口が開く桶と考えられる。107~110 は側板を再加工し、口縁部分を残した破片である。

把手 (111~113) : 111 は湾曲した丸木の両端をコケン頭状に抉ったものである。樹皮製容器の把手部分と考えられる。112 は曲物の容器の把手部分であり、両側とも抉り部分を欠損している。113 は端部に抉りがつけられた把手状のものである

栓 (114~127) : 114~116 は縦断面が円錐台形となるものである。頭部と挿入部の先が平坦となり、樽の鏡板に差し込まれたものと考えられる。117~127 はコケン頭状の握部と挿入部に分化したものである。酒樽等の栓の可能性もある。117・119・121・123~127 は頭部直下の挿入部が摩耗しやや細くなっている。120 は挿入部の先端部が摩耗している。122 は軸部分の面取り加工が顕著であり未製品と考えられる。なお、コケン頭状の握部と挿入部に分化したものは、車權受軸部の軸部分の可能性も考慮しなければならない。

杓子 (128・129) : 杓子の皿状頭部の破片である。129 の上部には小孔が認められる。

筧 (130~134) : 130~132・134 は殿形の筧と考えられる。130 は先端部を欠損し、両側面に2か所の刻みが認められる。131 は端部が角棒状となる細身のもので、筧先を欠損している。132 は丹念に面取り加工され、筧先が片刃となるように削り出されている。133 は左右比対称なしゃもじ形のものである。早權のミニチュアの可能性がある。134 はミニチュアである。

箸状製品 (135~179) : 用途や機能を限定したのではなく、箸、刺し串、楊枝、かんじきに付けられる横軸等が含まれる可能性がある。全面に面取り加工を施し、幅・厚さ(胴部最大径)は0.5cm以上1.5cm以下で、その比が1.5以下となる断面が丸形に近いものを取りまとめた。

A~C類の3タイプに便宜的に分類した。さらにA類は3つ、B類は4つに細分している。

A類 (135~152) : 所謂両口箸で、胴部を太くして両端に向かって徐々に細く削ったものである。A₁類 (135・136・138~140・144・146) は両端部を平らにしたもの、A₂類 (147~152) は両端部を細く尖らせたものである。A₃類 (137・141~143・145) は一方の端部を平らにし、もう一方の端部を細く尖らせたものである。

B類 (153~175) : 所謂片口箸で、端部の一方(基部)が太く、もう一方(先端部)を端部に向かって細く削り出したものである。B₁類 (153~157) は基部端を削り尖らせたもの、B₂類 (158~163) は基部端を平らに削ったもの、B₃類 (164~169) は基部端を丸く加工したもの、B₄類 (170~175) は基部端を斜めに削ったものである。

C類：胴部と両端部がほぼ同径で寸胴箸となるものである。A・B類の中に近い形態のもの認められるが、材を削りだした明瞭な寸測は確認できていない。ササ属やアソ属等を切截し、寸胴箸としたものがあると思われる。端部を欠損したり、腐朽したものが多く明瞭なものを確認できていない。

D類(176~179)：先端部のみを鉛筆状に削りだしたものである。かんじきの枠の小孔に差し込まれる横木の可能性がある。

断面の形態は、当初の素材形態、加工程度、部位によって異なる。樹種はこれまで同定からスギ属とアジサイ属に大きく2分されている。割裂性の良いスギ属等の針葉樹材の木取りでは、径目取り及び板目取りとなるものが多く、桶や樽の材を細割し再加工したものと考えられる。アジサイ属の木取りでは1/3~1/4割取りが多く、枝材等を蜜柑割したものと考えられる。いずれの属も形態を整えるために稜線を削っているものが多い。

串状製品(181~202)：箸状製品と同様に用途を限定したものではない。刺し串、挟み串、竹串に似る極端に細いもの、扁平・幅広のもの、加工の中心が先端部分となるもの等をまとめた。幅・厚さ(胴部最大径)が2.0 cm以下で、比は1.5以上のものである。断面形と先端部加工を中心にA~H類の8タイプに便宜的に分類した。

A類(181)は焼き鳥串ほどに細く面取り加工したものである。B類(181~185)は断面形が長方形のものである。184は先端が斜め削りである。185は非常に長く先端部に焼痕が認められる。C類(186・187)は先端部を尖らせずに、2面削りで薄く幅広にしたものである。D類(188~191)は断面形が扁平な楕円形となるものである。E類(192~193)は断面形が半円形となるものである。F類(194~196)は断面形が扁平な多角形となるものである。G類(197~199)は丸木材の先端部のみを鋭く削り出したものである。199は上先端が2面削り、下先端1面削りである。H類(200~202)はタケ・ササを割裂き、薄くしたものである。樹種の選択は箸状製品同様である。

木玉(203)：中央が穿孔された算盤玉形のものである。表面に放射状の削りが認められる。

椀付・緒締等(204~206)：204は表裏の大きさの異なる滑車形のものである。加工形態が段状となることから、火口あるいは煙草入れの嵌め込み式の蓋の可能性もある。205は板目の断面を楕円形に加工し、小孔を穿孔したものである。両端は水平に加工されている。206は丸木の表裏を削り、断面を楕円形に加工している。両端は水平に加工され、樹芯部が穿孔されている。

下駄状製品(207)：上面観が長方形となる両歯を有する連歯下駄の半製品であろうか。鼻緒孔がなく、製作過程あるいは作業台の可能性もある。横木取りされ、歯の下部が樹芯部となっている。

円板(208)：表裏が平面面となるように平坦に加工されている。

宝刀ミニチュア(209)：わずかに反った刀鞘部分で、柄部分は欠損する。表面には粟形や返角を模したと考えられる凸部が浮き彫りされ、「8」の字形、頂点が向いあつた大小の扇形等の文様が彫刻されている。裏面には文様がない。鞘尻は山形となるように、削りだされている。

木幣(210・211)：210は下端に挟り部の付けられた角棒状の材である。削りかけは残っていない。両側縁の稜線には、斜め下から上方向に、2.5~4 cm 程の間隔で切り込みが連続している。211は平坦な頭部をもつものである。頭部の直下には、下から上方向に薄く削った痕跡がややめぐれ上がったように多段となつてめぐっており、削りかけの痕跡と考えられる。軸部の断面は八角形に近く、下方の裏面に平坦面が作出されている。

短刻付製品(180・212~218)：180・213は箸状の材に二本組の短刻が斜めに付けられる。213は短刻が二段付けられており、二本の目釘が残存する。212は斜め二本組の短刻を挟むように水平の短刻がめぐる。214の端部側には二本組の短刻が水平にめぐる。215は丸木の正面と横に約5 mm 間隔の短刻

列が二列ある。暦や算木の可能性がある。216は頭部に水平の短刻がめぐる。217は頂点の向い合う大小の扇形等の文様が彫刻されている。218には細い短刻列がある。

ピン状製品(219~223・234~242)：219~223は太い端部側から先端部に向かって全面を粗く削りだしたものである。219は丹念に調整加工されている。220・221の断面は角形である。223の先端部はやや幅広い。234~242は先端のみを削りだしたものである。236~238は平らな削りだしにより変形の先端部を作出している。239は長い削りにより先端部を作出している。端部には切傷痕が多数認められる。御座を止めたり、獣皮を引き延ばすときの止め針のようなものであろうか。

軸状製品(224~233)：224~228・230は太い端部側から先端部に向かって丹念に削り細くなるものである。224・226・228は断面が楕円形となるものである。227・228は端部に摩擦痕が認められる。断面の丸い225・227は車裡受部の軸の可能性が有る。229・231~233は中央部から両端部に向かって徐々に細く加工されている。孔等に挿入し、何かを繋いだものであろう。

楔付製品(243・244)：243は断面の丸い軸状の木製品に楔が打ち込まれたものである。244は角形の頭部に楔が打ち込まれたものである。軸部の断面は七角形である。

楔形製品(245・246)：245は先の丸いものであり、断面は半円形である。246は先の鋭角に尖るものであり、断面は長方形である。いずれも端部に敲打痕が認められる。

方形頭付丸棒状製品(247~251)：248・250・251は方形の頭部の角孔に木釘が残存するものである。248の頭部直下は摩擦により細くなっている。247・249は角孔のないものである。

有孔丸棒状材(252~255)：252は上端部に三角形の小孔がある。253は上部の表裏の平坦面に縦長の角孔があり、下端は炭化している。254は上端部の表裏に溝があり、円孔と繋がっている。欠損した下端部には、溝が認められる。255の上端部は断面楕円形で小孔に木釘が残存する。

扶入付丸棒状材(256~261・263・268・270・281・291)：256~261・268はコケシ頭状の挟りのあるものである。259は瘤状に加工されている。261は丹念に面取り調整されており、再加工された弓の管部の可能性がある。263は蕁形の頭部をもち、下端部に孔が開けられていた痕跡を残す。270・291は杖状の材を挟って鉤形としたものである。281には一方向からの深い挟りがある。

扶入付割棒状材(264・267・272・283)：264・267は半割材にコケシ頭状の挟りがある。264の表面は丹念に面取り調整されている。272は偏割材の端部を溝状に挟ったものである。

扶入付楕円棒状材(265・277・279)：265の端部は山形に削られており、挟りは一面だけである。277は側面から挟られ、両側面に平坦面が作出されている。279は幅のある側面部分に挟りがある。283は両側縁が挟られている。

扶入付扁錘棒状板材(266)：コケシ頭状の挟りのある丸棒状材を縦に切載したものである。

扶入付角棒状材(262・269・271・273~276・278・280・282・284)：262・271は端部にコケシ頭状の挟りがある。269・274は隅丸長方形の材の端部を瘤状としたものである。273は下端部が側面から挟られている。275は表裏に平坦部を作出し、頭部としている。下端部には焼痕が残存する。276は斜めに溝状の挟りがある。278は表面中央部に角形の挟りがある。280は下端部に「V」字状の挟りがある。282・284は平坦面の作出により階段状となっている。

凸形頭付丸棒状材(285)：端部周辺に数か所の平坦面を削りだし、一回り細い凸形に加工している。
角孔付丸材(286~289)：286は端部表裏に平坦面を作出し、横長と縦長の角孔を開けている。下端部は炭化している。287~289は角孔部分から切載された縦頭部の可能性がある。

扶入付角材(290)：上端部に角形の挟りがある。下端部は炭化している。

丸棒状材(292~300)：292の上端部は炭化している。293は上端部の平らな杖状製品である。

295～297 は丸木材で、回転式離頭鉤や魚突き鉤等の柄・棹の可能性がある。298 は上端部が湾曲している。300 は裏面と両端部に平坦面が作出されている。

角棒状材（301～303・306）：断面が多角形になるものが多い。301 は平坦面に加工時の刃傷痕が多数認められる。303 は六角柱に近いものである。

楕円形棒状材（304・305・307・308）：304・305 は面取り加工時の刃傷痕が多数認められる。307 は上端部と下端部に炭化部分がある。木取りは柾目となるものが多い。

紡錘形棒状板材（309～312・324）：309 の表面は炭化し、裏面の下端にも炭化部分がある。312 は上端部に小孔がある。下端部は表裏から切出されており、筧の可能性もある。324 には加工時の刃傷痕が多数認められる。木取りは柾目となるものが多い。

蒲鉾形棒状板材（313～323）：313・314 は端部の尖ったものである。316～321 は端部が角形となるものである。木取りは柾目となるものが多い。322 は半割材である。323 は板目である。

帯柾目棒状板材（325～327）：325 の下端部は斜めに削りだされている。326 の上端部は幅広である。竹材（328・329）：タケを偏割し、内面を削っている。表面に刃傷痕が多数認められる。

有孔板材（330～345）：表面に加工時の顕著な削り痕が残存し、角孔の開けられたものが多い。330～342 は角孔の開けられたものである。角孔はどちらか一方の面から開けられたもので、孔口の大きさが表裏で異なる。333・344 は角孔と側縁に挟りがある。335・339 は角孔部分を破損している。337・338 はわずかに湾曲し、板の中央に削り痕による稜線がある。滑走式の回転式離頭鉤のスキー状板の可能性を考慮する必要がある。340 には円孔と角孔の両方が存在する。342 の角孔は樹皮あるいは紐などで縛られた痕跡を残し、楕円に近い角孔となっている。裏の半分程が炭化している。341 は台形の厚板に左右対称に角孔が配置されている。343 の四角破線部は角孔痕とも考えられ、角孔が配列もっている可能性がある。341・343 は舟等の構造材の一部と考えておきたい。

挟入付板材（346～355）：346 は上端部に突起部作出され、側縁に2か所の挟りがある。347 は薄い板の側縁に小さな刻み認められる。348 は角孔部から欠損したものである。351 は曲物把手部の挟り部破片と考えられる。352 は板の隅が角形に加工されている。354 は長辺側に突起が付いている。348～350・353・355 は側縁に挟りがある。350 は曲物の把手部の可能性がある。

板材（356～363）：356～361・363 は柾目板である。362 は柾目板である。359 の側縁は丸い。362・363 は炭化している。

建材（364～372）：364～366 は枝分かれ部を受部とした柱材と考えられる。367～369 は上端部を欠損するが鋭角な先端部をもつことから柱材と考えられる。367 の表面には浅い挟りがある。369 の太い中央部は面取り加工され、刃先の傷痕が多数認められる。370 は鋭角な先端部を持つことから柱材と考えられる。371・372 の先端部角度はやや緩く、垂木や母屋材の可能性もある。

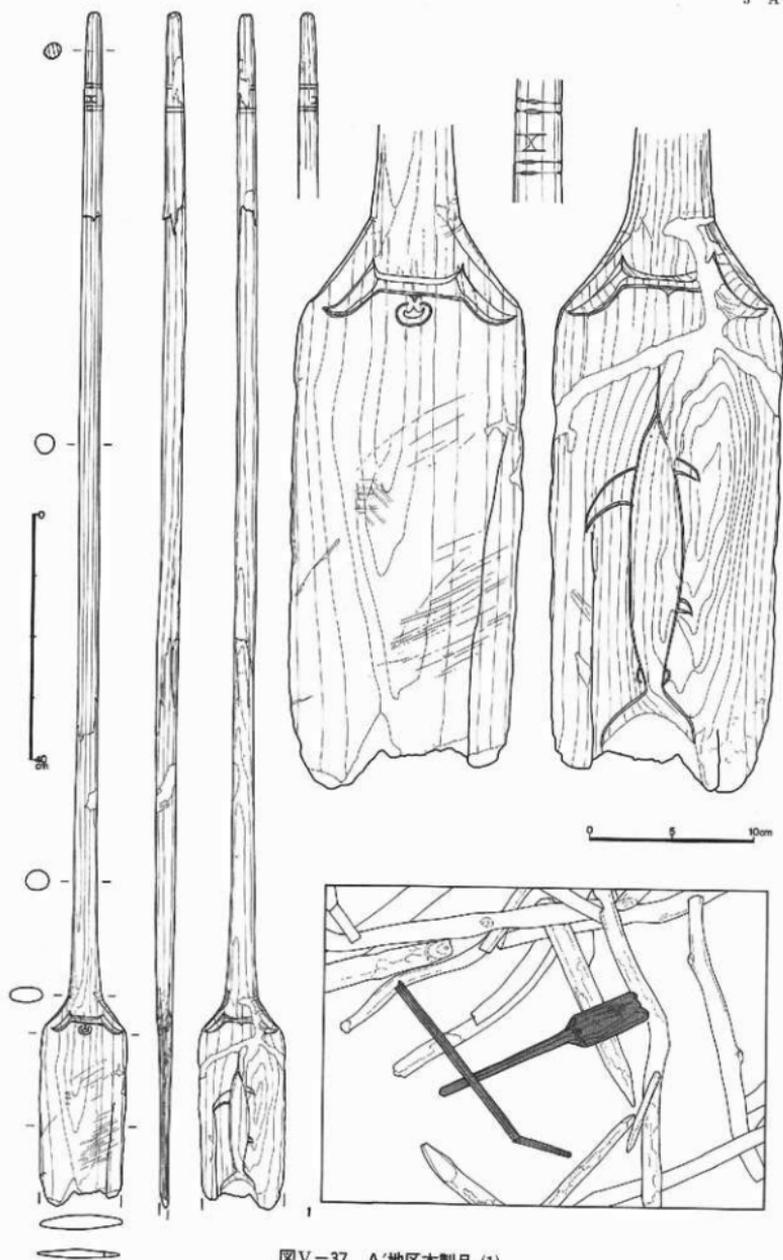
両端杭先状加工材（373～380・382～384）：両端部の先端角度が緩く加工され、長さは45～60 cm の範囲に編まりがある。各種建材の補助木の可能性がある。また、378 のように上端部には斜め上方からの切痕が多数認められるものがあり、建材の長さ調整のために切り落とされた部分かもしれない。383 には刃傷痕の多数残る平坦面が作出されている。384 は長さ28.3 cm と短い。

枕状材（385～388）：先端部は鋭角で、端部には斜め上方からの切痕が多数認められる。

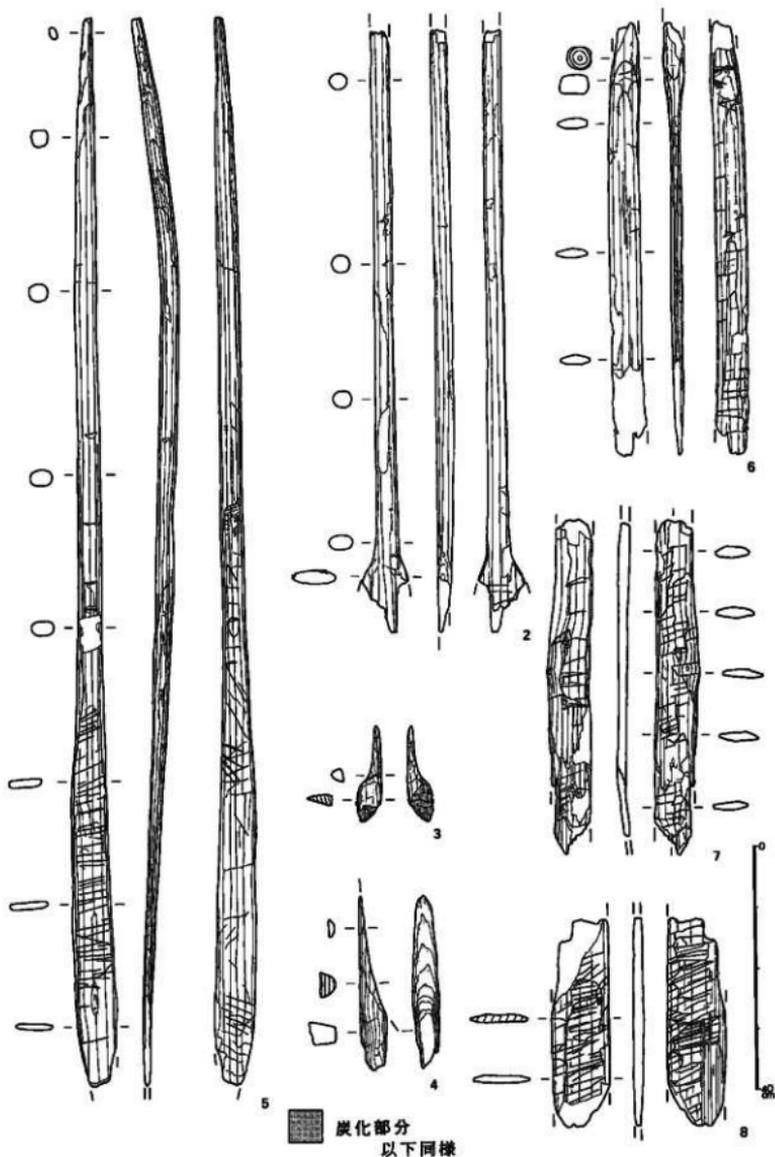
枝切痕材（381・397）：枝払いされた材で、切り口は鋭角な一面削りとなっている。

木端（389～393）：建材や各種部材の長さ調整のために切截され木片で、多数の切截痕がある。

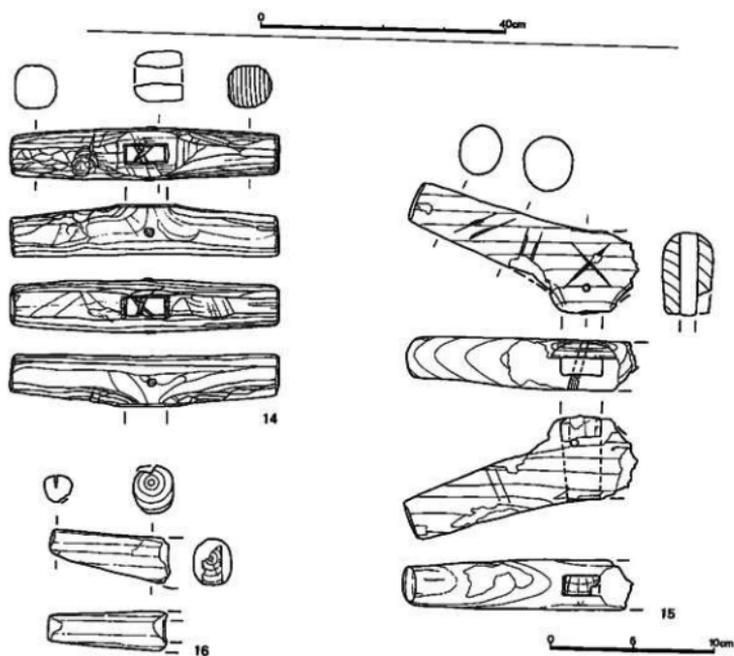
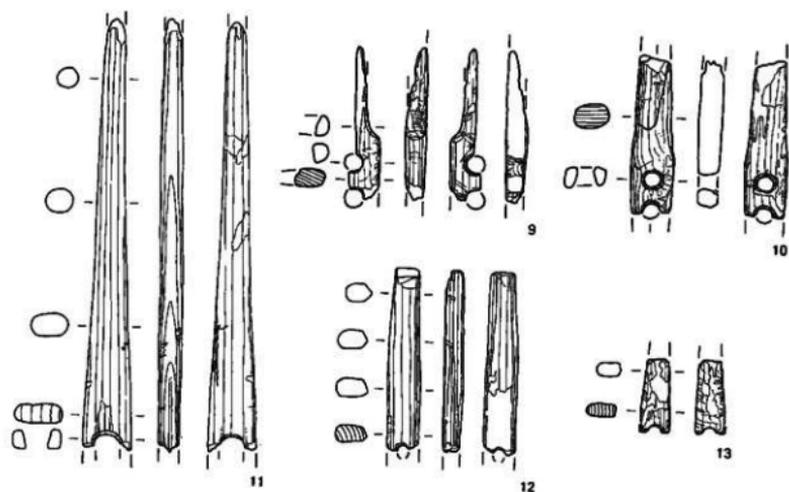
炭化材（394～396）：394 は丸木材の上端部が炭化したものである。395 は1/4割材の下端部が炭化している。296 は偏割材の上端部が炭化している。



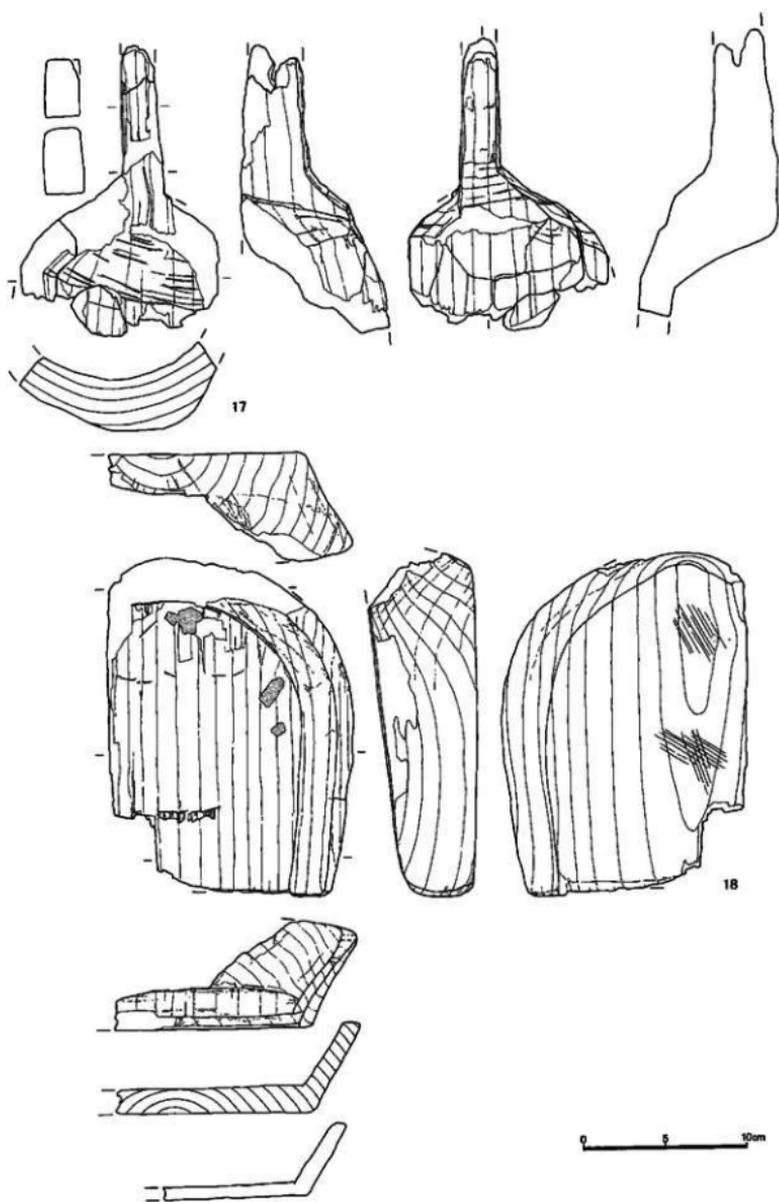
图V-37 A'地区木製品(1)



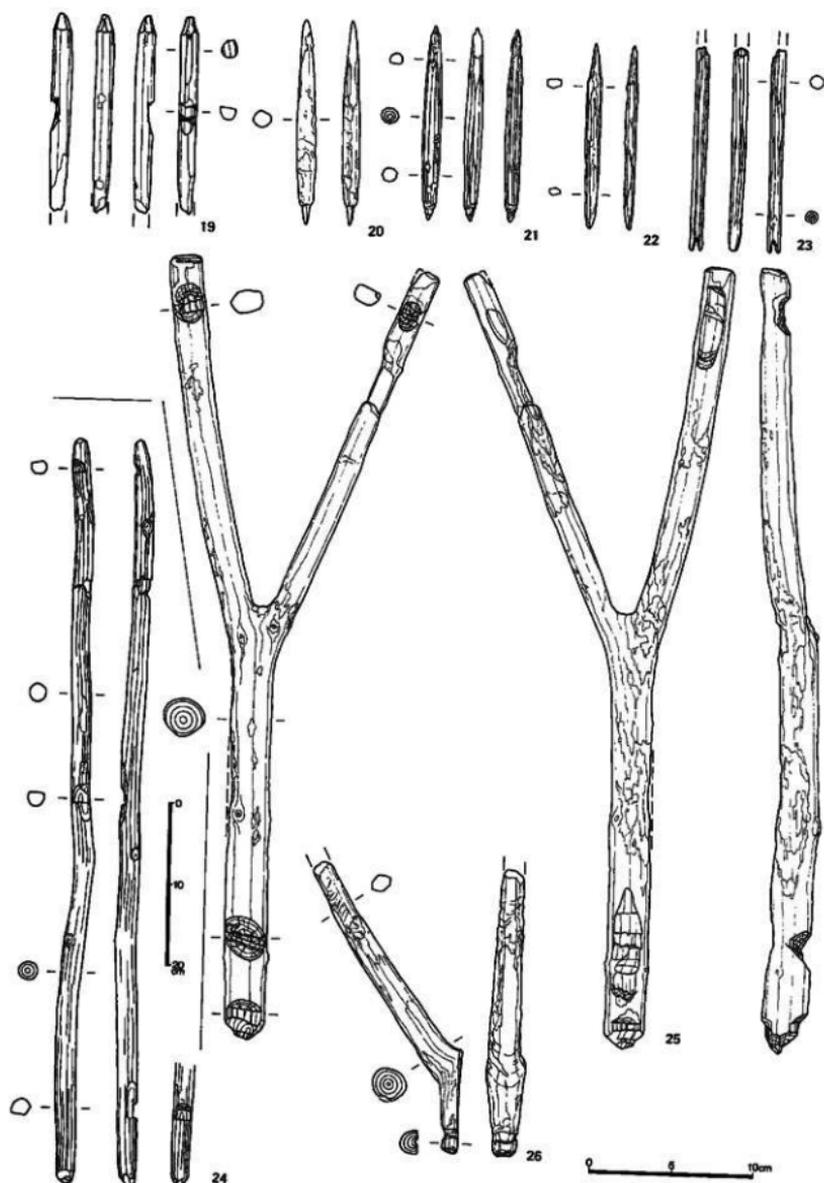
図V-38 A'地区木製品(2)



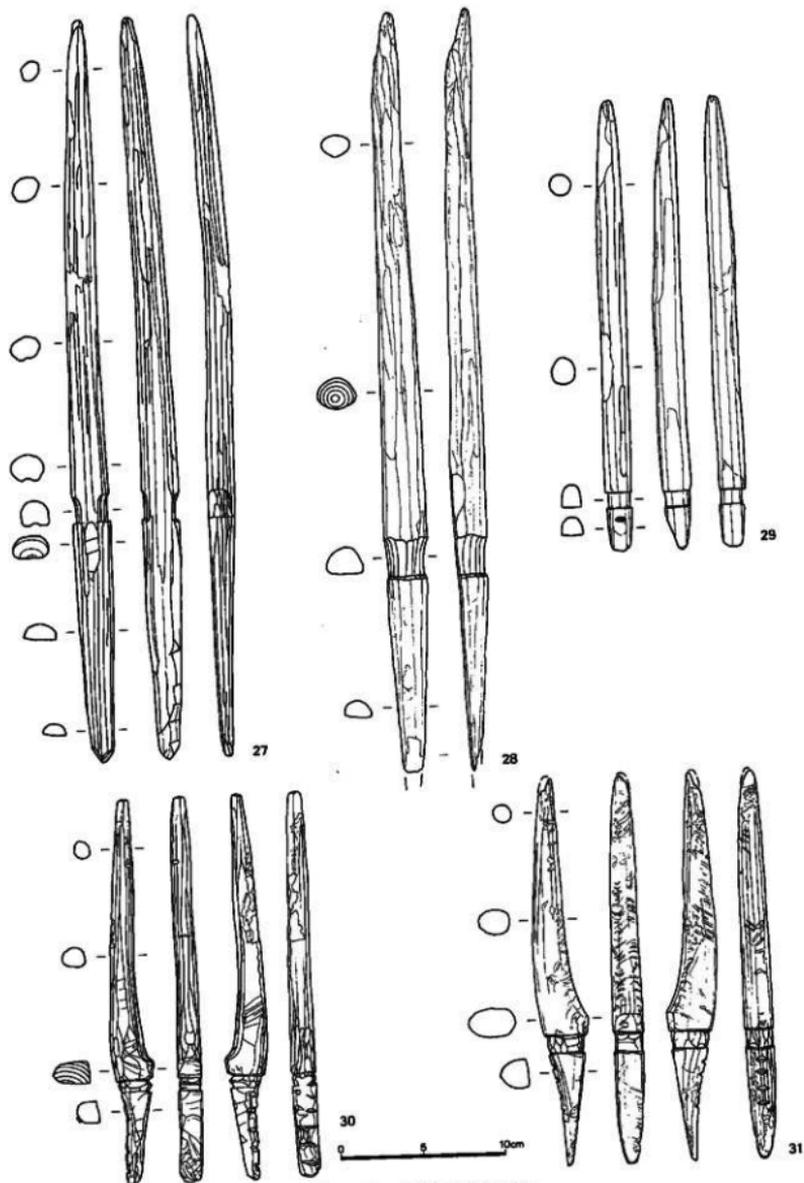
図V-39 A'地区木製品(3)



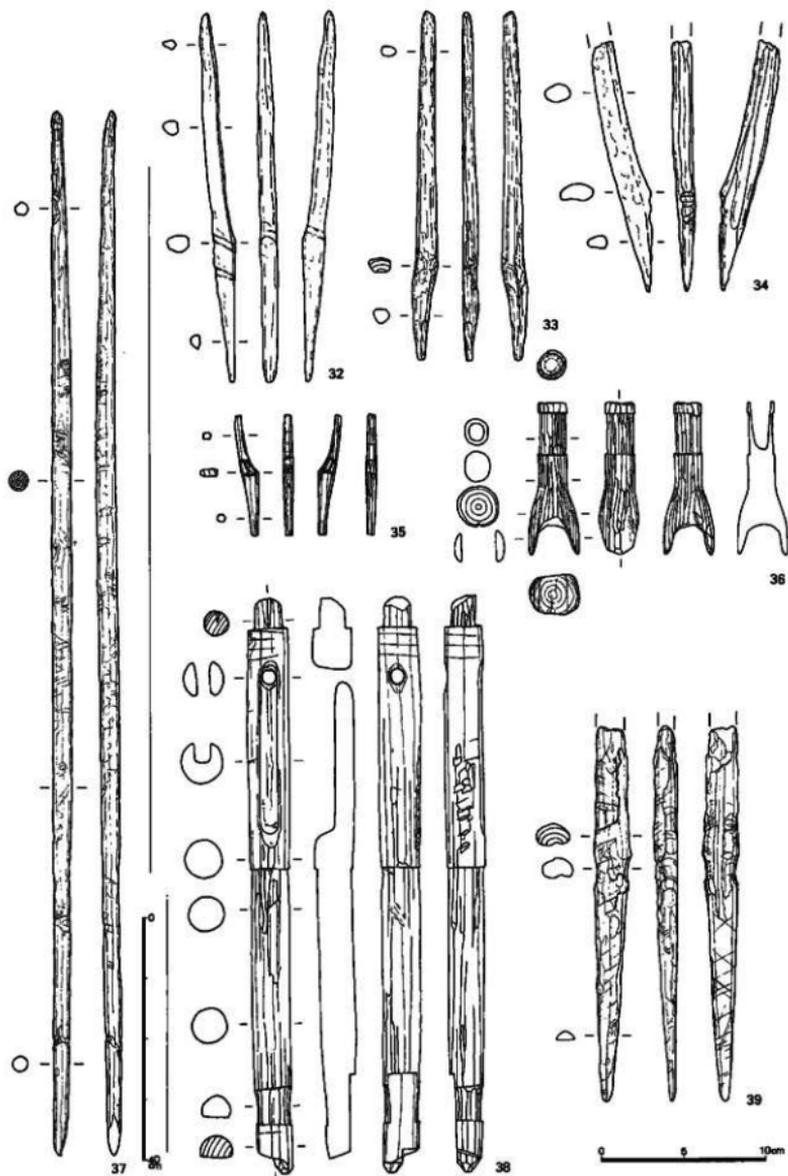
図V-40 A'地区木製品(4)



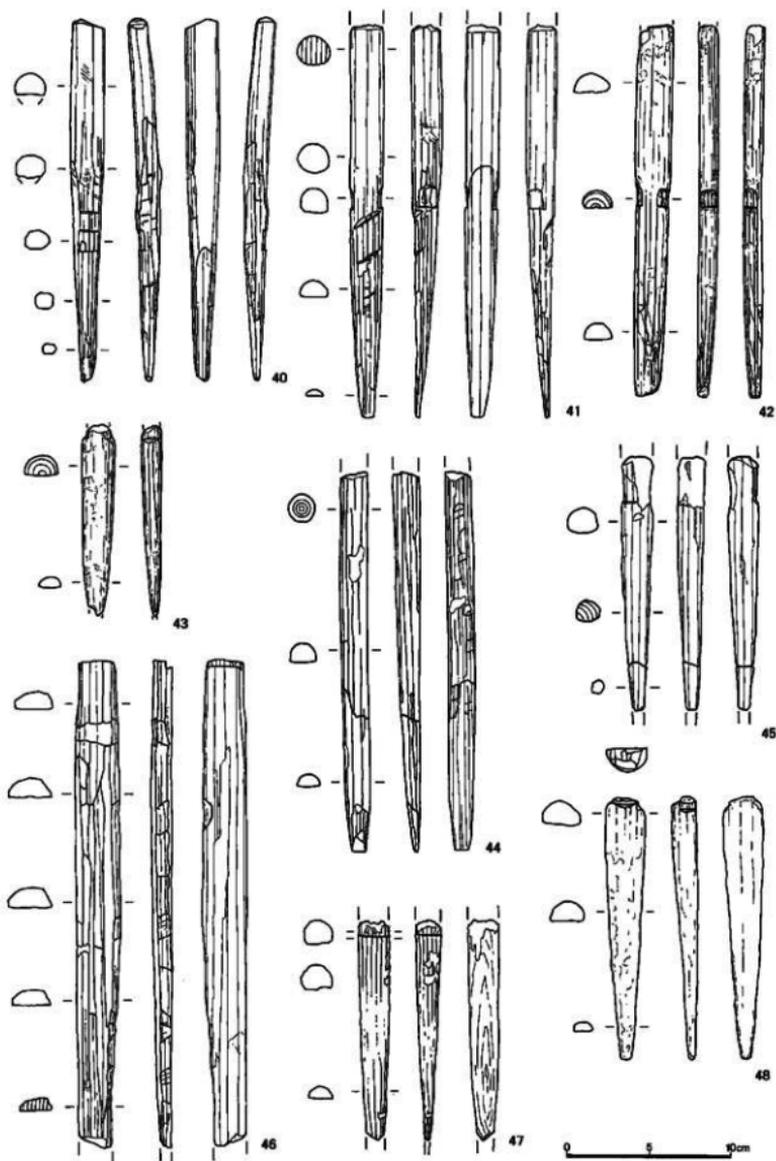
図V-41 A'地区木製品 (5)



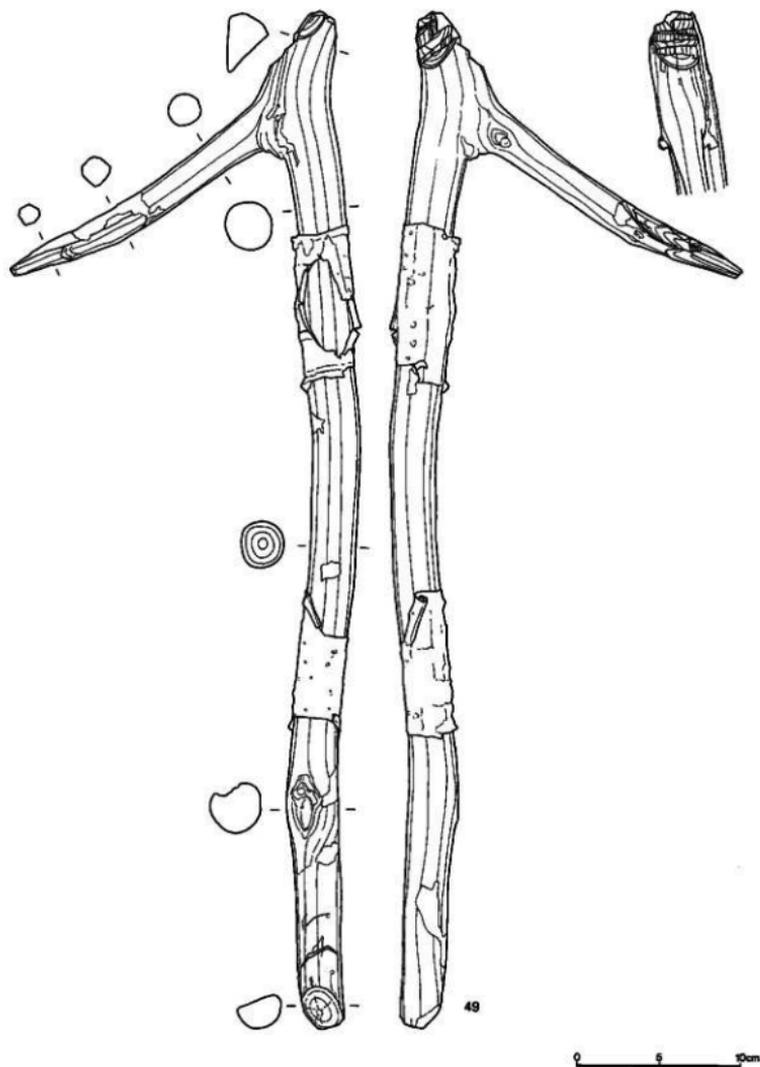
図V-42 A'地区木製品 (6)



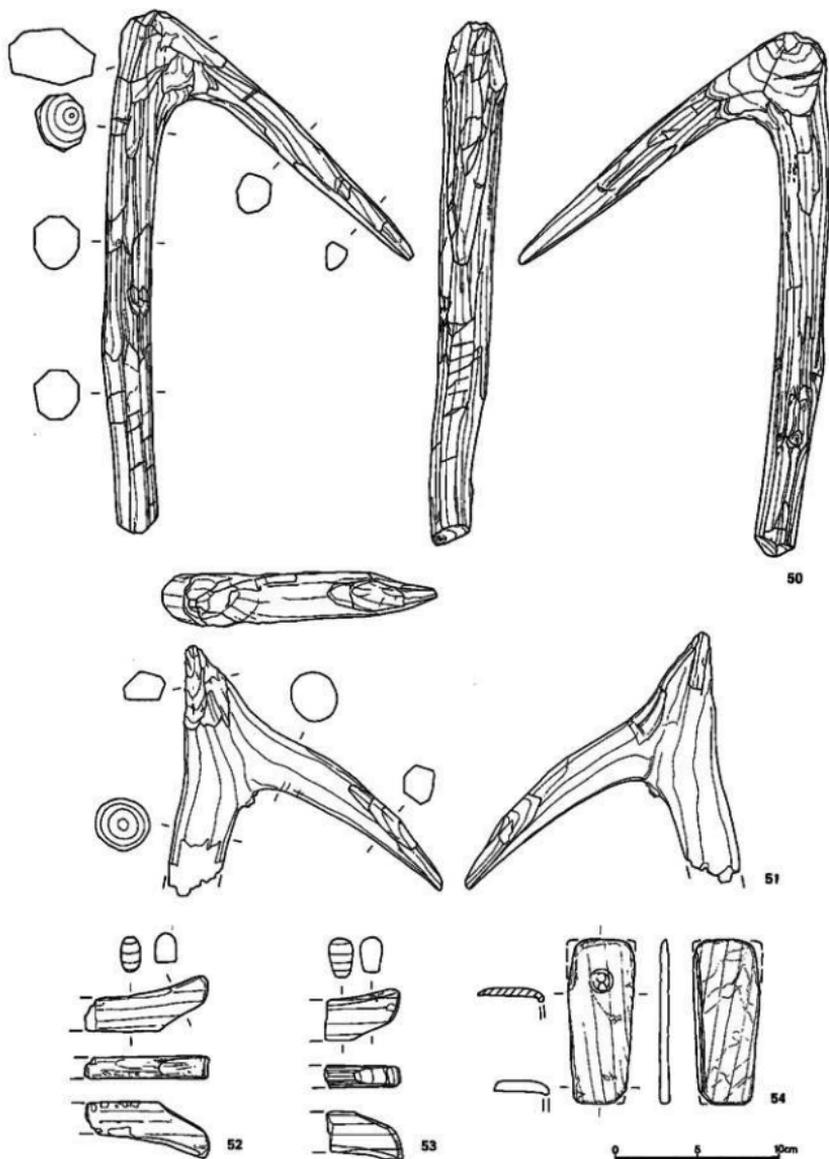
图V-43 A'地区木製品(7)



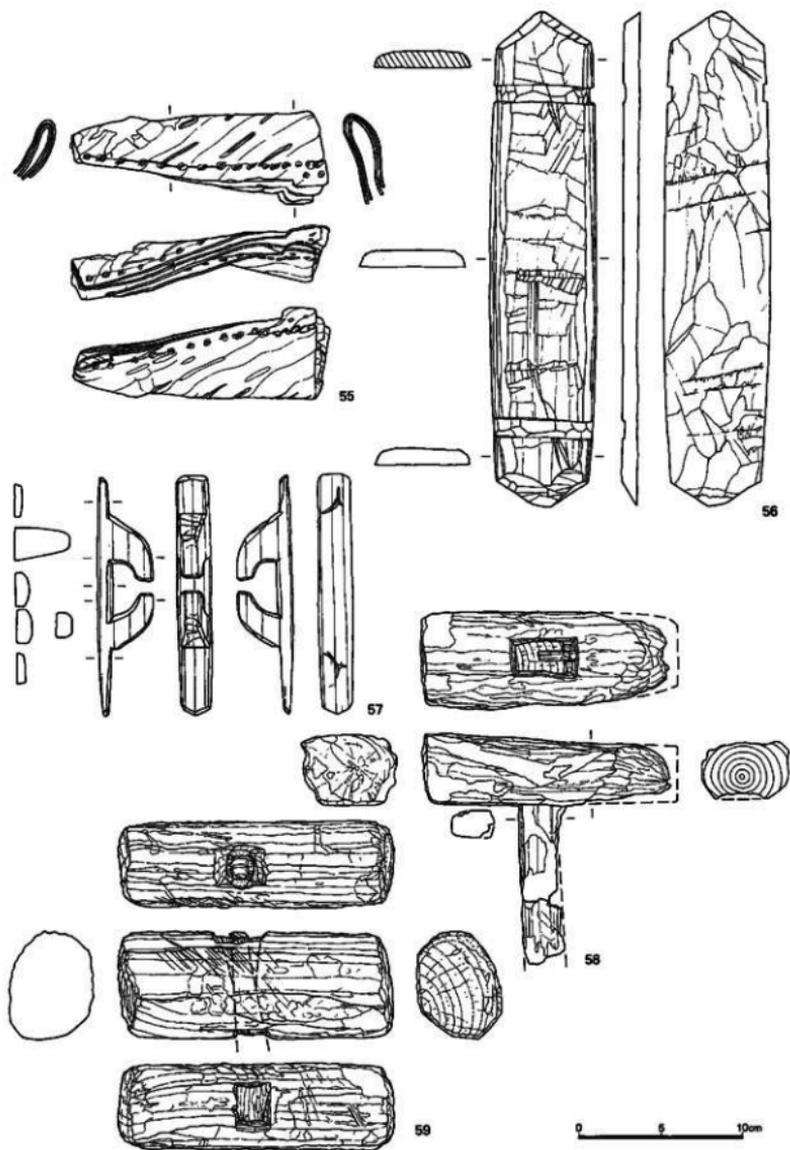
図V-44 A'地区木製品 (8)



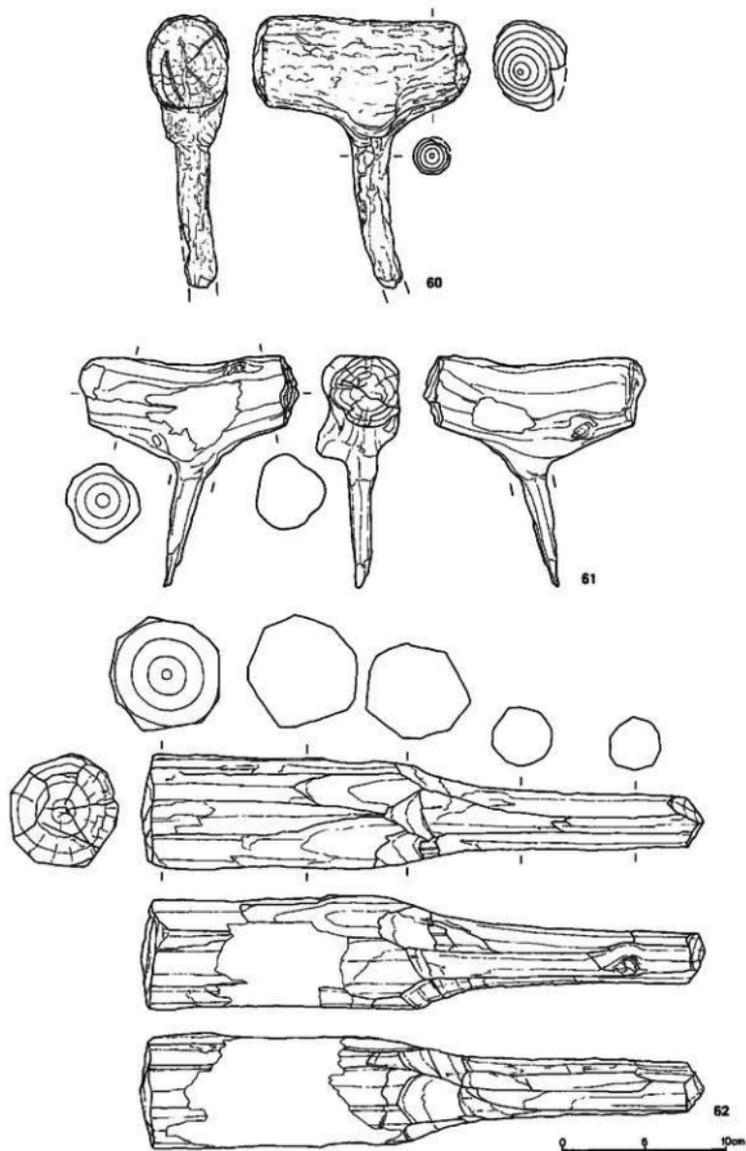
图V-45 A'地区木製品(9)



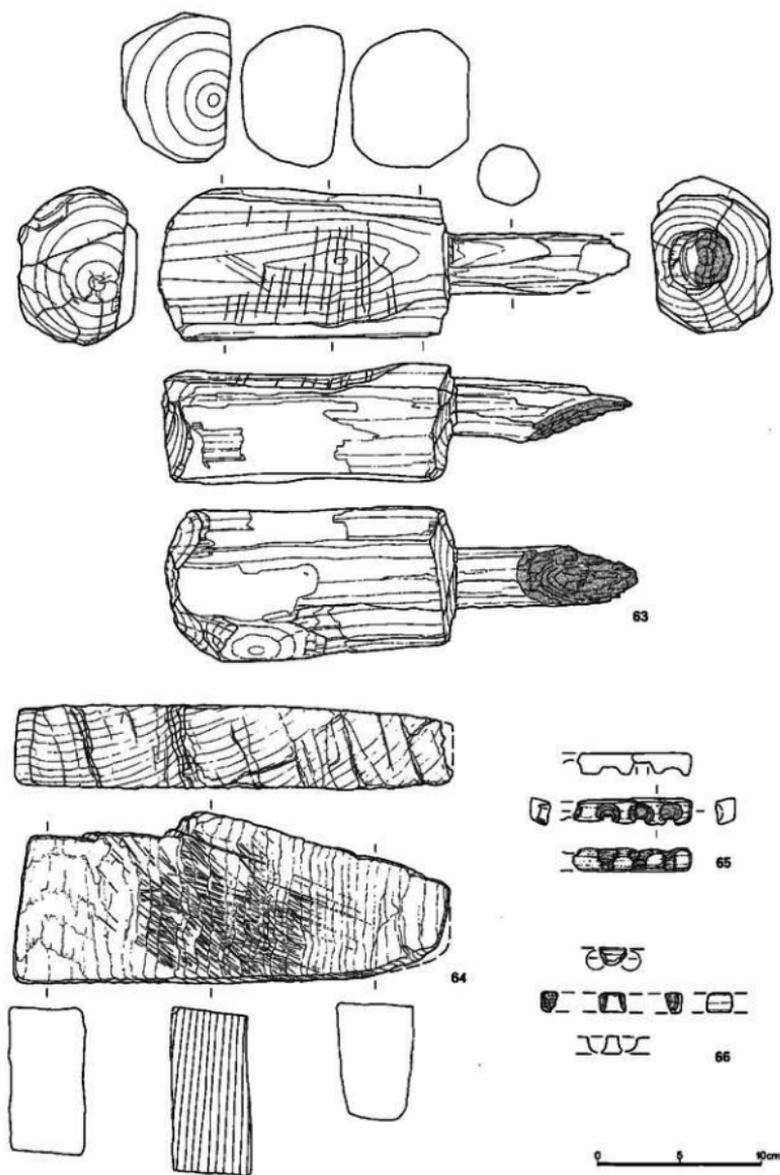
図V-46 A'地区木製品 (10)



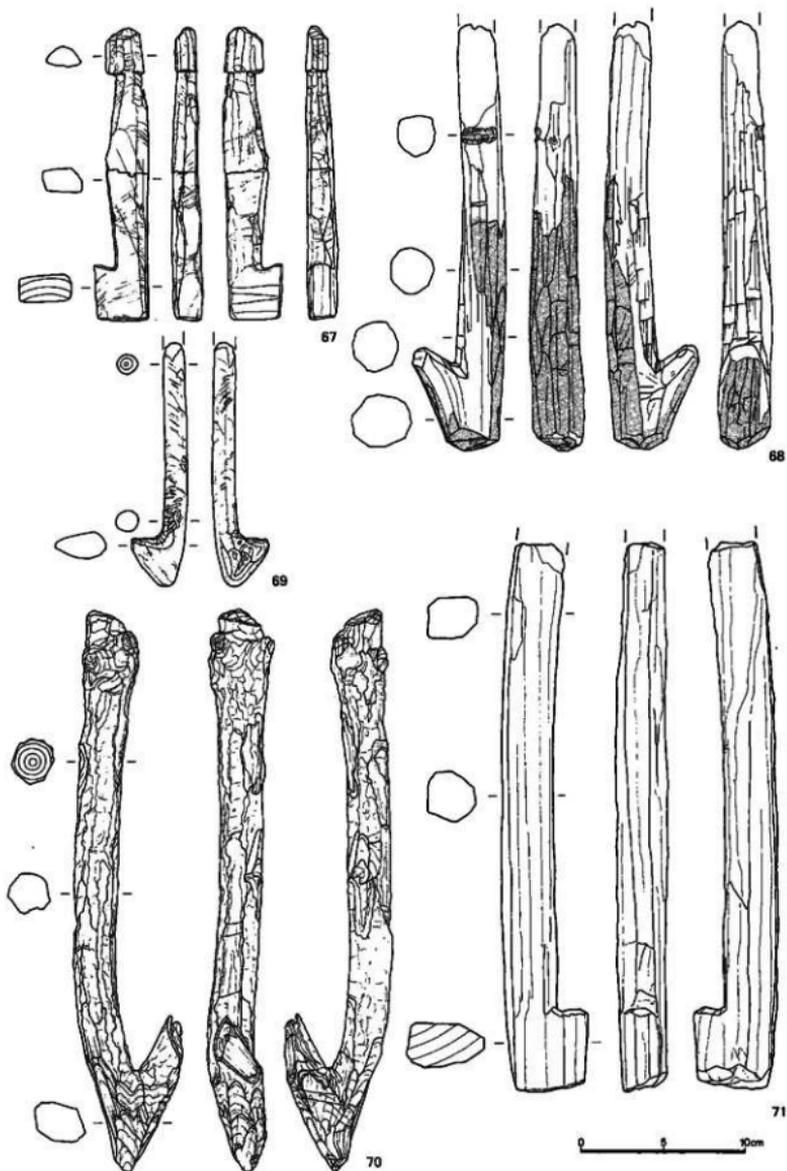
図V-47 A'地区木製品 (1)



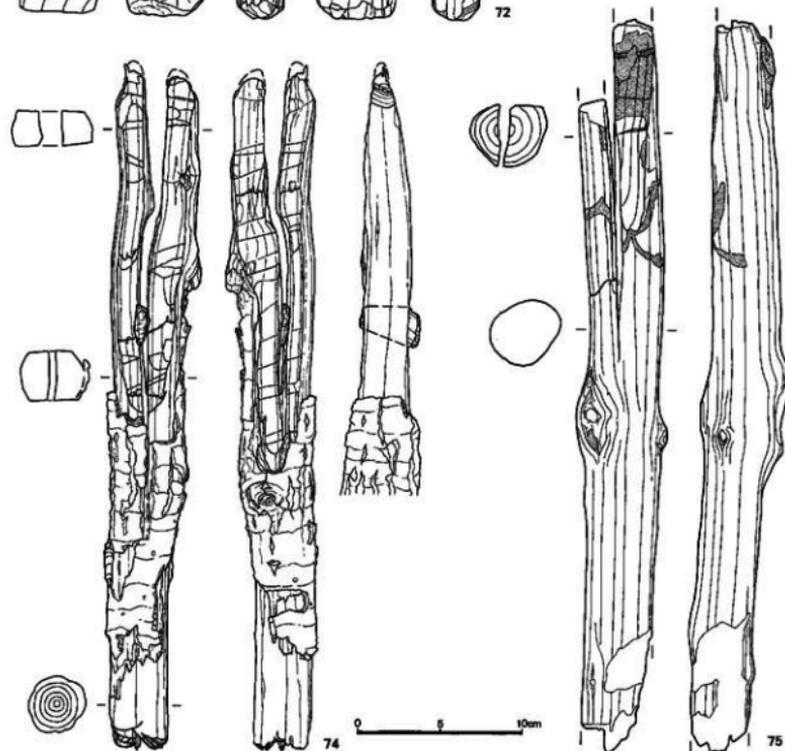
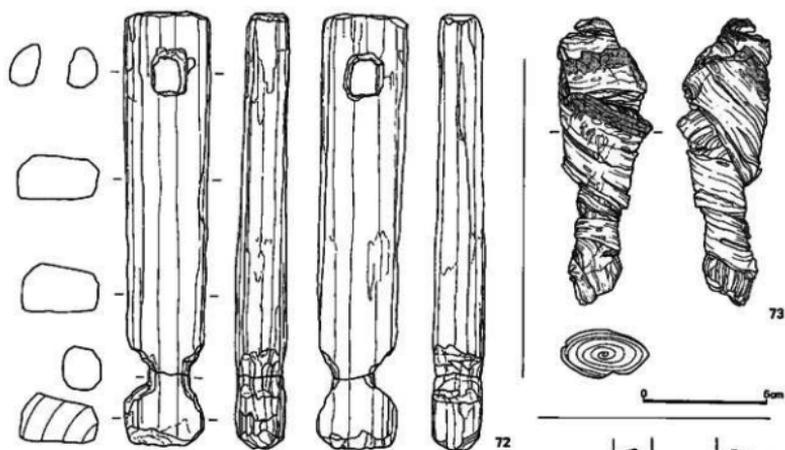
図V-48 A'地区木製品 (12)



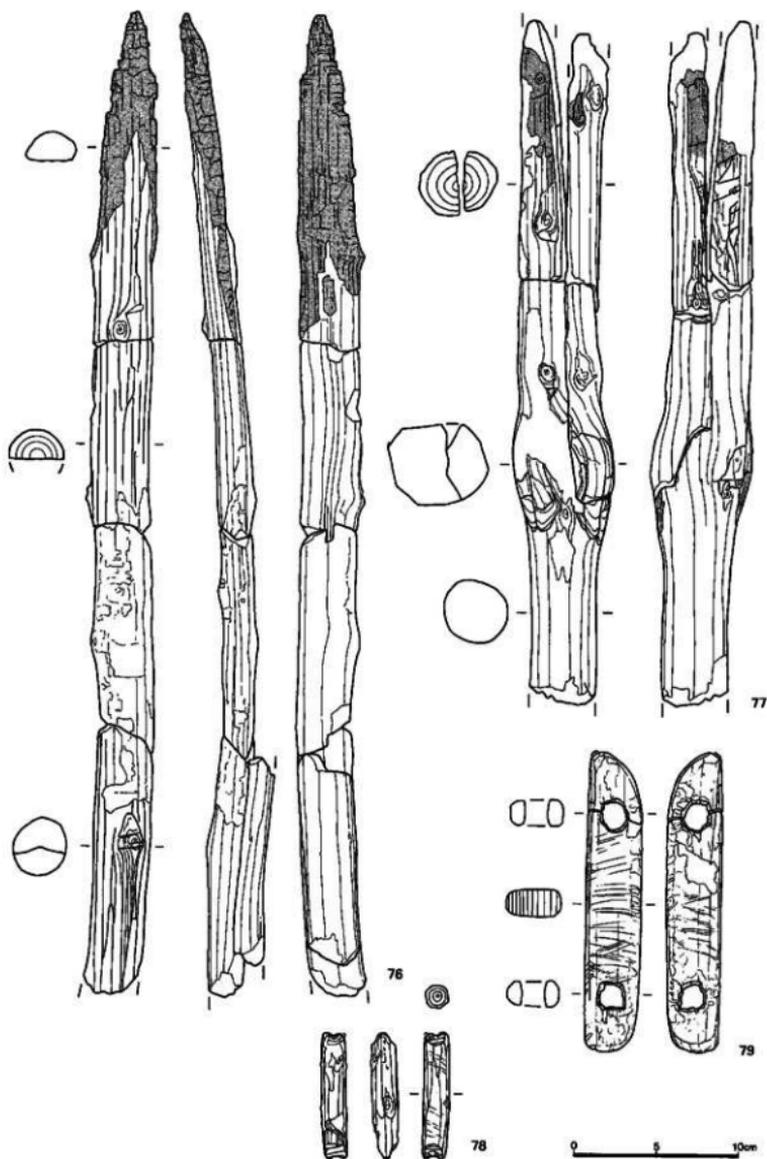
図V-49 A'地区木製品 13



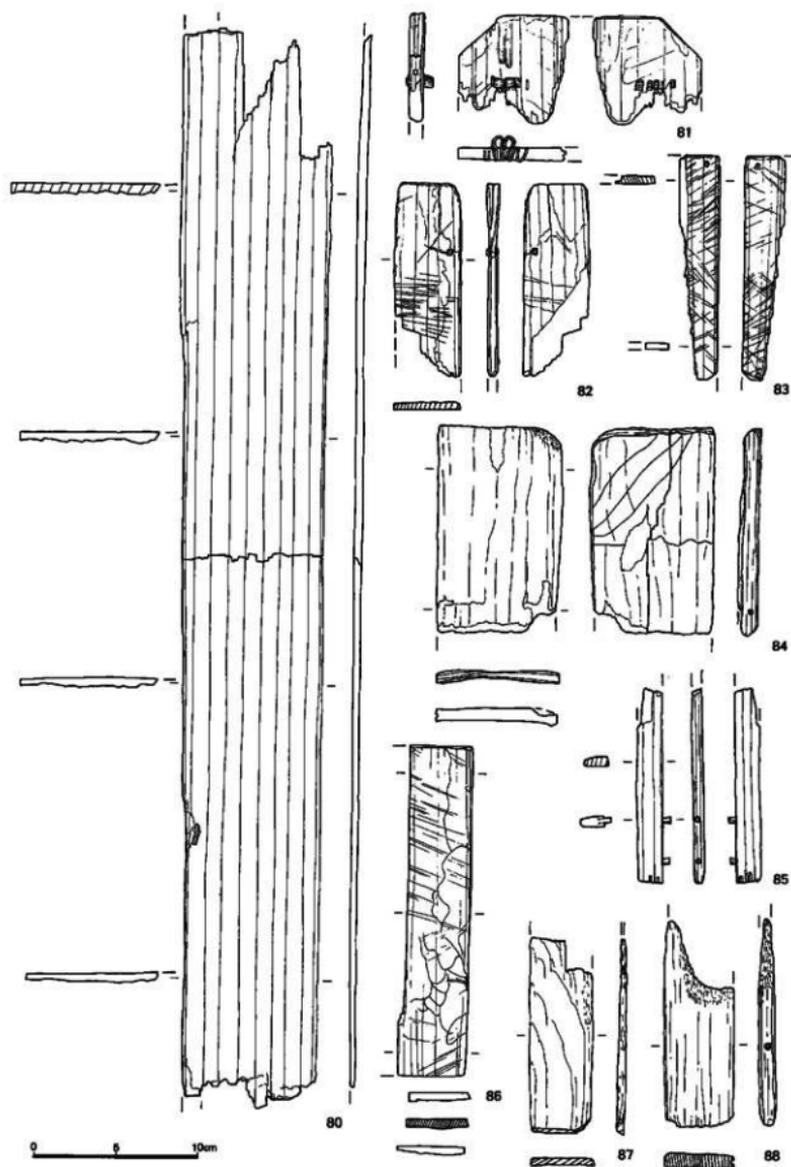
図V-50 A'地区木製品 (14)



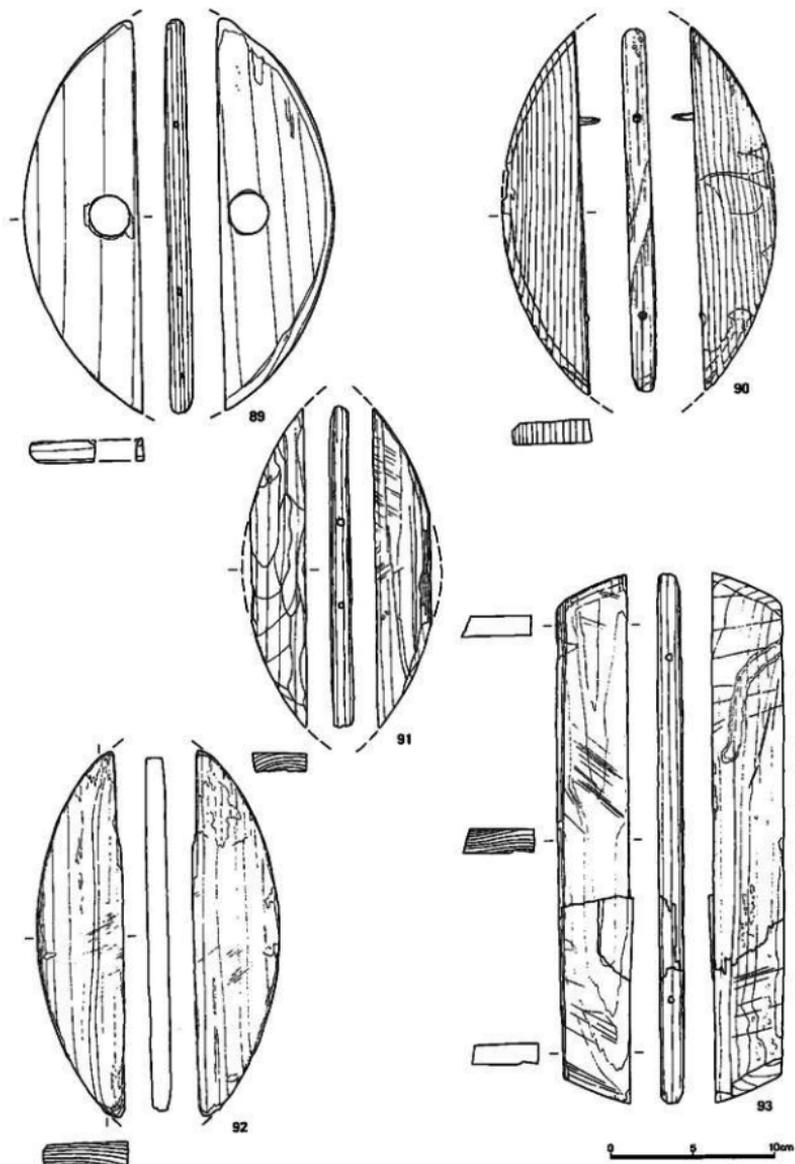
図V-51 A'地区木製品 (15)



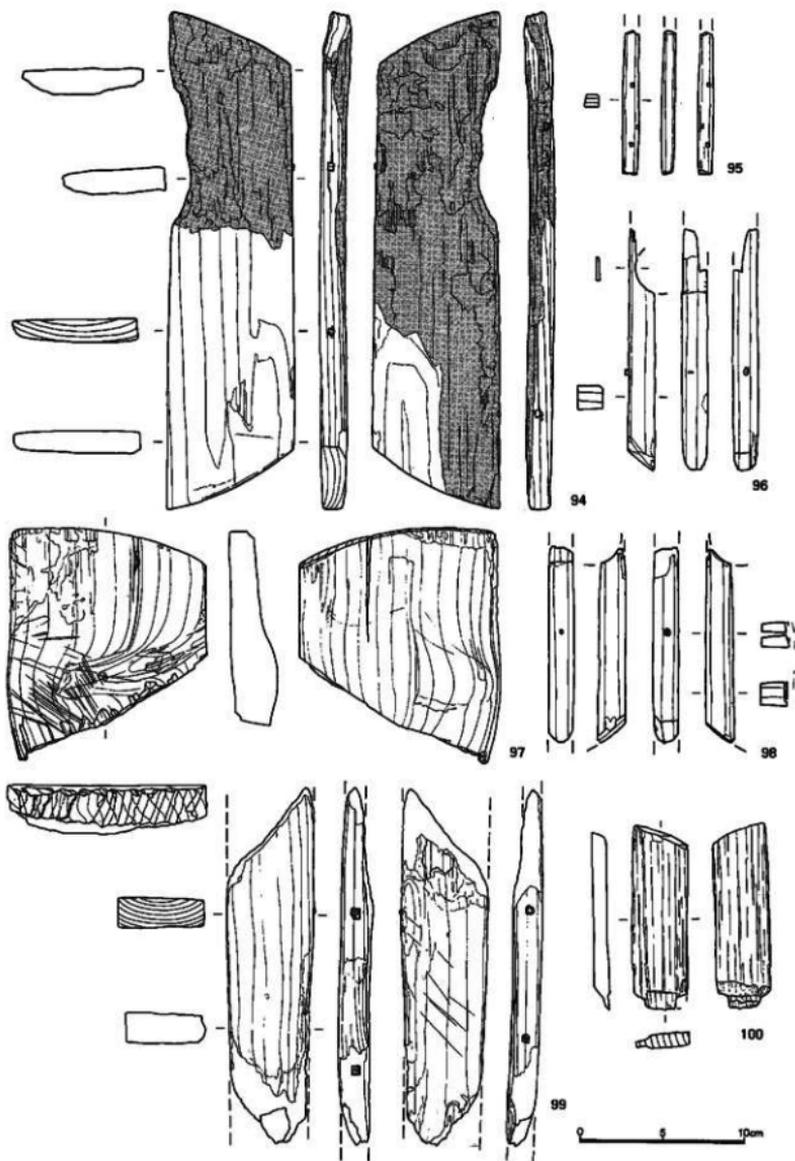
図V-52 A'地区木製品 06



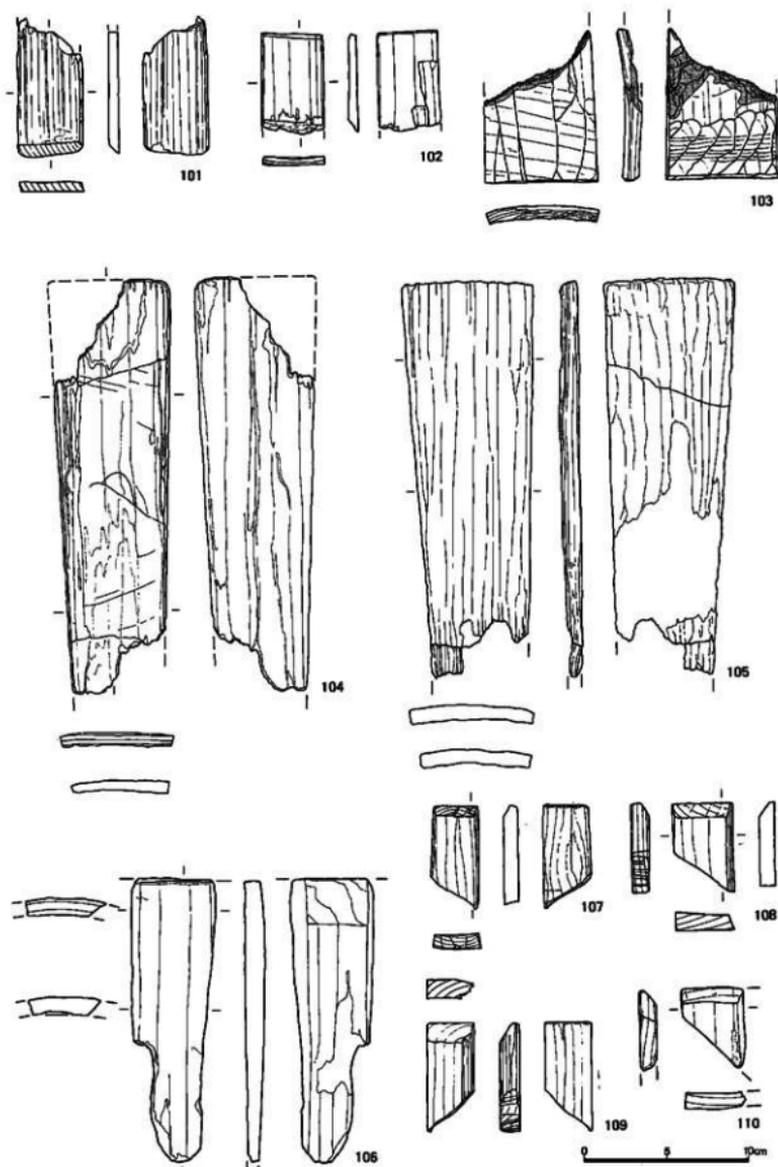
図V-53 A'地区木製品 (7)



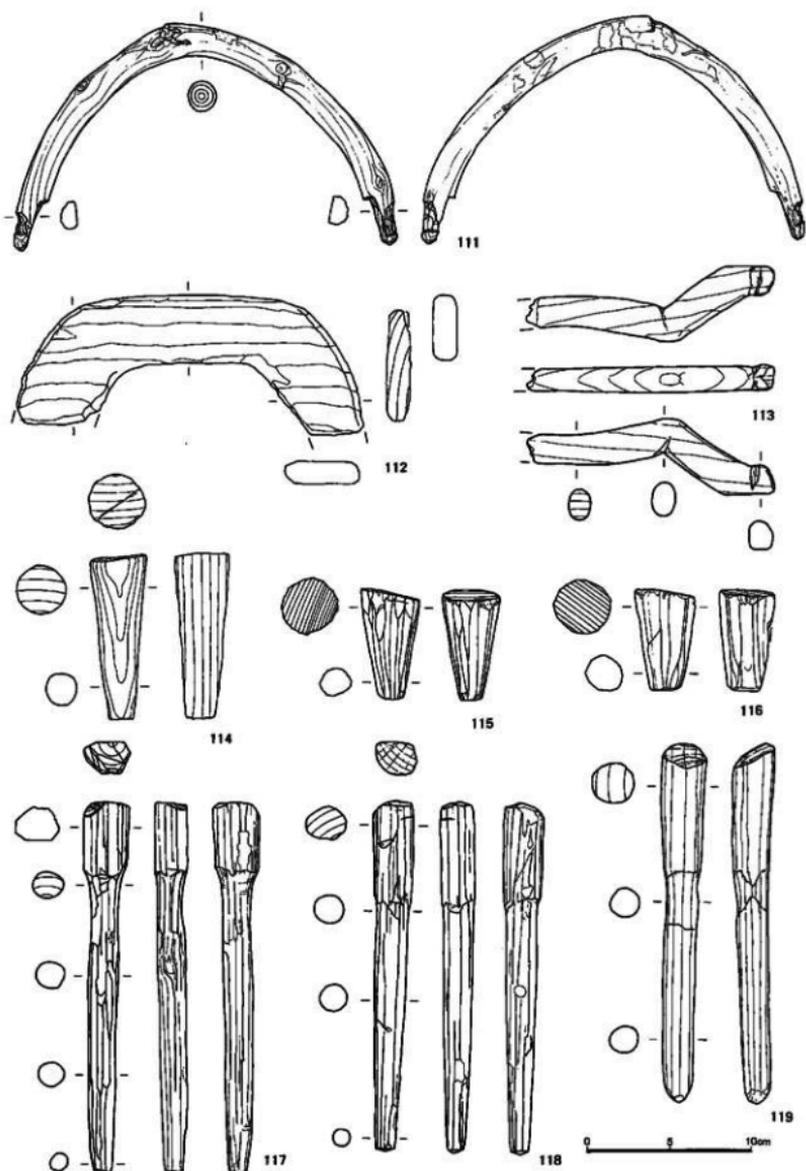
図V-54 A'地区木製品 (10)



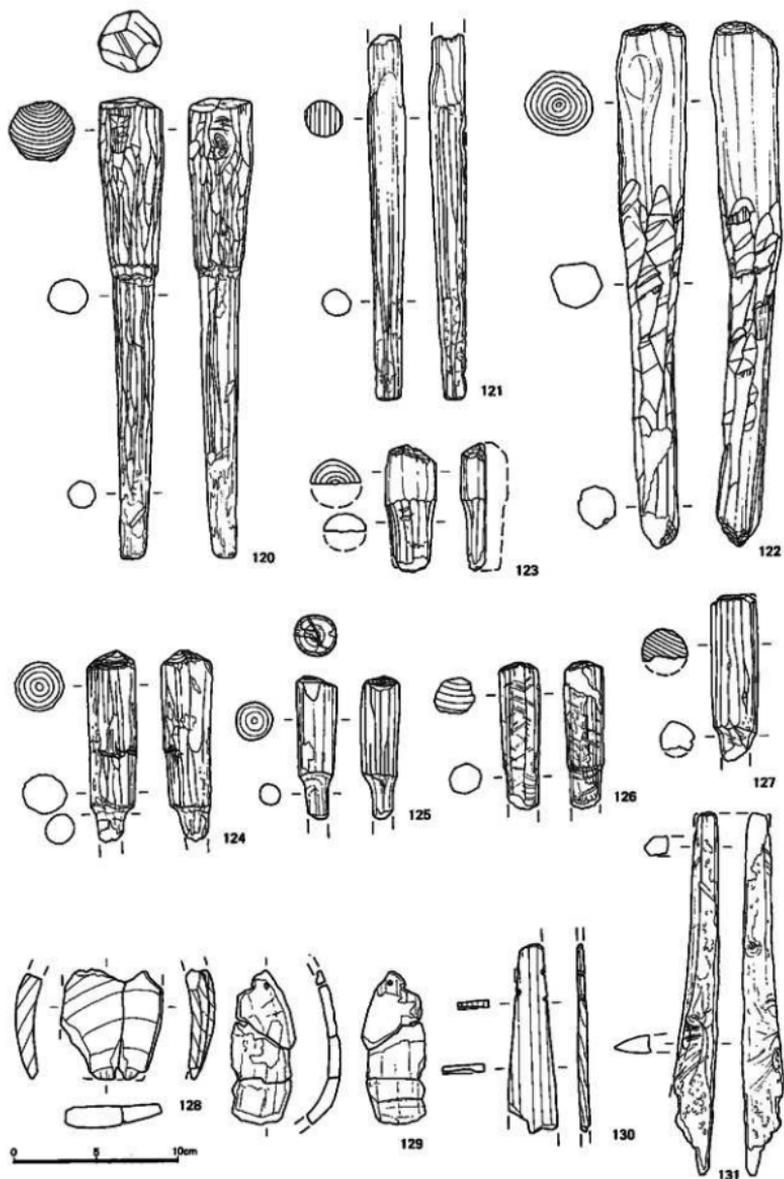
図V-55 A'地区木製品 (19)



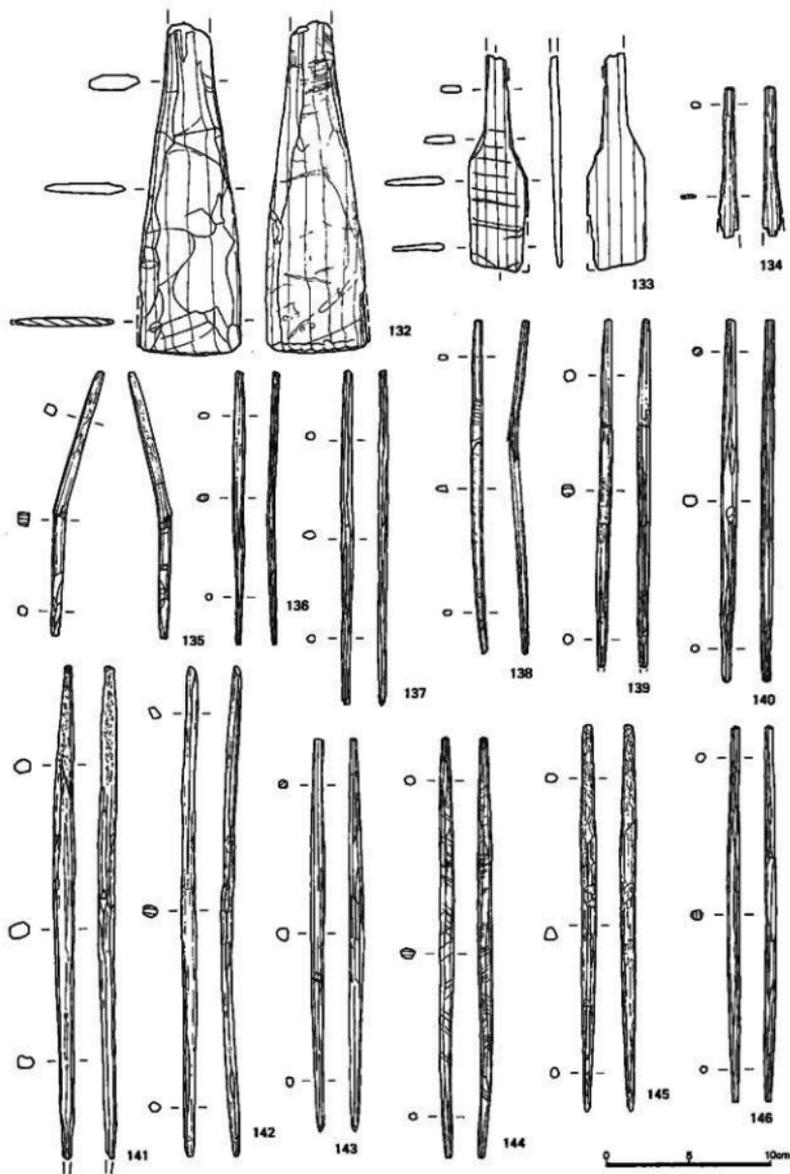
図V-56 A'地区木製品 (20)



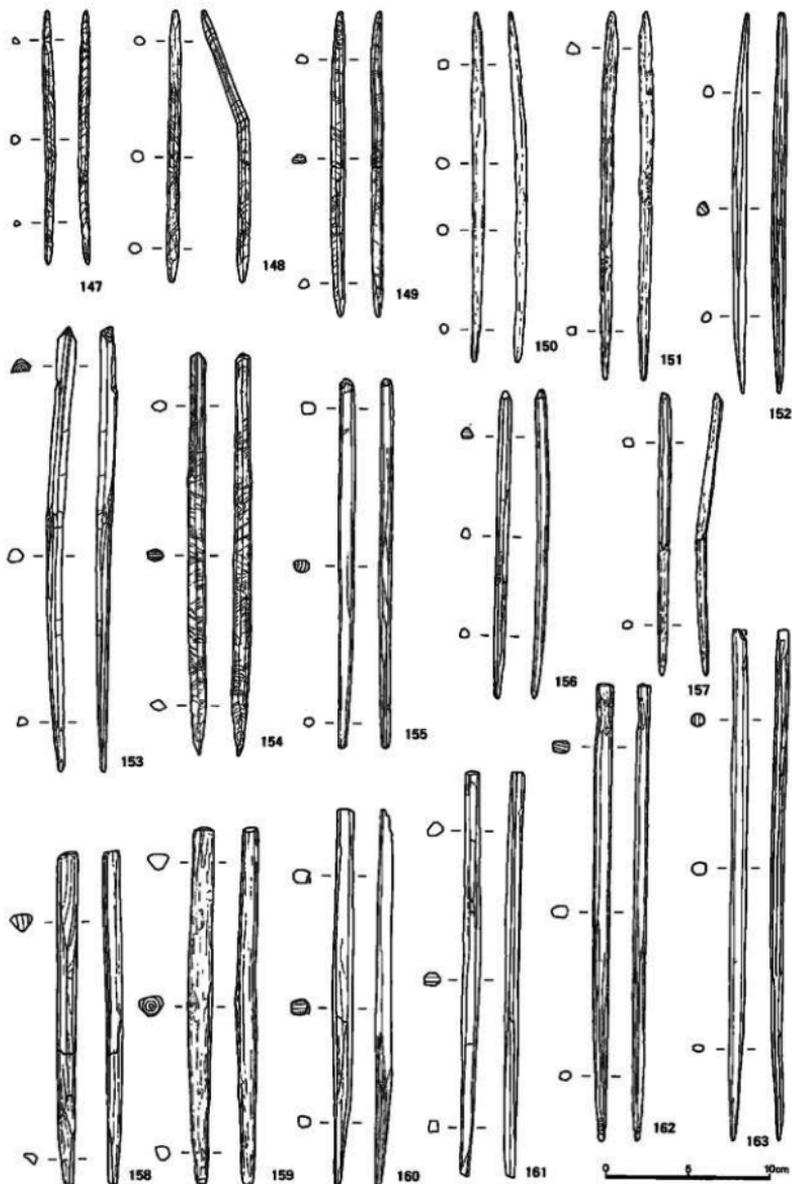
図V-57 A'地区木製品(2)



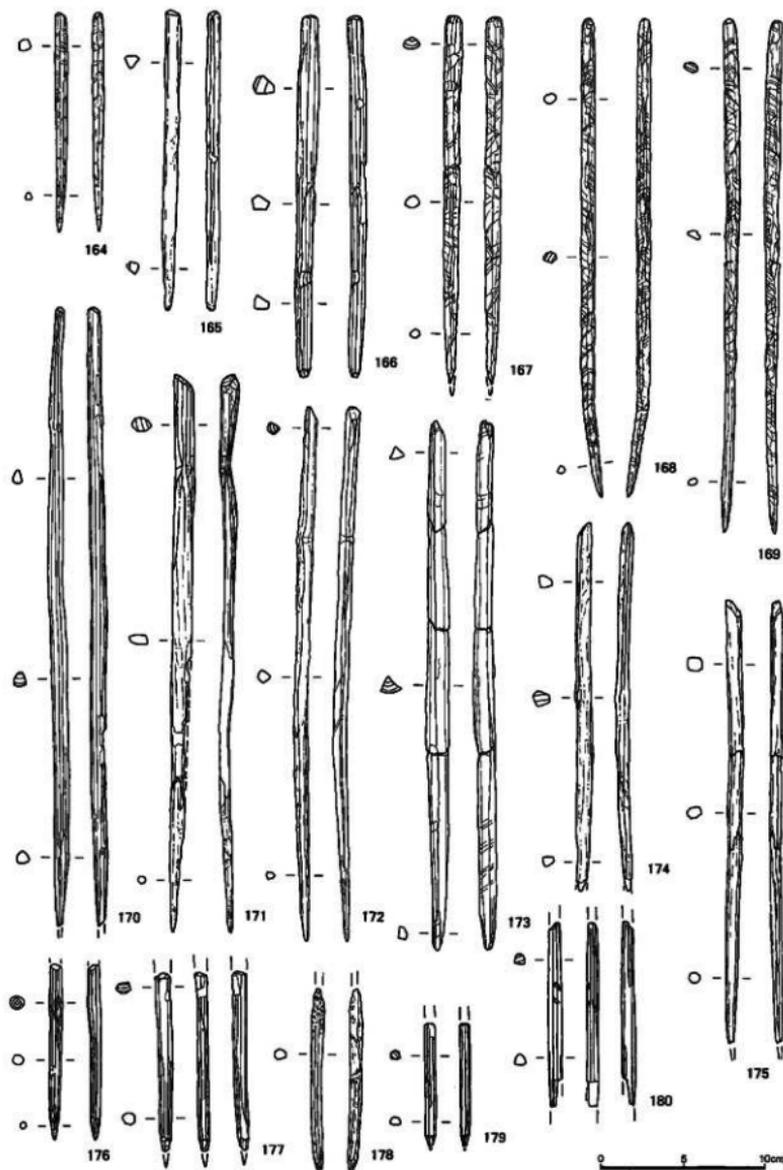
図V-58 A'地区木製品 (2)



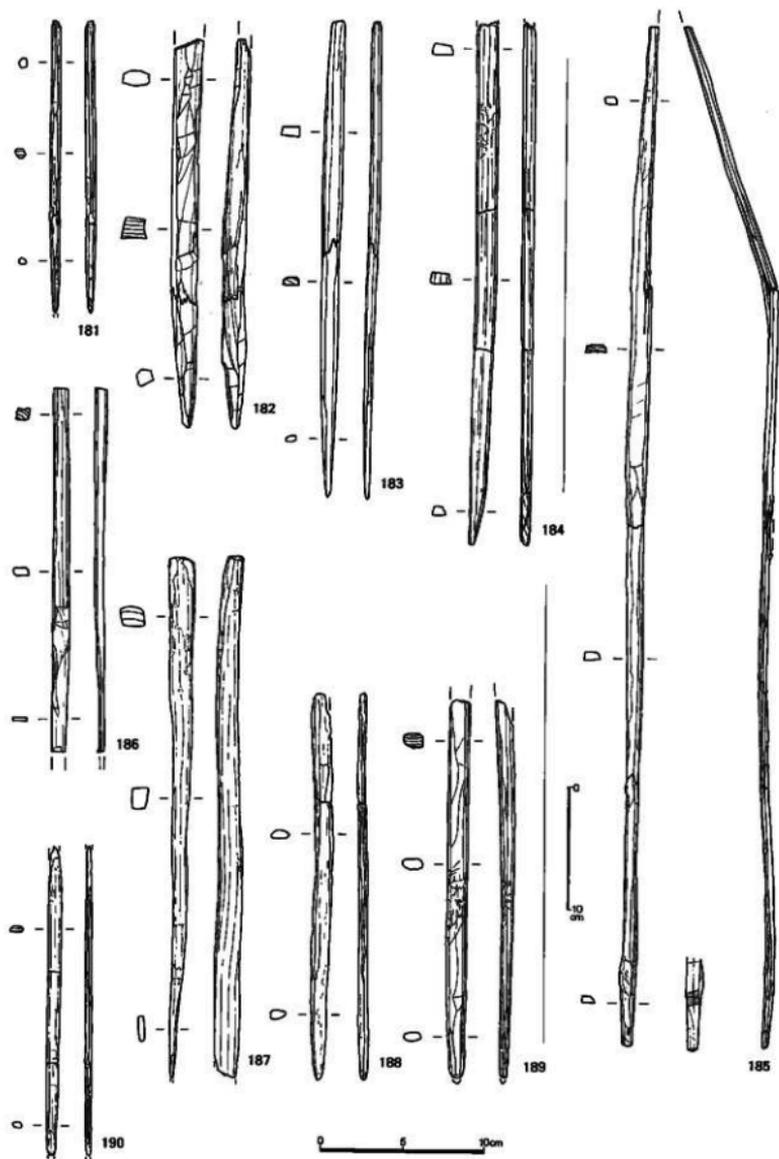
図V-59 A地区木製品 (2)



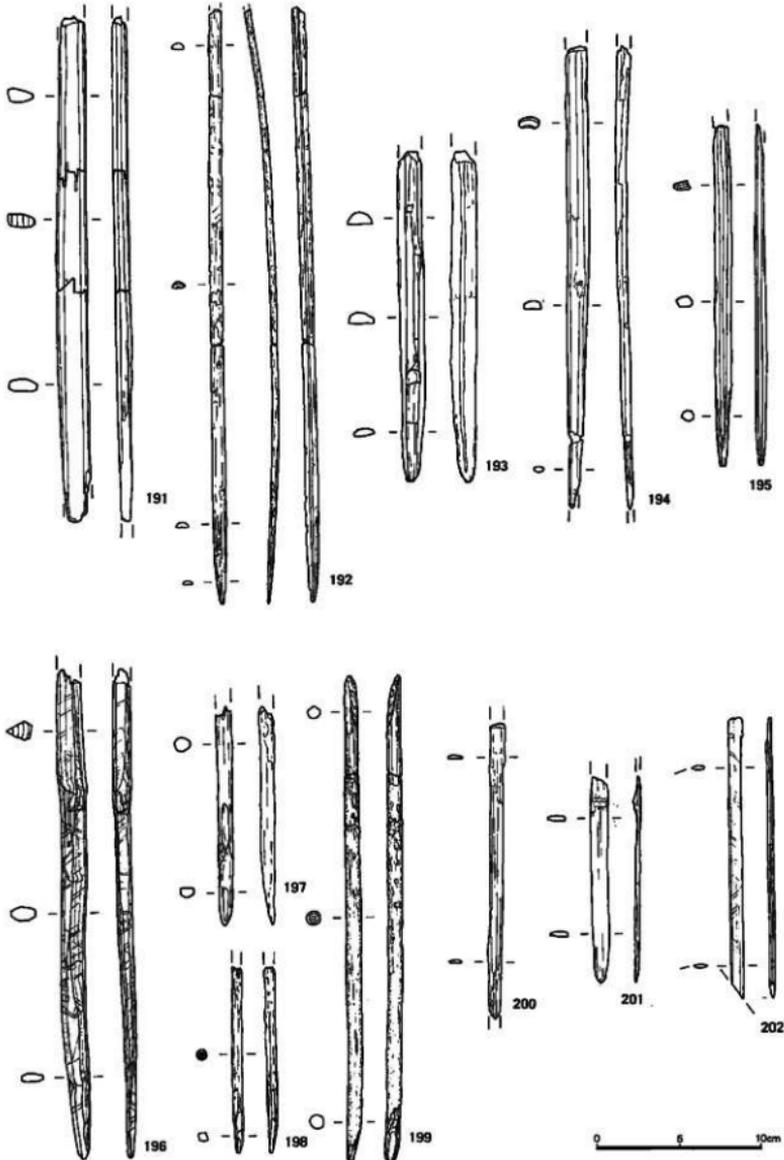
図V-60 A'地区木製品 (2)



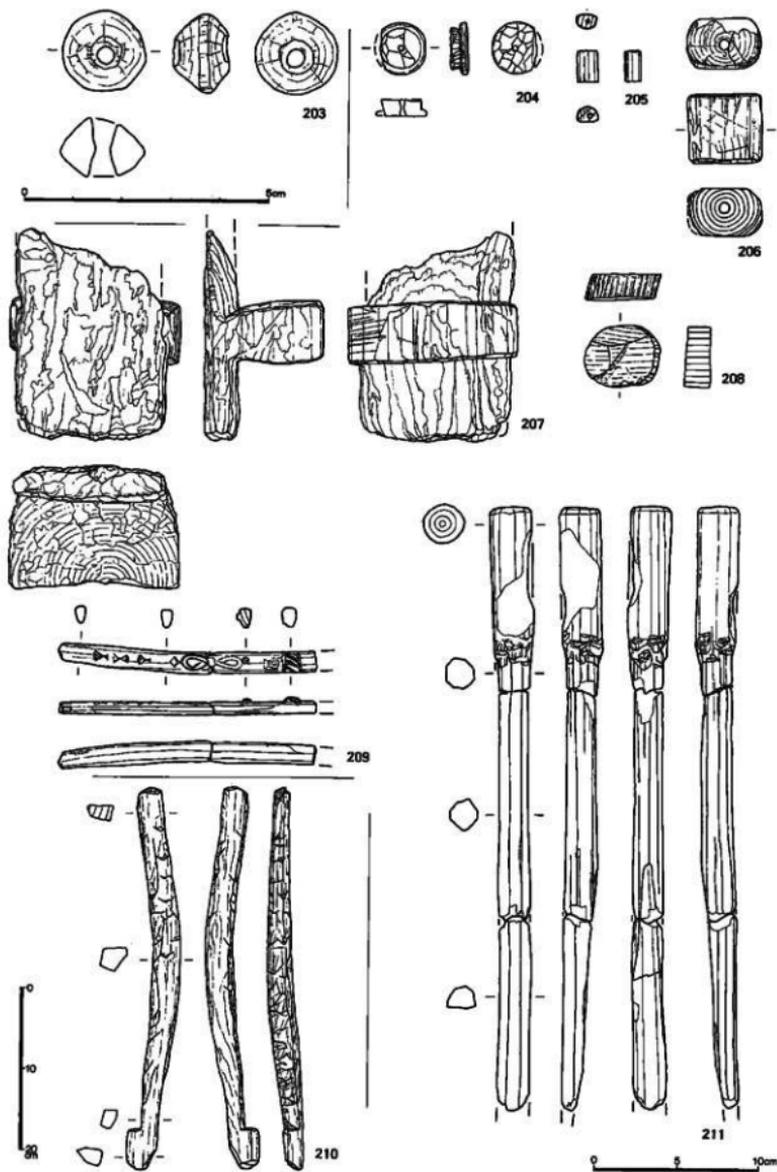
図V-61 A'地区木製品(2)



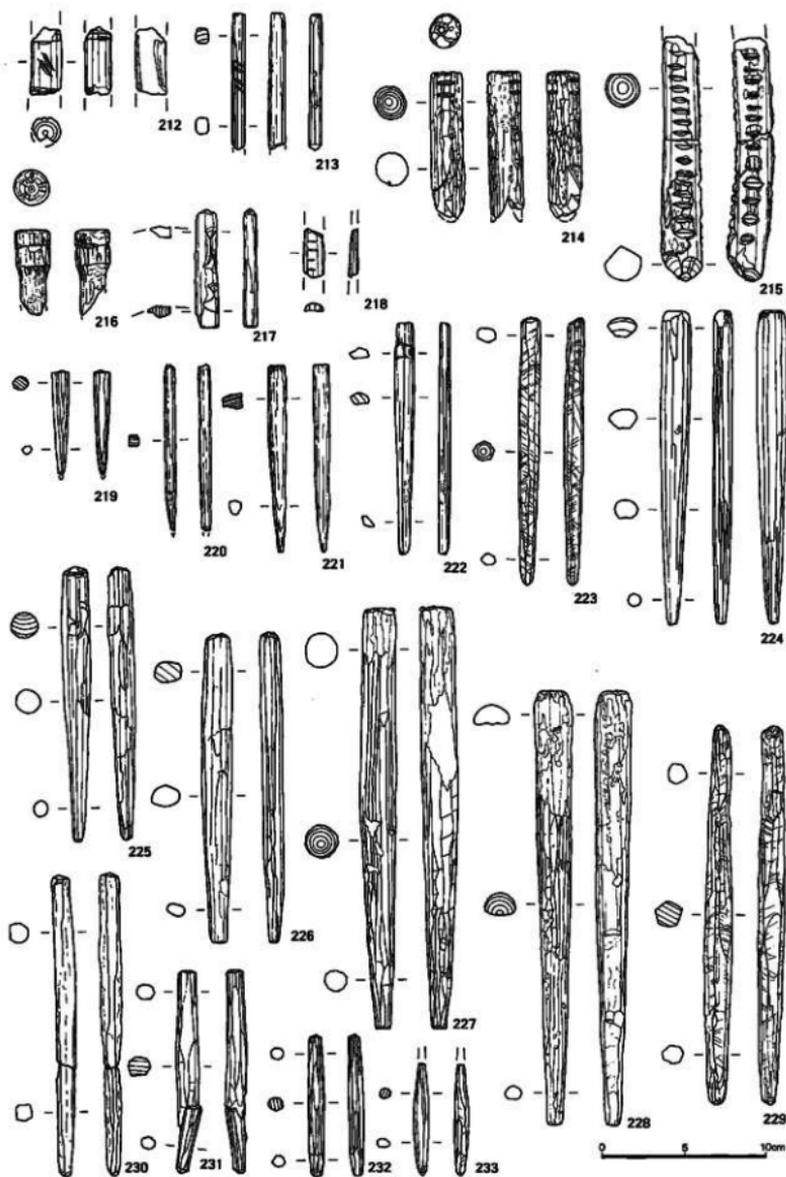
図V-62 A'地区木製品 (2)



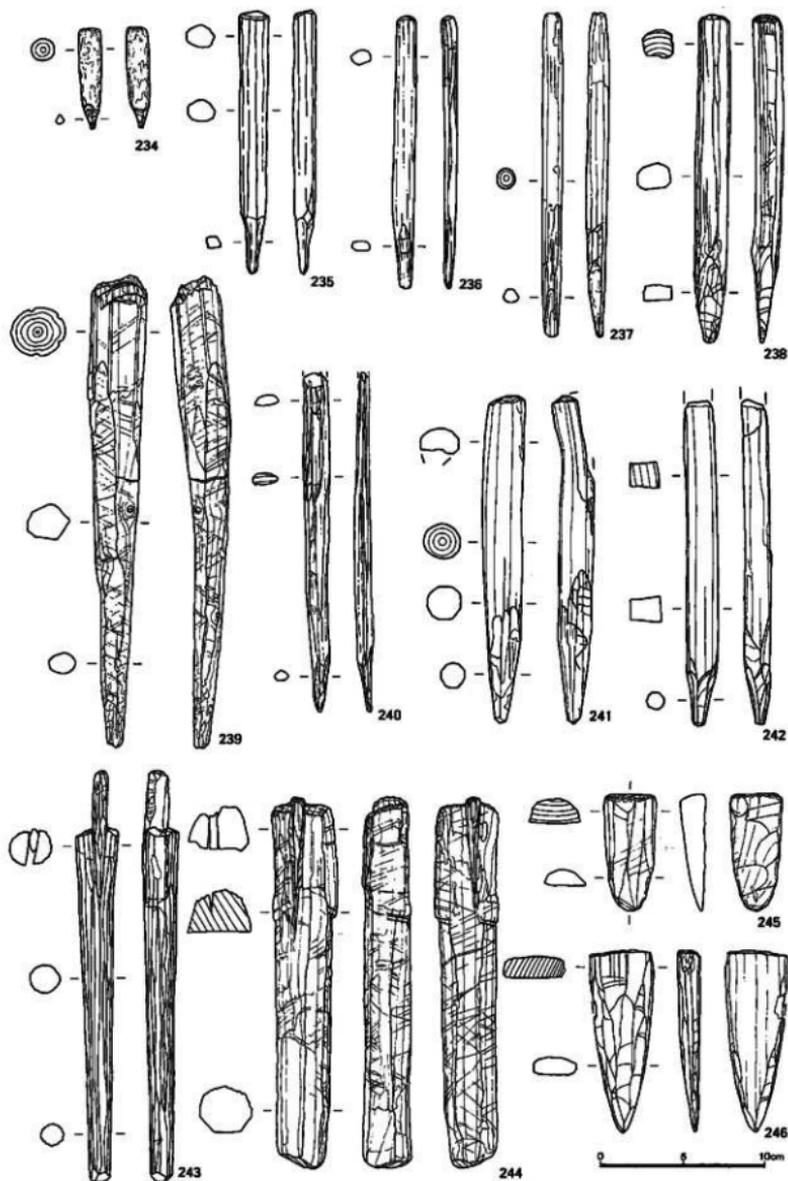
図V-63 A'地区木製品(7)



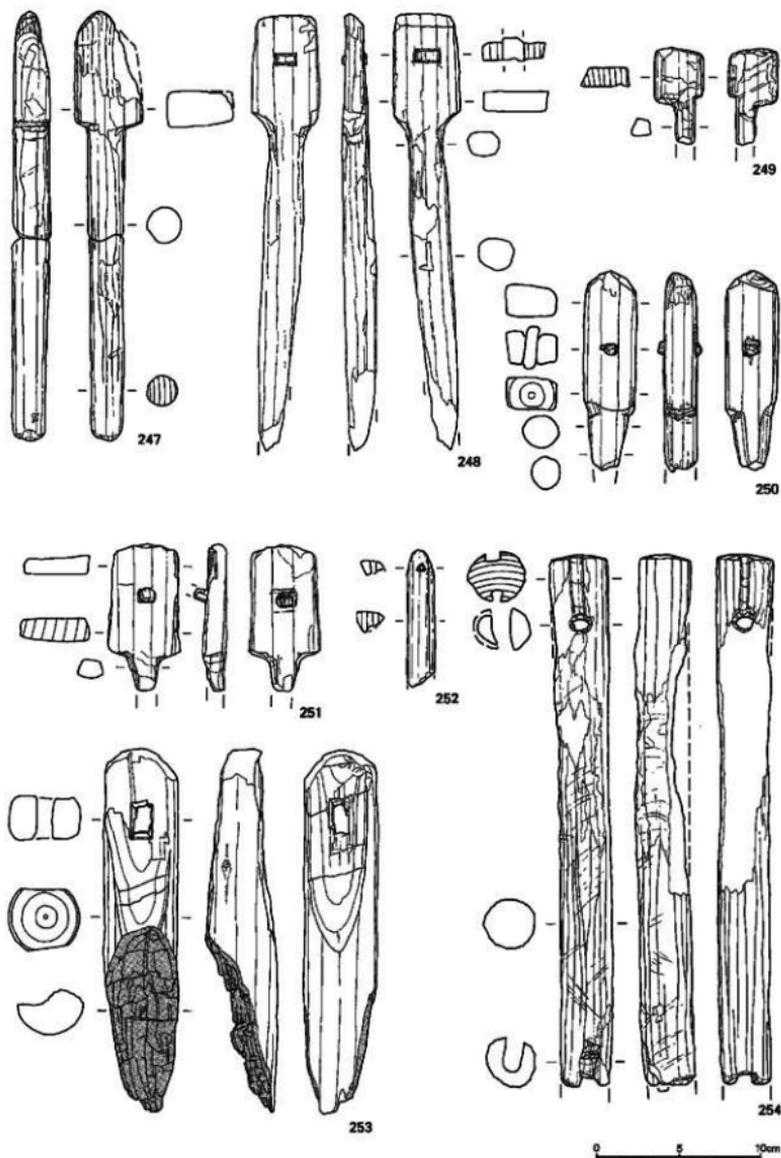
図V-64 A'地区木製品 ②



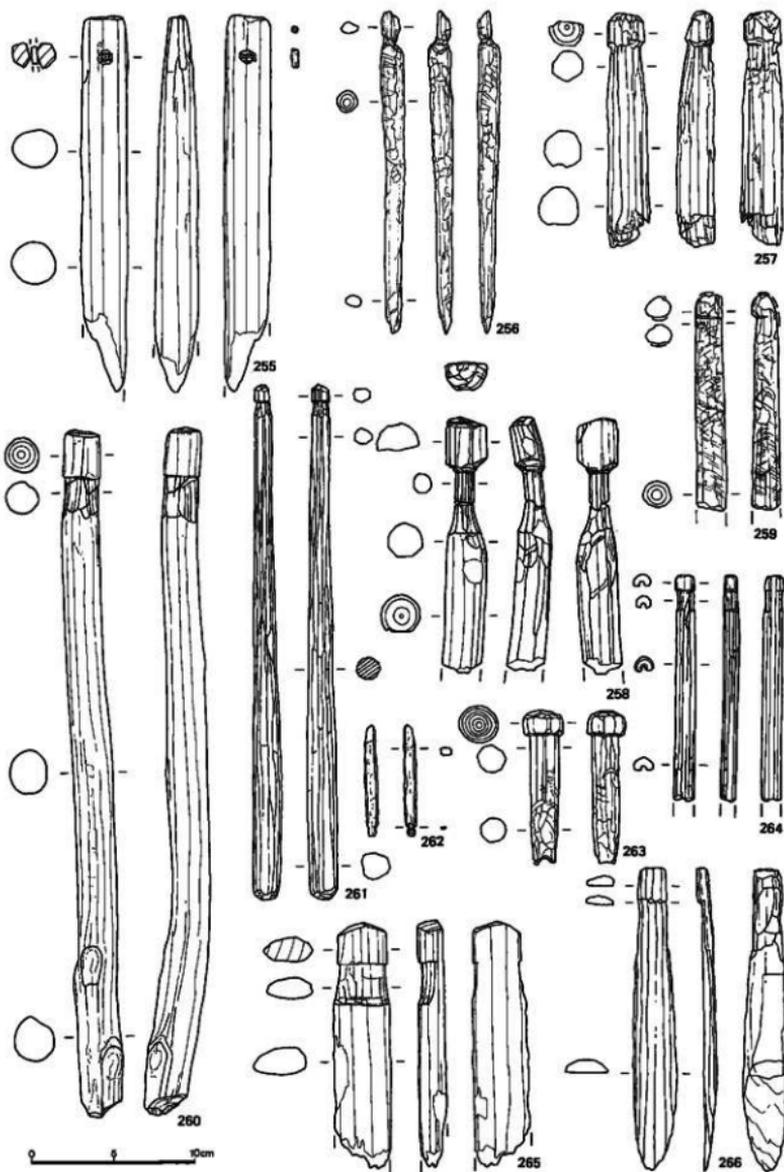
図V-65 A'地区木製品 ④



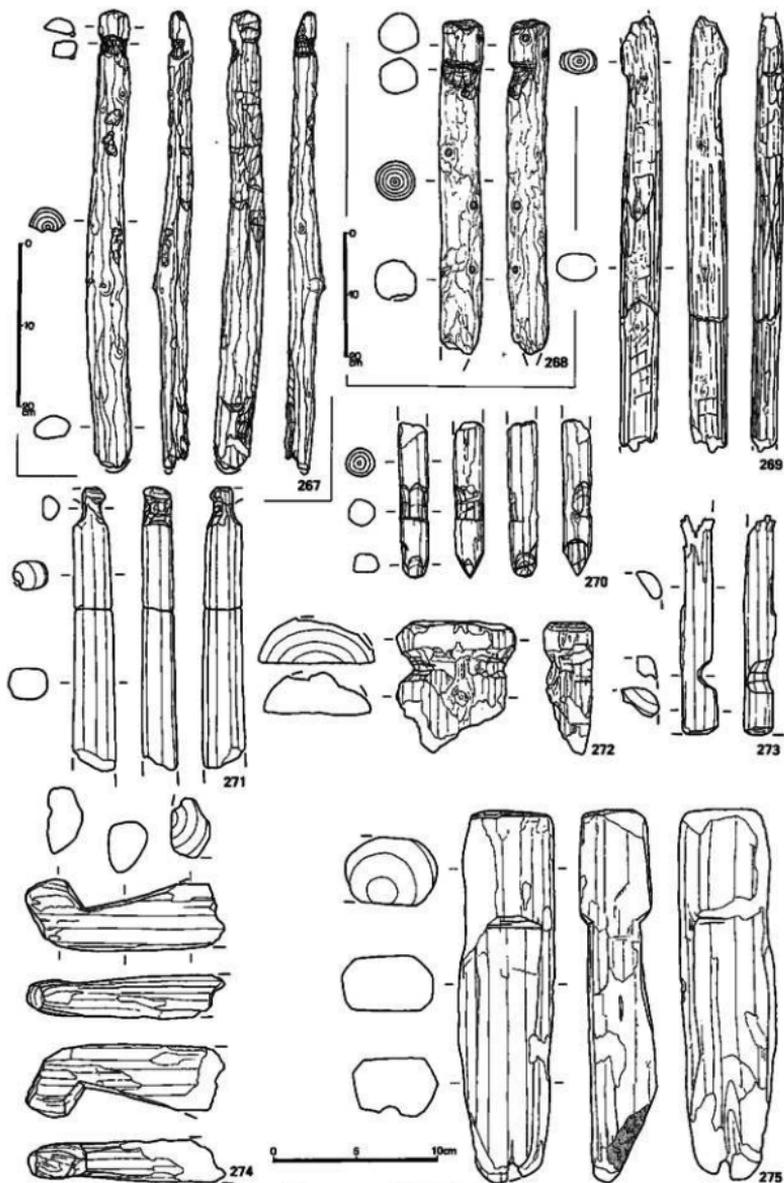
図V-66 A'地区木製品(30)



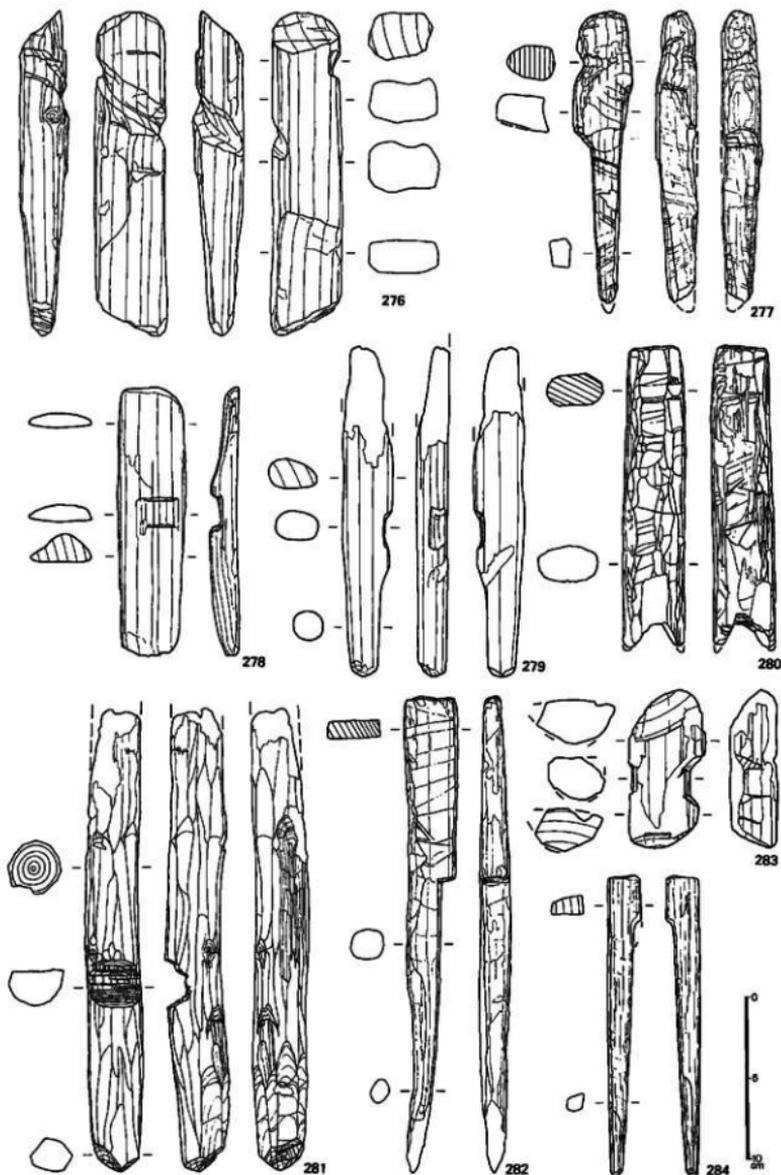
図V-67 A'地区木製品 (3)



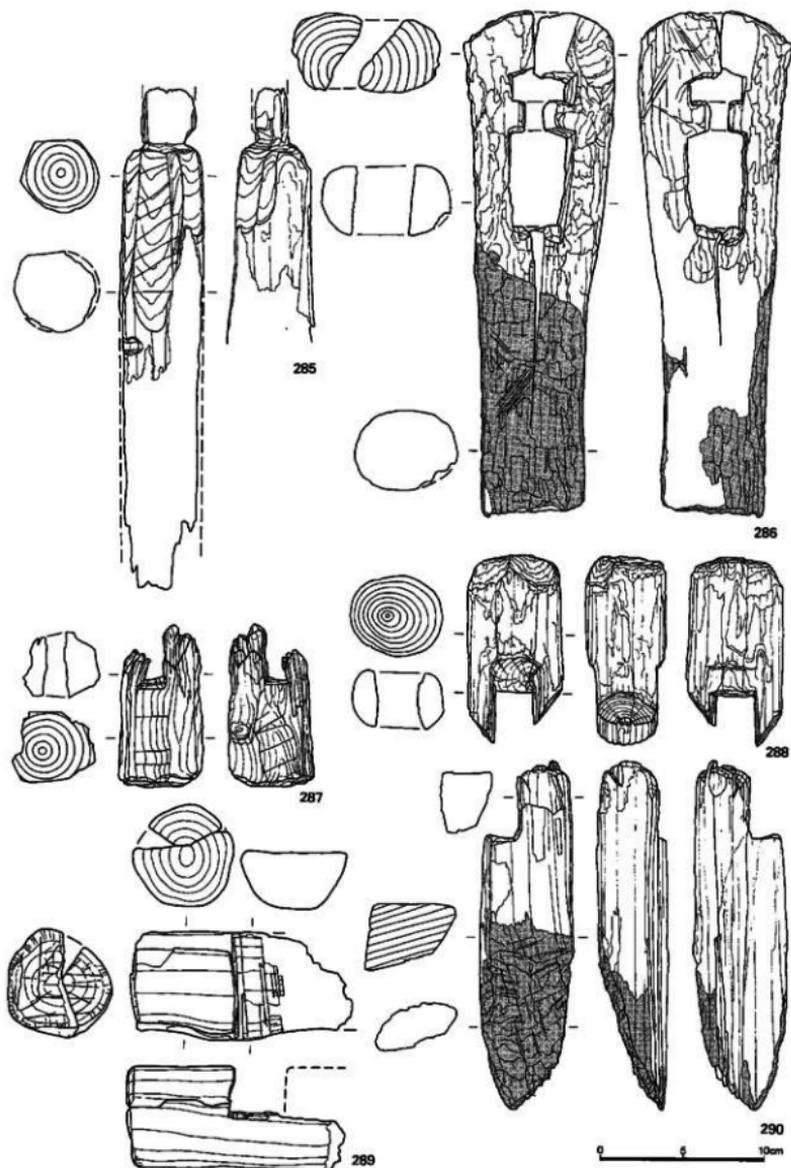
図V-68 A'地区木製品(3)



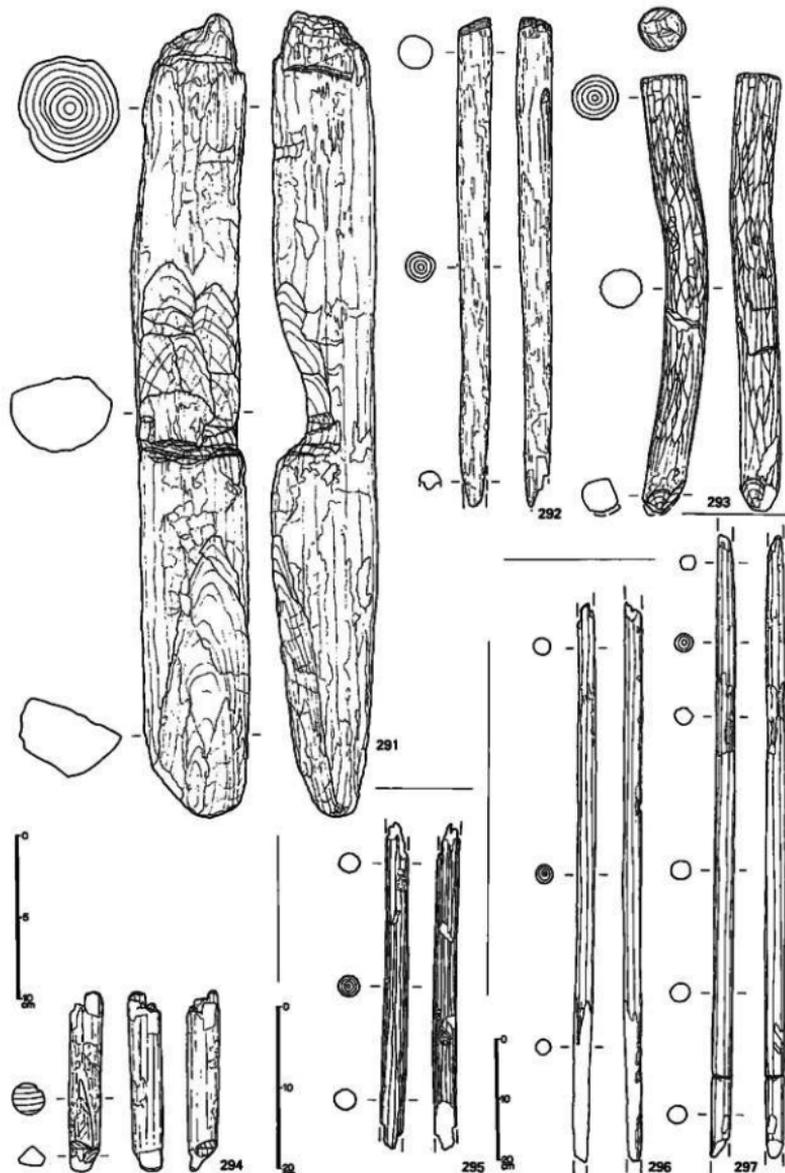
図V-69 A'地区木製品(3)



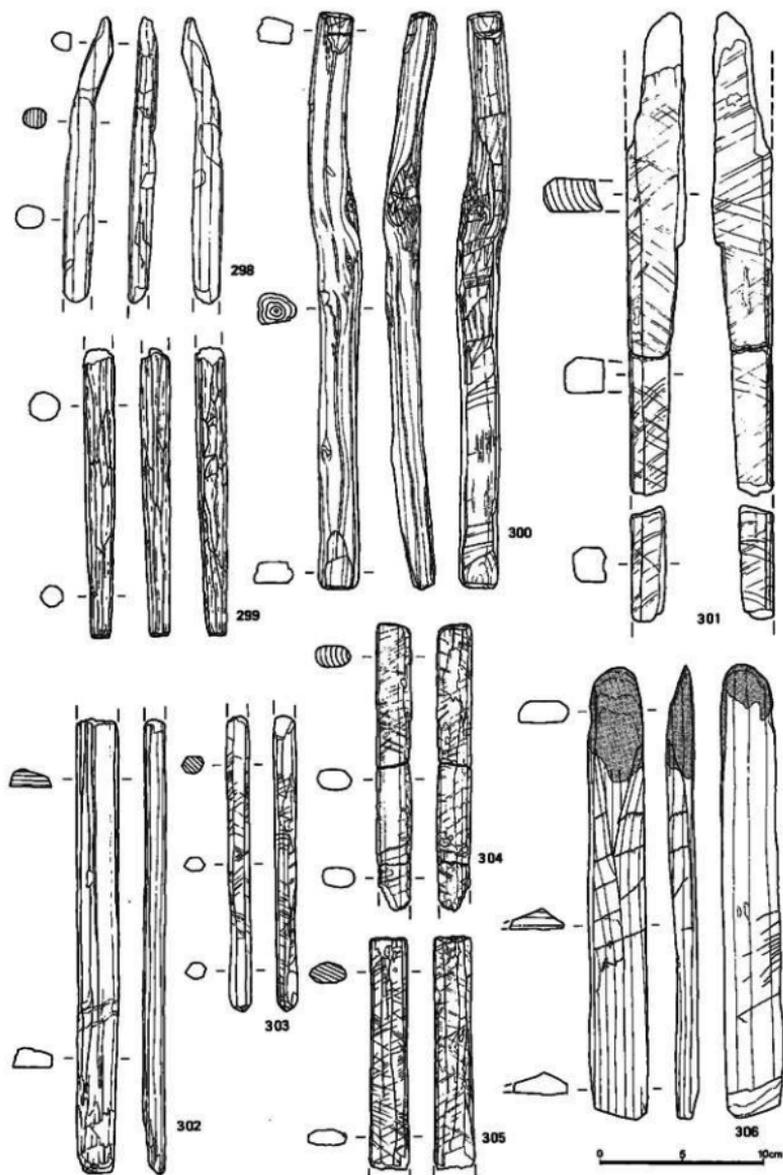
図V-70 A'地区木製品 34



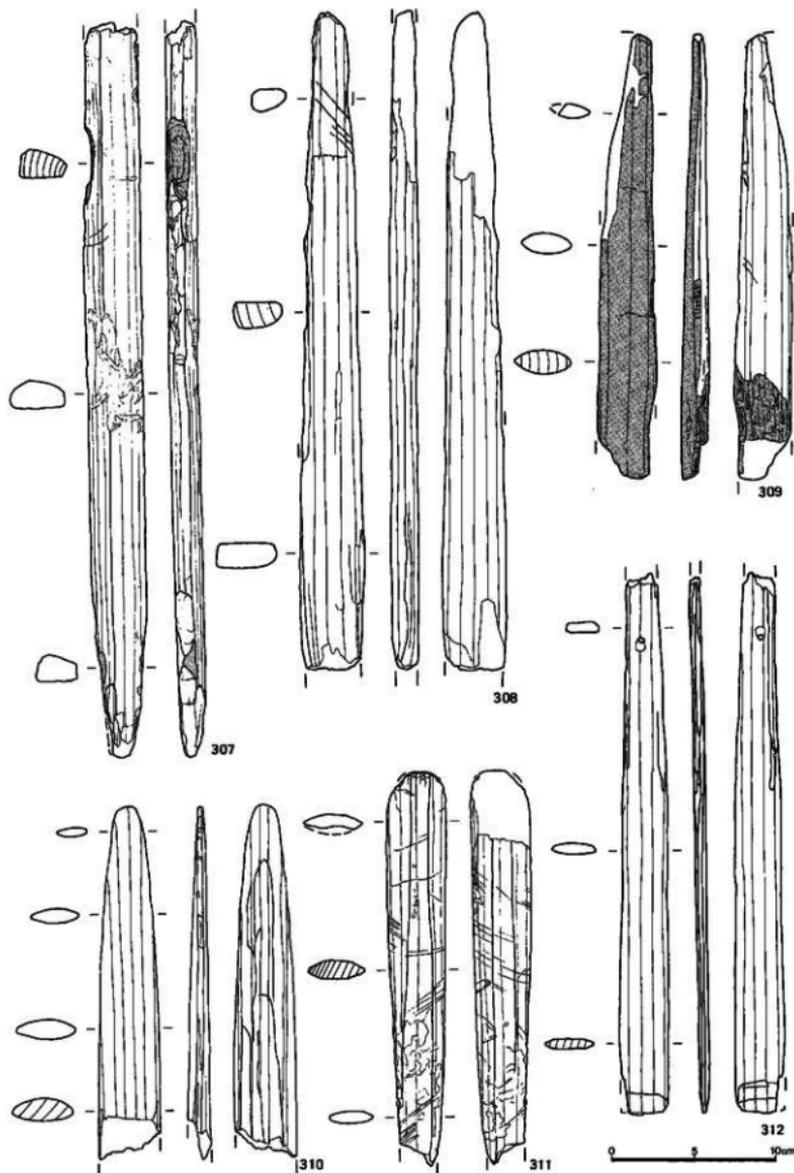
図V-71 A'地区木製品(39)



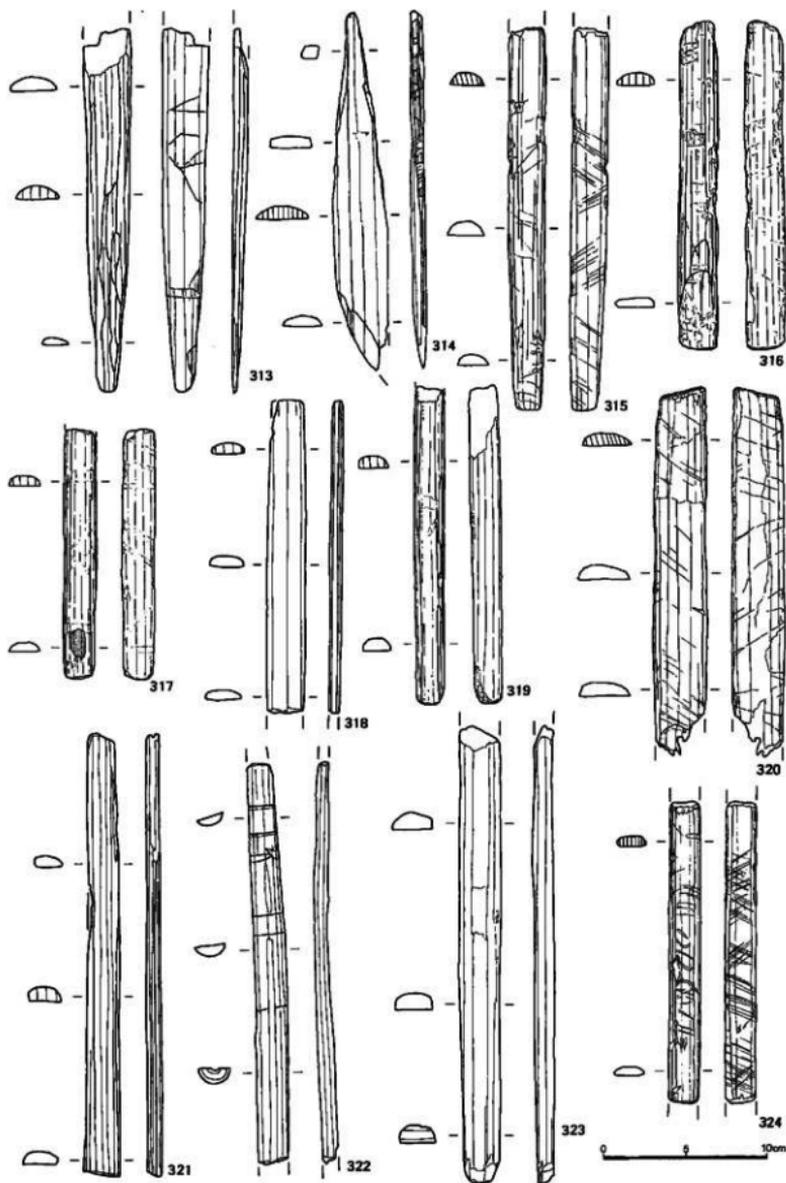
図V-72 A'地区木製品 (3)



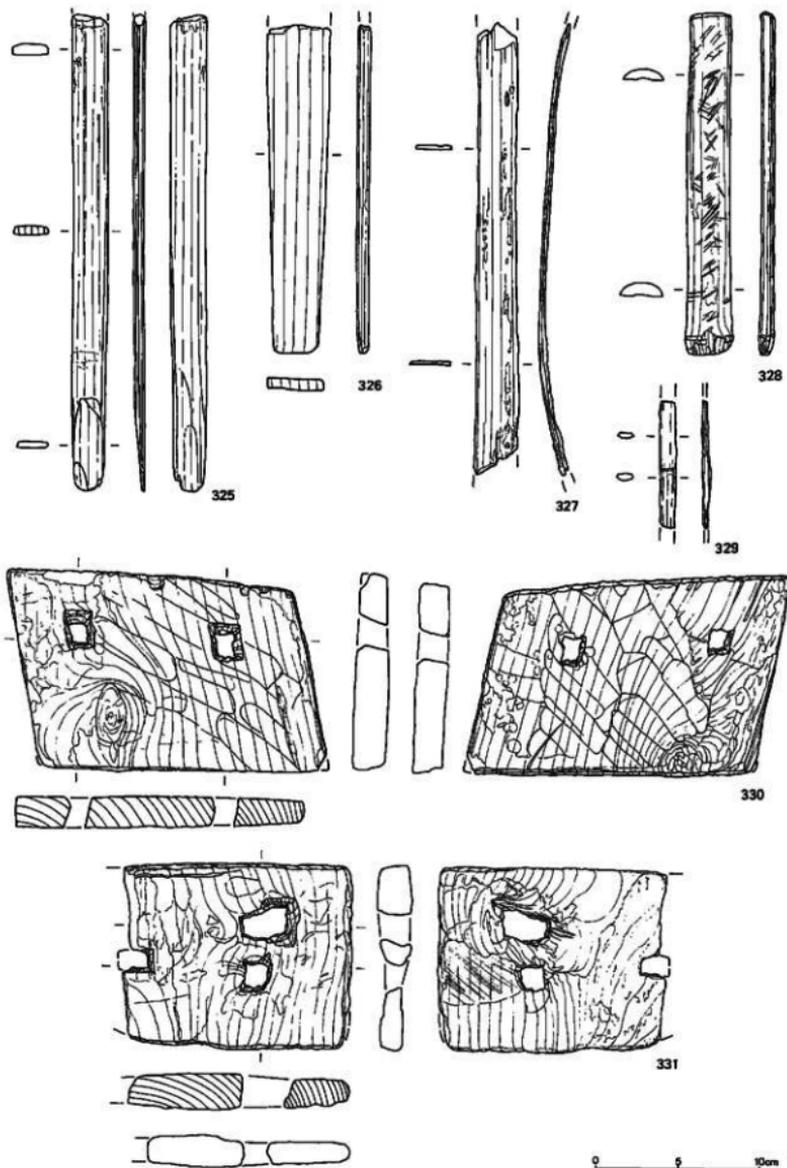
図V-73 A'地区の木製品 (7)



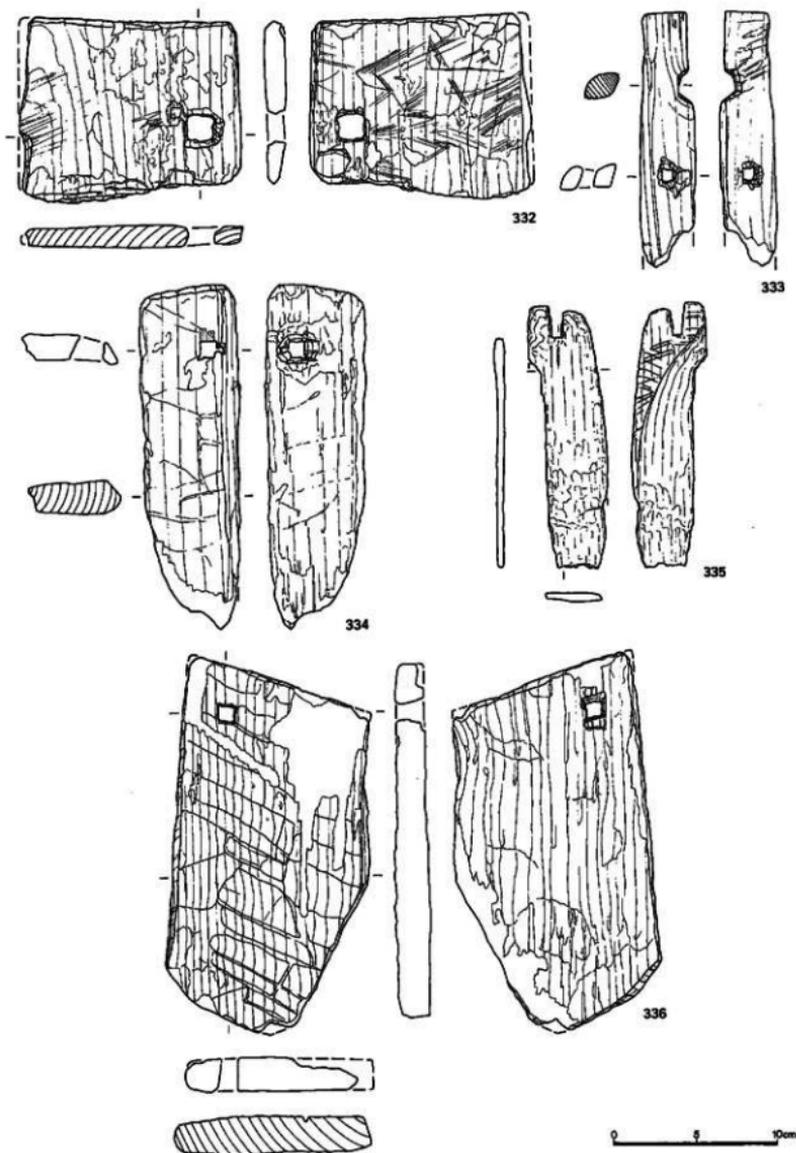
図V-74 A'地区木製品 ⑧



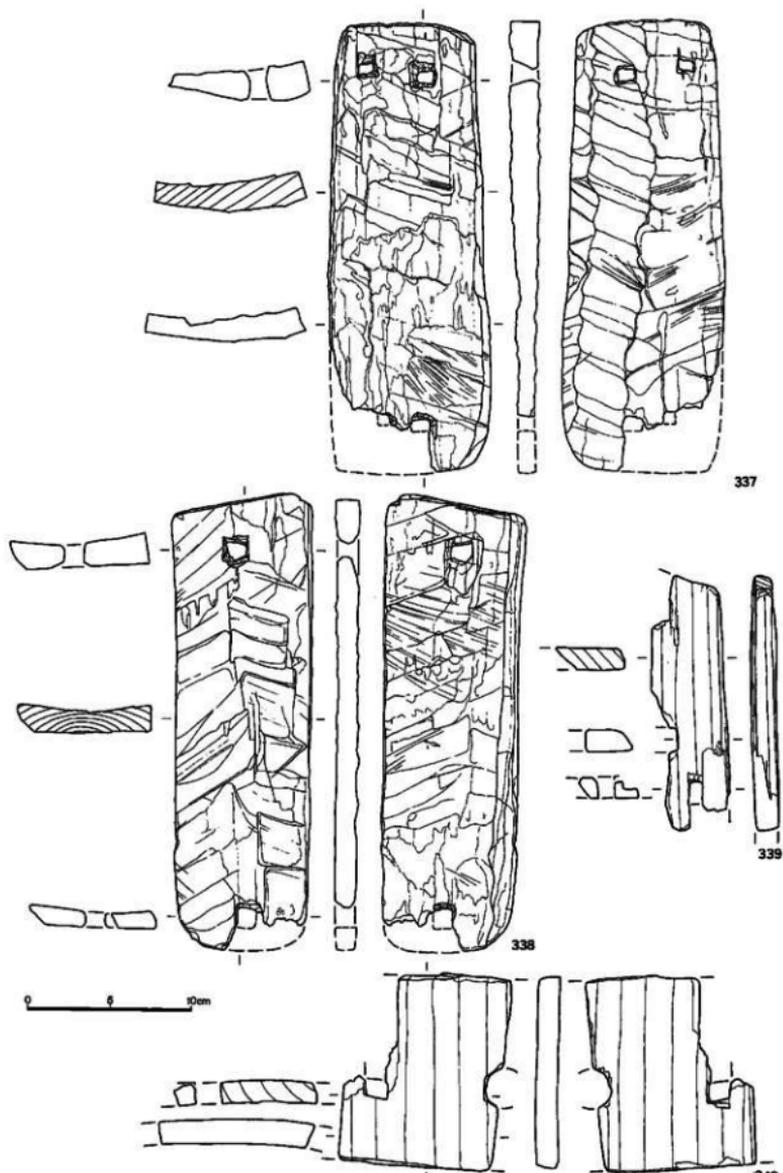
図V-75 A'地区木製品 (39)



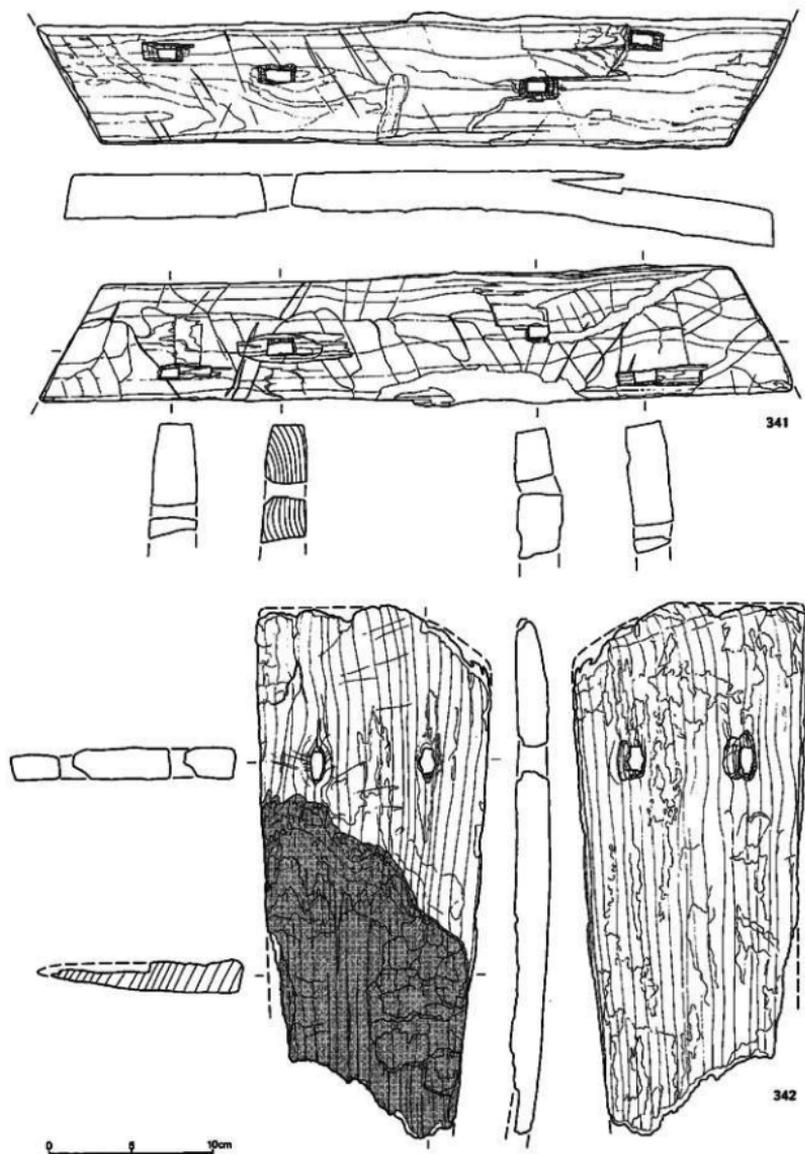
図V-76 A'地区木製品(40)



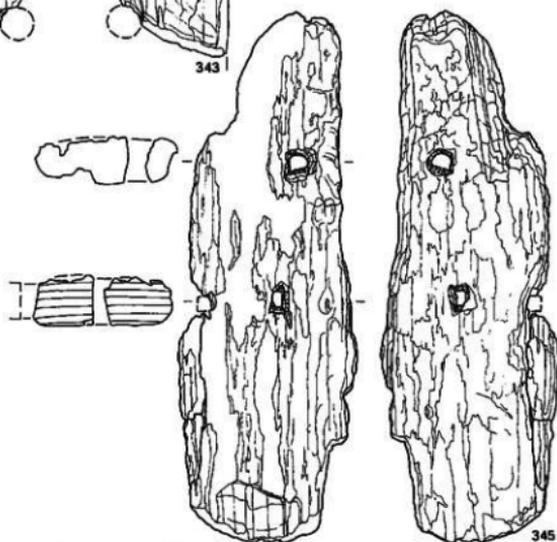
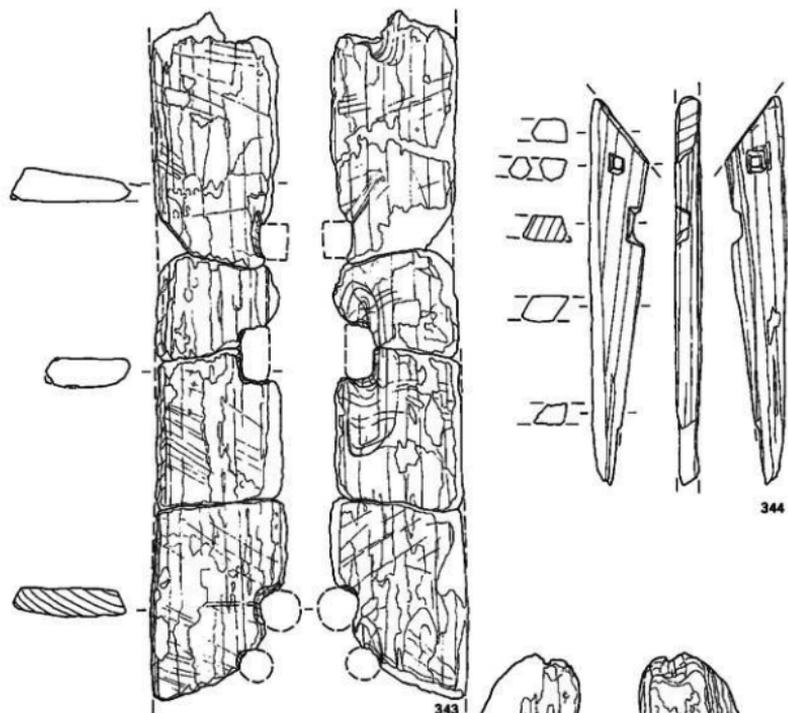
図V-77 A'地区木製品 (4)



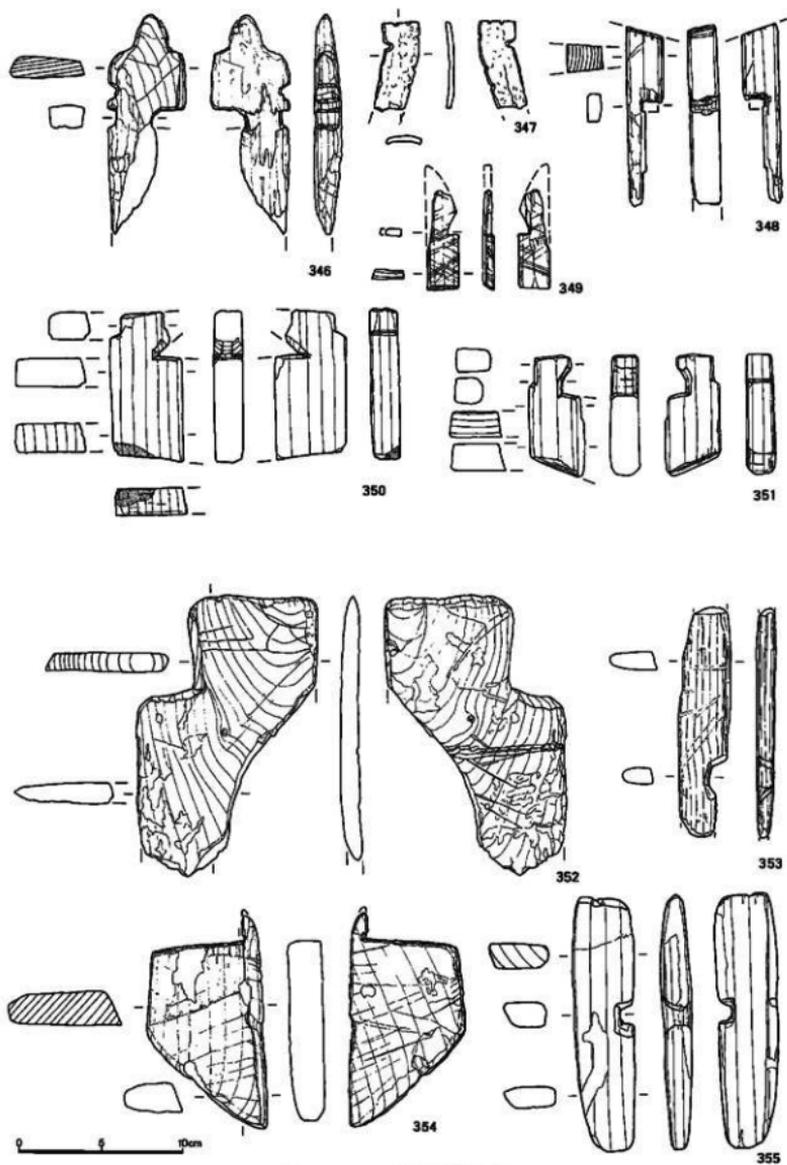
図V-78 A'地区木製品 (42)



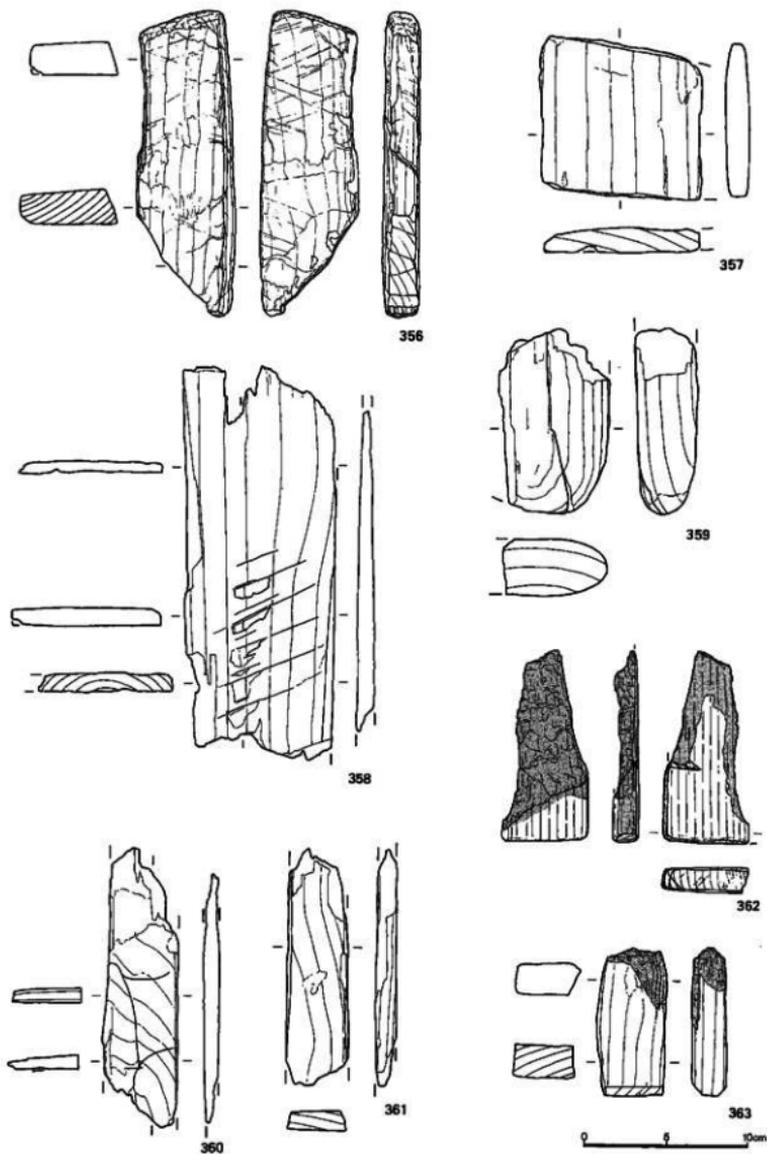
図V-79 A'地区木製品 (43)



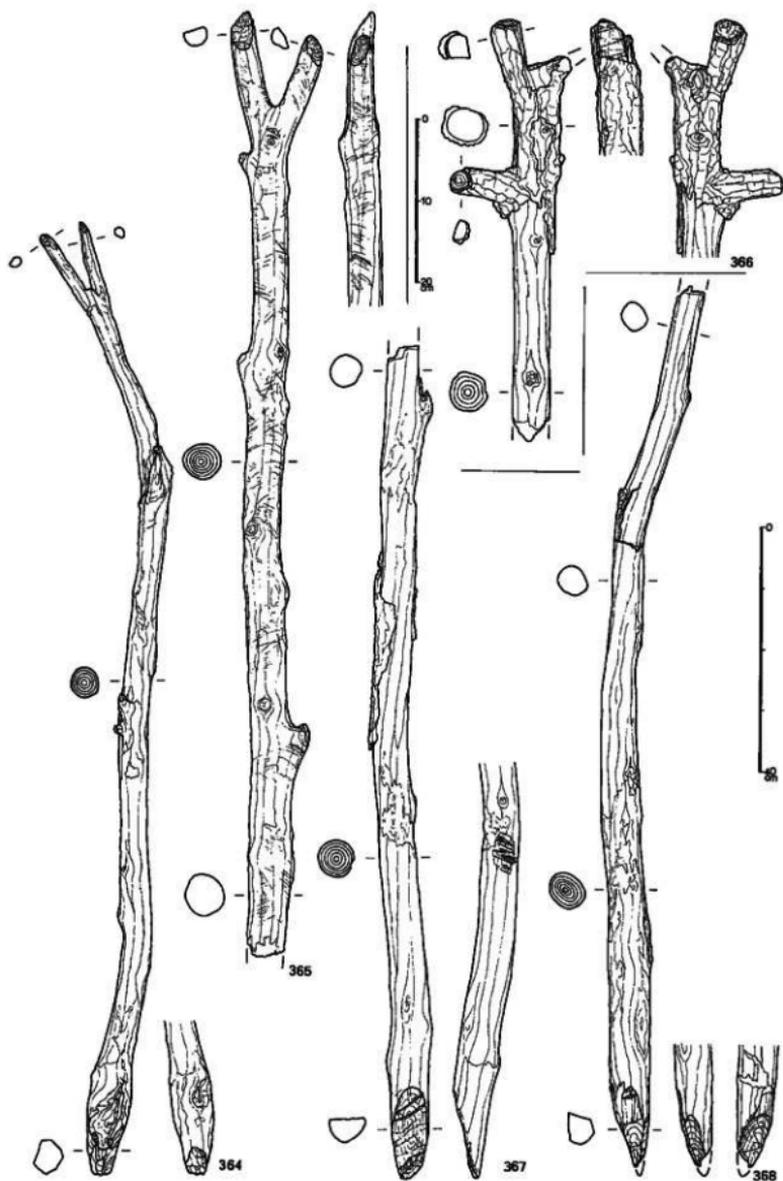
図V-80 A'地区木製品 (4)



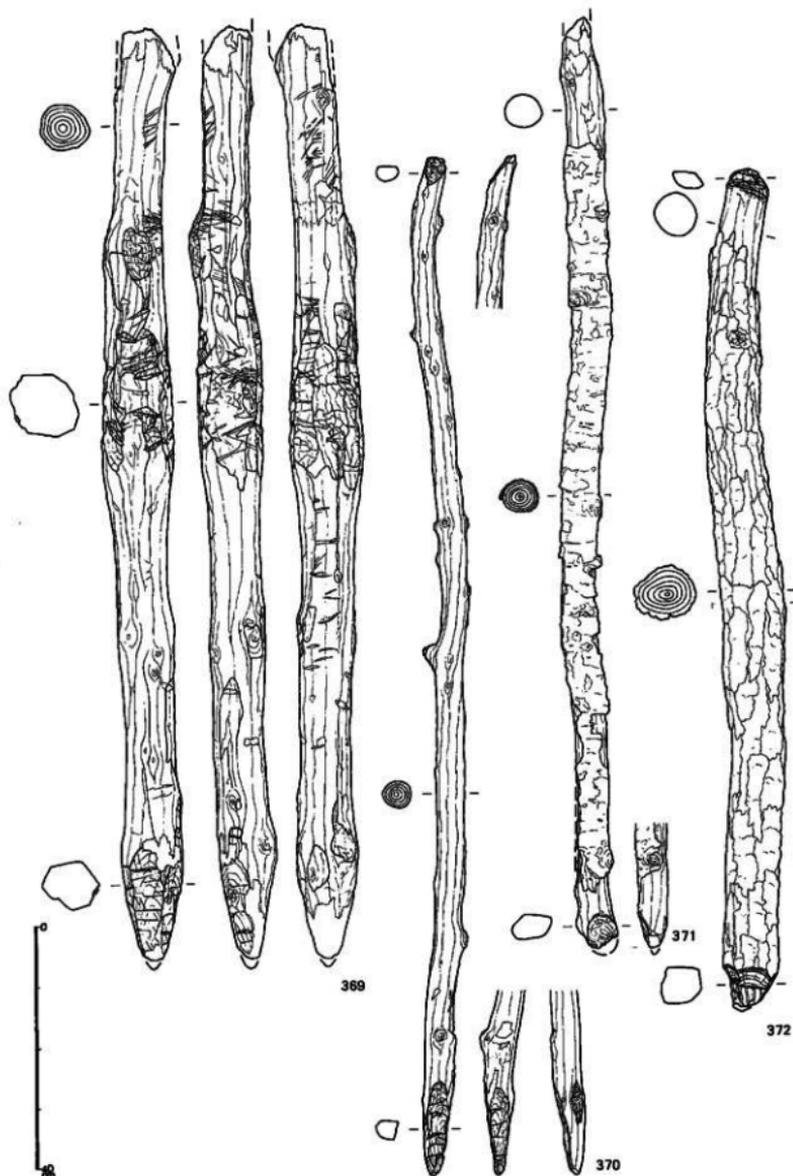
図V-81 A'地区木製品(49)



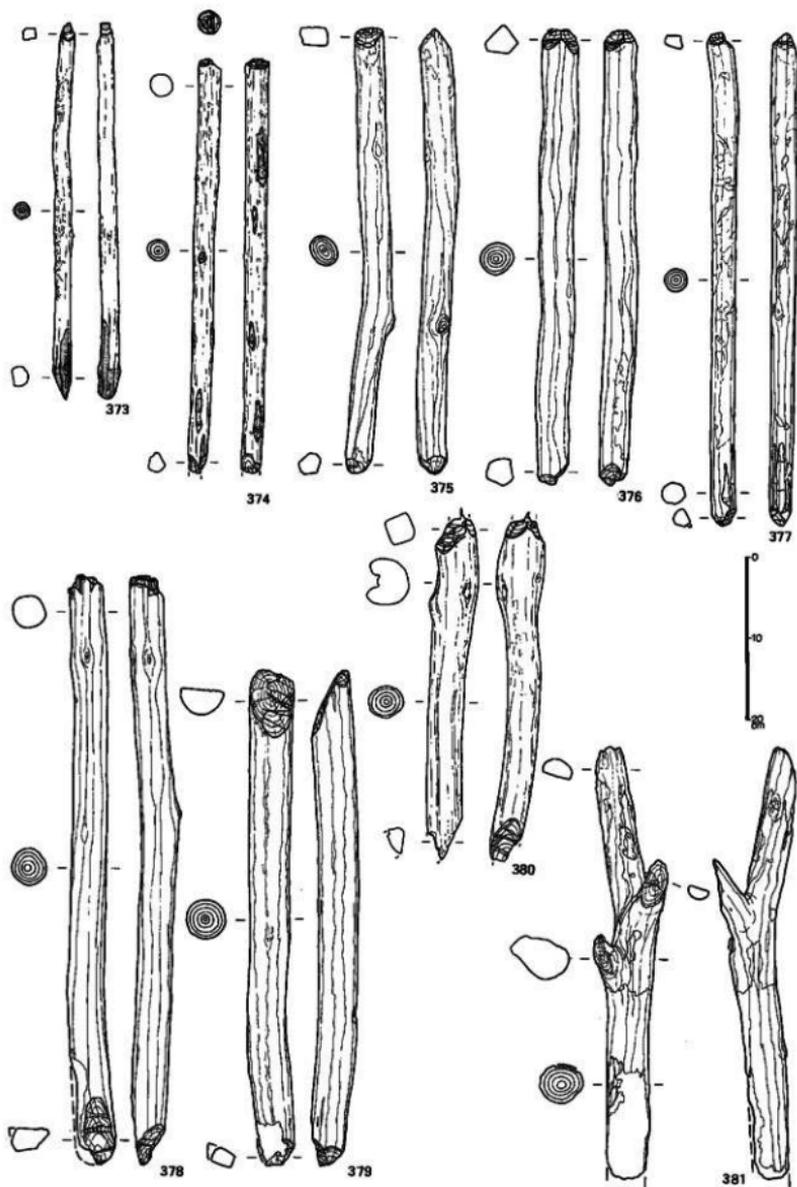
図V-82 A'地区木製品 (46)



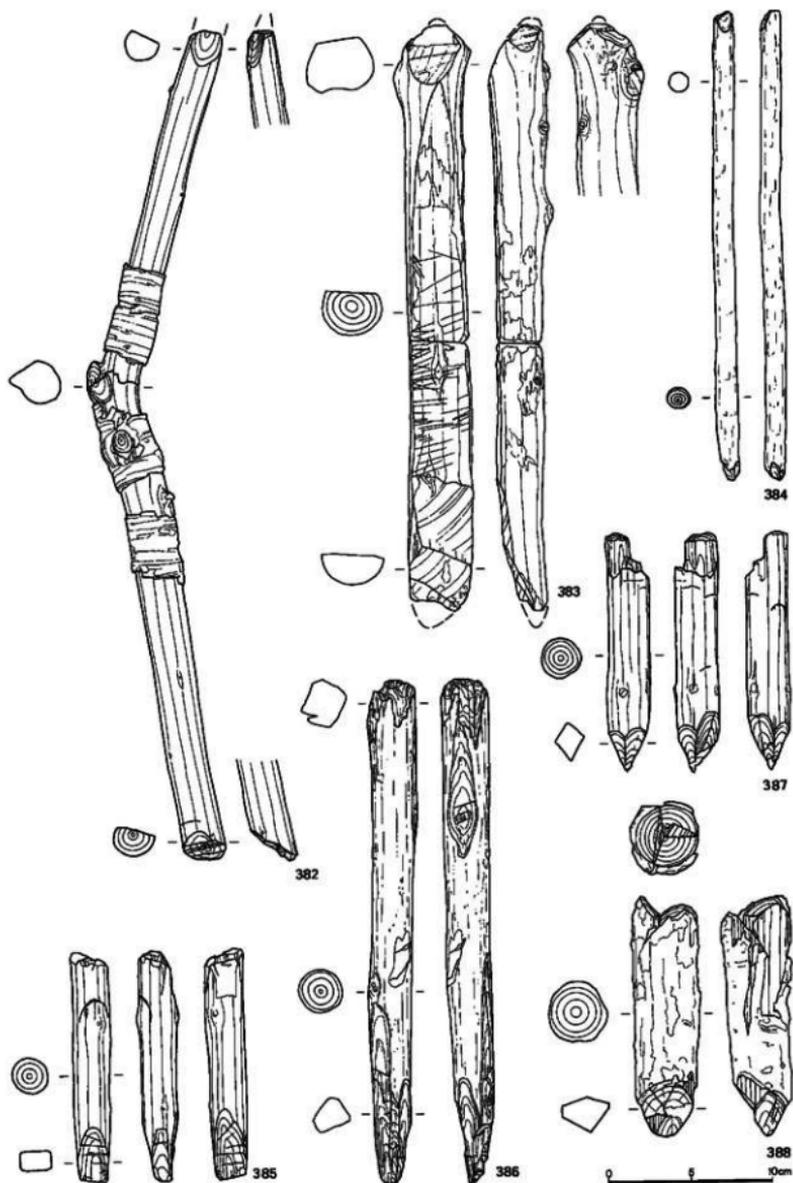
図V-83 A'地区木製品(47)



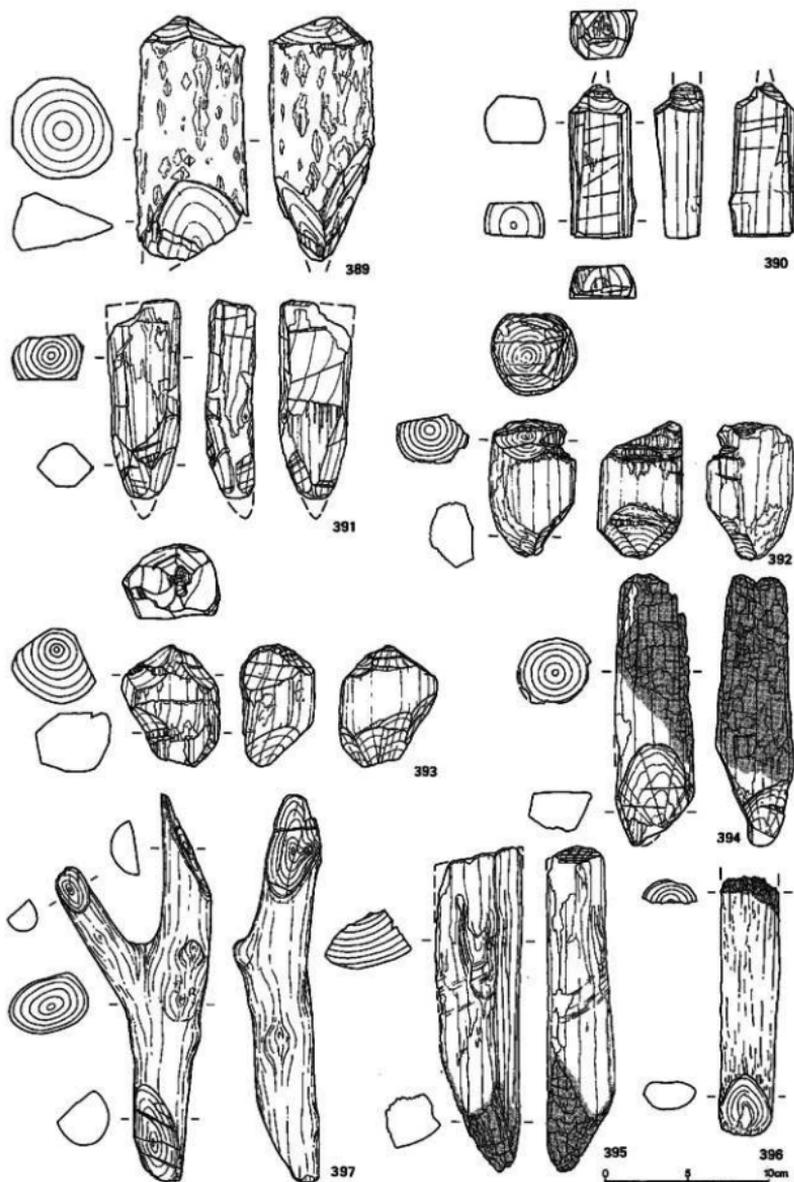
図V-84 A'地区木製品(4)



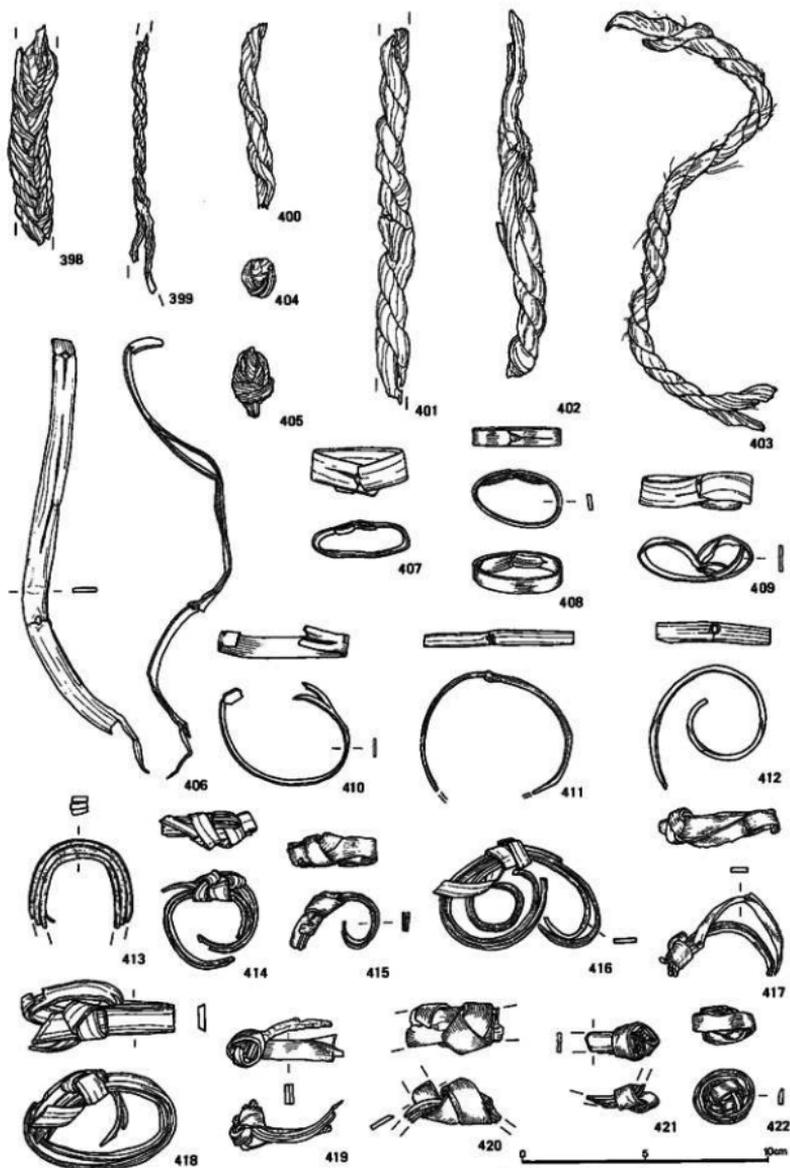
図V-85 A'地区木製品 (9)



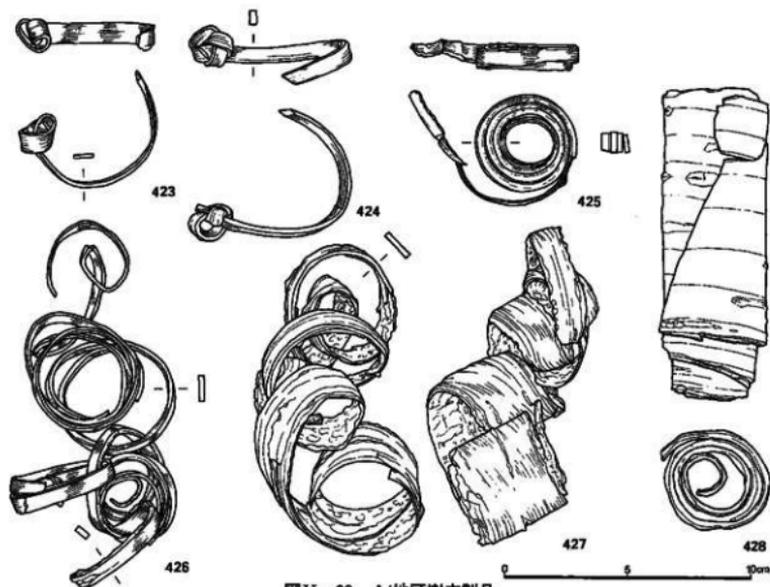
図V-86 A'地区木製品(5)



図V-87 A地区木製品(5)



図V-88 A'地区繊維製品・樹皮製品



図V-89 A'地区樹皮製品

縄・紐(398~405): 398 はみつあみ状に編み込んだもので、背負紐等の編み方と同様である。399 はLR 燃りの紐である。400~403 はLR 燃りの縄である。404・405 は縄の結目であり、下駄等の鼻緒の結目であろうか。

樹皮製品(406~428): 406~426 は細帯状樹皮で、大きく次の4種に分類できる。頭部挿入式(406~410)はコケン頭状に加工された端部を、菱形孔のあるスリットに挿入して環状とするものである。釘打込式(411~413)は樹皮の中央に細い木釘を打ち込んで、樹皮と対象物を固定するものである。413 は半損した三段重ねの樹皮であり、欠損部に釘穴があったと考えられる。また、頭部挿入式と併用する場合もあり、406 の中央には釘穴がある。結束式(414~424)は、対象物に樹皮を巻きつけて結び縛るものである。挟込式(425・426)は対象物に樹皮を巻きつけ、最後に巻いた樹皮の下に末端部を挟み込んで締め括るものである。426 の末端部は薄く加工されており、其の可能性がある。427・428 は太帯状樹皮である。427 は螺旋状に巻かれ、428 は筒状に巻かれている。その他に、先に説明した73のような煙火用あるいは着火・焚付用に使用された炭化樹皮や取上げ困難であったが動物状の樹皮もある。樹皮製の容器は現在のところ確認できていない。

漆器(429): カラー図版のため、図V-132に掲載した。四隅の角が一手切り(辺にたいして45°の角度で切落すこと)された折敷側板の角部分である。釘の残存する面が底との接合面となり、両側板との接合面は67.5°の角度で切落されている。内外面、口縁部には生漆の上に朱漆が塗重ねられており、各接合面の木質は露出している。(田口 尚)

表V-8 A地区箱載大製品 (1)

木器 部料 No	No	板 名	種 名	発 掘 区	取上 No	計測値 (cm)		樹皮 厚さ (R)	樹皮 灰	木取 樹種	点 数	備 考
						長さ	幅					
1	8246	76	樺	c-67-60-c-d	2	119.9	14.1	3.4	2064.0		3	樺木器部に文様とメカジの線刻画。箱部にイトノバ
2	8247	79	樺材部	c-67-50-d	G	(97.6)	(7.3)	2.3	664.0		2	水器部の層部のみが残存している。
3	8248	144	樺木器部片	c-66-49-d	G	(15.0)	(3.8)	2.1	40.0	○	1	段比した水器部層の片断である。
4	8249	189	樺木器部片	c-67-60-a	G	(38.2)	(4.1)	4.0	184.0		1	やや厚い水器部層の片断である。
5	8250	743	樺	c-67-50-60	30	175.6	6.5	2.5	1288.0		1	層の張り出さない水器部の層である。
6	8251	77	樺木器部	c-66-48-c	G	(70.1)	5.2	3.5	435.0		1	層の張り出さない水器部の層である。
7	8252	87	樺木器部	c-67-60-c	G	(54.7)	6.9	2.0	375.0		2	削り出し時の工具の刃跡が顕著である。
8	8253	203	樺木器部	c-66-59-c	G	(34.2)	9.6	1.6	326.4		1	削り出し時の工具の刃跡が顕著である。
9	8254	55	草摺部	c-67-60	G	(24.7)	(4.7)	3.2	126.0		1	軸差込部が幅広で、軸差込孔が2か所に認められる。
10	8255	143	草摺部	c-66-48-d	G	(35.8)	6.8	3.9	431.0		2	軸差込部が幅広で、軸差込孔が2か所に認められる。
11	8255	75	草摺部	c-67-60-a	192	(69.9)	(8.0)	3.3	1064.0		1	軸差込部が幅広で、軸差込孔から水器部にかけて欠損している。
12	8257	78	草摺部	c-66-59-b	G	(30.0)	(5.3)	3.1	336.0		1	柄部および軸差込孔から水器部にかけて欠損。
13	8258	18	草摺部	c-67-50-d	G	(11.9)	4.7	2.3	83.0		1	柄部および軸差込孔から水器部にかけて欠損
14	8259	49	樺材部	c-66-59-c	G	16.3	3.1	2.9	110.0		1	「I」字形。基部から二本の目釘が打ち込まれている。
15	8260	123	樺材部	c-66-48-b	G	(14.1)	7.6	3.1	111.0		1	「Y」字形。片側から目釘が1本、イトノバが埋まる。
16	8261	248	樺材部	c-67-60-a	G	(7.9)	2.4	2.8	24.7		1	「Y」字形。柄挿入部から反折している。
17	8262	51	余るか汲み	c-66-59-b	176	(17.8)	(12.0)	8.8	324.0		3	一木づくりで容積部から器部まで削り出している。
18	8263	109	余るか汲み	c-66-49-a	G	20.7	(14.9)	6.5	431.0	○	1	一木づくりで容積部を削り出している。器部は欠損。
19	8264	320	尖中部	c-67-60-d	G	(11.9)	1.0	1.2	8.9		1	基部を削りだし「Y」字形の向かって後々が埋まる。
20	8265	11	尖中部	c-66-59-b	115	12.3	1.0	1.0	8.0		1	基部が太く、尖部部に向かって後々が埋まる。
21	8266	312	尖中部	c-66-58-b	G	11.7	1.0	0.8	6.0		1	基部が太く、尖部部に向かって後々が埋まる。
22	8267	392	尖中部	c-66-49-c	G	11.1	0.8	0.6	3.0	1/4割	1	細い彫り部が顕著で、断面が角形である。
23	8268	351	尖部部	c-67-50-a	G	(12.3)	0.8	0.8	6.0		1	尖部の器部が「U」字形に挟られている。
24	8269	739	馬込入付製品	c-67-60-a	76	90.2	2.5	2.5	352.0		2	両端・中央部に挟りがある。面は少し平すずれている。
25	8270	194	挿入付Y字状製品	c-67-60-d	G	47.7	2.6	2.5	216.6		2	「Y」字状の各部部に挟りと面は少し平すずれている。
26	8271	219	挿入付半管製木製品	c-66-59-c	G	(17.4)	2.7	2.3	37.0		1	段分かれた材を半截し、下部部に挟り面を作出。
27	8272	84	筒形式蓋部	c-67-60-b	G	44.9	2.2	1.6	91.0		1	1本式の中筒部である。尖部部が埋まっている。
28	8273	83	筒形式蓋部	c-67-60-b	G	(46.0)	2.6	2.1	127.0		1	1本式の中筒部である。尖部部が折損している。

Gはグリッド数上げ。*は接合資料。※は中間部をわがかに欠損する。数値は推定値。

表V-9 A地区地域木製品(2)

原料 No	No	板 No	名	種	発掘区	取上 No	計測値 (cm)	樹皮量 (g)	樹皮 厚さ	木取 量	樹種	点 数	備	考
29	8274	307	回式製材場	中幹部	c-57-80-a	G	27.2, 1.6, 1.7	51.2		丸木	794	1	基部が切取された。1木式の中幹部である。	
30	8275	41	回式製材場	中幹部	c-57-80-d	G	23.5, 2.4, 1.3	32.0		板目	1420か?	1	二本組合せ式の中幹部である。基部に両目がある。	
31	8276	215	回式製材場	中幹部	c-67-80-a	G	(23.5), 2.8, 1.7	48.0		板目	794	1	二本組合せ式の中幹部である。基部に両目がある。	
32	8277	605	回式製材場	中幹部	c-67-80-a	G	22.8, 1.3, 1.1	16.0		板目	794	1	全体に磨耗しているが樹の圧縮が認められる。	
33	8278	663	回式製材場	中幹部	c-67-80-a	G	21.1, 1.4, 1.0	13.5		板目	794	1	根く削りだされたもので、全体に磨耗している。	
34	8279	595	回式製材場	中幹部	c-67-59-a	G	(15.1), 2.0, 1.2	17.4		半削	794	1	尖端部を欠損している。基部に決りがある。	
35	8280	240	回式製材場	中幹部	c-67-80-a	G	7.2, 1.0, 0.6	2.0		径目	24?	1	二本組合せ式の中幹部の片側である。イトノギがある。	
36	8281	92	回式製材場	中幹部	c-66-49-b	G	9.1, 3.0, 2.4	20.0		丸木	794	1	1柄(柄)の最後部に装着される。梢をひっかけた部分。	
37	8282	747	回式製材場	中幹部	c-66-59-b	118	189.7, 3.1, 3.1	1050.0		丸木	277	1	全体に磨耗しているがコクーン形状の加工がある。	
38	8283	70	集炭を削り直		c-66-59-b	G	35.0, 2.5, 2.3	125.0		板目	24?	1	右側部が削り加工され、端が打ち込まれている。	
39	8284	358	柄・棒との接合部		c-66-49-c	G	(22.8), 2.1, 1.3	31.5		半削	794	1	1柄(柄)に接合するための平断面と決りがある。	
40	8285	59	柄・棒との接合部		c-66-59-b	G	(21.9), 2.0, 1.4	36.0		半削	794	1	1柄(柄)に接合するための平断面と決りがある。	
41	8286	60	柄・棒との接合部		c-66-59-c	G	(23.7), 2.0, 1.8	46.0		径目	24?	1	1柄(柄)に接合するための平断面と決りがある。	
42	8287	554	柄・棒との接合部		c-66-59-b	G	(22.4), 2.2, 1.2	40.0		半削	27?	1	1柄(柄)に接合するための平断面と決りがある。	
43	8288	636	柄・棒との接合部		c-67-50-b	G	(11.5), 2.0, 1.2	15.8		半削	794	1	1柄(柄)に接合するための決り部から欠損している。	
44	8289	698	柄・棒との接合部		c-67-50-a	G	(22.9), 1.6, 1.6	36.2		丸木	24?	1	1柄(柄)に接合するための平断面がある。	
45	8290	553	柄・棒との接合部		c-66-59-b	G	15.3, 1.9, 1.6	23.0		1/4削	24?	1	1柄(柄)に接合するための平断面と決りがある。	
46	8291	100	柄・棒との接合部		c-66-48-c	G	29.5, 2.7, 1.2	63.0		径目	24	1	1柄(柄)に接合するための平断面がある。	
47	8292	270	柄・棒との接合部		c-67-49-c	G	(13.5), 1.8, 1.6	19.4		半削	24?	1	1柄(柄)に接合するための平断面と決りがある。	
48	8293	602	柄・棒との接合部		c-67-80-d	G	15.9, 2.4, 1.5	25.5		半削	24?	1	1柄(柄)に接合するための決り部から切取されている。	
49	8294	72	柄形本線		c-66-59-c	44	61.7, 21.0, 3.5	495.0	○	段木	1420か?	1	段木の技術に先細部を作出し、幹線を削っている。	
50	8295	71	柄形本線		c-66-59-c	G	31.7, 18.6, 3.7	298.0		段木	277	1	丹念に表面加工している。断面を欠損している。	
51	8296	56	柄形本線		c-67-50-a	G	(16.6)(15.1), 3.2	182.0		段木	1420	1	1柄頭側の破片である。	
52	8297	811	小刀柄		c-67-50-b	G	(7.4), 2.5, 1.3	11.1		径目	1024?	1	柄頭側の破片である。	
53	8298	9	小刀柄		c-66-59-c	G	(4.6), 3.1, 1.4	11.0		径目	24?	1	柄頭側の破片である。	
54	8299	192	小刀柄		c-66-59-b	G	10.0 (4.3), 0.8	18.0		径目	277	1	1表面に巴文線が刻まれている。	
55	8300	40	小刀柄皮鉄鞘		c-67-60-d	180	15.5, 5.6, 4.1	31.0		樹皮	277	1	樹皮を折ね、編組したものである。	
56	8301	21	鞘部材		c-67-60-a	117	29.9, 6.4, 1.0	155.0		径目	24?	1	1線が六角形の嵌材。鞘材が折れ曲がる部分がある。	

表 V-10 A 地区埋蔵木製品 (3)

器種 No	木器 No	板 No	名	称	発掘区	取上 No	計測値 (cm)	重量 (g)	樹皮	炭	木取	構造	点数	備	考
57	8302	16	薪割物部		c-66-59-b	G	長さ 14.5, 幅 3.3, 厚さ 2.1	35.0			板目	2桁	1	表面の前面部にイトノミ状の削みがある。	
58	8303	50	薪紐		c-67-59-a	G	(14.1)(15.0)	5.8	54.0		丸木	1桁	1	梢端式。表面は角形である。梢はスギ?	
59	8304	147	薪紐		c-67-59-b	G	6.6, 16.8, 6.5	418.0			丸木	1桁	1	梢端式。表面の断面は角形である。	
60	8305	102	薪紐		c-67-59-d	G	(16.5)(13.0)	4.8	292.0		板目	3桁	1	板木利用式。幹樹を薄板、枝を幹部としている。	
61	8306	208	薪紐		c-66-59-a-b	G	(13.8)	13.3	5.0	238.0	板目	2桁	1	板木利用式。幹樹を頭部、枝を幹部としている。	
62	8307	88	炭		c-66-59-b	G	34.1, 7.0, 6.8	795.0			丸木	1桁	1	板状に面取り加工している。	
63	8308	135	朽木 (作葉台)		c-67-59-b	G	23.4, 9.1, 7.1	831.0			丸木	1桁	1	板状に加工されており、平面部に刃部が多数残存。	
64	8309	195	朽木 (作葉台)		c-67-59-d	G	(26.6)	10.5	4.9	1010.0	板目	1桁	1	中央部に刻み方向の深い凹み部が多数残存。	
65	8310	2-234	木製燧火具		c-66-59-b	G	(7.8)	1.5	1.4	7.9	板目	3桁	2	角棒状である。ヒキリウスは4が折にある。	
66	8311	126	木製燧火具		c-67-59-c	G	(1.6)	1.1	1.2	1.0	板目	1桁	1	角棒状である。凹部2か所のヒキリウスを平掘。	
67	8312	46	炉駒		c-67-60-d	G	17.7, 3.2, 1.6	50.0			板目	2桁	2	上部にコケシ類状の結晶部がある。	
68	8313	53	炉駒		c-66-59-c	G	(25.8)	5.5	3.1	146.0	板目	3桁	1	上部部を欠損し、下部部の表面が炭化している。	
69	8314	579	炉駒		c-66-59-c	G	(14.8)	3.1	1.7	23.2	板目	3桁	1	板木材を利用。側面に並行部がある。	
70	8315	103	炉駒		c-67-60-a	G	34.2, 5.7, 3.5	194.0			板目	2桁	1	板木材を利用。上部部は炭化。	
71	8316	199	炉駒		c-66-59-c	G	(33.3)	5.0	3.1	285.2	板目	1桁	1	上部部欠損。下部部を板状に加工。側につぶれがある。	
72	8317	108	挿入竹有孔板製品		c-66-59-a	G	27.3, 5.3, 3.0	272.0			板目	1桁	1	上部に角孔が穿孔されており、下部に側部からの抉り。	
73	8318	196	聖火筒筒状燧皮		c-67-59-d	G	11.6, 3.5, 2.1	16.0			板目	1桁	1	燧皮を筒状に穿孔し、上部が炭化している。	
74	8319	65	聖火筒燧皮燧木		c-67-60-a-d	G	41.7, 5.4, 4.7	412.0			丸木	2桁	1	平面部を作出。燧皮は部分に炭を染み込んでいる。	
75	8320	754	聖火筒燧皮燧木		c-66-48-b	G	(44.6)	5.4	5.6	544.0	丸木	1桁	2	燧皮は部分の内外が炭化している。	
76	8321	288	聖火筒燧皮燧木		c-67-70-b	G	(59.7)	3.8	3.8	332.0	丸木	3桁	4	燧皮は部分の上部が炭化している。	
77	8322	755	聖火筒燧皮燧木		c-66-48-b	G	(41.4)	6.1	4.8	584.0	丸木	1桁	8	燧皮は部分の内面から外に掛けられている。	
78	8323	583	有孔棒状製品		c-66-59-a	G	(7.7)	1.5	1.5	11.2	丸木	1桁	1	両端部に抉りと穿孔の痕跡がある。	
79	8324	45	有孔板製品		c-67-60-a	G	18.2, 3.3, 1.7	72.0			板目	3桁	1	両端部に円孔が穿孔されている。	
80	8325	90	曲物・折燧片		c-67-60-d	G	(65.9)(9.1)	0.8	284.0	板目	3桁	2	細長い燧皮目録の破片である。		
81	8326	13	曲物・折燧片		c-66-59-b	G	(6.0)	(6.6)	0.8	26.0	板目	1桁	1	角の一角取りされた板状燧皮が縫い込まれている。	
82	8327	585	曲物・折燧片		c-66-59-c	G	(11.7)	3.9	0.8	15.7	板目	3桁	1	細長い燧皮目録の破片である。側面に本釘が残存する。	
83	8328	572	曲物・折燧片		c-66-59-b	G	(13.6)	(2.4)	0.5	10.9	板目	1桁	1	細長い燧皮目録の破片である。上部に本釘が残存する。	
84	8329	375	曲物・折燧片		c-66-48-a	G	(12.5)	7.6	1.0	75.0	板目	1桁	1	燧皮目録の側面に釘穴が1か所残存する。	

表V-11 A'地区埋蔵木製品(4)

木器 部材 No	飯 名	発 掘 区 名	取上 No	計 測 値 (cm)		埋 藏 量 (g)	樹 種	木 取 材	樹 種	点 数	備 考
				長	幅						
85	8320	230	G	(11.8)	1.5	0.6	10.8	楮目	?	1	側面に木釘が2か所残存する。
86	8331	48	G	20.2	(4.1)	0.6	43.0	楮目	杉?材?	1	表面に削り筋が顕著。
87	8332	289	G	(12.0)	3.8	0.5	17.4	楮目	?	1	下端部の角が削り落されている。
88	8333	301	G	12.7	4.3	1.0	31.7	楮目	?	1	両側部が滑着している。側面に木釘1か所。
89	8334	214	G	23.7	6.8	1.3	144.0	楮目	ヒヤク材?	1	1枚の穿孔がある。側面に木釘穴3か所。
90	8335	155	G	22.0	4.8	1.5	103.0	楮目	杉?	1	側面に木釘穴が2か所。残存する木釘はタケ?
91	8336	164	G	19.2	3.3	1.2	52.0	楮目	杉?	1	側面に木釘穴が2か所。
92	8337	97	G	(22.2)	5.1	1.4	112.0	楮目	杉?材?	1	両側部が滑着している。
93	8338	98	G	32.2	4.5	1.5	180.0	楮目	杉?	1	表面が炭化。側面に木釘穴2か所。側面に木釘穴2か所。
94	8339	136	G	29.8	7.7	1.7	280.0	楮目	杉?	1	表面が炭化。側面に木釘穴2か所。側面に木釘穴2か所。
95	8340	233	G	(8.6)	1.0	0.3	5.4	楮目	ヒヤ?	1	細い棒状に加工されたもの。側面に木釘穴2か所。
96	8341	223	G	(14.5)	1.7	1.5	24.5	楮目	杉?	1	細い棒状に加工されたもの。残存する目釘はタケ?
97	8342	82	G	14.2	12.2	3.0	269.0	楮目	杉?材?	1	表面は粗い削り面。下端面に加工されたもの。側面に木釘穴1か所。
98	8343	182	G	11.7	1.7	1.5	23.9	楮目	杉?	1	細い棒状に加工されたもの。側面に木釘穴1か所。
99	8344	85	G	(21.8)	5.2	1.8	130.0	楮目	杉?	1	両側部との隙間が著しい。側面に木釘穴2か所。
100	8345	354	G	11.2	3.3	1.0	25.4	楮目	?	1	下端面が切端されている。
101	8346	233	G	(8.4)	4.0	0.7	15.8	楮目	?	1	側面の口縁部が破片。下端面が切端されている。
102	8347	617	G	(6.0)	3.8	0.6	11.8	楮目	ヒヤ?	1	側面の口縁部が破片。下端面が切端されている。
103	8348	12	G	9.1	6.9	1.4	33.0	楮目	ヒヤ?材?	1	側面の口縁部が破片。内面の削り筋顕著。上端面が炭化。
104	8349	267	G	(25.0)	6.9	1.0	83.4	楮目	?	1	表面が磨削している。口縁部が炭化となっている。
105	8350	287	G	(24.6)	8.0	1.1	129.9	楮目	杉?	1	口縁部が磨削している。口縁部が炭化となっている。
106	8351	359	G	(17.2)	(5.0)	1.1	69.4	楮目	杉?	1	下端面が磨削し、欠損している。
107	8352	350	G	6.3	2.9	0.9	12.5	楮目	杉?材?	1	口縁部を炭して斜めに切端している。
108	8353	351	G	5.4	3.6	1.0	13.5	楮目	杉?	1	口縁部を炭して斜めに切端している。
109	8354	568	G	6.5	2.9	1.2	15.5	楮目	杉?材?	1	口縁部を炭して斜めに切端している。
110	8355	234	G	4.9	(3.7)	1.0	11.0	楮目	杉?	1	口縁部を炭して斜めに切端している。
111	8356	114	G	13.6	23.3	1.8	81.0	丸木	杉?	1	丸木の側面に決りがある。
112	8357	22	G	(21.1)	8.6	1.6	133.0	楮目	杉?	1	両側の狭り部分を欠損している。

表V-13 A'地区挿木製品(6)

製材 No	No	板 名	特 符	発掘区 No	取上 No	計測値 (cm)		樹皮 厚さ	樹皮 重量 (g)	木取 率	樹皮 形状	点 数	備 考
						長さ	幅						
141	8386	306	挿木製品	c-67-60-a	G	(30.0)	1.3	1.0	22.2		板目	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は楕円形の角形.
142	8387	520	挿木製品	c-67-60-b	G	23.9	0.9	0.7	11.9		板目	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は楕円形.
143	8388	25	挿木製品	c-66-59-c	G	23.9	0.8	0.8	9.0		1/4割	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は三角形.
144	8389	680	挿木製品	c-66-59-b	G	25.6	0.8	0.7	8.4		板目	2	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は六角形.
145	8390	403	挿木製品	c-67-60-a	G	23.7	1.0	0.8	9.0		1/4割	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は三角形.
146	8391	101	挿木製品	c-66-48-c	G	22.9	0.6	0.7	7.0		板目	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は楕円形.
147	8392	655	挿木製品	c-67-60-c	G	15.2	0.6	0.6	2.8			1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は五角形.
148	8393	647	挿木製品	c-67-60-a	G	16.3	0.7	0.7	5.7			1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は六角形.
149	8394	548	挿木製品	c-67-60-c	G	18.4	0.8	0.6	5.9		1/4割	2	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は台形.
150	8395	607	挿木製品	c-67-60-a	G	21.5	0.8	0.8	7.5			1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は円形.
151	8395	402	挿木製品	c-66-49-c	G	22.2	0.8	0.7	7.8		1/4割	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は三角形.
152	8397	417	挿木製品	c-67-50-c	G	22.9	0.8	0.8	8.2		板目	1	A ₁ : 葉の両口葉, 断面は角形.
153	8398	99	挿木製品	c-67-60-c	G	26.9	1.2	0.9	15.0		半割	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は六角形.
154	8399	418	挿木製品	c-67-50-b	G	24.2	0.9	0.7	11.2		1/4割	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は楕円形.
155	8400	183	挿木製品	c-67-60-d	G	22.3	0.9	0.7	10.0		1/4割	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は楕円形.
156	8401	415	挿木製品	c-67-70-b	G	18.6	0.7	0.7	6.2		板目	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は三角形.
157	8402	644	挿木製品	c-66-49-b	G	17.0	0.8	0.7	5.4		板目	2	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は角形.
158	8403	638	挿木製品	c-66-48-b	G	20.4	1.3	1.1	14.8		板目	2	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は三角形.
159	8404	623	挿木製品	c-67-60-c	G	21.8	1.5	1.3	34.5		丸木	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は三角形.
160	8405	586	挿木製品	c-66-59-b	G	22.9	1.2	1.0	15.2		板目	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は角形.
161	8406	28	挿木製品	c-66-69-b	G	24.6	1.0	0.9	15.0		板目	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は六角形.
162	8407	128	挿木製品	c-67-70-c	G	27.9	1.0	0.7	14.0		板目	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は楕円形の角形.
163	8408	205	挿木製品	c-67-60-c	G	31.0	0.9	0.8	15.0		板目	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は楕円形.
164	8409	689	挿木製品	c-67-60-d	G	13.3	0.8	0.8	3.6			1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は角形.
165	8410	666	挿木製品	c-67-60-d	G	(18.2)	0.9	0.8	9.1		1/4割	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は角形.
166	8411	592	挿木製品	c-67-50-a	G	21.8	1.3	1.0	16.0		1/4割	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は五角形.
167	8412	654	挿木製品	c-67-60-c	G	22.2	1.0	0.8	10.1		1/4割	2	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は楕円形.
168	8413	658	挿木製品	c-66-59-b	G	23.9	0.8	0.8	11.6		板目	1	B ₁ : 葉の片口葉, 断面は楕円形.

表V-14 A'地区掘削木製品(7)

木器 No	木器 No	名	種	発掘区	取上 No	計測値 (cm)	重量 (g)	樹皮 皮厚	鋸 目	水取 目	側 溝	点 数	備	考
						長さ 幅 厚さ								
169	8414	545	箸状製品	c-67-60-a	G	31.0 0.8 0.7	8.3		板目			1	B, 裏の片口箸, 断面は楕円形。	
170	8415	566	箸状製品	c-67-60-c	G	37.4 1.0 1.0	17.8		1/4割			1	B, 裏の片口箸, 断面は三角形。	
171	8416	643	箸状製品	c-66-49-b	G	33.8 1.2 1.1	19.1		1/4割			1	B, 裏の片口箸, 断面は楕円形。	
172	8417	63	箸状製品	c-67-60-d	G	32.3 0.9 0.8	13.0		1/4割			1	B, 裏の片口箸, 断面は三角形。	
173	8418	657	箸状製品	c-67-60-c	G	31.9 1.3 1.2	19.0		1/4割			4	B, 裏の片口箸, 断面は三角形。	
174	8419	661	箸状製品	c-67-60-a	G	(42.3) 1.0 0.9	10.2		板目			1	B, 裏の片口箸, 断面は五角形。	
175	8420	684	箸状製品	c-66-49-b	G	35.9 0.9 0.9	13.1		板目			3	B, 裏の片口箸, 断面の上側は角形, 先端部八角形。	
176	8421	668	箸状製品	c-67-60-b	G	(10.7) 0.9 0.8	3.8		丸木			1	D, 裏の先端部が鋭先状のもの, 断面は円形。	
177	8422	589	箸状製品	c-67-60-a	G	(10.8) 0.8 0.7	4.1		板目			1	D, 裏の先端部が鋭先状のもの, 断面は角形。	
178	8423	333	箸状製品	c-67-60-c	G	(11.1) 0.8 0.6	3.3					1	D, 裏の先端部が鋭先状のもの, 断面は七角形。	
179	8424	718	箸状製品	c-66-48-c	G	(7.5) 0.6 0.5	1.9		板目			1	D, 裏の先端部が鋭先状のもの, 断面は五角形。	
180	8425	677	箸状製品	c-67-60-c	G	(11.3) 0.8 0.7	4.0		板目			1	箸状製品の両端部を大横, 斜めに二本の筋線がある。	
181	8426	550	単状製品	c-67-60-b	G	17.8 0.6 0.6	4.1		板目			2	A, 裏, 鋭角鼻状に削り。	
182	8427	587	単状製品	c-67-60-a	G	(23.5) 1.6 1.3	29.9		板目			1	B, 裏, 断面は五角形, 先端部のみ粗く削りです。	
183	8428	213	単状製品	c-66-59-c	G	23.8 1.2 0.6	12.0		板目			1	B, 裏, 断面は五角形。	
184	8429	686	単状製品	c-67-60-a-d	G	(31.7) 1.3 0.7	21.8		板目			3	B, 裏, 断面は五角形, 先端部斜めに削り。	
185	8430	639	単状製品	c-66-48-b	G	(42.7) 1.7 0.7	58.5		板目			3	B, 裏, 断面は五角形, 断面は鋭角。	
186	8431	39	単状製品	c-67-60-a	G	(22.1) 1.0 0.7	9.0		板目			1	C, 裏, 先端部が二面削りで粗い野もの, 断面は五角形。	
187	8432	667	単状製品	c-66-59-a	G	31.6 1.6 1.5	38.6		板目			1	C, 裏, 先端部が二面削りで粗い野もの, 断面は五角形。	
188	8433	618	単状製品	c-67-60-b	G	(23.5) 1.0 0.7	8.8		板目			2	D, 裏, 断面は楕円形, 先端は舌先状の形。	
189	8434	676	単状製品	c-66-59-b	G	(23.0) 1.2 0.9	18.6		板目			1	D, 裏, 断面は楕円形, 先端は舌先状の形。	
190	8435	685	単状製品	c-67-60-c	G	(18.9) 0.8 0.4	4.0		板目			3	D, 裏, 断面は楕円形, 先端は舌先状の形。	
191	8436	273	単状製品	c-66-48-b	G	(61.0) 3.7 1.9	200.0		板目			3	D, 裏, 断面は楕円形, 先端は舌先状の形。	
192	8437	687	単状製品	c-66-59-a-b	G	72.5 1.6 0.9	64.4		半割			3	B, 裏, 断面は半円形, 先端は舌先状の形。	
193	8438	664	単状製品	c-67-60-a	G	(20.0) 1.6 0.8	15.7		半割			1	B, 裏, 断面は半円形, 先端は舌先状の形。	
194	8439	621	単状製品	c-67-60-c	G	(27.9) 1.3 0.8	15.0		1/3割			1	F, 裏, 断面は扁平な多角形。	
195	8440	365	単状製品	c-66-49-c	G	(20.6) 1.1 0.8	10.1		板目			1	F, 裏, 断面は扁平な多角形。	
196	8441	671	単状製品	c-66-49-c	G	(29.7) 1.6 1.0	26.4		1/6割			1	F, 裏, 断面は扁平な多角形。	

表V-15 A地区箱靴木製品(8)

品目 No	木種 No	板 No	名	係	発着区	取上 No	計測値 (cm)		通量 (g)	横 皮	焼 木	樹 種	点 数	備 考
							長さ	幅厚さ						
197	8442	865	単枚製品	c-67-50-b	G	G	(13.2)	0.9	0.9	6.7			1	G類、先端のみを削り出している。
198	8443	291	単枚製品	c-66-48-c	G	G	(11.4)	0.6	0.7	3.1			1	G類、先端のみを削り出している。
199	8444	334, 17	単枚製品	c-65-48-67-50	G	G	29.7	0.9	0.9	16.8			1	G類、先端のみを削り出している。
200	8445	376	単枚製品	c-68-59-a	G	G	(18.0)	1.0	0.2	2.6			1	H類、竹を削脱き内面から深く削ったもの。
201	8446	635	単枚製品	c-67-50-b	G	G	(12.5)	1.1	0.5	2.8			1	H類、竹を削脱き内面から深く削ったもの。
202	8447	648	単枚製品	c-67-60-a	G	G	17.0	0.8	0.3	2.4			1	H類、竹を削脱き内面から深く削ったもの。
203	8448	426	木玉	c-67-50-c	G	G	1.7	1.7	1.1	1.3		7974	1	箕形玉形で中心を穿孔。並列の削り目が縦向き。
204	8449	1	振付・組紐等	c-67-70-b	G	G	3.1 (2.7)	1.5	5.0		板目	747	1	表裏の乗の大きさの異なる厚板形の加工。
205	8450	352	振付・組紐等	c-66-59-c	G	G	1.9	1.2	1.0	1.8	板目		1	断面が楕円形で、中央に小孔が穿孔されている。
206	8451	163	振付・組紐等	c-66-49-d	G	G	4.2	4.4	3.0	46.0			1	断面が楕円形で、樹心部に小孔が穿孔されている。
207	8452	88	下靴材製品	c-67-50-c	G	G	(12.8)	10.3	7.6	330.0	樹木	377	1	溝掘り下靴材に用いるが、鼻柱孔が狭い。
208	8453	298	円板材	c-66-48-c	G	G	4.6	3.7	1.6	19.2	板目		1	表裏が平行となるように加工されている。
209	8454	916	空刀ミニチュア	c-67-60-a-d	G	G	15.5	1.2	1.0	10.8	板目	1473	2	柄部分を欠損。表面にのみ深さを削り、縁部がある。
210	8455	193	木帯	c-66-59-c	G	G	46.6	3.3	3.1	233.4	板目	777	1	断面部下に下方から斜めに山形の切り込みが連続する。
211	8456	424	木帯	c-67-70-b	G	G	(36.4)	2.4	2.4	96.0	丸木	374	1	断面部下に削りかけの部分が多数にわたる。
212	8457	758	短剣付製品	c-66-49-a	G	G	(4.0)	1.9	1.5	6.9	丸木	777	1	水平の短剣に挟まれた二本道の短剣がある。
213	8458	875	短剣付製品	c-66-59-c	G	G	(8.3)	0.8	1.0	5.5	板目	747	1	二本道の短剣が斜め向き。
214	8459	166	短剣付製品	c-66-48-d	G	G	8.9	2.0	2.0	24.0	丸木	777	1	二本道の短剣が水平にわたる。
215	8460	142	短剣付製品	c-66-49-d	G	G	(14.7)	2.4	2.3	52.0	丸木	777	1	短剣が縦に連続する。
216	8461	693	短剣付製品	c-66-49-a	G	G	(5.2)	2.2	2.1	11.8	丸木	777	1	水平に短剣がわたる。
217	8462	653	短剣付製品	c-67-50-c	G	G	7.1	1.3	0.8	4.5	板目	747	1	大小の扇形の文様が向かい合うように刻まれている。
218	8463	874	短剣付製品	c-67-60-c	G	G	(3.0)	1.3	0.6	1.1	板目	747	1	細い短剣が縦に連続する。
219	8464	646	ピン状製品	c-67-40-a	G	G	6.2	1.0	0.8	2.3	板目		1	先端部に向かって細く削り出したもの。断面は楕円形。
220	8465	356	ピン状製品	c-67-70-b	G	G	(10.0)	0.7	0.8	3.6	板目		1	先端部に向かって細く削り出したもの。断面は扇形。
221	8466	371	ピン状製品	c-67-50-a	G	G	13.5	1.2	1.0	6.6	板目		1	先端部に向かって細く削り出したもの。断面は長方形。
222	8467	862	ピン状製品	c-67-40-a	G	G	14.1	1.2	0.7	6.8	板目		1	先端部に向かって細く削り出したもの。断面は楕円形。
223	8468	659	ピン状製品	c-66-59-b	G	G	16.1	1.2	1.1	14.5	丸木	774	1	先端部に向かって細く削り出したもの。断面は扇形。
224	8469	37	棒状製品	c-66-49-b	G	G	19.0	1.8	1.1	24.0	1/8割	774	1	表面を丹念に削りだす。断面は楕円三角形。

表V-16 A'地区複合大製品(9)

原料	木器 No	板 No	名	種	発 掘 区	取上 No	計 測 値 (cm)		樹 皮 厚 度	木 取 材 種	点 数	備 考
							長 寸	幅 寸				
	225	8470	105	輪状製品	c-66-49-a	G	16.6	1.7	1.5	25.0	1	先端部に向かって細く加工されている。断面は円形。
	226	8471	205	輪状製品	c-66-50-c	G	18.6	1.7	1.3	29.0	1	先端部に向かって細く加工されている。断面は楕円形。
	227	8472	186	輪状製品	c-66-50-a	G	25.5	2.2	2.2	70.0	1	先端部に向かって細く加工されている。断面は楕円形。
	228	8473	152	輪状製品	c-66-50-a	G	(26.5)	2.1	1.3	47.0	1	先端部に向かって細く加工されている。断面は楕円形。
	229	8474	419	輪状製品	c-66-49-c	G	22.9	1.6	1.5	32.1	1	両端に向かって細く加工されている。断面は五角形。
	230	8475	678	輪状製品	c-66-49-c	G	18.5	1.3	1.3	18.5	2	両端に向かって細く加工されている。断面は五角形。
	231	8476	581	輪状製品	c-66-50-c	G	12.3	1.4	1.2	12.0	1	両端に向かって細く加工されている。断面は五角形。
	232	8477	649	輪状製品	c-66-50-c	G	8.6	0.9	0.9	4.6	1	両端に向かって細く加工されている。断面は五角形。
	233	8478	569	輪状製品	c-66-50-b	G	6.8	0.8	0.6	2.0	1	両端に向かって細く加工されている。断面は楕円形。
	234	8479	690	ピン状製品	c-67-60-c	G	6.1	1.4	1.4	6.8	1	先端部のみが削りだされている。断面は円形。
	235	8480	683	ピン状製品	c-67-60-c	G	15.8	1.6	1.3	26.6	1	先端部のみが削りだされている。断面は楕円形。
	236	8481	622	ピン状製品	c-67-60-c	G	16.5	1.3	0.9	12.4	1	先端部のみが削りだされている。断面は楕円形。
	237	8482	218	ピン状製品	c-67-60-a	G	(19.4)	1.2	1.2	13.0	1	先端部のみが削りだされている。断面は円形。
	238	8483	141	ピン状製品	c-67-60-a	G	19.8	2.0	1.7	49.0	1	先端部のみが削りだされている。断面は楕円形。
	239	8484	559	ピン状製品	c-66-50-b	G	(26.4)	3.3	3.0	117.0	1	先端部のみが削りだされ、削りが深い。断面は円形。
	240	8485	581	ピン状製品	c-67-60-a	G	(20.5)	1.6	1.0	17.8	1	先端部のみが削りだされている。断面は扁平な楕円形。
	241	8486	362	ピン状製品	c-66-48-d	G	(19.9)	2.4	2.1	56.9	1	先端部のみが削りだされている。断面は円形。
	242	8487	211	ピン状製品	c-67-60-d	G	(19.5)	1.9	1.5	48.0	1	先端部のみが削りだされている。断面は五角形。
	243	8488	47	楔状製品	c-67-60-a	G	25.0	2.5	2.1	52.0	1	三角形の先端部が打ち込まれている。断面は円形。
	244	8489	372	楔状製品	c-66-48-c	G	22.4	3.7	2.8	145.2	1	三角形の先端部が打ち込まれている。断面は七角形。
	245	8490	541	楔形製品	c-66-48-b	G	7.1	3.1	1.6	18.2	1	舌状の丸先端である。削り痕顯著。
	246	8491	14	楔形製品	c-66-50-c	G	11.0	3.8	1.3	30.0	1	先端部が鋭角である。削り痕顯著。
	247	8492	119	方形型付丸棒状製品	c-67-70-c	G	(26.0)	4.0	2.2	98.0	2	方形の断面の下は丸棒状である。
	248	8493	24	方形型付丸棒状製品	c-66-50-b	G	(26.5)	4.1	2.0	78.0	1	方形の断面の角孔に棒状の木質(クルミ)が残存する。
	249	8494	563	方形型付丸棒状製品	c-66-50-b	G	(5.8)	2.9	1.2	11.0	1	方形の断面の下は丸棒状である。
	250	8495	120	方形型付丸棒状製品	c-67-60-b	G	(12.1)	3.1	2.0	55.0	1	方形の断面の角孔に棒状の木質が残存。下部欠丸。
	251	8496	6	方形型付丸棒状製品	c-66-50-a	G	(8.8)	4.4	1.5	33.0	1	断面の角孔に棒状の木質(スギ)が残存。下部欠丸。
	252	8497	698	有孔丸棒状材	c-67-60-b	G	(8.3)	1.7	1.2	9.0	1	上部に三角形の小孔。断面は三角形。

表V-17 A地区地蔵木製品(10)

木器 No	板 No	名	種	発掘区	取上 No	計測値 (cm)	重量 (g)	樹皮 痕	木取	骨種	点 数	備 考
253	8498	54	有孔丸棒状材	c-66-59-b	G	22.0 4.5 4.3 207.4	214.4	○	丸木	円	1	上端部の表裏に平垣面作出。縦長角孔。下端部放化。
254	8499	200	有孔丸棒状材	c-66-59-a	G	(32.4) 3.4 3.1 311.4			板目	円	1	上端部の表裏に垂下する溝と円孔がある。
255	8500	332	有孔丸棒状材	c-67-60-b	G	(22.8) 2.8 2.7 99.6			板目	円	1	上端部の表裏に平垣面作出。角孔に木質残存。
256	8501	588	挿入付丸棒状材	c-67-50-a	G	(18.4) 1.3 1.3 15.8			丸木	円	1	コケシ痕状の頸部を作出。断面は円形。
257	8502	127	挿入付丸棒状材	c-67-60-a	G	(15.4) 2.4 2.2 46.0			丸木	円	1	コケシ痕状の頸部を作出。断面は扁平円形。
258	8503	107	挿入付丸棒状材	c-66-49-b	G	(14.1) 2.4 2.2 47.0			丸木	円	1	コケシ痕状の頸部を作出。首が長く入り込んでいる。
259	8504	824	挿入付丸棒状材	c-67-61-d	G	(13.0) 1.7 1.6 23.6			丸木	円	1	1種状の頸部を作出している。断面は円形。
260	8505	257	挿入付丸棒状材	c-67-60-d	G	41.7 2.6 2.8 172.9			丸木	円	1	上端部を長く挿入。コケシ痕状の頸部を作出。
261	8506	66	挿入付丸棒状材	c-67-60-d	G	31.2 1.7 1.7 49.0			板目	円	1	小さなコケシ痕状の頸部を作出。下端部は切端。
262	8507	700	挿入付丸棒状材	c-67-60-b	G	6.7 0.7 0.6 1.8			板目	円	1	上端部がコケシ痕状に加工されている。断面は多角形。
263	8508	30	挿入付丸棒状材	c-67-60-d	G	(9.3) 2.4 2.2 30.0			丸木	円	1	断面に頸部が作出されている。断面は円形。
264	8509	237	挿入付丸棒状材	c-66-59-b	G	(13.6) 1.2 0.9 8.9			半割	円	1	1片のみを帯状に挿入。コケシ痕状に加工している。
265	8510	327	挿入付丸棒状材	c-67-60-b	G	(74.9) 3.4 1.7 49.4			板目	円	1	1片のみを帯状に挿入。コケシ痕状に加工している。
266	8511	540	挿入付丸棒状材	c-66-49-b	G	(18.5) 2.7 0.9 22.2			板目	円	1	1片のみを帯状に挿入。コケシ痕状に加工している。
267	8512	673	挿入付丸棒状材	c-67-60-d	G	(65.5) 4.8 4.1 142.3			半割	円	1	コケシ痕状の頸部を作出。
268	8513	255	挿入付丸棒状材	c-67-61-d	G	(54.1) 6.7 6.3 1603.0			丸木	円	1	1片のみを挿入している。
269	8514	594	挿入付丸棒状材	c-67-50-a	G	(26.5) 2.4 1.7 82.9			丸木	円	2	断面が帯状となっている。下端部を大書する。
270	8515	596	挿入付丸棒状材	c-67-60-a	G	(9.4) 1.6 1.7 18.0			丸木	円	1	杖状の先端部を挿入コケシ痕状の頸部を作出。
271	8516	231	挿入付丸棒状材	c-67-60-d	G	(17.0) 2.5 2.0 53.9			1/4割	円	2	小さなコケシ痕状の頸部を作出。
272	8517	185	挿入付丸棒状材	c-67-60-a	G	(7.8) 7.1 2.9 72.1			半割	円	1	曲面を帯状に挿入。コケシ痕状の頸部を作出。
273	8518	399	挿入付丸棒状材	c-66-59-a	G	(13.3) 2.2 1.9 26.0			1/4割	円	1	下端部の断面が挿入されている。
274	8519	398	挿入付丸棒状材	c-66-49-c	G	(12.0) 4.0 2.6 64.0			半割	円	1	1片側部を帯状に加工している。
275	8520	216	挿入付丸棒状材	c-67-70-a	G	(22.4) 5.7 4.3 351.2		○	丸木	円	1	平垣面を削りだし。頸部を作出している。下端部放化。
276	8521	106	挿入付丸棒状材	c-66-49-c	G	19.5 4.2 3.0 165.0			板目	円	1	斜めに帯状の挿入がある。
277	8522	343	挿入付丸棒状材	c-66-49-d	G	(17.5) 3.4 2.5 65.2			板目	円	1	上端部が片側から挿入。隙間状に加工している。
278	8523	317	挿入付丸棒状材	c-67-60-b	G	16.2 4.1 1.7 95.9			板目	円	1	表面に帯状の挿入がある。
279	8524	305	挿入付丸棒状材	c-67-70-b	G	(20.0) 3.0 1.8 62.2			板目	円	1	断面がふくらみ。側面が挿入されている。
280	8525	157	挿入付丸棒状材	c-66-59-b	G	18.2 3.7 2.2 106.0			板目	円	1	上端部は平垣面に切端され、下端部は挿入されている。

表 V-18 A'地区埋蔵大製品 (II)

木器 No	No	板 名	種 名	発 掘 区	取上 No	計 測 値 (cm)		埋 藏 量 (g)	樹 皮 痕	木 取 材	樹 種	点 数	備 考
						長	幅						
281	8526	196	挟入付丸棒状材	c-66-49-c	G	(28.1)	3.2	3.3	194.0	丸木	知?	1	表面が粗く削られ、側面が挟まれている。
282	8527	95	挟入付角棒状材	c-67-50-d	G	(29.0)	3.2	1.8	79.0	板目	ナ?	1	平直面の削り出しされ、側面が角棒状となっている。
283	8528	313	挟入付角棒状材	c-67-70-c	G	9.5	4.6	2.8	57.4	板目	ナ?	1	側面が挟まれている。断面は半円形である。
284	8529	409	挟入付角棒状材	c-66-48-b	G	18.3	2.0	1.1	21.8	板目	ナ?	1	平直面の削り出しされ、側面が角棒状となっている。
285	8530	112	凸形頭付丸棒状材	c-66-49-a	G	(30.4)	5.0	5.5	412.0	丸木	ナ?	1	頭部が凸形に削りだされている。
286	8531	143	凸孔付丸材	c-67-53-b	143	(30.6)	8.9	4.8	833.0	○ 丸木	ナ?	1	頭部に穴が2か所の角孔がある。下端面は狭化。
287	8532	68	角孔付丸材	c-66-50-a	G	9.9	5.1	4.2	121.0	丸木	ナ?	1	丸材の角孔部が切妻されている。
288	8533	376	角孔付丸材	c-67-50-a	G	11.3	5.7	4.8	178.0	丸木	ナ?	1	丸材の角孔部が切妻されている。
289	8534	537	角孔付丸材	c-66-48-c	G	(13.5)	6.5	6.2	244.0	丸木	ナ?	2	丸材の角孔 (角棒) 部から折損している。
290	8535	198	挟入付角材	c-66-49-c	G	21.2	5.5	4.2	242.0	○ 板目	ナ?	1	上端面が角形に挟まれている。下端面は狭化している。
291	8536	104	挟入付丸棒状材	c-66-49-b	G	(28.7)	6.5	6.3	1307.0	丸木	ナ?	1	杖状の丸棒部を持ち、側面に挟まれている。
292	8537	599	丸棒状材	c-67-50-a	G	(29.6)	2.1	2.1	83.9	○ 丸木	ナ?	1	上端面が狭化し、下端面は欠損している。
293	8538	304	丸棒状材	c-67-50-a	G	26.4	2.7	2.6	123.3	丸木	ナ?	2	上端面が平直に加工され、下端面は欠損している。
294	8539	543	丸棒状材	c-66-59-a	G	11.0	1.9	2.0	27.8	板目	ナ?	1	両端面が切妻されている。
295	8540	600	丸棒状材	c-67-50-a	G	(29.9)	2.6	2.7	178.0	丸木	ナ?	1	両端面を欠損している。
296	8541	73	丸棒状材	c-67-50-a	155	(91.1)	2.8	2.8	504.0	丸木	ナ?	1	両端面を欠損している。磨耗が著しい。ナナカマド?
297	8542	74	丸棒状材	c-66-55-b	148	(101.2)	3.3	3.2	783.0	丸木	ナ?	2	両端面を欠損している。
298	8543	96	丸棒状材	c-67-70-c	G	(17.2)	(2.6)	1.4	25.0	板目	ナ?	1	湾曲した楕円形の材である。下端面は欠損している。
299	8544	400	丸棒状材	c-66-48-b	G	(17.4)	1.8	1.8	34.2	丸木	ナ?	1	表面の加工面が顯著である。上端面を欠損する。
300	8545	202	丸棒状材	c-66-59-b	G	34.9	2.7	2.2	130.0	丸木	ナ?	1	両端面は対面する二面削りされ、裏面に平直面を作出。
301	8546	219	角棒状材	c-66-59-c	G	(37.0)	(3.5)	2.1	155.0	板目	ナ?	3	表面に削り面の刃部が多数認められる。
302	8547	275	角棒状材	c-66-49-c	G	(27.6)	2.4	1.2	65.0	板目	ナ?	1	上端面を欠損し、下端面は磨耗。断面は六角形である。
303	8548	341	角棒状材	c-66-49-c	G	(18.0)	1.3	1.1	16.3	板目	ナ?	1	上端面を欠損する。断面は六角形である。
304	8549	566	楕円形棒状材	c-66-59-b	G	(17.4)	2.0	1.3	33.4	板目	ナ?	1	下端面を欠損する。
305	8550	555	楕円形棒状材	c-66-59-a	G	(14.2)	2.4	1.2	27.6	板目	ナ?	1	表面に削り面の刃部が多数認められる。
306	8551	331	角棒状材	c-67-50-b	G	27.8	3.5	1.8	89.8	○ 板目	ナ?	1	上端面は狭化し、下端面は切妻されている。
307	8552	111	楕円形棒状材	c-66-49-a	G	(44.5)	3.5	1.9	205.0	○ 板目	ナ?	1	先端部が棒々に磨く。上端面側縁と下端面が狭化。
308	8553	560	楕円形棒状材	c-66-59-a	G	(39.8)	3.9	1.8	185.6	板目	ナ?	1	両端面を欠損している。下端面が幅広となる。

表V-19 A'地区掲載大製品 (1)

品目 No	品名	種別	発掘区	取上 No	計測値 (cm)		埋置量 (g)	焼成 状況	木取 樹種	点数	備考
					長さ	幅					
309	5554	388	紡錘形棒状板材	c-66-48-b	G	(26.8)	3.5	1.7	69.5	○	両端面を欠損する。表面が傾斜している。
310	8555	38	紡錘形棒状板材	c-66-48-b	G	(21.5)	3.7	1.4	52.0		1 先端部は徐々に細くなる舌先形である。下端面は欠損。
311	8556	44	紡錘形棒状板材	c-67-50-d	G	(24.0)	3.5	1.4	82.0		1 両端面を欠損する。上端面は幅広いで丸く加工。
312	8557	201	紡錘形棒状板材	c-66-59-c	G	(32.7)	3.0	0.7	47.0		1 上端面に円孔が1か所。下端面は切り出されている。
313	8558	639	薄盤形棒状板材	c-66-59-c	G	(22.0)	2.8	0.9	23.0		1 上端面は欠損。先端部は徐々に細くなる舌先形である。
314	8559	26	薄盤形棒状板材	c-66-59-c	G	(21.7)	3.2	0.9	30.0		1 上端面が細く突がる。下端面は斜めに形成されている。
315	8560	339	薄盤形棒状板材	c-66-49-d	G	(23.2)	2.1	0.9	32.6		1 上端面は欠損。下端面は薄盤している。
316	8561	410	薄盤形棒状板材	c-67-70-b	G	(19.9)	2.4	0.8	27.7		1 表面の磨り減り。
317	8562	344	薄盤形棒状板材	c-67-60-c	G	(15.1)	2.0	0.6	14.7	○	1 上端面は欠損。下端面表面に凹化部分がある。
318	8563	369	薄盤形棒状板材	c-66-48-d	G	(19.0)	2.3	0.7	23.4		1 下端面は欠損。上端面の端がやや細く加工されている。
319	8564	608	薄盤形棒状板材	c-67-70-b	G	(19.3)	1.5	0.9	22.0		1 上端面は欠損。下端面は薄盤している。
320	8565	338	薄盤形棒状板材	c-66-49-d	G	(22.2)	3.2	0.9	46.6		1 下端面は欠損。上端面に削り痕が顯著に露る。
321	8566	532	薄盤形棒状板材	c-67-60-a	G	(27.0)	2.3	0.9	38.2		1 上端面を欠損する。
322	8567	326	薄盤形棒状板材	c-67-50-a	G	(24.4)	2.0	1.0	24.8	半円	1 両端面を欠損する。平行な刃部が認められる。
323	8568	360	薄盤形棒状板材	c-66-49-c	G	(27.8)	2.5	1.2	60.0		1 両端面を欠損する。
324	8569	604	紡錘形棒状板材	c-66-48-c	G	(18.4)	1.8	0.6	17.0		1 両端面を欠損する。
325	8570	537	薄盤目棒状板材	c-67-60-a	G	(28.9)	2.1	0.7	32.7		1 上端面を欠損する。下端面は舌先状に削り込まれる。
326	8571	323	薄盤目棒状板材	c-67-50-b	G	(19.8)	3.8	0.8	46.0		1 両端面を欠損する。斜行した刃部が認められる。
327	8572	398	薄盤目棒状板材	c-66-59-a	G	(27.8)	2.5	0.3	15.3		1 やや幅広いな上端面を欠損する。
328	8573	187	竹材	c-67-60-d	G	30.8	2.9	0.9	29.0	1/割	1 全体に刃部が著しい。
329	8574	322	竹材	c-66-48-d	G	(7.7)	1.0	0.5	1.8	1/割	1 中央部に筋がある。内面に磨かれている。
330	8575	146	有孔板材	c-66-48-d	G	12.2	19.4	2.1	358.0	板目	1 上端面に2か所の角孔が磨き込まれている。
331	8576	121	有孔板材	c-67-60-c	G	(11.4)	13.9	2.3	222.0	板目	1 角孔が3か所ある。
332	8577	137	有孔板材	c-67-60-d	G	(11.2)	(13.4)	1.4	182.0	板目	1 片側の上側の角孔が1か所ある。
333	8578	86	有孔板材	c-66-59-d	G	(15.4)	3.3	1.6	54.0	板目	1 上端面の側面には突起があり、下端面に角孔が1か所。
334	8579	93	有孔板材	c-66-59-d	G	(20.8)	6.0	2.0	160.0	板目	1 上端面に角孔が1か所ある。
335	8580	697	有孔板材	c-67-60-a	G	(15.9)	(4.7)	0.6	25.8	板目	1 上端面の角孔部が欠損し、角状り状となっている。
336	8581	145	有孔板材	c-66-48-d	G	(22.8)	(11.8)	2.3	423.0	板目	1 上端面の角に角孔が1か所ある。

表V-21 A地区地軸木製品(4)

木器 No	No	材名	発掘区	取上 No	計測値 (cm)		縦置量 (g)	樹皮重	木取	樹種	点数	備考
					長さ	幅						
365	8610	柱材	c-67-60-d	G	(152.6)	14.3	8.1	4694.0		膠木	1	枝分かれ部を利用した「Y」形の受け部である。
366	8611	柱材	c-66-59-a	G	(51.4)	12.8	5.3	885.0	○	膠木	1	枝分かれ部を角形に削った受け部である。
367	8612	柱材	c-66-59-b	G	(133.8)	7.6	7.4	3531.0	○	丸木	1	上端部を欠損。先端部は一面削りで直角である。
368	8613	柱材	c-67-60-d	G	(142.6)	7.1	6.2	3101.0	○	丸木	1	上端部を欠損。先端部は上面削りで直角である。
369	8614	柱材	c-66-59-b-c	G	(150.3)	11.8	10.1	8894.0		丸木	1	両端部が大きく角形に削っている。先端は上面削り直角、
370	8615	柱材	c-67-60-d	200	164.5	6.5	6.7	2353.0		丸木	1	上端部を欠損。先端部は交差する2面削りで直角、
371	8616	柱材	c-67-60-d	G	(150.7)	7.0	7.0	2522.0	○	丸木	1	上端部を欠損。先端部は一面削りで直角である。
372	8617	母蓋または重木	c-66-59-c	G	134.5	10.0	10.6	8254.0	○	丸木	1	上端部は両側から削り、先端部は上面削りで直角、
373	8618	両端部先状加工材	c-67-60-b	G	45.2	2.0	2.3	148.0	○	丸木	1	上端部は上面削り、下端部一面削り、両端部が尖化、
374	8619	両端部先状加工材	c-67-60-b	G	50.1	2.8	2.9	284.1		丸木	1	上端部平坦に近い削り、下端部三面削り、
375	8620	両端部先状加工材	c-67-60-d	G	54.1	4.2	3.8	492.0		丸木	1	上端部二面削り、下端部二面削り、
376	8621	母蓋または重木	c-67-61-d	G	55.2	4.3	3.9	632.0		丸木	1	上端部二面削り、下端部二面削り、
377	8622	両端部先状加工材	c-66-59-a	G	59.3	3.0	3.1	383.4		丸木	1	上端部は上面削り、下端部二面削り、
378	8623	両端部先状加工材	c-67-60-d	G	71.4	4.6	4.7	942.0		丸木	1	上端部は斜め上からの切痕多数、下端部は三面削り、
379	8624	両端部先状加工材	c-67-60-d	G	60.1	5.2	5.0	1024.0		丸木	1	上端部一面削り、下端部四面削り、
380	8625	両端部先状加工材	c-67-60-d	G	42.5	5.5	5.6	588.0		丸木	1	上端部は上面削り、下端部交差する二面削り、
381	8626	枝切縁材	c-67-61-d	G	(52.8)	7.5	8.2	865.0		膠木	1	枝分かれ部は一面削り、下端部欠損、
382	8627	両端部先状加工材	c-67-60-b	G	# 50.2	3.2	3.2	232.0	○	丸木	2	上端部交差する2面削り、下端部一面削り、
383	8628	両端部先状加工材	c-66-59-b	G	# 35.4	4.1	3.4	279.0		丸木	2	上端部は上面削り、下端部一面削り、平坦面作出、
384	8629	両端部先状加工材	c-67-60-a	G	28.3	1.3	1.3	37.1		丸木	1	上端部一面削り、下端部二面削り、
385	8630	柱材	c-66-48-b	G 145	14.1	2.2	2.5	47.0		丸木	1	上端部斜め上からの切痕多数、先端部上面削り、
386	8631	柱材	c-67-60-d	G	30.7	2.9	2.9	180.7		丸木	1	上端部斜め上からの切痕多数、先端部五面削り、
387	8632	柱材	c-66-48-b	G	(14.4)	2.6	2.7	57.2		丸木	1	上端部斜め上からの切痕多数、先端部五面削り、
388	8633	柱材	c-67-60-c	G	14.6	4.0	4.2	115.0	○	丸木	1	上端部斜め上3方向からの切痕、先端部五面削り、
389	8634	柱材	c-67-60-a	G	14.6	6.9	6.3	282.2	○	丸木	1	上端部は斜めに削られ、下部対面する二面削り、
390	8635	木通	c-66-48-b	G	9.3	3.8	2.9	70.0		丸木	1	表面に平坦面作出。上端部は凸形に削り、下端部平ら、
391	8636	木通	c-66-48-c	G	(12.0)	4.3	2.7	89.0		丸木	1	表面に平坦面作出。上端部は凸形に削り、下端部平ら、
392	8637	木通	c-67-60-b	G	8.2	5.1	4.9	113.0		丸木	1	両端部は鋭角な切痕である。

表V-22 A'地区掲載木製品 15

木種 No.	No.	仮 名	材 種	発 掘 区	取上 No.	計 測 量 (cm)	短 重 量 (g)	樹 皮 痕	木 取	樹 種	点 数	備 考
		長さ	幅	厚さ								
393	8638	581	木燭	c-66-59-b	G	8.3 5.8 4.5	88.3		丸木	1	1	両端部に切痕が顕著。
394	8639	303	炭化材	c-67-70-c	G	16.3 4.6 4.6	191.3	○	丸木	1	1	先端部は状況に切痕され、上端部が炭化している。
395	8640	302	炭化材	c-67-70-c	G	19.7 5.2 4.1	198.4	○	1/4割	1	1	下端部が炭化している。
396	8641	283	炭化材	c-67-70-c	G	(15.9) 3.6 3.6	132.2	○	丸木	1	1	先端部は状況に切痕され、上端部が炭化している。
397	8642	371	板切炭材	c-66-49-c	G	23.6 9.3 3.8	219.7		段木	1	1	切痕はすべて一面削り。
398	8643	246	心丸小状	c-66-59-b	G	(8.9) 1.8 0.6	4.5			1	1	おより部等の粗部分に因る。
399	8644	52	盛り籠	c-66-59-b	G	(10.5) 0.5 0.5	1.2			2	2	L R 盛り。他に比べやや薄い。
400	8645	244	盛り籠	c-67-60-c	G	(7.4) 0.9 0.9	1.4			3	3	L R 盛り。他にやや厚っている。
401	8646	217	盛り籠	c-67-70-b	G	(15.2) 1.4 1.4	3.8			3	3	L R 盛り。他に同様の薄片が3点ある。
402	8647	253	盛り籠	c-66-49-c	G	(14.9) 1.7 1.5	6.3			2	2	L R 盛り。他に薄片がある
403	8648	34	盛り籠	c-66-59-b	G	(13.5) 0.9 0.9	10.3			1	1	L R 盛り。上端は盛りが張っている。
404	8649	458	桶形目	c-67-50-d	G	(1.9) 1.4 0.6	0.7			1	1	側面が幅広である。
405	8650	249	桶形目	c-66-59-a-b	G	(2.9) 1.6 0.7	1.2			1	1	側面が幅広である。
406	8651	5	型削挿入新帯状樹皮巻	c-66-49-c	G	(18.0) 4.2 4.9	3.0		???	1	1	コケン菌状樹部をスリットに挿入、中央に釘穴がある。
407	8652	235	型削挿入新帯状樹皮巻	c-66-69-b	G	4.1 1.4 1.1	1.3		???	1	1	コケン菌状樹部をスリットに挿入。
408	8653	420 ₀	型削挿入新帯状樹皮巻	c-66-49-c	G	3.6 2.3 0.3	0.9		???	1	1	コケン菌状樹部をスリットに挿入。
409	8654	4	型削挿入新帯状樹皮巻	c-66-59-c	G	1.9 4.6 1.5	1.0		???	1	1	コケン菌状樹部をスリットに挿入。
410	8655	8	型削挿入新帯状樹皮巻	c-66-59-b	G	(13.3) 0.8 0.1	1.0		???	1	1	コケン菌状樹部をスリットに挿入、スリット部欠損。
411	8656	601	削打込新帯状樹皮巻	c-67-60-a	G	(15.0) 0.6 0.2	1.2			1	1	中央部に釘穴がある。
412	8657	247	削打込新帯状樹皮巻	c-67-60-a	G	(14.0) 0.8 0.3	2.1			???	1	中央部に釘穴がある。
413	8658	232	削打込新帯状樹皮巻	c-66-48-a	G	(4.2) 0.7 0.7	3.5			3	3	枚数上の根拠、角形の残骸物の形が異なる。
414	8659	117	縮収新帯状樹皮巻	c-66-48-a	G	(4.0) 0.8 0.2	4.0			???	1	縮目が異なる。
415	8660	406 ₀	縮収新帯状樹皮巻	c-66-48-b	G	(3.7) 0.9 0.1	1.7			???	1	縮目が異なる。
416	8661	131	縮収新帯状樹皮巻	c-66-48-b	G	(10.0) 1.0 0.2	8.0			???	1	縮目が異なる。
417	8662	40 ₀	縮収新帯状樹皮巻	c-66-49-d	G	(4.9) 0.7 0.2	3.0			???	1	縮目が異なる。
418	8663	132	縮収新帯状樹皮巻	c-66-59-a	G	(6.2) 1.2 0.2	11.0			???	1	縮目が異なる。
419	8664	379	縮収新帯状樹皮巻	c-66-49-a	G	4.7 0.8 0.2	2.6			1	1	縮目が異なる。
420	8665	295	縮収新帯状樹皮巻	c-66-48-c	G	4.0 1.2 0.2	4.6			???	1	縮目が異なる。

表 V-23 A'地区地蔵木製品 06

種別	木器 No	版 No	名	産 名	発 強 区	取上 No	計 測 値 (cm)	断 面 積 (cm ²)	樹 皮 厚 さ (g)	木 取 材 種 類	点 数	備 考
	421	8656	488	結東郡帯状樹皮巻	c-86-48-c	G	(3.0) 0.7 0.2	1.4		???		結目が残る。
	422	8657	232a	結東郡帯状樹皮巻	c-86-49-d	G	(2.6) 0.7 0.2	1.3		???		結目が残る。
	423	8658	153	結東郡帯状樹皮巻	c-86-49-d	G	(5.6) 0.8 0.2	2.0		???		結目が残る。
	424	8659	3	結東郡帯状樹皮巻	c-87-80-d	G	(6.6) 0.6 0.3	3.0		???		結目が残る。端部に切痕跡がある。
	425	8670	601a	結東郡帯状樹皮巻	c-86-49-d	G	(6.8) 0.8 0.3	6.3		???		渦巻状。片面は端部が薄くなり、折れている。
	426	8671	413	結東郡帯状樹皮巻	c-86-49-d	G	(14.9) 4.9 1.1	17.9		???		渦巻状。片面は端部が薄くなり、折れている。
	427	8672	162	結東郡太帯状樹皮巻	c-87-60-d	G	(12.7) 4.3 0.2	37.0		???		樹皮がのびて端部状となっている。
	428	8673	139	結東郡太帯状樹皮巻	c-86-48-b	G	(12.6) 4.3 3.8	95.0		???		筒形に巻かれている。
	429	8674	80-8	波巻折敷樹皮	c-86-59-b	G	(5.8) 3.2 0.8	14.6		???		一手切り折敷の角樹皮。

6) 自然遺物 (表V-24)

掲載した遺物は、人力調査と土壌水洗とによって検出されたものである。A'地区はTa-a層を人力によって除去し、0黒層以下をグラムシエルで採取した。従って遺物の時期は縄文時代からアイヌ文化期である。

スギナ、スモモ、クリ、クルミ属は食用植物であり、ショウブ、キハダ、コブシは薬としても用いられる植物である。また、知里真志保「分類アイヌ語辞典 植物動物編」平凡社(1976)や更級源藏・更級光「コタン生物記 I」法政大学出版局(1976)によれば、アイヌの人々にとっても同じようにスギナ、スモモは食用植物であり、ショウブ、キハダ、コブシ、クリ、クルミ属は食用と薬用の植物であったようである。また、エゾヤマザクラは繻子紐として、ミツバウツギ、コブシ、クリは用材とされていたようだ。ハンノキは祭祀用具の材に使われるようだ。同定された木製品の樹種にも、同様の樹木が検出されている。

当時の環境は表によってもうかがえる。例えば、スギナ、ショウブ、ヒルムシロ、ハンノキ、などは水辺や水湿のある低地に成育する。また一方、ミツバウツギ、キハダ、エゾヤマザクラなどは山地に成育する。しかし、これらの中には有用植物が多く含まれており、遺跡の自然環境のみを表しているわけではないので、樹種同定、花粉分析、珪藻分析などと比較検討されなければならない。

(鈴木 信)

表V-24 A'地区自然遺物

名 称	区					
	C-67-40	C-67-60	C-67-60	C-67-61	C-67-70	C-67-71
炭 骨 片						
甲 骨 片						
カワシジミガイ類		2 9 3 (23, 83)	3 3 2 (1, 65)	1 7 4 (18, 73)		3 8 (2, 90)
葉 類						
サルノコシカケ		7 (14, 04)	3 (38, 15)			
スギナ		1 7 (0, 92)				1 (0, 05)
キ ハ ダ				1 (+)		
イヌホウズキ						
ク ラ ミ						
ショウブ		6 (0, 02)				
ヒルムシロ				1 (0, 04)		
ハクワン草						
ミツバウツギ				3 (0, 27)		
キハダ						
エゾヤマザクラ		3 (0, 03)				1 (0, 04)
スモモ		1 (0, 13)/4 9 (14, 31)	2 (0, 50)/7 0 (39, 63)			3 1 (3, 43)
コブシ		1 4 (1, 34)	4 (0, 38)			2 (0, 17)
コナラ				1 (+)		
ブ ナ 科		2 7 (0, 23)	4 (0, 17)			3 (0, 10)
ク リ						
ハンノキ		2 2 9 (8, 02)	1 1 0 (1, 42)			
ク ル ミ 属		3 8 (25, 79)/1 7 8 (27, 35)	4 2 (31, 9)	9 5 (30, 55)		3 (1, 75)/4 7 (38, 51)
名 称	区					
	C-68-47	C-68-48	C-68-49	C-68-58	C-68-59	C-68-69
炭 骨 片						
甲 骨 片						
カワシジミガイ類	1 4 (2, 10)	1 0 (0, 81)	1 3 4 (15, 83)	5 (0, 33)	7 3 8 (92, 13)	5 (0, 47)
葉 類						
サルノコシカケ	1 (0, 11)					
スギナ	1 (0, 03)	2 2 (107, 39)	4 (37, 88)			
キ ハ ダ		1 (0, 28)	4 (0, 31)	2 (0, 51)		3 (0, 47)
イヌホウズキ						1 (+)
ク ラ ミ						1 (+)
ショウブ		1 (+)				
ヒルムシロ				2 3 (0, 13)		3 (0, 04)
ハクワン草						1 (+)
ミツバウツギ	6 5 (0, 34)	1 6 1 (1, 04)				
キハダ	6 (0, 02)					
エゾヤマザクラ		3 (0, 03)	1 (0, 03)		3 (0, 07)	
スモモ	1 1 (1, 03)	2 (0, 45)/2 3 (3, 68)	1 (0, 14)/5 2 (14, 85)	6 (1, 17)/1 0 9 (87, 75)		
コブシ	5 (0, 37)	1 8 (1, 27)	8 (0, 78)			
コナラ						
ブ ナ 科						
コナラ						
ク リ						1 3 (0, 95)
ハンノキ	1 0 (0, 70)	5 4 (1, 61)	1 3 2 (3, 50)			5 (0, 40)
ク ル ミ 属	3 3 (1, 14)/1 6 (18, 02)	1 1 7 3 (1 0 (19, 50)	1 4 (12, 08)/9 6 (0, 83)	1 0 (0, 82)/0 (0, 00)	6 7 (47, 67)/4 6 5 (307, 31)	1 1 (0, 78)/ 2 1 (3, 73)

6 B地区の調査

(1) 包含層の遺物

1) 土器

出土した土器は、全部で7点である。105区で縄文土器片1点。109区で縄文土器片1点。102区の1点と105区の3点はA'地区の土器が掲載されている北大A式の深鉢(図V-25-8)と接合した。102区で擦文土器深鉢の胴部片が1点。(鈴木 信)

2) 石器・礫(図V-90-92、表V-25、図版V-41)

出土した石器は全部で4点である。105区で石鏃1点、108区で石鏃1点とつまみ付ナイフ1点。102区からはフレータが1点。礫・礫片は全部で288点である。出土地点の内訳は次のとおりである。101区で9点。102区で44点。103区で9点。104区で15点。105区で55点。106区で12点。107区で4点。108区で44点。109区で86点。

石器

石鏃(1・2): 1は凸基の石鏃、細かい果球が入る黒曜石を素材とする。片面に礫皮を残す。2は凸基の石鏃、片面に主要剥離面を残す。3はつまみ付ナイフ。急角度に調整されているほうの側縁の刃部はつぶれがみられる。

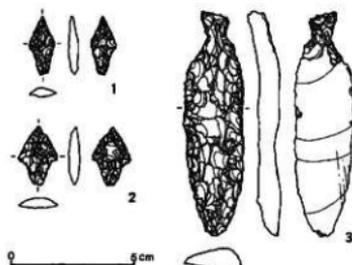
礫(図V-91・92): グラフはB地区出土の完形の礫73点(礫片は215点)についての形態を岩質別に示した。縦軸は長さ/幅で平面を表し、横軸は厚さ/幅で断面形を表す。よって、縦軸の値が大きくなると平面形は棒状に近くなり、横軸の値が小さくなると断面形は扁平に近くなる。従って、グラフの破線で区画された領域は形態の違いを表している。

形態の名称は、初めに平面形の名、次に断面形の名を付け、それらを組み合わせることで礫の名称が立体的になるようにし、略号としてアルファベットを付した。

横軸値0.8~1.0、縦軸値2.0以上の形態が棒状礫で略号はa。横軸値0.5~0.8、縦軸値2.0以上の形態が棒状楕円礫で略号はb。横軸値0.5以下、縦軸値2.0以上の形態が棒状扁平礫で略号はc。横軸値0.5~1.0、縦軸値1.2と横軸値0.5~0.8、縦軸値1.0~1.2の形態が楕円礫で略号はd。横軸値0.5以下、縦軸値1.0~1.2の形態が円扁礫で略号はe。横軸値0.8~1.0以下、縦軸値1.0~1.2の形態が球礫で略号はf。

また、ドット記号に付くアンダーラインは礫の円磨度を表し、実線は亜円礫、線を付していないドットは円礫を表す。

砂岩は主に横軸値0.32~0.72、縦軸値1.22~1.99に集中している。棒状礫・棒状楕円礫・楕円礫・



図V-90 B地区石器

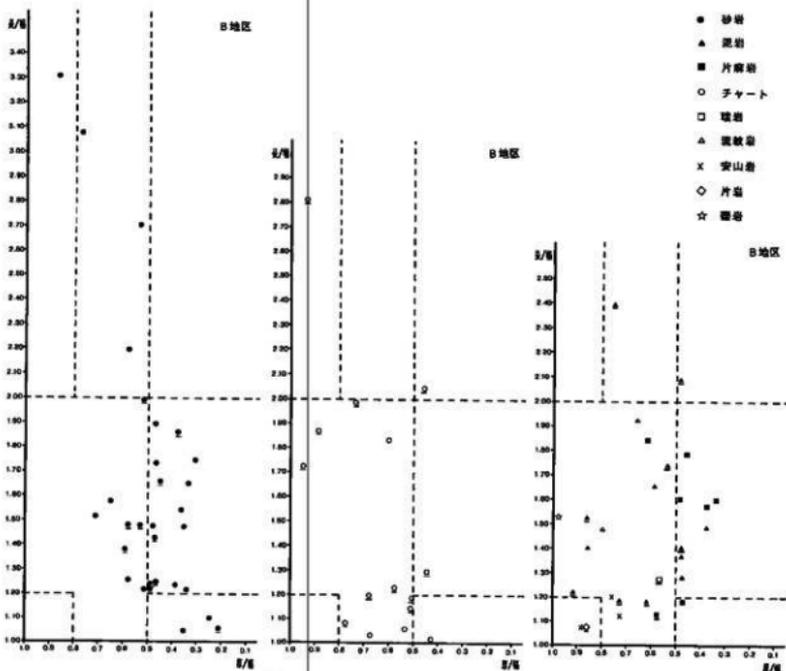
表V-25 B地区掲載石器

図番号	名称	発掘区	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質
1	石鏃	105区	24.9×10.5×3.9	0.9	黒曜石
2	石鏃	108区	24.9×14.5×4.0	1.3	黒曜石
3	つまみ付ナイフ	108区	92.0×24.5×4.9	21.4	黒曜石

楕円扁平礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円扁平礫(50.0%)によって構成されている。チャートは主に横軸値0.43~0.77、縦軸値1.0~1.3と横軸値0.46~0.95、縦軸値1.72~2.05の2か所に集中している。棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(73.3%)によって構成されている。砂岩に較べると一つの形態が卓越している。泥岩は主に横軸値0.38~0.92、縦軸値1.18~1.74にやや集中している。棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(53.8%)によって構成されている。泥岩はチャートや砂岩に比べると断面型にバリエーションをもつ。片麻岩主に横軸値0.34~0.62、縦軸値1.14~1.85に分布している。楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円扁平礫(57.1%)によって構成されている。

他には、楕円礫・球礫の安山岩3個。楕円礫の流紋岩2個。楕円礫の珪岩、球礫の片岩、楕円礫の礫岩が各1個ある。

砂岩・片麻岩は楕円扁平礫が多く、泥岩・チャートは楕円礫が多い。そのほかの礫は楕円礫が多い。図V-92上のグラフは岩質ごとの形態別重量を示した。砂岩の63.3%は0~80gの範囲にあり、40~60gの範囲にピークがある。また0~80gの範囲における形態は、棒状楕円礫・楕円礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。チャートの86.7%は0~100gの範囲にあり、20~40gの範囲にピークがある。また0~100gの範囲における形態は、棒状扁平礫・楕円礫・円



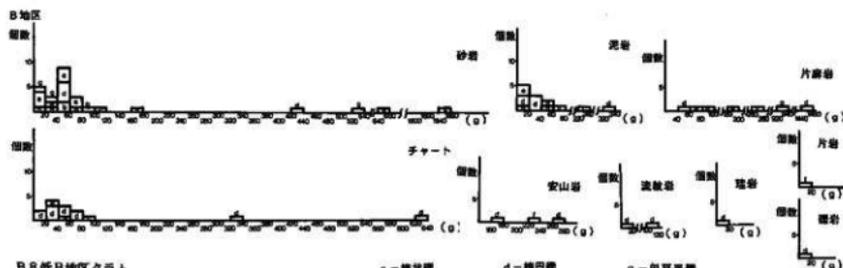
図V-91 B地区礫グラフ・表(1)

扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。泥岩の84.6%は0~80gの範囲にあり、0~20gの範囲にピークがある。また0~80gの範囲における形態は、棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。片麻岩、安山岩、流紋岩、珪岩、片岩、礫岩には特定の重量に集中することもなく、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。

砂岩・チャート・泥岩は0~60gの範囲の重量が選択されている。とりわけ砂岩については著しく偏って選択されている。

以上より形態と重量の関係は、砂岩・チャート・泥岩のように、代表的な形態が集中する重量に分散しているにもかかわらず特定の重量が選択されているものについては、選択の基準が重量にあること示している。

礫の円磨度は図III-92下の表に示した。砂岩は全体の67.0%を円礫が占める。円礫と同じ形態の亜円礫も出土しており、円磨度の同異に関わらず形態は一様である。チャートは全体の73.0%が亜円礫



B B低B地区クラム

砂岩 30個(総01.1%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	棒状礫	1	5.0
円	棒状楕円礫	3	15.0
円	楕円礫	4	20.0
圓	楕円扁平礫	10	50.0
圓	円扁平礫	2	10.0
亜	棒状楕円礫	1	10.0
円	楕円礫	3	30.0
圓	楕円扁平礫	5	50.0
圓	円扁平礫	1	10.0

a-棒状礫 d-楕円礫
b-棒状楕円礫 e-楕円扁平礫
c-棒状円礫 f-球礫

B B低B地区クラム

泥岩 13個(総07.8%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	2	40.0
圓	楕円扁平礫	8	60.0
圓	球礫	1	8.5
亜	棒状楕円礫	1	12.5
円	棒状扁平礫	1	12.5
圓	楕円礫	5	62.5
圓	楕円扁平礫	1	12.5

B B低B地区クラム

片麻岩 7個(総03.6%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	1	16.7
圓	楕円扁平礫	4	66.6
圓	円扁平礫	1	16.7
亜	楕円礫	1	100
円	楕円礫	1	100
圓	球礫	1	14.0

B B低B地区クラム

チャート 15個(総020.5%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	3	75.0
圓	球礫	1	25.0
圓	球礫	1	9.1
円	棒状扁平礫	1	9.1
円	楕円礫	8	72.7
圓	楕円扁平礫	1	9.1

B B低B地区クラム

珪岩 1個(総01.4%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	1	100
圓	球礫	1	100

B B低B地区クラム

安山岩 3個(総04.1%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	2	66.7
圓	球礫	1	33.3

B B低B地区クラム

流紋岩 2個(総02.7%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	2	100

B B低B地区クラム

片岩 1個(総01.4%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	球礫	1	100

B B低B地区クラム

礫岩 1個(総01.4%)			
円磨度	形態	個数	百分率
円	楕円礫	1	100

図V-92 B地区礫グラフ・表(2)

を占める。亜円礫に見られた棒状礫・棒状楕円礫・楕円扁平礫が円礫に見られない。泥岩もチャートと同じ状況を示す。片麻岩は円礫が86.0%を占めており、円磨度が似かよっている。

円磨度の相違は礫の採取地点(例えば、河川の上流・中流・下流、海浜という単一の円磨状況が起こりうる地点)の相違でもある。砂岩のように異なる円磨状況で一様な形態が選択されるものや、チャート・泥岩のように異なる円磨状況で異なる形態が選択されるものがある。(鈴木 信)

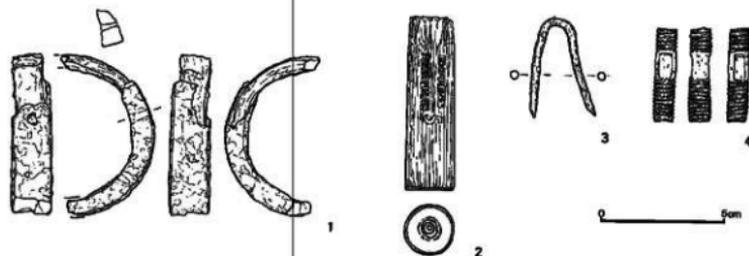
3) 金属製品(図V-93、表V-26、図版V-41)

出土した金属製品は、全部で4点である。出土地点の内訳は次のとおりである。101区から1点、102区から2点、105区から1点である。表土層あるいは盛土層中の遺物と考えられる。

1は輪状の鉄製品。三角形の貫通孔と貫通していない穴があいている。重量があるので鉄分の溶脱が少なかったであろう。2は散弾銃の薬莖、緑色した塩化ビニール製で「EXPRESS 5 POWER PISTON」と白色で印刷されている。3はU字の鉄釘、使用によってか片方が曲がっている。4は両方にネジが切つてあるボルト。金属光沢が残っている。(鈴木 信)

表V-26 B地区掲載金属製品

図番号	金属番号	名称	調査区	遺物番号	長さ × 幅 × 厚さ (mm)	重量	破片数	材質	備考
1	44	輪状の鉄製品	105	G	3.9) 6.6 1.7	34.7)	1	鉄	ブラマイルMV-1滅圧合流
2	84	散弾銃 薬莖	101	G	7.0 2.1 2.0	6.3	1	塩化ビニール	インクトラック処理
3	42	U字釘	102	G	4.1 2.7 3.1	3.5	1	鉄	ブラマイルMV-1滅圧合流
4	43	ボルト	102	G	3.8 0.9 0.9	15.0	1	鉄	ブラマイルMV-1滅圧合流



図V-93 B地区金属製品

4) 木製品 (図V-94~97、表V-27、図版V-41~42)

遺物は109区と103~105区に集中する傾向がある。クラムシユルによる包含層の採取時や運搬・堆積時に破損したり、折損したものが多く。

車輻受軸部(1)：挟りの付く両側縁は欠損し、中央には欠損した円孔部の痕跡が残ることから、輻受軸差込式と考えられる。木取りは柾目で、樹種はハンノキ属である。

回転式離脱中柄(2)：両側面には掉と接合部するため返しのある挟りが作出されている。先端部摩耗し、断面が楕円形となっている。基部は鋭く尖り摩耗している。形態からは矢中柄やヤスなどの可能性も考えられる。樹種はアジサイ属である。

把手状製品(3)：扉の取っ等に似た木製品である。下部には扉等に括り付けるための挟りが作出されており、欠損した上部も同様の構造であったと考えられる。

曲物底・蓋(4)：柾目板で、表に「Y」字に似たイトッパ状の線刻がある。周縁は摩耗し丸くなっており、木釘などの痕跡はない。

樽蓋(5)：三枚組の樽の蓋で、隅丸方形の栓の挿入孔がある。表面に小さな炭化部分あり、片側の一枚のみが板目取りである。

盆状容器底(6・7)：6・7は板目(横木)取りされた同一個体と考えられ、わずかに湾曲している。7の側縁部はわずかに立ち上がる。

腰当状製品(8・9)：アツシ織時に織手の腰に当て、紐をひっかけて織物を張る湾曲した腰当板に似る。8・9は柾目取りされた同一個体と考えられ、8の下端部には円孔の痕跡が残存する。

縁付有孔角板材(10)：側縁部が立ち上がる角箱形の厚い板材である。板底には不規則な配置の大小の角孔が7か所に開けられている。小角孔はほぼ当間隔に一方にまとまっている。

管状製品(11)：A'地区の両口箸のうち、一方の端部を平らにし、もう一方の先端部を細く尖らせたA₂類と考えられる。

軸状製品(12)：太い端部から先端部に向かって細くなるものであり、先端部は摩耗している。

挟入付角棒(13)：上端部が先の折れた切出しナイフ型となる角棒であり、上端部の側縁には下方からの挟りがある。

板片(14)：欠損した木口取りの板である。

挟入付丸棒状材(15)：丸木取りされた材の上端部にコケシ頭状の挟りがある。

角棒状材(16)：六角形に面取り加工された材の上端部には、炭化し挟れた部分がある

挟入付板材(17)：柾目取りの板材で、側縁部は挟り部分から欠損し有孔板材の可能性がある。

薄柾目棒状板材(18)：やや薄鋸形の断面の薄い柾目板で、幅が先端部に向かって細くなる。

枕状作業台(19)：板目取りの角材の表面を楔状に削りだしている。裏面には刃物による打撃痕が顕著に認められる。裏面は、刃傷痕により凹んでいる。

木端(20)：木口面を平らに削った、断面三角形のものである。

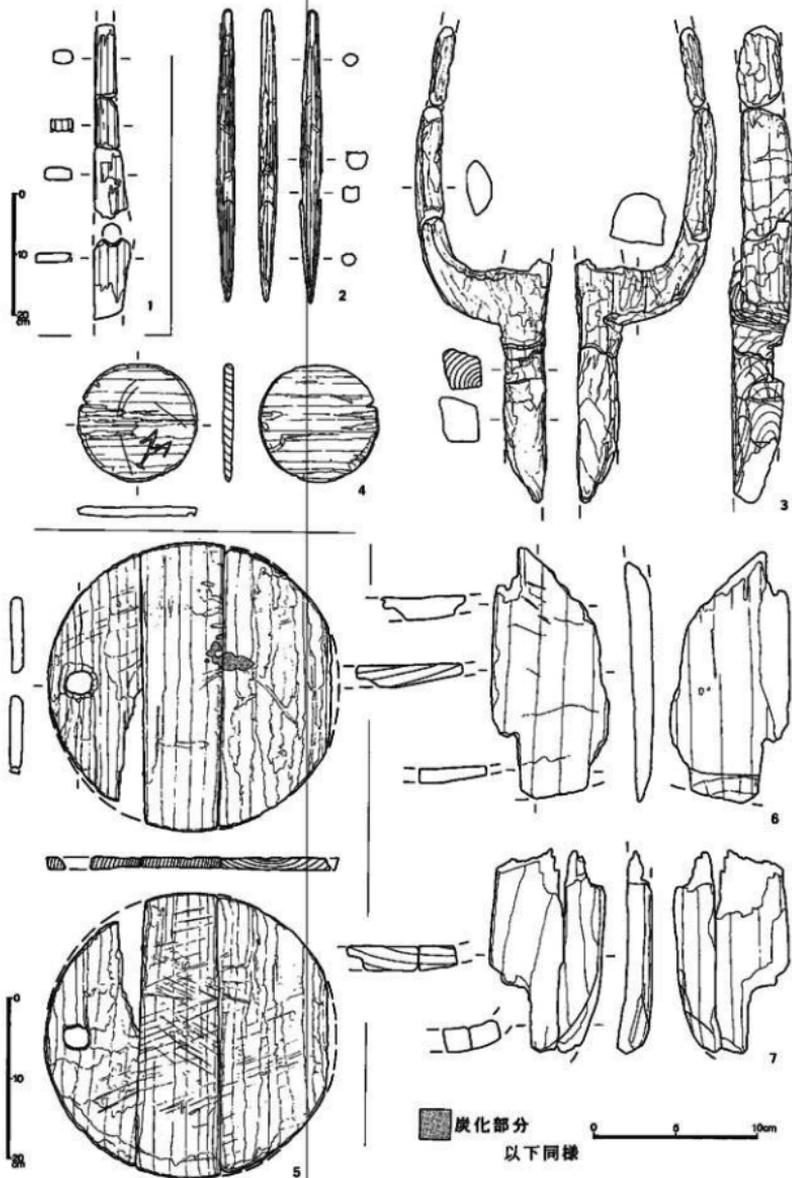
割材(21)：21は円孔部から縦割れしたものである。

有孔板材(22・23)：22は樹皮部分で円孔1か所ある。23は柾目に近い板で4か所に角孔がある。

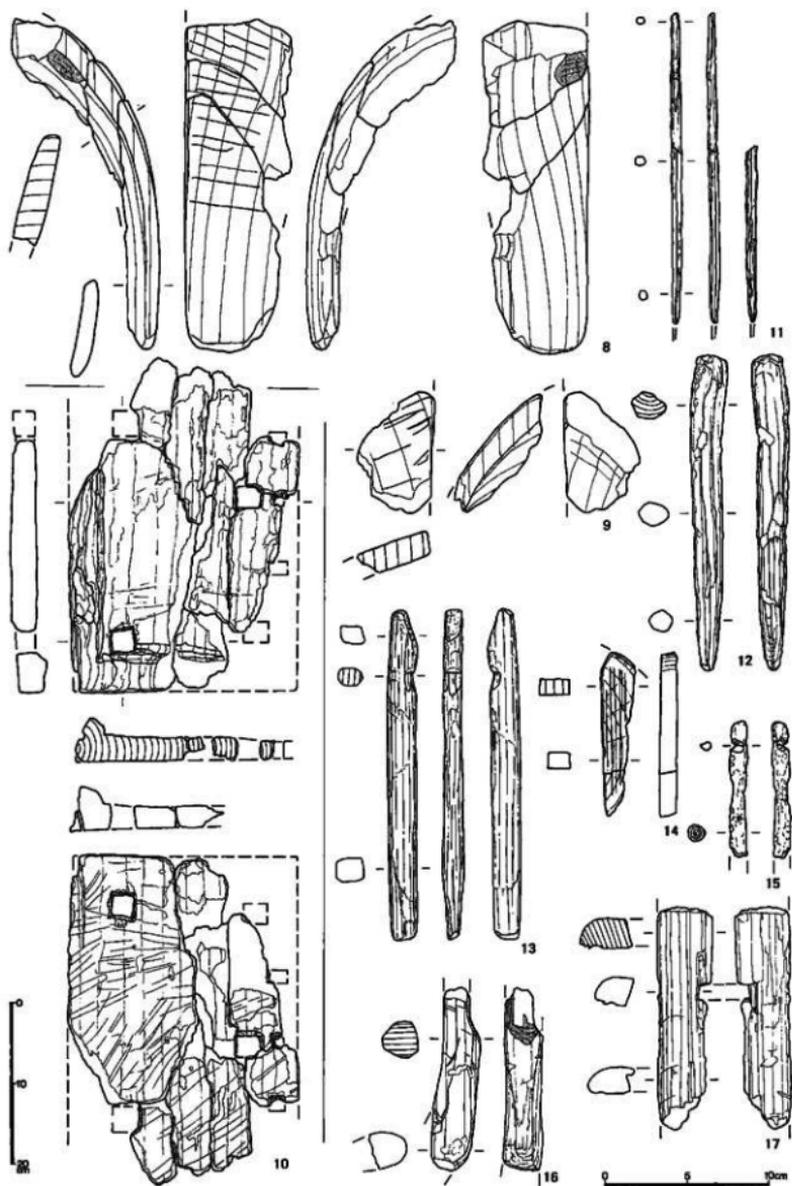
有孔角材(24・25)：24の表面は部分的に炭化し、上端部に角孔があり、側縁には2か所の挟りがある。25は角材の上部を削りだし、2か所に角孔を開けている。胴部には紐の圧痕が残存する。

枕状材(26)：先端部は1面削りで緩い鋭角となっており、24・25と組合う建材の可能性がある。

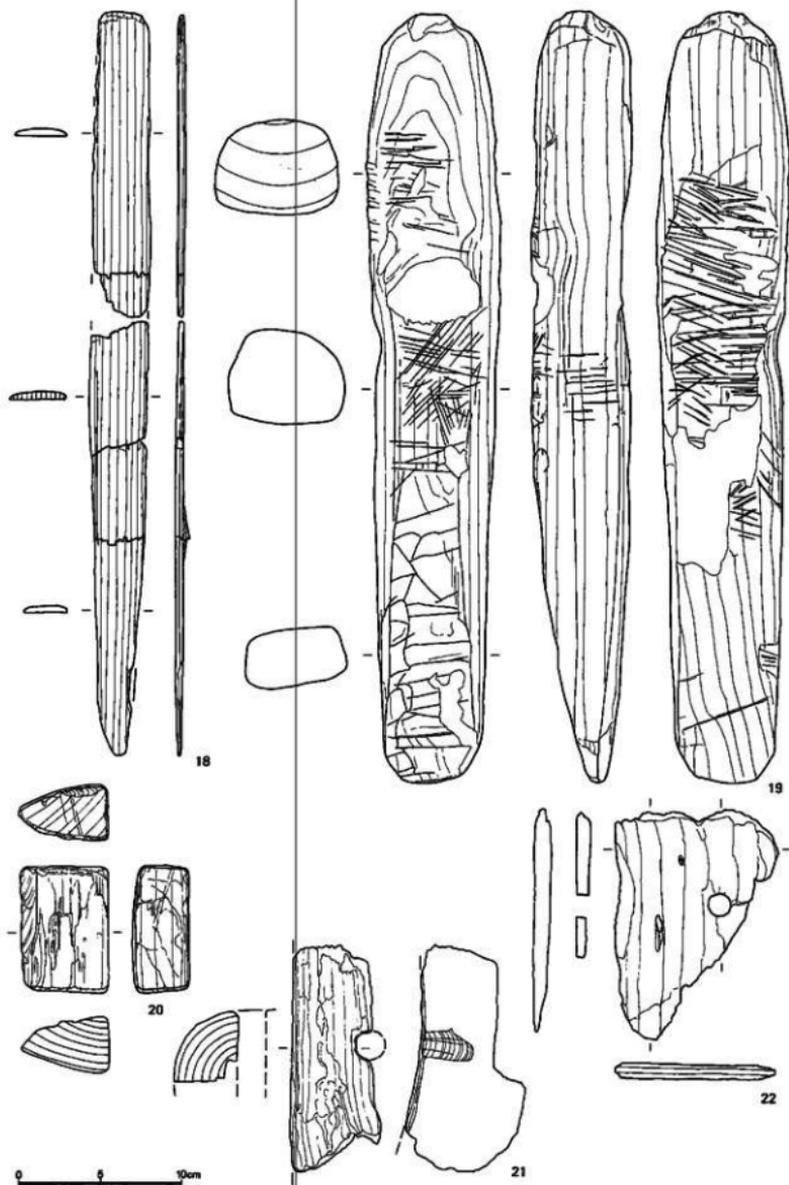
鈎状材(27)：枝分かれた材の設木部分で、下端部に切痕が認められる。



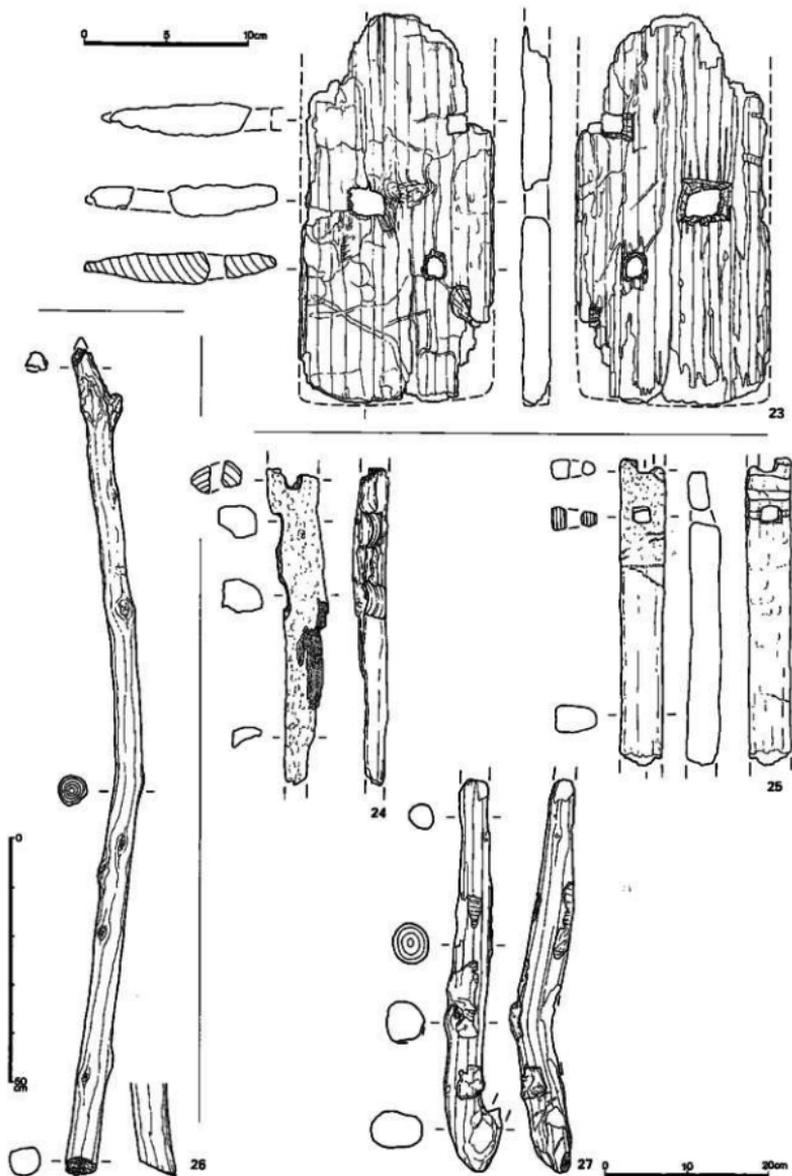
图V-94 B地区木製品 (1)



図V-95 B地区木製品(2)



図V-96 B地区木製品 (3)



図V-97 B地区木製品(4)

表V-27 B地区縄紋木製品

Gはドリット取上げ。 *は検出資料。 ※は中間部をわずかに欠損する。要目は検定値。

器種 No	木器 No	名	発掘区	取上 No	計測値 (cm)		樹皮重 (g)	樹木 取	樹種	点 数	備 考	
					長さ	幅						
1	8575	108	東瀬段部	G	2(48.1)	2.2 (6.1)	302.0	楕目	ソノナ	4	輪造式。鋸孔を欠損。	
2	8576	461	同区式部跡中層部	G	17.6	1.2	12.0	半割	ソノナ	1	両側に返しのある括り。矢中柄。ヤスの可能性あり。	
3	8577	171	把手状製品	G	2(22.7)	7.4	135.0	楕目	ソノナ	4	上部欠損。下部に括りあり。	
4	8578	172	曲物底・重	G	7.1	7.5	22.0	楕目	ソノナ	1	表にイトノボ状の痕跡。	
5	8579	181	輪造	G	2(35.2)	34.2	1.5	1230.0	○楕目	2	表面に炭化層分ある。片側は楕目取。	
6	8580	180	盆状浮腫底	G	(15.1)	(7.0)	1.4	80.0	楕目	ソノナ	1	わずかに薄削している。7と同一個体。
7	8581	796	盆状浮腫底	G	2(12.3)	(6.9)	1.7	72.0	楕目	ソノナ	2	樹皮部がわずかに立ち上がる。
8	8582	1690	腰当て製品	G	2(19.9)	2.1 (6.3)	173.0	○楕目	ソノナ	4	下部縁に括りあり。9と同一個体。	
9	8583	1690	腰当て製品	G	(7.2)	1.5 (4.6)	37.0	楕目	ソノナ	1	8と同一個体	
10	8584	170	腰付有孔角板材	G	2(40.5)	(27.9)	5.9	1995.0	楕目	ソノナ	14	輪造部立ち上がる。7か所に角孔
11	8585	460	額状製品	G	2(18.8)	0.7	0.5	4.5	一ノナ	2	ハ。額。側部断面円形。	
12	8586	242	輪状製品	G	19.0	2.0	1.6	65.0	1/4割	ソノナ	1	先端部磨耗。
13	8587	260	挿入付角棒状材	G	20.1	1.8	1.4	35.5	楕目	ソノナ	1	上部側縁に括りあり。
14	8588	631	板片	G	(8.3)	1.0	1.5	4.6	丸木	ソノナ	2	円板状の破片。
15	8589	695	挿入付丸棒状材	G	(9.9)	2.1	1.0	13.8	丸木	ソノナ	1	上部に括りあり。
16	8590	178	角棒状材	G	(11.1)	2.9	2.4	36.0	○楕目	ソノナ	1	大角形に面取り加工。
17	8591	176	挿入付板材	G	(13.6)	3.3	1.9	49.0	楕目	ソノナ	1	側部縁に括りあり。磨耗した下有孔板材か。
18	8592	798	磨耗目棒状板	G	2(45.0)	3.5	0.5	46.0	楕目	ソノナ	5	先端部に向かって幅が狭くなる。
19	8593	175	板状半葉舌	G	40.5	8.0	5.9	1322.0	楕目	ソノナ	1	表面に刃物の打撃痕多量ある。
20	8594	245	木端	G	7.7	5.3	3.4	98.0	楕目	ソノナ	1	断面三角形。木口面に切痕ある。
21	8595	177	骨材	G	(13.8)	(5.5)	7.2	169.0	骨材	ソノナ	1	円孔がある。
22	8596	626	有孔板材	G	(13.3)	(9.8)	1.0	60.0	楕目	ソノナ	1	円孔1か所。
23	8597	167	有孔板材	G	(23.7)	11.8	2.1	325.0	楕目	ソノナ	1	角孔3か所。
24	8598	179	有孔角材	G	(38.2)	6.3	4.0	423.0	1/4割	ソノナ	1	上部に角孔。側縁に括りあり。
25	8599	173	有孔角材	G	(37.3)	5.3	4.0	448.0	楕目	ソノナ	1	上部2か所に角孔ある。側部は縁の圧痕。
26	8700	714	板状材	G	(13.1)	6.5	5.8	2266.0	○丸木	ソノナ	1	先端部1面削り。磨耗角。
27	8701	174	棒状材	G	(47.9)	(6.5)	5.4	653.0	○膠木	ソノナ	1	棒状の部分欠損。上部分削磨著。

5) 自然遺物 (表V-28)

ここに掲げた遺物は、土壌水洗によって検出されたものである。B地区は範囲確認調査のための盛土を残したままでグラムシエルで包含層を採取した。従って遺物の時期は擦文時代から現代までの幅を持つ。

B地区はA'地区に較べて種類数・量が少ない、しかしB地区で新たに検出されたものもある。アヤメ属、サワシバである。「分類アイヌ語辞典 植物動物編」や「コタン生物記 I」によるれば、アイヌの人々にとってアヤメ属、サワシバは重要な植物ではなかったようだ。アヤメ属は山間に、サワシバは水分に恵まれた谷沿いの肥沃地に成育する。

(鈴木 信)

表V-28 B地区自然遺物

名 称	発 掘 区				
	101-①	101-②	102	103	104
獣骨片					
甲虫片					
カワシンジュガイ鱗皮	1 (0.07)				
サルノコシカケ	1 (0.72)	2 (56.85)		3 (213.5)	
スギナ		2 (0.12)			
キク科					
アヤメ					
カヤツリグサ科					
ショウブ					
エゾヤマザクラ					
コナラ	15 (0.84)	32 (0.98)	21 (0.71)	5 (0.56)	27 (3.15)
ハンノキ	35 (0.79)	20 (0.87)	83 (6.21)	23 (0.14)	
サワシバ					
クルミ属					
名 称	発 掘 区				
	105	106	107	108	109
獣骨片					1 (5.77)
甲虫片		16 (+)		15 (0.01)	8 (+)
カワシンジュガイ鱗皮					
サルノコシカケ	17 (121.35)	28 (238.62)	4 (85.73)	72 (1170.9)	16 (197.20)
スギナ	1 (0.03)	5 (0.49)		4 (0.25)	2 (0.03)
キク科					
アヤメ					1 (+)
カヤツリグサ科					31 (0.03)
ショウブ	6 (0.03)	18 (0.09)		151 (0.49)	
エゾヤマザクラ	1 (+)				
コナラ	52 (2.87)	68 (4.60)		91 (2.63)	17 (1.73)
ハンノキ	76 (+)	93 (4.63)	2 (0.10)	45 (0.12)	11 (0.87)
サワシバ					1 (+)
クルミ属	1 (3.20)	1 (3.99)			

7 C地区の調査

(1) 表土層の遺構(図V-98)

今回の調査において、表土層そのものは調査の対象になってはいないが、第0黒色土層上面を確認面とした上層遺構のかたちで存在した。遺構は杭穴状のピットの集中が3か所である。

1) 杭穴

杭が打ち込まれた際に、火山灰が下方へ引きずり込まれ、杭の先端部分に押し込められた状態で堆積する。このことから、杭が打たれた時期は、杭穴の先端部分にある火山灰の降下以後となり、覆土にTa-aを含むものは表土層の杭穴となる。ただし表土層上面、表土層中、Ta-a層上面のいずれから打たれたかはわからない。

杭穴は全部で33か所あった。分布は主にc-67-80とc-67-92とb-67-04に集中している。またこれらには配列の規則性は見当たらない。c-67-80に集中する杭穴は、先端が0黒層まで達している。これらの確認面での直径は5cmが1例、6cmが1例、7cmが3例、8cmが2例、9cmが3例、10cmが1例である。c-67-92とb-67-04に集中する杭穴は、先端がI黒層まで達している。c-67-92に集中する杭穴の確認面での直径は5cmが1例、6cmが9例、8cmが4例である。b-67-04に集中する杭穴の確認面での直径は3cmが1例、5cmが2例、6cmが1例、10cmが1例である。先端が0黒層まで達している杭穴の確認面での直径の平均は7.7cm。先端がI黒層まで達している杭穴の確認面での直径の平均は6.4cmで、先端が0黒層まで達している杭穴のほうがやや太い。(鈴木 信)

(2) 第0黒色土層の遺構とその遺物

Ta-a層(1739年降下)とTa-b層(1667年降下)との間に形成された0黒層は本遺跡の主体となる遺物包含層である。遺構は、建物跡、木組、立杭、杭穴、集石、焼土、自然遺物集中、炭化物集中がある。遺物は、石製品、金属製品、木製品、樹皮製品、自然遺物が出土した。石製品、金属製品は、主にc-67-92にある建物跡付近に集中し、木製品、樹皮製品は調査区北側の標高4m以下に多く分布する。

1) 建物跡(図V-99・101・102、表V-29・30、図版V-47)

0 H-1

位置 c-67-92・93

規模 面積約5m² 立杭12本

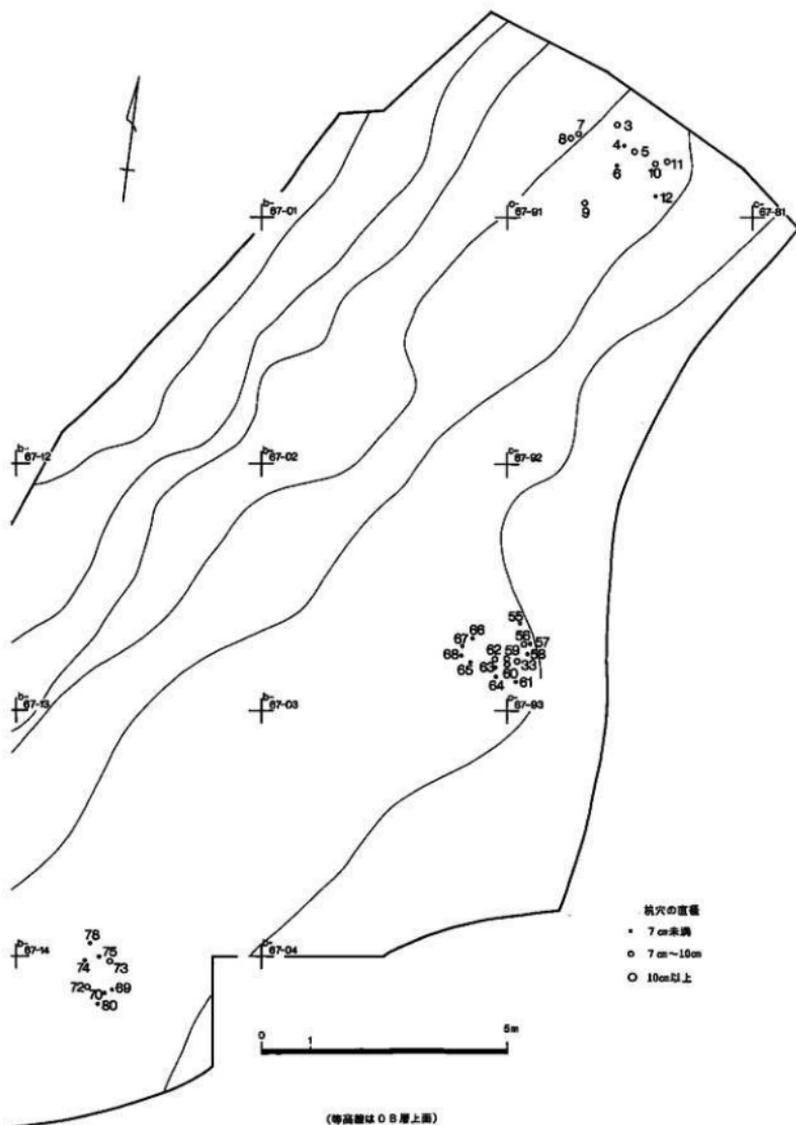
調査 この掘建柱建物跡は、Ta-a層除去後すぐに0黒層上面で立杭列として確認された。

特徴 調査区中央の標高4mの等高線がテラス状に張り出す部分に斜面と並行して建てられている。柱は樹皮を残したままの丸木を用いており、直径は6cm未満~11cmで8cm・6cmが多い。先端の切り出しは交差し、角度は鋭角である。斜面下側には7cm~12cmのやや太い柱が使われている。

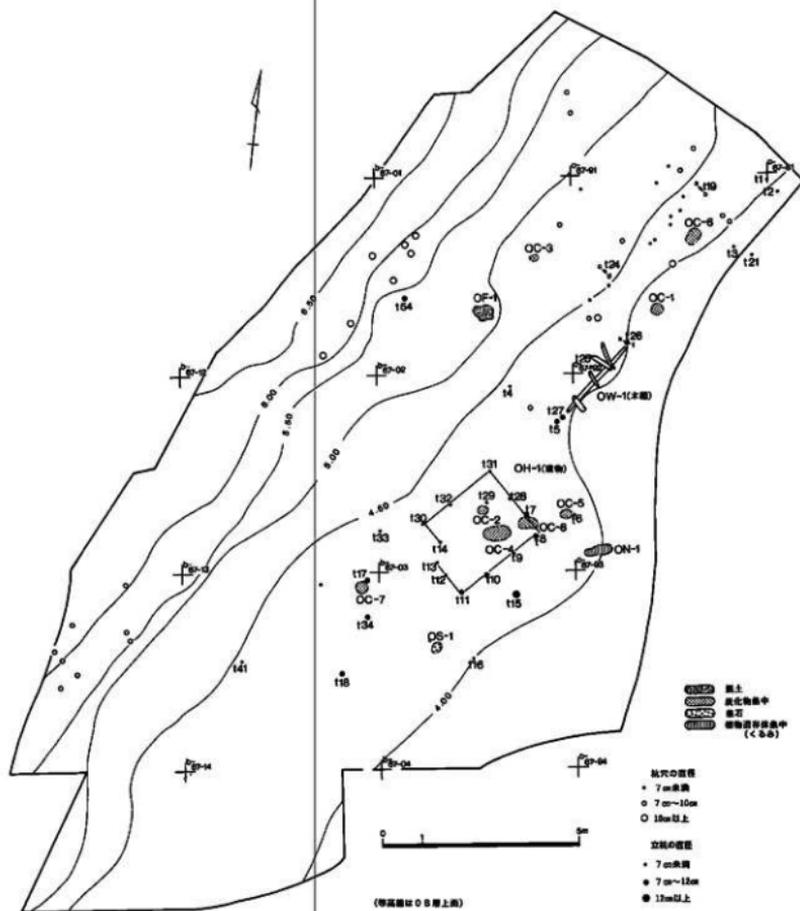
内部には0C-2を伴っている。周辺には0W-1、0C-5、0N-1を伴っている。遺物の分布も建物跡の北東側に集中している。規模が小さいことから家族が常住する家屋とは考えにくく、作業小屋などの用途が考えられる。

この建物の内部のTa-bがなかったこと、Ta-a層除去後すぐに0黒層上面で立杭列として確認されたことから、Ta-b降下以前からTa-a降下直前まで建てていたと考えられる。

実測可能なものを図V-101・102の4~9に掲載した。カッコの中の記号のtは立杭を示し、数字はその番号を表す。2・4・5面削りのものがみられる。(鈴木 信)



図V-98 C地区表土層遺構位置図



図V-99 C地区0黒層遺構位置図

2) 木組 (図V-99・101、表V-29・30、図版V-47)

0 W-1

位置 c-67-81・82・92

規模 横木1本、立杭2本、材4本

調査 Ta-a層除去後すぐに0黒層上面で確認された。材4本は、横木に拠りかかった状態で出土した。この材4本は先端が尖った杭状をなしており、長さは40cm~50cmくらいである。

特徴 調査区北側の標高4mの等高線上に斜面と並行して建てられている。横木は一部炭化した樹皮のない丸木を用いており、直径は8.5cmで先端の切り出しは並行で、面取りを2面しており、角度はやや鋭角である。立杭2本はいずれも樹皮を残したままの丸木を用いており、先端はいずれも鋭角をなす。周辺には0 H-1・0 C-2・0 C-5・0 N-1が存在する。木組の北側には切片、枝切痕、箸状木製品、串状木製品などがやや多く分布している。

実測可能なものを図V-101の1~3に掲載した。2は杭の中ほどに6面の面取りがみられる。

(鈴木 信)

3) 立杭 (図V-100~103、表V-29・30、図版V-46・47)

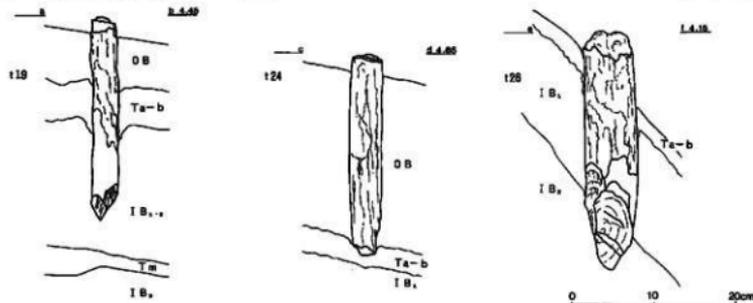
0黒層で上部を確認できたものは20か所である。いずれも杭頭は腐朽して残存しておらず、打ち込み面は確認不能である。腐植が進行してなくなってしまった部分は腐朽した時点までは地上に出ていると考えられる。従って、杭が打たれた時期は、残存していた上部を確認した面の時期よりも遡ることはない。以上より、残存していた上部を確認した面が立杭の所属する時期と考えられる。

分布は杭穴が斜面部分の標高6mから斜面裾部の4.5m付近までに分布するのにたいして、立杭は1例を除くと斜面裾部の標高4.5m~4mに分布する。分布は等高線に並行しており、調査区北側と0 W-1付近と0 H-1の南西側にややまとまっている。しかし、後述する杭穴に較べると、分布や配列に規則性はみられない。

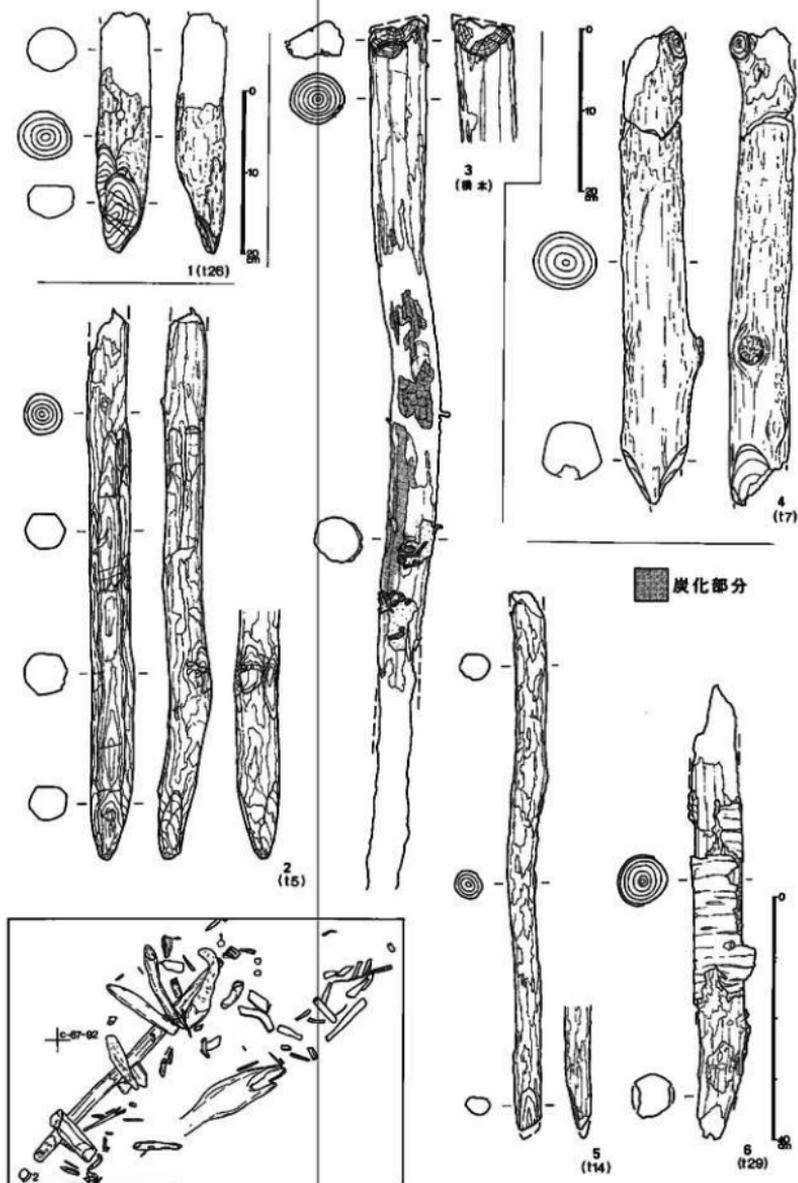
立杭の大きさは、現地で取上げられかつ計測できた個体の直径で表すと、3cmが4点、4cmが1点、5cmが1点、6cmが2点、7cmが6点、8cmが2点、9cmが1点、10cmが3点、直径のピークは7cmにあり、3cmと10cmが多い。0 H-1のピークが8cmにあるのにたいしてやや細目である。

実測可能なものを図V-102の10から図V-103の1~16に掲載した。15は丸木の一部を1面取したもの。16は柱目取の板材の一端を割削いで先端部を作りだしている。その他の杭は丸木で先端部切出しが交差する多面取のものである。

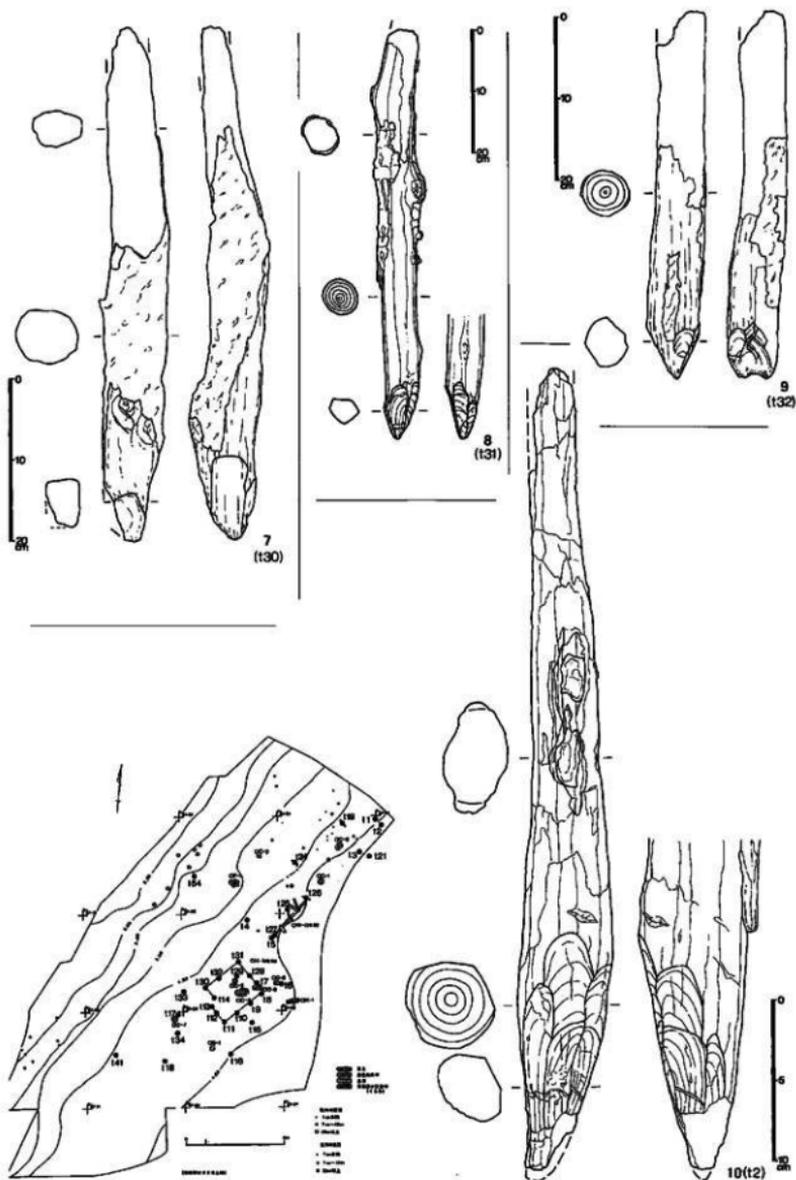
(鈴木 信)



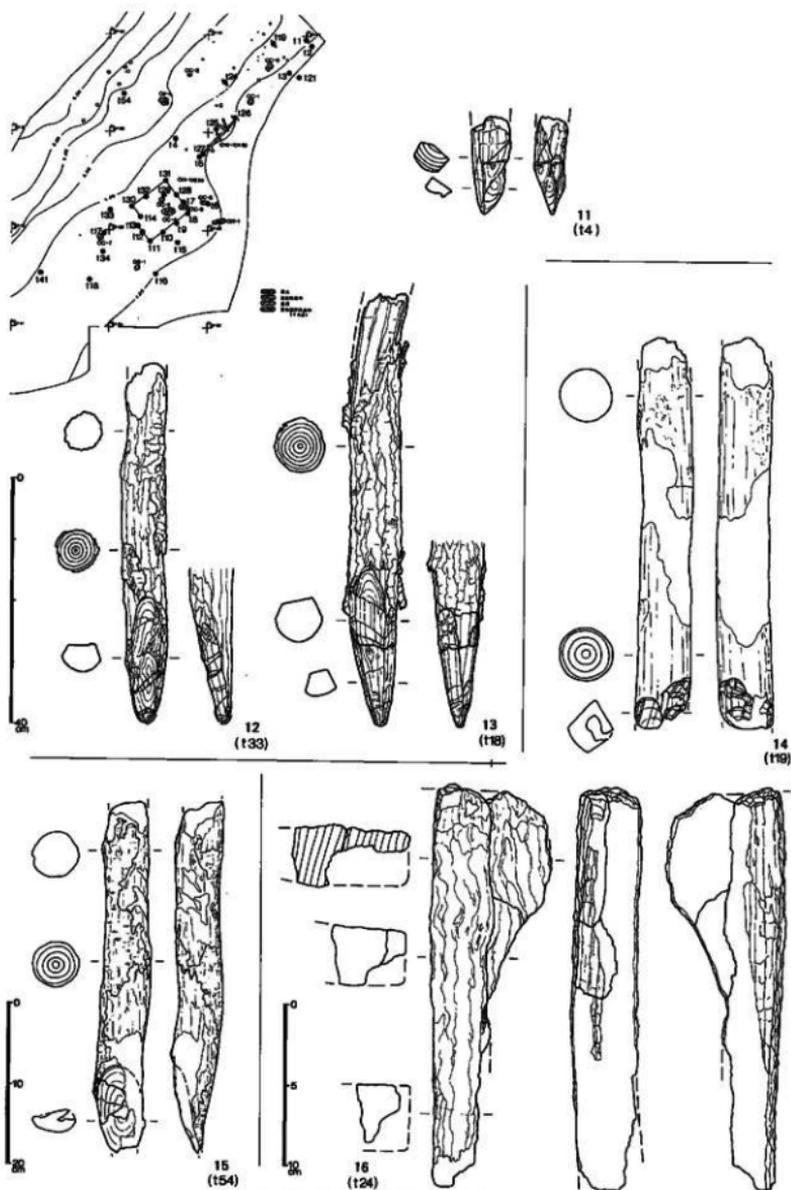
図V-100 C地区0黒層立杭断面図



図V-101 C地区0黒層立杭(1)



図V-102 C地区0黒層立杭(2)



図V-103 C地区0黒層立杭(3)

表V-29 C地区0黒層地蔵立杭

図番号	遺構名	発掘区	確認面	方向(第一先)	長さ×幅×厚さ(cm)	掘重量(kg)	木取り	備考
V-101-1	立杭-26	c-57-81	0 B	NE→SW	(29.0)×6.5×6.0	(633)	丸木	樹皮が残っている。
-2	-5	c-57-92	0 B	垂	(88.8)×6.2×7.0	(2680)	丸木	樹皮あり。
-8	横木	c-57-81-82	0 B	水	(143.8)×9.0×8.5	(5570)	丸木	炭化部分あり。
-4	立杭-7	c-57-92	0 B	垂	(57.8)×8.6×7.4	(3119)	丸木	2点接合。樹皮あり。
-5	-14	c-57-92	0 B	SE→NW	(86.9)×5.3×4.9	(1246)	丸木	
-6	-29	c-57-92	0 B	垂	(73.4)×8.4×8.2	(2968)	丸木	樹皮あり。
V-102-7	-30	c-57-92	0 B	垂	(61.8)×7.7×8.2	(1852)	丸木	樹皮あり。
-8	-31	c-57-92	0 B	垂	(66.0)×7.8×7.3	(1719)	丸木	樹皮あり。
-9	-32	c-57-92	0 B	S→N	(44.4)×6.6×6.2	(1017)	丸木	樹皮あり。
-10	-2	c-57-71	0 B	W→E	(48.5)×5.5×7.1	(686)	丸木	
V-103-11	-4	c-57-92	0 B	垂	(15.7)×6.0×4.9	(192)	丸木	
-12	-33	c-57-92	0 B	垂	(57.9)×7.0×7.8	(1552)	丸木	
-13	-18	b-57-03	0 B	W→E	(69.6)×10.0×10.3	(2922)	丸木	樹皮あり。
-14	-19	c-57-81	0 B	E→W	(23.7)×3.4×3.2	(172)	丸木	腐蝕部分に横方向にヒビが入る。下部は芯が抜けている。
-15	-54	c-57-91	0 B	垂	(43.0)×6.0×5.8	(631)	丸木	樹皮が残っている。
-16	-24	c-57-81	0 B	N→S	(24.9)×(7.1)×(3.9)	(229)	板	立杭。

表V-30 C地区0層立柱

遺構名	図番号	発掘区	確認面	方向(第一先)	直径(cm)	遺構名	図番号	発掘区	確認面	方向(第一先)	直径(cm)
立柱-1	未掲載	c-67-81	O B	垂直	3	立柱-18	V-103-13	b-67-03	O B	W-E	10.3
-2	V-102-10	c-67-71	O B	W → E	7.1	-19	V-103-14	c-67-81	O B	E → W	3.4
-3	未掲載	c-67-81	O B	E → W	3	-21	未掲載	c-67-81	O B	NE-SW	7
-4	V-103-11	c-67-92	O B	垂直	6.0	-24	V-103-15	c-67-81	O B	N → S	(7.1)
-5	V-101-2	c-67-92	O B	垂直	7.0	-25	未掲載	c-67-81	O B	SW-NE	7
-6	未掲載	c-67-92・91	O B	SW-NE	3	-26	V-101-1	c-67-81	O B	NE-SW	6.5
-7	V-101-4	c-67-92	O B	垂直	9.6	-27	未掲載	c-67-92	O B	垂直	9
-8	未掲載	c-67-92	O B	垂直	10	-28	未掲載	c-67-92	O B	垂直	3
-9	未掲載	c-67-92	O B	SW-NE	6	-29	V-101-6	c-67-92	O B	垂直	3.4
-10	未掲載	c-67-93	O B	垂直	8	-30	V-102-7	c-67-92	O B	垂直	3.2
-11	未掲載	c-67-93	O B	E → W	6	-31	V-102-8	c-67-92	O B	垂直	7.3
-12	未掲載	c-67-92	O B	E → W	6	-32	V-102-9	c-67-92	O B	S → N	3.6
-13	未掲載	c-67-92	O B	SW-NE	5	-33	V-103-12	c-67-92	O B	垂直	7.3
-14	V-101-5	c-67-92	O B	SE-NW	5.3	-34	未掲載	b-67-03	O B	NE-SW	10
-15	未掲載	c-67-93	O B	垂直	8	-41	未掲載	b-67-03	O B	N → S	4
-16	未掲載	c-67-93	O B	E → W	5	-54	V-103-15	c-67-91	O B	垂直	6.0
-17	未掲載	b-67-03	O B	E → W	10						

直径は掲載遺物では実測による最大径。他は現場での略測による概数を記した。

表V-31 C地区0層杭穴

遺構名	発掘区	確認面	直径(cm)	遺構名	発掘区	確認面	直径(cm)
杭穴-1	c-67-80	O B	8	杭穴-36	c-67-81	O B	5
-2	c-67-80	O B	10	-37	c-67-80	O B	8
-14	c-67-91	O B	12	-38	c-67-81	O B	5
-15	c-67-91	O B	12	-39	c-67-80	O B	10
-16	c-67-91	O B	17	-40	c-67-81	O B	3
-17	b-67-01	O B	13	-41	c-67-81	O B	5
-18	c-67-91	O B	12	-42	c-67-80	O B	4
-19	b-67-01	O B	11	-43	c-67-81	O B	4
-20	b-67-01	O B	15	-44	c-67-80	O B	7
-21	b-67-03	O B	10	-45	c-67-81	O B	10
-22	b-67-13	O B	9	-46	c-67-81	O B	3
-23	b-67-13	O B	10	-47	c-67-81	O B	3
-24	b-67-13	O B	10	-48	c-67-81	O B	4
-25	b-67-13	O B	9	-49	c-67-81	O B	4
-26	b-67-13	O B	8	-50	c-67-81	O B	20
-27	b-67-13	O B	7	-51	c-67-92	O B	8
-28	b-67-13	O B	8	-52	c-67-81	O B	4
-30	c-67-81	O B	3	-53	b-67-03	O B	5
-35	c-67-81	O B	8				

4) 杭穴 (図V-99、表V-31、図版V-46-1)

0黒層の杭穴は覆土にTa-aを含まず、Ta-bを含むものである。ただし0黒層上面、0黒層中のいずれから打たれたかはわからない。

杭穴は全部で37か所あった。分布は主にc-67-81とc-67-91とb-67-13に集中している。

c-67-81に集中する杭穴は、先端が1黒層まで達している。確認面での直径は3cmが4点、4cmが5点、5cmが3点、7cmが1点、10cmが1点である。直径は3cmから10cmまでの変位があり、ピークは4cmにある。配列は標高4.5cmの等高線に沿ってみられるが、間隔はまちまちで、直径も他の杭穴の集中と較べると小さいことから、小規模な遺構の集合体である可能性が高い。付近には切片や枝切痕や管状木製品や串状木製品などが非常に多く分布している。

c-67-91に集中する杭穴は、先端がTa-b層まで達している。確認面での直径は11cmが1点、12cmが3点、13cmが1点、15cmが1点、17cmが1点である。直径は11cmから17cmまでの変位があり、ピークは12cmにある。配列は標高6mの等高線に沿ってみられる。c-67-81に集中する杭穴よりも径が大きいことから、0W-1のような遺構の可能性もある。直径の組合せでみると2か所くらい存在しそうだ。斜面下の0F-1と関係のありそうな杭穴列が標高5.5mの等高線に沿ってみられる。b-67-13に集中する杭穴は、先端がTa-b層まで達している。杭穴の確認面での直径は7cmが1例、8cmが2例、9cmが2例、10cmが3例である。直径は7cmから10cmまでの変位があり、ピークは10cmにある。配列は標高6mと5.5mの等高線に沿ってみられる。c-67-81に集中する杭穴よりも径が大きいことから、0W-1のような遺構の可能性もある。(鈴木 信)

5) 集石 (図V-104、表V-32)

0S-1

位置 c-67-93

規模 52.0g~108.8g 7点

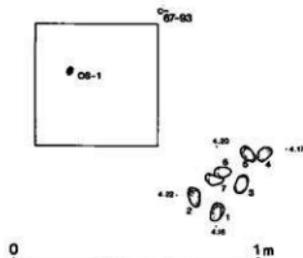
調査 0黒層中から出土している。

特徴 礫は互いに重なりあうことがなくやや離れた状態で出土した。岩質は泥岩が多く、形態は棒状楕円礫と円扁平礫が多い。集石の周りには木製品などの遺物は出土していない。昨年出土した集石は80g~400gで片麻岩が多いのに較べ、泥岩の小さい礫で構成されているのが特徴である。構築された時期は一番下の礫が0黒層の上位なのでTa-a降下年代に近いとおもわれる。(鈴木 信)

6) 焼土 (図V-105、図版V-48-1・2)

0F-1

位置 c-67-91 標高4mの等高線がテラス状に張り出した部分に位置する。



図V-104 C地区0黒層集石

表V-32 C地区0黒層集石計測値

図番号	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材・石質	備考
1	8.58×5.18×0.96	69.0	安山岩 円礫	楕円扁平礫
2	6.45×5.23×1.26	69.9	砂岩 円礫	楕円扁平礫
3	8.18×4.28×2.23	108.8	泥岩 円礫	楕円礫
4	6.97×4.18×1.91	81.9	砂岩 円礫	楕円扁平礫
5	5.58×3.71×1.53	52.0	チャート 円礫	楕円扁平礫
6	7.43×3.18×2.26	61.8	泥岩 重円礫	棒状楕円礫
7	6.42×3.03×1.83	62.1	泥岩 重円礫	棒状楕円礫

規模 0.55×0.45×0.06

調査 Ta-a層除去後すぐに0黒層上面で確認された。

特徴 掘り込みのある焼土塊である。平面形は不整形円形を呈し、断面は丸い墳底から内湾して立ち上がる壁によって構成されている。覆土は、上層(イ)は、灰と被熱したサケ科、マイワシ、コイ科の骨を含む。下層(ロ)は、灰と炭化物が少量混じっている。また、下層からは被熱していない片麻岩の棒状扁平礫(12.08 cm×5.42 cm×1.64 cm, 186.4 g)が出土している。またフローテーションの結果アワが検出されている。テラス状に張り出した部分に立地すること、その斜面上の直径の太い杭穴列と合わせて考えるとたんなる焼土とはいえないかも知れない。0黒層上面で検出されていることからTa-a火山灰が降下した年代に近い遺構である。

(鈴木 信)

7) クルミ集中(図V-99)

0 N-1

位置 c-67-82

規模 0.70×0.24

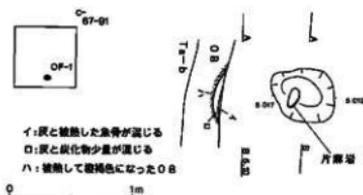
調査 Ta-a層除去後すぐに0黒層上面で確認された。

特徴 クルミの殻が21.1g出土している。標高4 mの等高線に直交するように位置している。クルミの広がりか斜面の上から下に向かって放射状に広がっていることやフローテーションの結果、タデ風、タラノキ風、ブドウ風などの種子が発見されていることから、おそらくは植物質の残滓がまとめて投棄されていたものと考えられる。

8) 炭化物集中(図V-99、表V-33)

炭化物集中はいずれも掘り込みなどの遺構を伴わず、炭化物が平坦にしかも不整形に広がっていた状態の遺構を言う。0 C-1・3・6は0黒層上層で確認されており、調査区の北側に集まっている。0 C-2・5は0黒層上面で確認されており、0 H-1の内外にある。0 C-4・7・8は0黒層中位で確認されており、c-67-92付近に集まっている。フローテーションの結果、0 C-1・4・7からはアサ、0 C-6・8からはヒユが検出されている。各炭化物集中からはフローテーションによっていろいろな種子が検出されている。このことは、炭化した大型植物遺存体と合わせて考えなければならぬが、遺構の性格を反映している可能性が強い。

(鈴木 信)



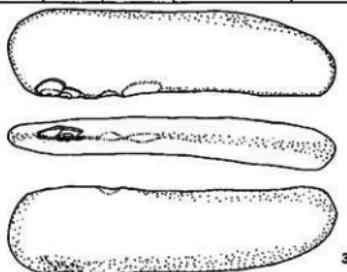
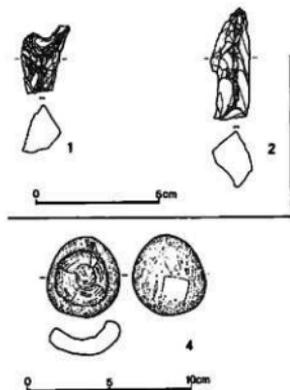
図V-105 C地区0黒層焼土

表V-33 C地区0黒層炭化物集中

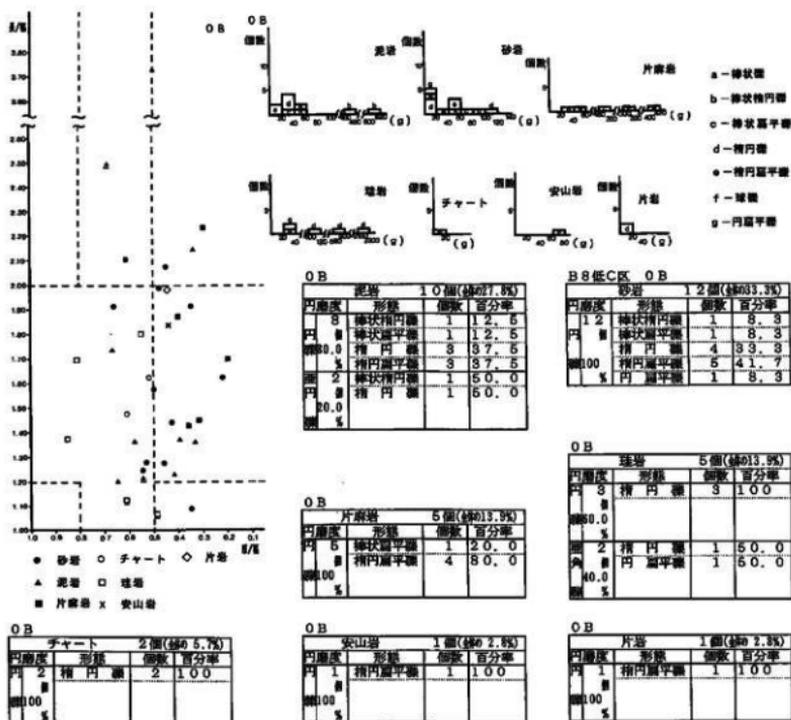
名称	発掘区	構築面	長軸×短軸(m)
OC-1	c-67-81	OB上層	0.32×0.32
-2	c-67-92	OB上面	0.20×0.20
-3	c-67-91	OB上層	0.20×0.18
-4	c-67-92-93	OB中層	0.70×0.40
-5	c-67-92	OB上面	0.30×0.23
-6	c-67-81	OB上層	0.40×0.36
-7	c-67-03	OB中層	0.33×0.32
-8	c-67-92	OB中層	0.51×0.31

表V-34 C地区0黒層掲載石器・石製品

図番号	名称	発掘区	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質
1	火打石	c-87-80	27.6×20.8×10.8	8.8	チャート
2	火打石	c-87-82	45.0×16.0×22.5	16.8	チャート
3	丸たき石	b-87-81	19.5×5.4×2.2	482.4	緑色泥岩
4	礫石製品	c-87-91	49.1×44.0×19.2	10.7	流紋岩



図V-106 C地区0黒層石器・石製品



図V-107 C地区0黒層グラフ・表

(3) 第0黒色土層の遺物

1) 石器・石製品・礫(図V-106・107、表V-34、図版V-49-1)

石器・石製品

1と2は赤色チャートの火打石。3は緑色泥岩のたたき石。4は軽石製品、火皿のミニチュアか。

礫(図V-107): グラフは0黒層の完形の礫36点(礫片208点)について形態を岩質別に示した。砂岩は主に横軸値0.35~0.65、縦軸値1.24~2.10にやや集中している。棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(33.3%)と楕円扁平礫(41.7%)によって構成されている。泥岩は主に横軸値0.33~0.65、縦軸値1.20~1.37に集中している。棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(33.3%)と楕円扁平礫(40.0%)によって構成されている。泥岩は砂岩に比べるとより丸い平面形が集まっている。片麻岩は主に横軸値0.18~0.83、縦軸値1.42~2.24に分布している。棒状扁平礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円扁平礫(80.0%)によって構成されている。片麻岩は泥岩や砂岩に比べるとより扁平な礫が集まっている。珩岩は横軸値0.49~0.85、縦軸値1.06~1.80に広がりを持つ。楕円礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(80.0%)によって構成されている。各岩質を通じて楕円礫・楕円扁平礫が多い。

図V-107 右上のグラフは岩質ごとの形態別重量を示した。砂岩の75.0%は0~60gの範囲にあり、0~20gの範囲にピークがある。また0~60gの範囲における形態は、棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。泥岩の80.0%は0~60gの範囲にあり、20~60gの範囲にピークがある。また0~60gの範囲における形態は、棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。片麻岩と珩岩は特定の重量に集中することもなく、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。砂岩・泥岩は0~60gの範囲の重量が選択されている。

形態と重量の関係は、砂岩・泥岩のように、代表的な形態が集中せず各重量に分散して、かつ特定の重量が選択されているものについては、選択の基準が重量にあることを示している。(鈴木 信)

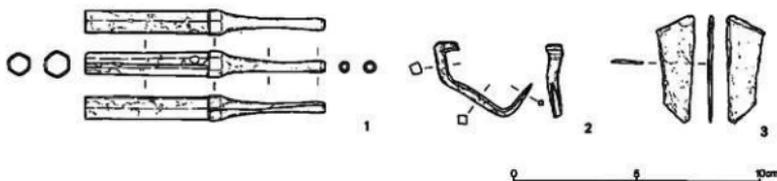
2) 金属製品(口絵4-5、図V-108、表V-35、図版V-49-2~4)

1は真鍮製キセル吸口、古泉分類の吸口第I類B。断面六角形の肩部分の上から吸口を被せている。彫金は無いが古式の水口キセルに近い形をしている。2は銅製の釘。3は銅板片で端に切断痕がある。

(鈴木 信)

表V-35 C地区0黒層掲載金属製品

図番	金属番号	名称	調査区	遺物番号	長さ	幅	厚さ(mm)	重量	部材数	材質	備考
1	76	キセル吸口	c-87-32	3	9.8	1.1	1.0	8.0	1	真鍮	インクラック処理
2	76	釘	c-87-31	4	3.0	4.0	0.7	5.7	1	銅	インクラック処理
3	77	銅板片	b-87-03	5	4.4	1.6	0.2	0.6	1	銅	インクラック処理



図V-108 C地区0黒層金属製品

3) 木製品・樹皮製品(図V-109~114、表V-36~37、図版V-50~53)

木製品・樹皮製品の密度は、A'地区と比較すると非常に希薄である。その多くはc-67-81に集中する傾向があり、その他にはc-67-82、c-67-91、b-67-03の三地点に小さな集中箇所がある。分布は建物跡、木組、立杭、枕穴、炭化物集などの遺構を避けるように外側に少しずれている。

握部付容器(1)：容器の先端部は欠損している。一木を横木取りして握部から容器部までを割り出している。器厚が薄く、底面は平坦である。握部の断面は円形である。当初はあか汲みと考えていたが、容器の器厚が薄く側縁も低いため、水を少量しか汲み出せないことや容器底部分と握部に段差がなく水平構造であるため、水を汲みだすときに握部を握った指が床面にあたり作業に不都合であることが判明し名称を変更した。また、餌入れとも推定されたが、おりの中に餌入れが引き込まれないように容器の握部側を高くするという特徴的な構造はない。

柄挿入部(2)：櫂の柄末端に装着される「Y」字形の握部である。柄挿入部は長方形で、挿入された柄が残存し一方から目釘が打ち込まれている。

回転式離頭鉤中柄部(3)：表面の摩耗が著しい。先端部の断面は楕円形であり、基部は槍部と密着させるための平坦面が削りだされている。接合のための挟り部は、小さな「V」字状の挟りとなっており、固定・接合のための紐の圧痕が認められる。平坦面の角度から一本式の中柄と考えられる。

柄・棹との接合部(4・5)：魚突き鉤台部または回転式離頭鉤中柄の柄や棹との接合部(基部)である。4は柄に装着するための帯状の挟り部と裏面に平坦面が作出されている。5は二本組合式の回転式離頭鉤中柄部の基部端と考えられる。稜線には3か所の「V」字状の刻目があり、側面に短い斜め二本線でイトヅバが刻まれている。「キ」の字状に見えるのは亀裂のためである。上部は意図的に切截されている。

針状製品(6)：上端部は斜め一面削りし、その削りの下部に円孔が貫通している。削られた部分の髄は失われ凹んでおり、貫通した円孔につながっている。全体の表面加工は丹念で、下端部に平坦面が作出されている。

鉤形木鏃(7)：股木を利用した木鏃の頭部破片である。先端部は欠損し、鉤の頂点は切截され、断面が半円形となる。

挟入付丸棒状材(8)：端部の平らなコケシ状の頭部の直下は、帯状に深く挟られている。それより下は腐朽と土圧によりつぶれている。

挟入付丸材(9)：樹皮の残る丸木材の両端を粗く平らに削り、中央を角形に挟っている。

曲物底版(10)：曲物の柄杓底版と考えられる。柁目板の二枚合わせの底であり、側面に木釘孔が3か所認められる。板の上方には木釘孔が1か所あり、挿入した柄の固定具を裏から木釘によって接合するためのものである。

栓(11~14)：すべて円錐台形となるものである。頭部と挿入部の先が平坦となり、樽の鍍板に差し込まれたものと考えられる。11の頭部には、蓋につけられた焼き印の一部が認められる。12の頭部はつぶれている。

樽側板(15)：板目板で口縁部側が厚く、底付近の内面は薄く削られている。底付近の内面には底版がはめこまれた痕跡として横走する傷痕が多数認められ、直下には底版を固定していた木釘が残存している。

管状製品(16~20)：基準はA'地区と同様であるが、先端・基部を欠損するものが多いため細分は難しい。18はA類とされる両口管で、角形となる胴部の両端部を平らにしたA₁類であろう。17はC類とされる寸胴管に近いものであり、丸木取りの両端を欠損している。16はB類とされる片口管であり、

上部が楕円形となっている。

串状製品(21~23): 箸状製品と同じく、基準はA'地区と同様である。21の断面形は角形となりB類に近いものである。先端部は斜め削りであり、上端部に焼痕が認められる。23の断面形は扁平な楕円形となるD類である。また、先端部は薄く幅広に加工され、斜め削りで尖らせているためC類に近い要素を持ち側縁の中央に刻目がある。焼痕が認められる。H類(22)はタケ・ササを割裂き、薄くしたものである。

ピン状製品(24~35・38): 26~31は太い端部側から先端部に向かって全面を粗く削りだしたものである。24・33の断面は楕円形である。33は上端部を欠損しているため串状製品の可能性もある。25の断面は円形であり、両端部の摩耗が著しい。32・38の断面は角形である。38は楕円の粗い削りのもので、表面に焼痕がある。34の断面は半円形で、表面が摩耗している。35は先端の断面が角形となるように削りだしたものである。先端部のみ差し込むものであろう。

軸状製品(36・37): 太い端部から先端部に向かって全面を丹念に削りだしたものである。36は半割材で断面が楕円形となるものである。先端部は欠損している。37の表面は丸木の稜だけを削り、先端部は丹念に削りだしている。

丸材(39・40): 39の先端部は炭化している。40の両端は腐朽している。丸木取りの串状製品の可能性がある。

薄径目棒状板材(41): 断面がやや楕円形となる、篋状の柱目板である。下端部の表面は刃部のように削りだされている。

扶入付薄錐状材(42): 断面がやや凸形となる板材である。上端部が角形に加工され、その直下は角形に浅く抉られている。扶入部の稜線は樹皮などが巻かれたようにつぶれている。

有孔板材(43): 上部がやや弧状となる角形の柱目板である。四隅には各1か所ずつ、やや斜めに穿孔された角孔が開けられている。表面には板作成時の斜め方向の削りが顕著に残る。

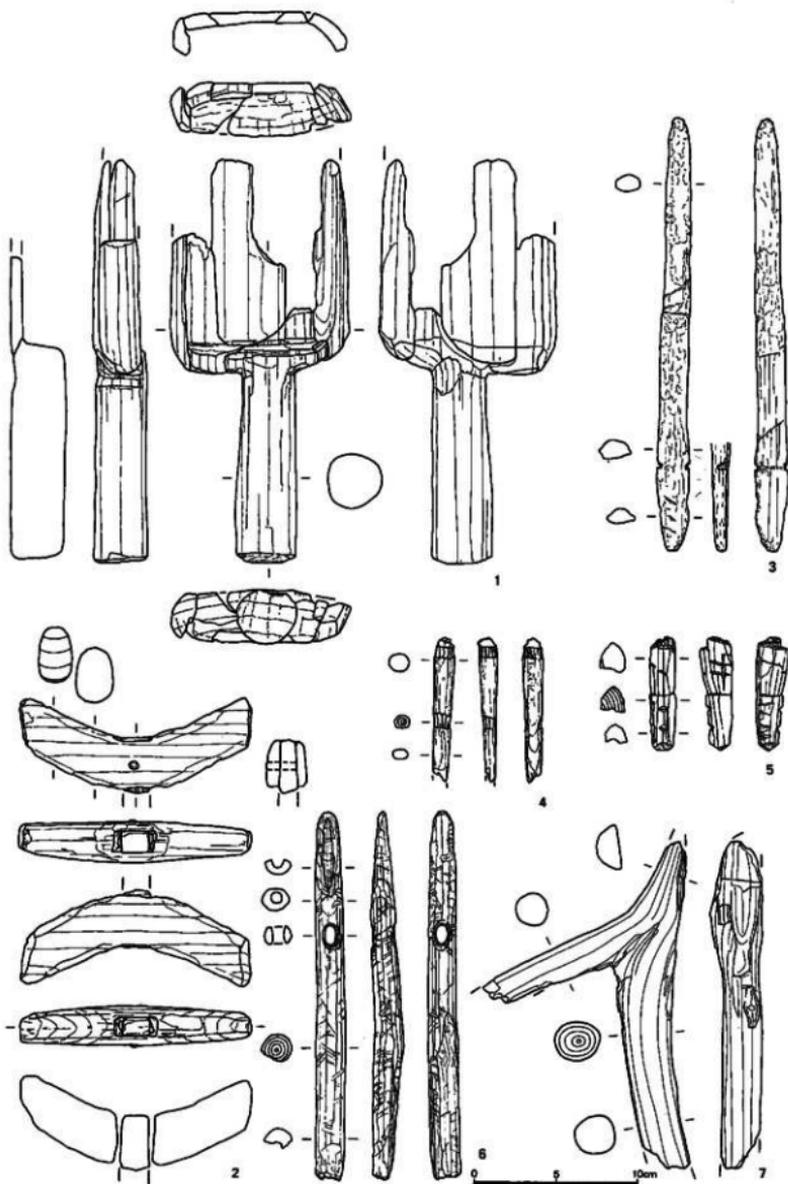
球状材(44): 両端部から粗く削りこんでおり、球状となっている。組合式の建材などのコケシ状の頭部であった可能性がある。

板材(45): 板目板である。表裏には板作成時の斜め方向の削りが顕著に残り、部分的に薄い樹皮状の繊維が付着する。削られた側面の上下にはかすかにつぶれたような凹みが認められる。

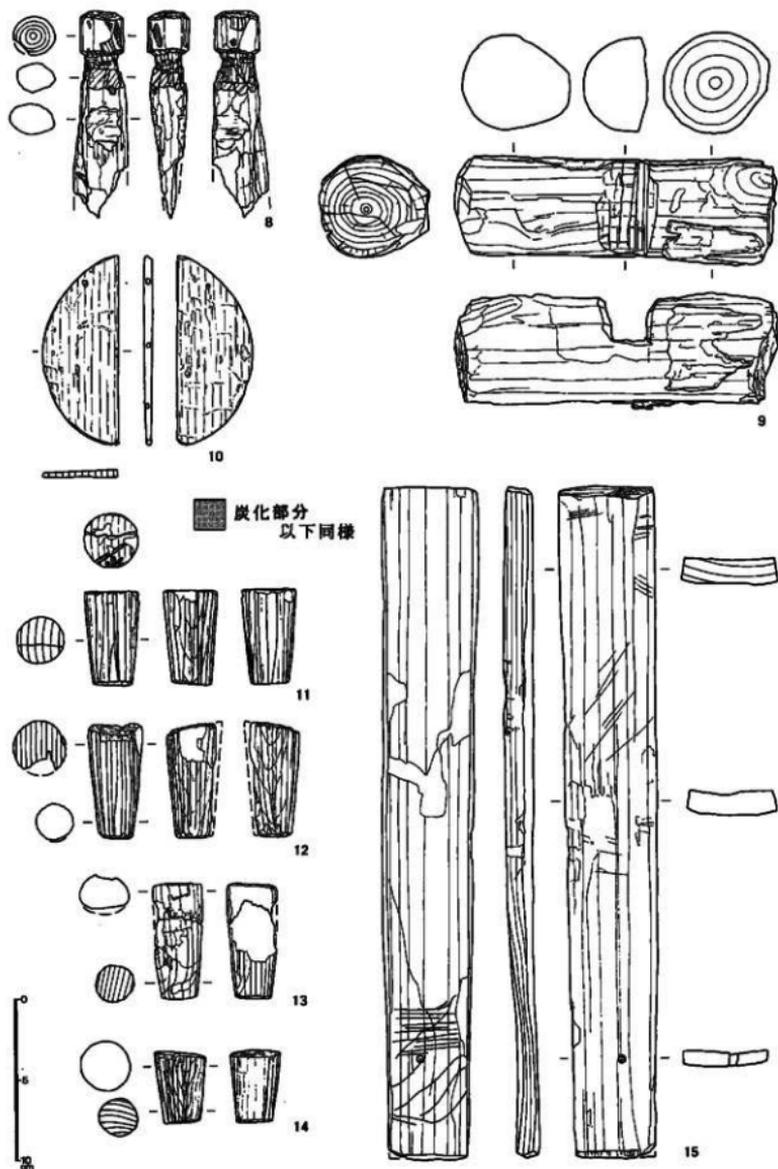
木端(46・47): 建材や各種部材の長さ調整のために切截された丸木材の端である。46には両端部および側面に顕著な削り面がある。47の下端部は一面削りで、平坦な上端部には斜め上方から切痕が多散れる。地中に埋まっていた杭先端部の可能性もある。

樹皮製品(48~51): 48は四枚重ねの細帯状樹皮を束ね螺旋状に細帯状樹皮を巻きつけたものである。束ねられた樹皮の表面は、巻かれた細帯状樹皮の圧痕が鮮明に認められる。両端が内側に折れ曲がっていることから小さな容器の把手部分の可能性もある。49は対象物に樹皮を巻きつけて結び締めた結束式の細帯状樹皮である。50は両端が内側にカールした細帯状樹皮である。51は螺旋状に巻かれた太い帯状の樹皮である。燈火用の筒状に長く巻かれた頭部挿入式のものが緩んだ可能性がある。

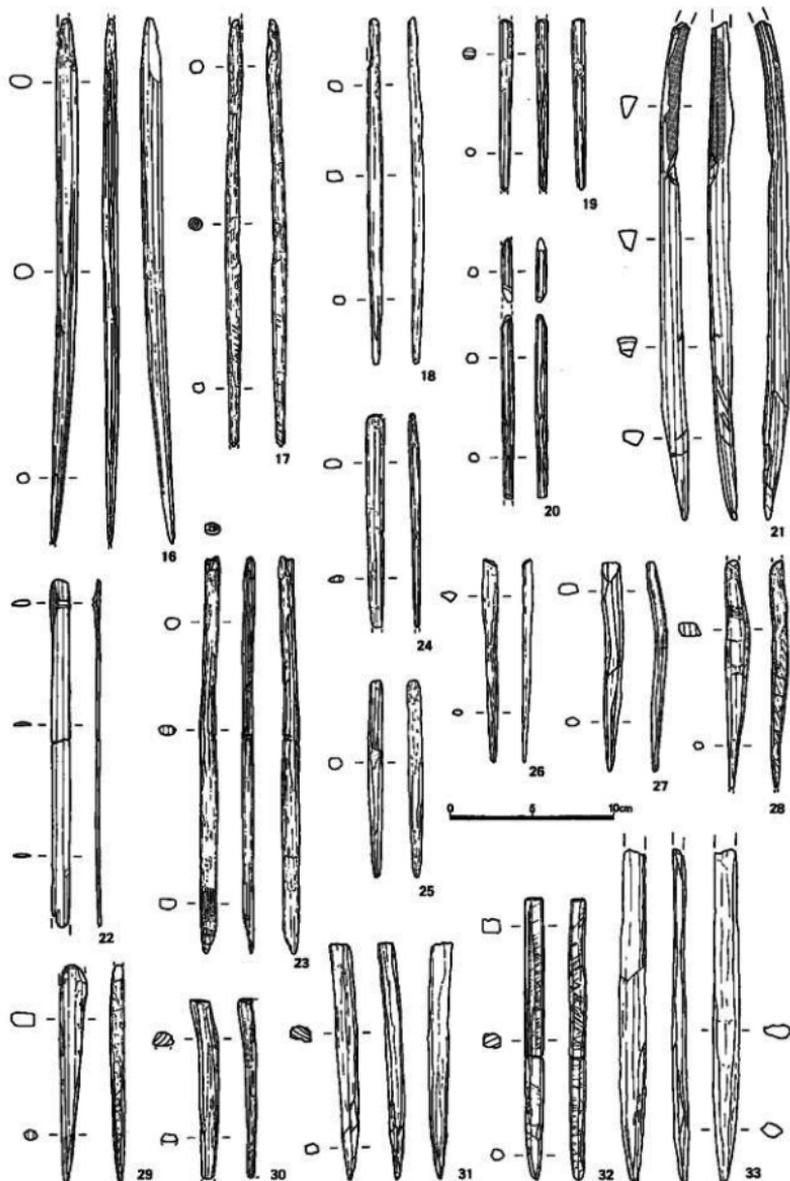
(田口 尚)



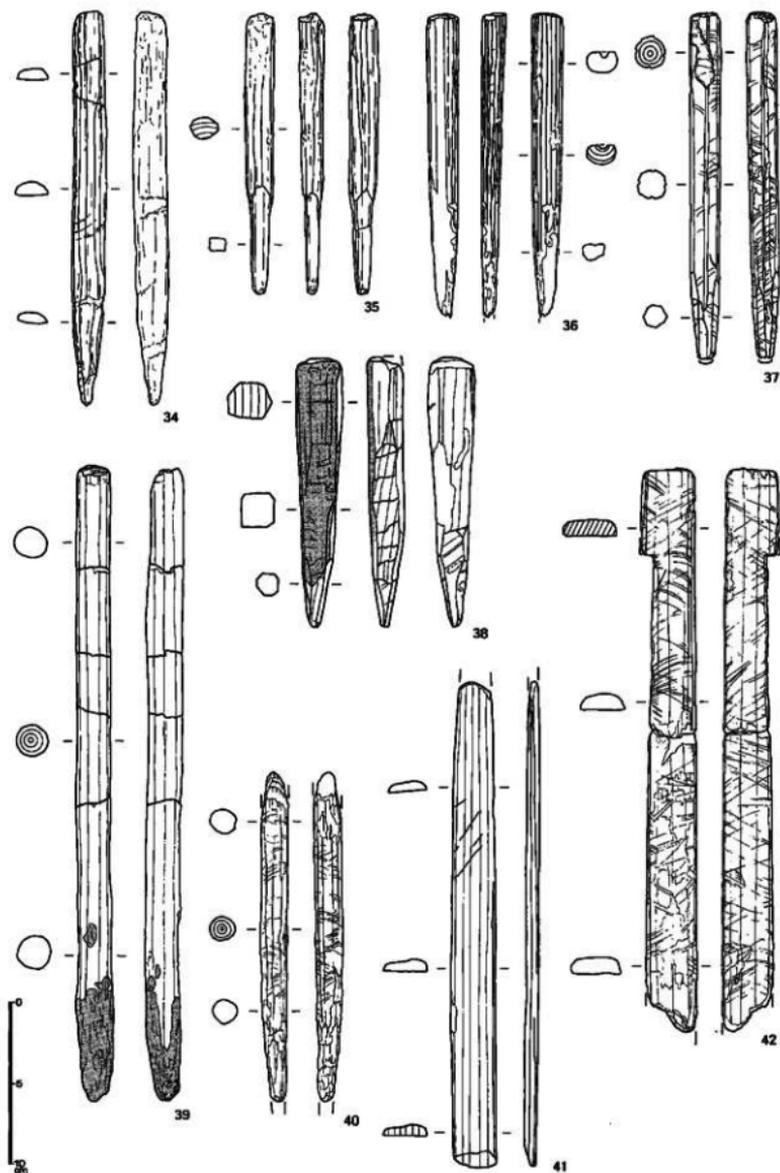
図V-109 C地区0黒層木製品(1)



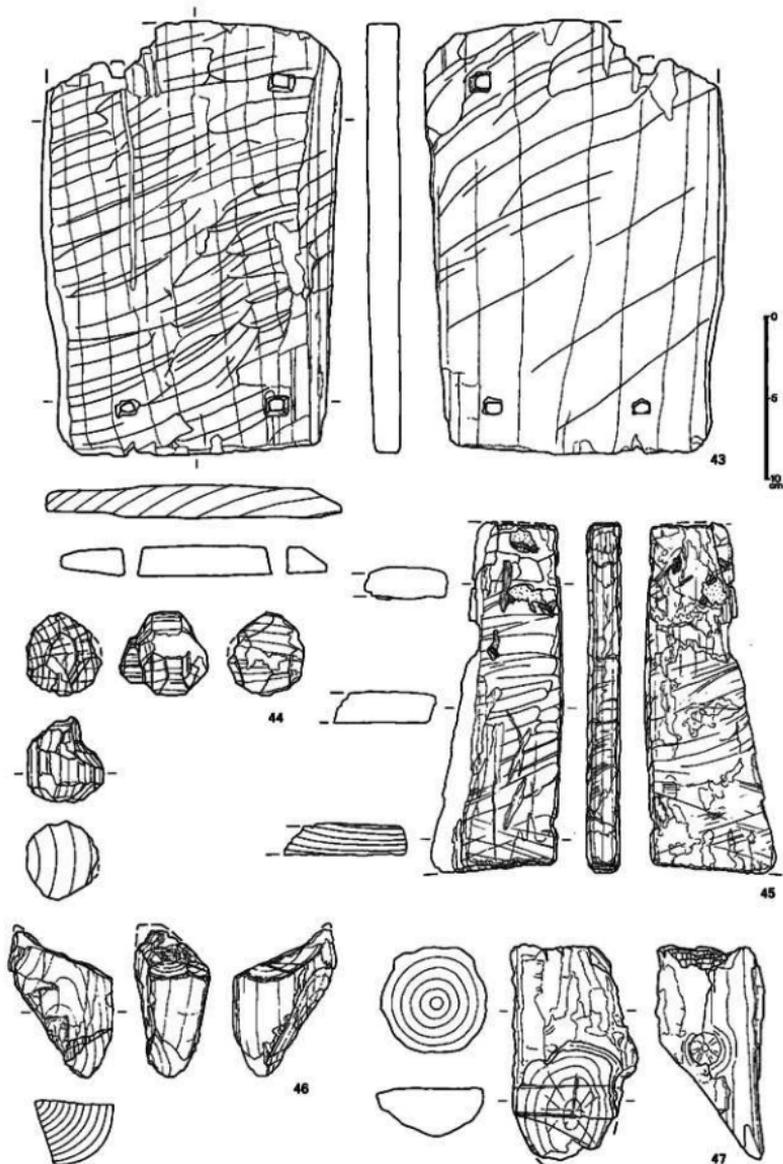
図V-110 C地区0黒層木製品(2)



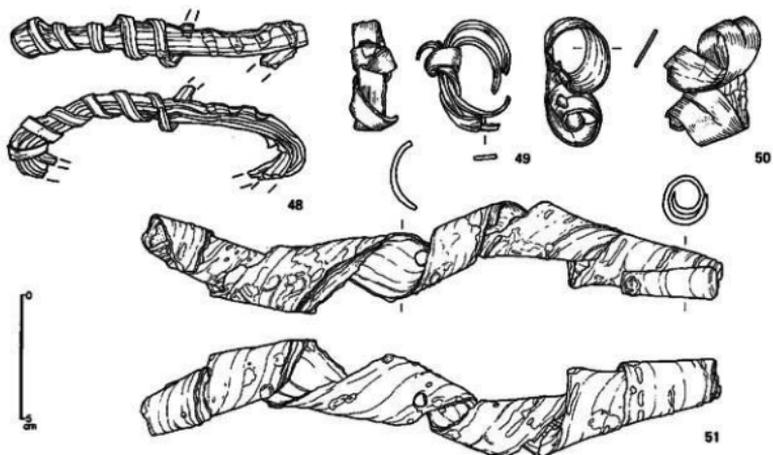
図V-111 C地区0黒層木製品(3)



図V-112 C地区0黒層木製品(4)



図V-113 C地区0無層木製品(5)



図V-114 C地区0黒層樹皮製品

表V-36 C地区0黒層地帯木製品

品名	取上	計測値 (cm)	重量 (g)	樹皮	木取	樹種	点	備	考
No. No.	No.	長さ 幅 厚さ	(g)				数		
1 8702 381 樹皮竹筒器	174	24.5, 10.8, 3.3	192.0		樹木	2/材	6	先端部欠損。一木造り。並と側部に差違がない。	
2 8703 402 樹皮筒器	80	13.8, 5.8, 2.5	86.0		楕目	2/材	1	「Y」字形。残存する樹皮はサクラ材。目釘がある。	
3 8704 504 樹皮筒器(折中筒器)	G	(26.0), 2.0, 1.1	30.0		半筒	1/材	1	小さな袈りがある。両端部の樹皮著しい。	
4 8705 501 新・楕との接合部	248	(8.6), 1.2, 1.1	6.5		丸木	1/材	1	袈り2か所。基部欠損。	
5 8706 476 新・楕との接合部	24	6.8, 1.4, 1.9	10.4		1/1割	1/材	1	イトノミの跡みがある。刻目2か所。	
6 8707 448 針状製品	G	22.4, 1.7, 1.6	37.5		丸木	1/材	1	貫通した円孔1か所。	
7 8708 530 筒形木椀	G	(19.9)(12.4), 1.1	128.4		丸木	2/材	1	先端部欠損。	
8 8709 500 挿入付木椀状材	247	(12.5), 3.2, 2.5	34.3		丸木	2/材	1	コケノミの痕跡。帯状の袈り。	
9 8710 507 挿入付丸材	8	19.6, 6.5, 6.6	538.0	○	丸木	1/材	1	両端部平組。角形の袈り。	
10 8711 494 曲物器	215	11.4, 4.6, 0.5	15.2		楕目	2/材	1	側面に円孔3か所。	
11 8712 478 楕	23	5.7, 3.2, 3.3	41.0	○	楕目	2/材	2	取上No. 533と適合。円楕台形。烙印が付く。	
12 8713 490 楕	22	7.0, 3.2, 3.0	3.8		楕目	2/材	1	円楕台形。裏面につぶれ痕がある。	
13 8714 484 楕	51	7.0, 3.0, 2.4	26.6		楕目	2/材	2	円楕台形。	
14 8715 478 楕	1	4.4, 3.1, 3.0	25.4		楕目	2/材	1	円楕台形。	
15 8716 499 樽状器	107	40.7, 5.8, 1.7	284.4		楕目	2/材	1	口縁部凹陥。底面をはめた痕跡と円孔がある。	
16 8717 443 筒状製品	G	(32.0), 1.3, 0.9	22.6		楕目	2/材	1	B型。両面円形。上端部平組。	
17 8718 519 筒状製品	546	(25.7), 0.9, 0.8	10.8		丸木	2/材	1	C型。前面円形。両端部平組に欠損。	
18 8719 481 筒状製品	5	20.9, 0.9, 0.7	8.3		楕目	2/材	1	A型。胴部断面角形。	
19 8720 474 筒状製品	9	(10.4), 0.8, 0.7	3.6		楕目	2/材	1	上端部欠損。断面円形。	
20 8721 497 筒状製品	201	(15.4), 0.7, 0.6	3.3		楕目	2/材	2	両端部欠損し、2点に割れている。断面円形。	
21 8722 491 筒状製品	21	(30.0), 1.5, 1.3	26.5	○	1/1割	2/材	1	B型。断面三角形。上端部欠損。	
22 8723 529 単状製品	G	(31.1), 1.2, 0.4	4.1		楕目	2/材	2	口縁。内面から薄く削がれている。上端部に割目。	
23 8724 447 筒状製品	G	(24.1), 1.1, 0.7	13.1	○	楕目	2/材	1	D型。側縁中央に刻目2か所。下端部に炭化部分。	
24 8725 505 ピン状製品	321	(12.9), 1.1, 0.6	4.8		楕目	2/材	1	断面円形。	
25 8726 480 ピン状製品	35	12.0, 0.9, 0.7	5.3		楕目	2/材	1	断面円形。	
26 8727 487 ピン状製品	32	12.2, 0.9, 0.6	3.3		楕目	2/材	1	断面三角形。	
27 8728 522 ピン状製品	G	12.7, 1.3, 0.8	6.7		楕目	2/材	1	断面長方形。	
28 8729 485 ピン状製品	29	(13.8), 1.4, 1.0	9.5		楕目	2/材	1	断面長方形。	

Gはグリッド取上げ。*は検査資料。※は中間部をわずかに欠損する。数値は推定値。

表 V-37 C地区 0黒屑地蔵大製品・樹皮製品

樹種 No	板 No	名	種	発 掘 区	取上 No	計 測 値 (cm)		樹 皮 重 (g)	樹 皮 取 重	木 取 材	樹 種	点 数	備 考
						底 寸	厚 寸						
29	8730	524	ビン皮製品	c-67-41	G	(13.2)	1.6	0.8	10.1	板目		1	断面長方形。
30	8731	534	ビン皮製品	b-67-43	G	(10.9)	1.2	0.9	7.1	板目		1	断面角形。
31	8732	483	ビン皮製品	c-67-31	31	14.5	1.3	1.0	10.9	板目		1	断面長方形。
32	8733	483	ビン皮製品	c-67-31	30	17.2	1.1	0.9	12.6	板目		2	断面角形。
33	8734	502	ビン皮製品	c-67-42	350	(20.3)	1.6	0.9	16.6	板目		1	断面角形。
34	8735	488	ビン皮製品	c-67-31	87	13.8	2.0	1.0	24.4	板目	27/14?	1	断面半円形。
35	8736	482	ビン皮製品	c-67-41	27	17.0	1.7	1.3	27.2	1/4割	7/9?	1	端面側面は楕円形。尖端部角形。
36	8737	506	樹皮製品	c-67-42	335	(18.5)	1.9	1.4	28.8	半割	7/9?	1	断面角形。尖端部欠損。木の層が抜けている。
37	8738	533	樹皮製品	b-67-43	G	(20.9)	1.8	1.8	45.9	丸木	3/7	1	断面円形。尖端部のみ削りだす。
38	8739	488	ビン皮製品	c-67-41	26	(16.3)	2.8	2.2	59.0	○ 板目		1	断面角形。
39	8740	486	丸棒材材	c-60-31	6	38.5	2.0	2.1	120.1	○ 丸木		5	下端部炭化。
40	8741	532	丸棒材材	b-67-43	G	(20.0)	1.6	1.5	30.4	丸木		1	両端部炭化。
41	8742	498	薄板目棒材	b-67-43	187	(28.5)	2.7	0.8	40.8	板目		1	下部の一面を刀部状に切り出す。
42	8743	525	狭入片薄板形棒材	c-67-41	G	(34.1)	3.2	1.1	90.4	板目	13	2	上端部は方形に加工した棒状である。
43	8744	473	有孔棒材	c-67-41	3	(26.2)	17.8	2.0	718.0	板目	3/7	1	角に角孔が3か所ある。
44	8745	503	棒材材	c-67-41	310	5.0	4.5	5.1	48.4	1/4割		1	コケシ面取状の削り。
45	8746	472	板材	c-67-41	7	21.2	(7.5)	2.0	207.8	板目	3/7	3	表面の削り重厚。
46	8747	479	木端	c-67-41	2	(8.9)	5.9	4.3	82.7	1/4割		1	両者の削り面が残存。
47	8748	531	木端	b-67-43	G	(13.1)	7.5	6.5	282.4	丸木		1	下部は一面削り。上端部は切歯多量。杖先か?
48	8749	695	把竿状樹皮製品	c-67-41	213	(12.1)	1.1	0.8	12.2			1	編織状に樹皮を巻束している。
49	8750	446	指環着付樹皮巻	c-67-42	G	3.8	4.5	1.9	4.6			1	結び目がある。
50	8751	521	頭筒挿入帯着付樹皮巻	c-67-41	G	3.9	5.3	2.7	3.4			1	孔のあるスリットがある。
51	8752	536	編束太帯状樹皮巻	c-67-41	G	23.6	2.9	2.1	30.8			1	燈火用の筒状樹皮がのびたもの。

4) 自然遺物 (表V-38)

掲載した遺物は、人力調査によって検出されたものである。遺物の時期はアイヌ文化期(1667年～1739年)である。

遺物は遺構が集中するc-67-81・91・92・93に多い。中でもc-67-91はC地区で出土する自然遺物のはとんどの種類がそろっている。遺物の種類数・量はA'地区に較べると少ないが、しいてあげるとクルミ属が多いのが特徴である。

ショウブ、ヒルムシロ、ハンノキ、など水辺や水湿のある低地に成育する植物がみあたらない。0黒層が形成されていた頃はC地区がわりと乾いていたことを示しているのかも知れない。

(鈴木 信)

表V-38 C地区0黒層自然遺物

名 称	区					
	b-67-01	b-67-02	b-67-03	b-67-12	b-67-13	b-67-14
獣骨片						
甲虫片						
カワシシジュガイ殻皮						
サルノコシカケ						
スギナ						
ショウブ						
タデ科						
ヤマブドウ						
ミツバウツギ						
スモモ			1 (0.15)			
コブシ						
コナラ						
ハンノキ						
クルミ属						

名 称	区							
	c-67-80	c-67-81	c-67-82	c-67-83	c-67-90	c-67-91	c-67-92	c-67-93
獣骨片								
甲虫片						1(+)	3(+)	6(+)
カワシシジュガイ殻皮						1 (0.44)		
サルノコシカケ						1 (3.45)		
スギナ						2 (0.11)	1 (3 (0.16))	
ショウブ						1(+)		
タデ科								
ヤマブドウ							3 (0.01)	
ミツバウツギ						2 (0.08)		
スモモ			1 (0.19)					
コブシ		1 (0.03)						
コナラ							1 (8 (0.51))	
ハンノキ						5 (4.13)		
クルミ属		3 (1.17)					3 (0.77)	1 (0.40)

(4) 第I黒色土層の遺構とその遺物

Ta-b層(1667年降下)とTa-c層との間に形成されたI黒層には立杭、杭穴、双磔、集石、炭化物集中などの遺構がある。遺物は、石製品、金属製品、木製品、樹皮製品、自然遺物が出土した。石製品、木製品、樹皮製品は調査区北側の標高4.5m以下に多く分布する。

1) 立杭 (図V-115~118、表V-39・40)

立杭はI黒₁層から15本、I黒₂層から5本検出されている。いずれも杭頭は腐朽して残存しており、打ち込み面は確認不能である。

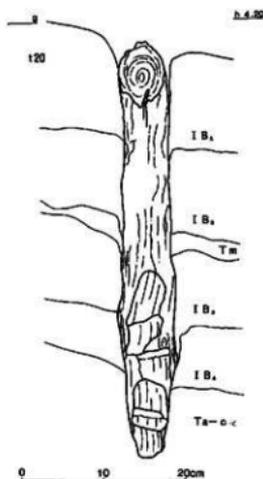
I黒₁層の杭穴の分布は斜面裾部の標高4.5m~4mに分布する。分布は調査区北側と中央にややまとまっている。立杭の大きさは、現地で取上げられかつ計測できた個体の直径で表すと、3cmが2例、4cmが3例、5cmが2例、8cmが2例、9cmが2例、10cmが1例である。ピークは4cmと7cmにある。これは0黒層の立杭のピークが7cmであり近い状況を呈している。実測可能なものを図V-118-17~23に掲載した。18は樹皮を残したままの割材の杭。その他の杭は樹皮を残した丸木で先端部切出しが交差する5・6面取のものである。

I黒₂層の杭穴の分布は斜面裾部の標高4m付近に分布する。分布にまとまりはみられない。立杭の大きさは、現地で取上げられかつ計測できた個体の直径で表すと、3cmが1例、4cmが2例、5cmが1例、6cmが1例である。ピークは4cmにある。実測可能なものを図V-118-24・25に掲載した。杭は樹皮を残したままの丸木で、先端部切出しが交差する1面取のものである。(鈴木 信)

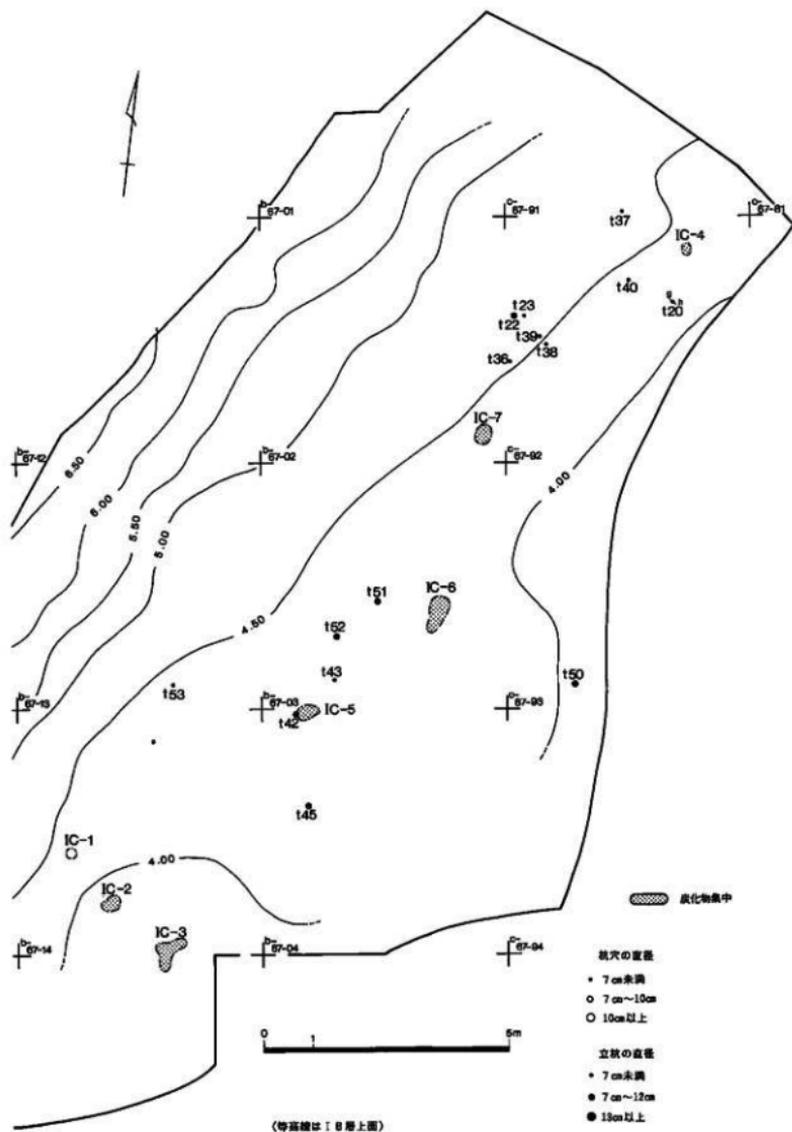
2) 杭穴 (図V-116、表V-41)

I黒層の杭穴は覆土にTa-a、Ta-b火山灰を含まないものである。ただしI黒層上面、I黒層中のいずれから打たれたかはわからない。

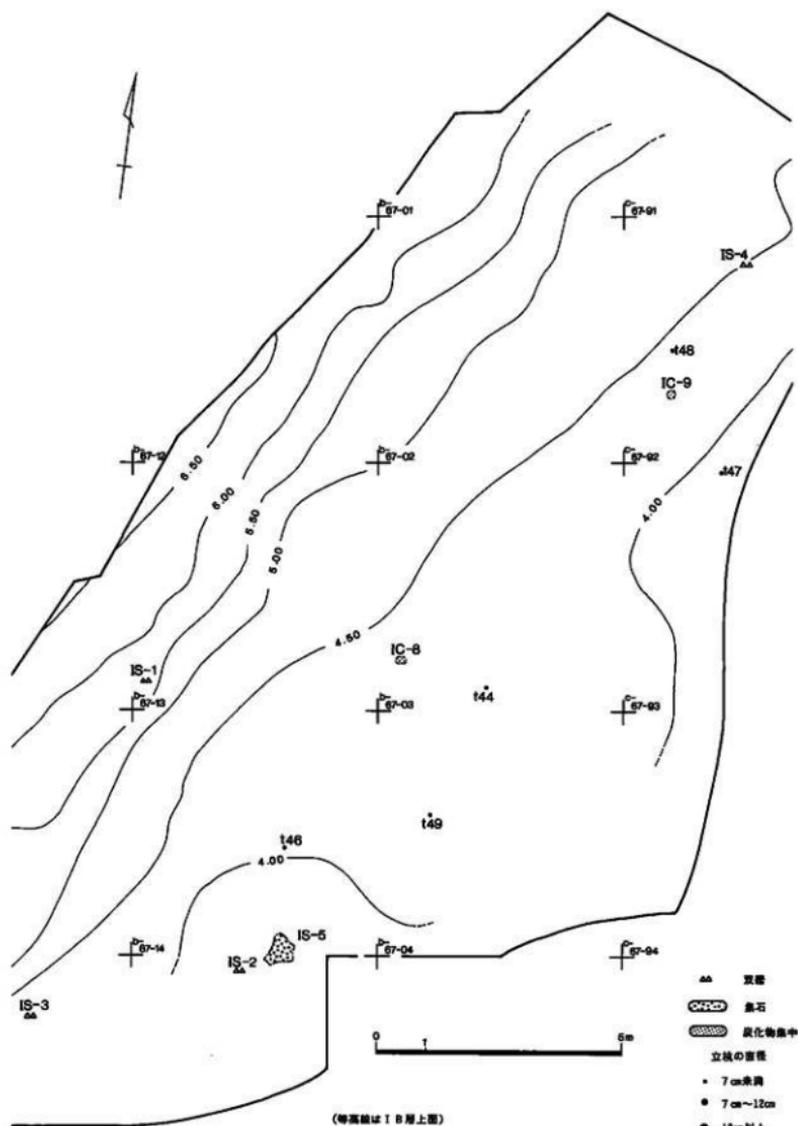
杭穴はI黒₁層に1か所あった。位置はb-67-03の北側である。杭穴の確認面での直径は4cmである。(鈴木 信)



図V-115 C地区I黒₁層立杭断面図

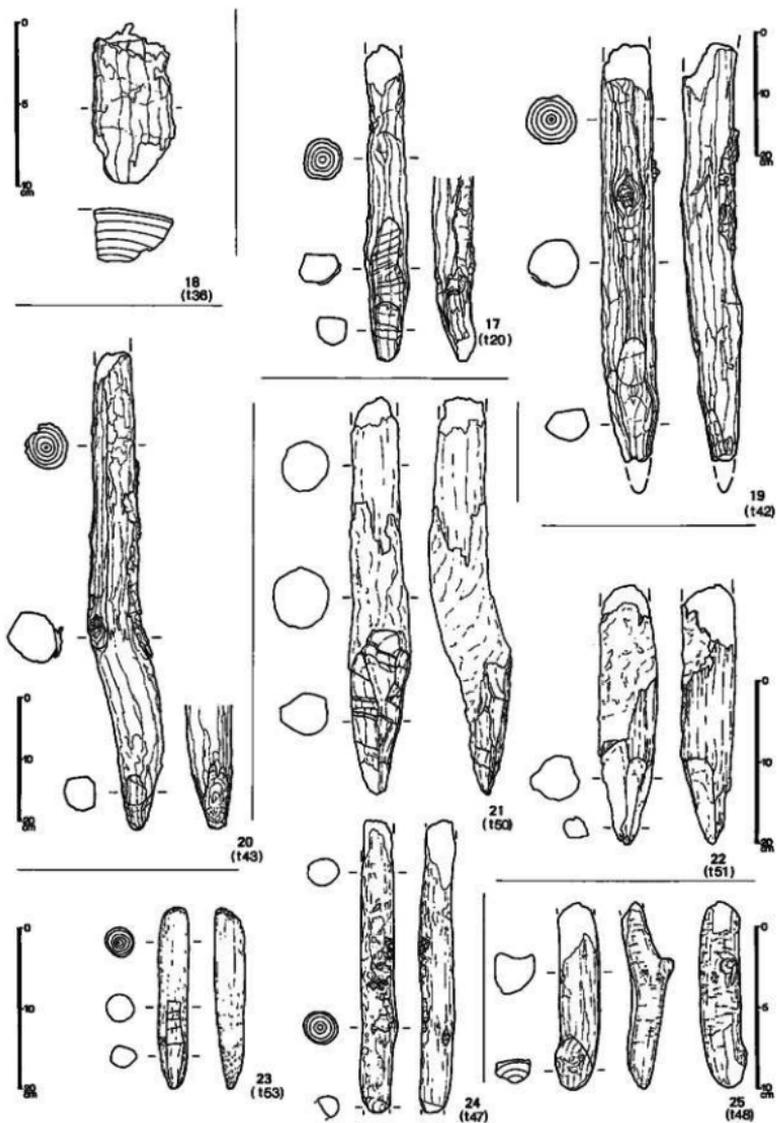


図V-116 C地区I黒層遺構位置図



(等高線は10m間隔)

図V-117 C地区I黒土層遺構位置図



図V-118 C地区I 黒層立杭

表V-39 C地区I黒層堀立杭

図番号	遺構名	発掘区	確認面	方向(掘一先)	長さ×幅×厚さ(cm)	掘重量(g)	木割り	備考
V-118-18	立杭-18	c-67-81	IB ₁	NE-SW	(9.6)×(4.8)×(3.7)	(85)	板	樹皮あり。
-17		c-67-81	IB ₁	NE-SW	(51.1)×5.5×5.5	(1245)	丸木	樹皮あり。
-19		c-67-93	IB ₁	SE-NW	(87.0)×8.6×5.4	(2806)	丸木	樹皮あり。
-20		c-67-92	IB ₁	S-N	(77.0)×8.1×3.2	(2667)	丸木	樹皮あり。
-21		c-67-82	IB ₁	E-W	(48.1)×7.4×8.0	(1852)	丸木	樹皮あり。
-22		c-67-92	IB ₁	S-N	(31.5)×6.7×5.3	(844)	丸木	
-23		b-67-92	IB ₁	掘面	(22.1)×3.5×3.7	(178)	丸木	全体に立ち腐れていて、はっきりした加工面は見られない。
-24		c-67-82	IB ₂	N-S	(35.8)×4.2×4.1	(400)	丸木	樹皮あり、泥その他の付着物もある。全体に腐蝕している。
-25		c-67-81	IB ₂	S-N	(11.4)×2.5×2.8	(34)	丸木	腐蝕の程度?が各異なる。

表V-40 C地区I黒層立杭

遺構名	図番号	発掘区	確認面	方向(掘一先)	直径(cm)	備考
立杭-18	V-118-17	c-67-81	IB ₁	NE-SW	6.5	
-22	未掲載	c-67-81	IB ₁	W-E	10	
-23	未掲載	c-67-81	IB ₁	SE-NW	7	
-26	V-118-18	c-67-81	IB ₁	NE-SW	(4.8)	
-27	未掲載	c-67-86	IB ₁	E-W	3	
-28	未掲載	c-67-81	IB ₁	E-W	3	
-29	未掲載	c-67-81	IB ₁	N-S	4	
-40	未掲載	c-67-81	IB ₁	S-N	4	崩面
-41	V-118-19	c-67-93	IB ₁	SE-NW	8.5	
-42	V-118-20	c-67-93	IB ₁	S-N	9.2	
-45	未掲載	c-67-93	IB ₁	掘面	5	
-50	V-118-21	c-67-82	IB ₁	E-W	8.9	
-51	V-118-22	c-67-82	IB ₁	S-N	6.7	
-52	未掲載	c-67-82	IB ₁	E-W	8	
-53	V-118-23	b-67-92	IB ₁	掘面	3.7	
-44	未掲載	c-67-82	IB ₂	S-N	5	
-46	未掲載	b-67-93	IB ₂	NW-SE	6	
-47	V-118-24	c-67-82	IB ₂	N-S	4.2	
-48	V-118-25	c-67-81	IB ₂	S-N	2.8	
-49	未掲載	c-67-93	IB ₂	掘面	4	

表V-41 C地区I黒層杭穴

遺構名	発掘区	確認面	直径(cm)
杭穴-54	b-67-03	IB ₁	4

3) 双礫 (図V-119、表V-43、図版V-54-1)

I S-1

位置 b-67-02 斜面部の標高5.5m付近に位置する。

規模 1が5,500g、2が2,000g

特徴 I黒₂層の上部に礫が置かれていた。砂岩の楕円礫と扁平楕円礫によって構成されている。

I S-2

位置 b-67-04 標高4m付近に位置し、付近にはI S-5がある。

規模 1が9,100g、2が13,900g

特徴 I黒₂層で検出された。砂岩の楕円礫と珩岩の棒状楕円礫によって構成されている。

I S-3

位置 b-67-14 斜面裾部の標高4.5m付近に位置する。

規模 1が481.3g、2が2,045g

特徴 I黒₂層で検出された。片麻岩と珩岩の扁平楕円礫によって構成されている。近くに標文土器が出土している。

I S-4

位置 c-67-81 斜面裾部の標高4.5m付近に位置する。

規模 1が2,450g、2が1,603g

特徴 I黒₂層で検出された。泥岩の円扁平礫と砂岩の楕円礫によって構成されている。

(鈴木 信)

4) 集石 (図V-119・表V-43)

I S-5

位置 c-67-03・04

規模 23.6g~190.5g 15個

特徴 I黒₂層で検出された。礫は互いに重なりあうことなくやや離れた状態で出土した。岩質は砂岩が多く、形態は楕円礫と円扁平礫が多い。昨年出土した集石は80g~400gで片麻岩が多いのに較べると、砂岩の小さい礫で構成されているのが特徴である。

(鈴木 信)

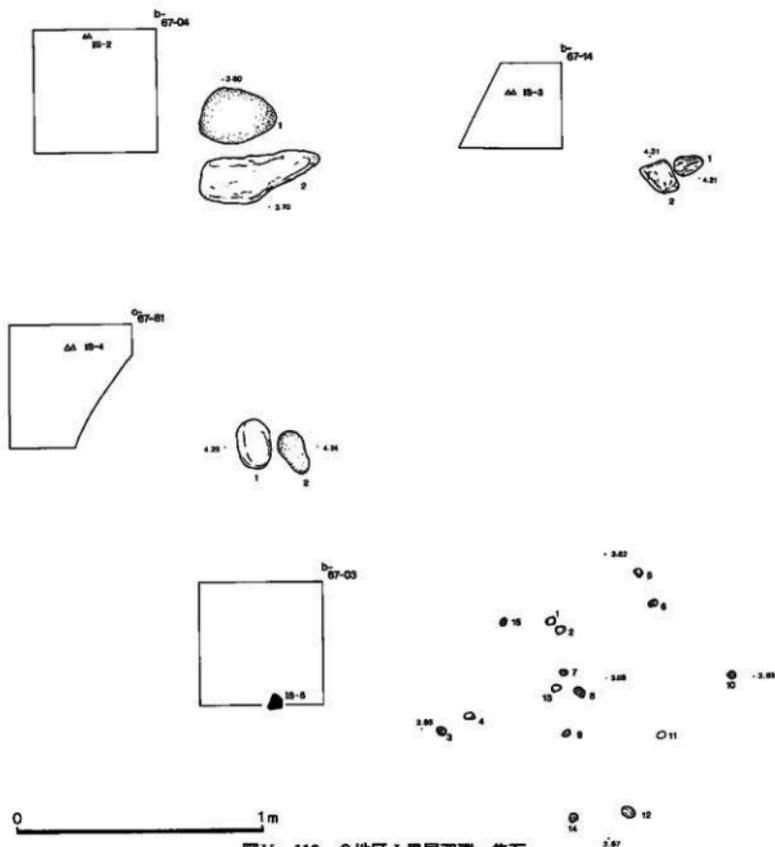
5) 炭化物集中 (図V-116・117、表V-42、8節-(2)の表1)

C-1~7はI黒₂層で確認されており、I C-4は調査区の北側に位置している。I C-5~7は調査区の中央に位置している。I C-1~3は調査区の南側に集まっている。I C-7ではアサが検出されている。他の炭化物集中はフローテーションの結果、栽培植物は検出されていない。I C-8・9はI黒₂層で確認されており、フローテーションの結果種子は検出されていない。炭化物集中の性格を述べるには、フローテーションの結果に加えて大型の炭化植物遺存体の同定が必要とされるが、各炭化物集中で検出されるものが異なることが、性格を反映している可能性が高い。

(鈴木 信)

表V-42 C地区I黒層炭化物集中

名称	発掘区	構面	長軸×短軸(m)	名称	発掘区	構面	長軸×短軸(m)
I C-1	b-67-03	I B ₁	0.18×0.18	I C-6	c-67-92	I B ₁	0.78×0.28
-2	b-67-03	I B ₁	0.37×0.33	-7	c-67-91	I B ₁	0.46×0.34
-3	b-67-03~04	I B ₁	0.76×0.36	-8	c-67-92	I B ₂	0.16×0.10
-4	c-67-81	I B ₁	0.25×0.18	-9	c-67-81	I B ₂	0.10×0.10
-5	c-67-92~93	I B ₁	0.50×0.28				



図V-119 C地区I黒層双環・集石

表V-43 C地区I黒層双環・集石計測値

遺物名	調査号	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材・石質	産地	遺物名	調査号	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材・石質	産地
I 5-1	赤陶環	25.1×14.4×11.3	6000	砂岩 内輪	横内輪	I 5-5	5	5.9×3.4×2.3	67.9	チヤート 内輪	横内輪
-1	赤陶環	18.4×11.8×4.5	2000	砂岩 裏内輪	横内輪平輪	-5	6	5.2×3.7×2.5	47.6	砂岩 内輪	横内輪
-2	1	29.9×21.7×16.9	9100	砂岩 裏内輪	横内輪	-5	7	5.1×2.9×1.3	33.6	砂岩 内輪	横内輪平輪
-2	2	41.1×28.3×14.2	13900	造岩 裏内輪	棒状横内輪	-5	8	7.3×4.2×1.7	85.4	片麻岩 内輪	横内輪平輪
-3	1	11.7×7.6×3.4	481	片麻岩 内輪	横内輪平輪	-5	9	6.8×3.5×1.6	68.5	砂岩 内輪	横内輪平輪
-3	2	19.0×14.9×6.5	2245	造岩 内輪	横内輪平輪	-5	10	8.1×4.1×2.9	165.5	砂岩 裏内輪	棒状輪
-4	1	18.9×14.9×6.6	2488	泥岩 裏内輪	内輪平輪	-5	11	7.9×4.9×2.3	121.3	チヤート 内輪	横内輪平輪
-4	2	18.9×11.1×6.3	1893	砂岩 裏内輪	横内輪	-5	12	8.7×6.2×2.0	113.9	砂岩 内輪	横内輪平輪
-5	1	8.6×3.9×1.9	69.3	泥岩 内輪	棒状横内輪	-5	13	5.8×4.6×1.4	56.1	泥岩 内輪	内輪平輪
-5	2	8.4×2.5×2.1	47.8	砂岩 裏内輪	棒状輪	-5	14	6.7×3.3×1.5	56.4	砂岩 裏内輪	棒状横内輪
-5	3	5.9×3.6×1.8	51.4	片麻岩 内輪	横内輪平輪	-5	15	8.3×2.6×1.3	37.5	片麻岩 内輪	棒状横内輪
-5	4	5.7×3.9×1.8	58.5	泥岩 内輪	横内輪平輪						

(5) 第I黒色土層の遺物

1) 土器 (図V-120、表V-44、図版V-55-1・2)

I黒層からは20点出土している。1は十勝最奇式の深鉢の頸部。内面は明橙褐色で、ヨコヘラミガキ。外面は黒色で、タテハケの後に沈線で文様を描く。2は小型の椀文土器の口縁部。内面は黒色で、ヨコヘラミガキ。外面は黒色で、タテハケの後にヨコヘラミガキを施し、沈線で文様を描く。I黒₃層出土。3は椀文土器の上半部。内面は黒色で、タテヘラミガキの後にヨコヘラミガキ。外面は黒褐色～にぶい黄橙色で、タテハケの後にヨコハケ、さらにヘラミガキを施し沈線で文様を描く。I黒₃層出土。(鈴木 信)

2) 石器・石製品、礫 (図V-121~123、表V-45、図版V-56-1・2)

石器・石製品

1は凝灰岩製の砥石。角礫の一面を使用する。使用面は波打っている。2は6面体で2面を除くそれぞれがノミ状の工具で加工されている。3は棒状の礫。加工痕或使用痕はみられない。

礫 (図V-122・123)

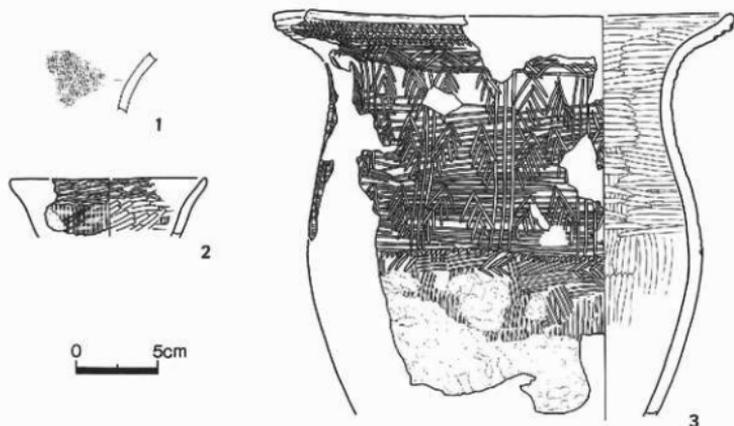
図V-122上段左のグラフはI黒₃層出土の完形礫42点(礫片は324点)についての形態を岩質別に示した。砂岩は主に横軸値0.31~0.66、縦軸値1.44~1.54に集中している。棒状礫・棒状楕円礫・棒

表V-44 C地区I黒層掲載土器

図番号	名称	発掘区	層位	備考	図番号	名称	発掘区	層位	備考
V-120-1	深鉢 頸部	不明	排土	Ⅴ (十勝最奇式)	V-120-3	深鉢 口縁・体部	b-67-14	I B ₃	Ⅴ (簡文)
-2	深鉢 口縁	c-67-81	I B ₃	Ⅴ (簡文)					

表V-45 C地区I黒層掲載石器・石製品

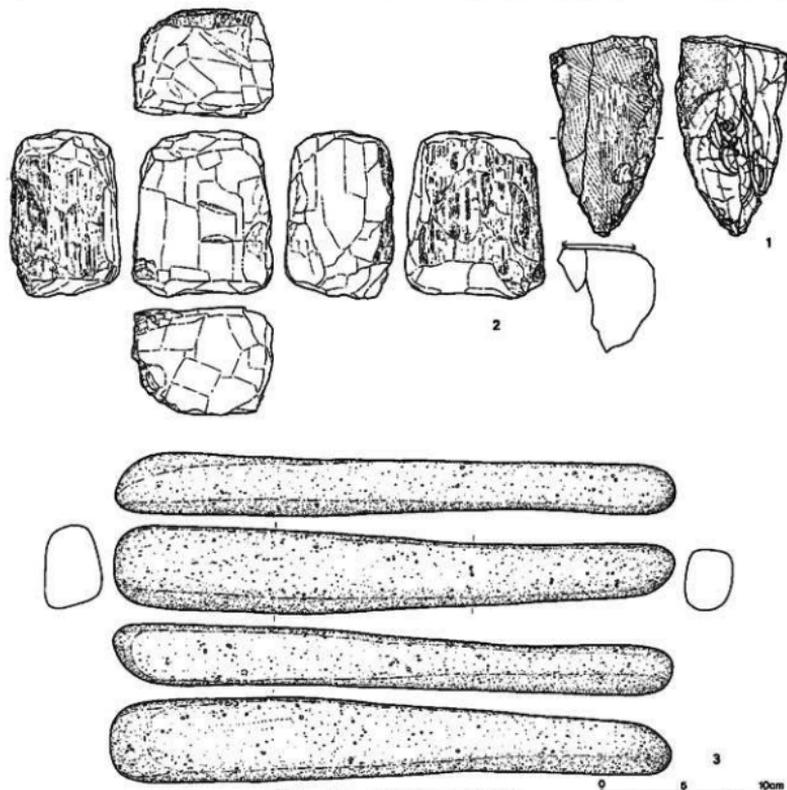
図番号	名称	発掘区	層位	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質
V-121-1	砥石	c-67-92	I B ₃ 上面	121, 5×68, 8×64, 5	418.4	凝灰岩
-2	棒状製品	b-67-14	I B ₃	101, 6×35, 1×65, 9	187.9	凝灰岩
-3	棒状の礫	c-67-81	I B ₃	240, 6×52, 4×37, 1	894	凝灰質砂岩



図V-120 C地区I黒層土器

状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(41.7%)と楕円扁平礫(33.3%)によって構成されている。泥岩は主に横軸値0.25~0.71、縦軸値1.31~1.76にやや集中している。棒状楕円礫・楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(53.9%)と楕円扁平礫(30.8%)によって構成されている。片麻岩は主に横軸値0.25~0.47、縦軸値1.28~1.60に集中している。棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円扁平礫(63.6%)によって構成されている。片麻岩は泥岩や砂岩に比べるとより扁平な礫が集まっている。チャートは棒状礫・棒状扁平礫・楕円礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(60.0%)によって構成されている。他には、楕円扁平礫の珪岩1個ある。各岩質をつうじて楕円礫・楕円礫が多い。

図V-122下のグラフは岩質ごとの形態別重量を示した。砂岩の66.7%は40~120gの範囲にあり、60~80gの範囲にピークがある。また40~120gの範囲における形態は、棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・円扁平礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。ピークの範囲でも同じである。泥岩の69.2%は0~80gの範囲にあり、0~20gの範囲にピークがある。また0~80gの範囲における形態は、楕円礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。

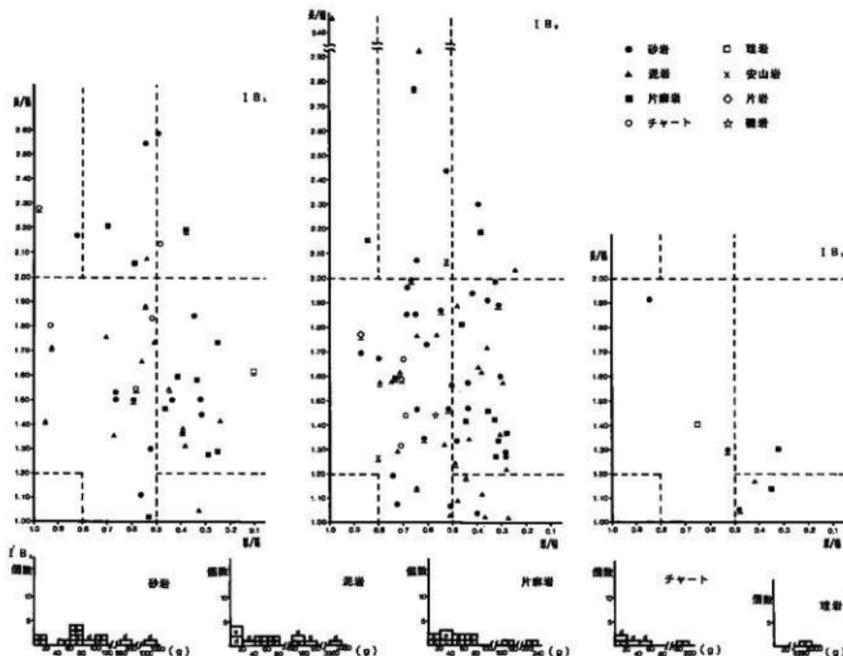


図V-121 C地区I黒層石製品

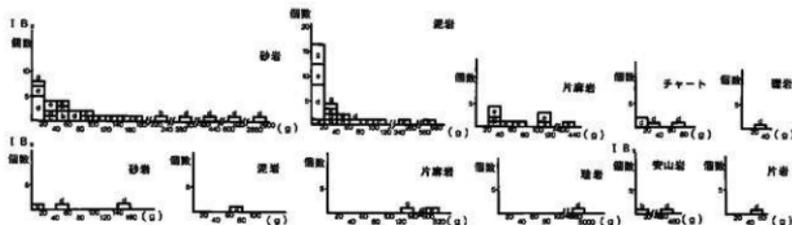
ピークの範囲でも同じである。片麻岩の80.0%は0~80gの範囲にあり、20~40gの範囲にピークがある。また0~80gの範囲における形態は、棒状扁平礫・円扁礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。ピークの範囲でも同じである。砂岩・泥岩・片麻岩・チャートは0~80gの範囲の重量が選択されている。

形態と重量の関係は、砂岩・泥岩・片麻岩・チャートのように、代表的な形態が集中せず各重量に分散し、かつ特定の重量が選択されているものについては、選択の基準が重量にあること示している。

図V-122上段中のグラフはI黒層出土の完形礫74点(礫片は93点)についての形態を岩質別に示した。砂岩は主に横軸値0.28~0.80、縦軸値1.04~2.00に集中している。棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(48.3%)と楕円扁平礫(34.5%)によって構成されている。泥岩は主に横軸値0.28~0.80、縦軸値1.00~1.89にやや集中している。棒状礫・棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫・円扁礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(37.0%)と楕円扁平礫(33.3%)によって構成されている。片麻岩は主に横軸値0.31~0.43、縦軸値1.28~1.46に集中している。棒状礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫の形態が存在するけれども、主に楕円礫(80.0%)によって構成されている。片麻岩は泥岩や砂岩に比べるとより扁平で丸い礫が集まっている。チャートは主に横軸値0.69~0.71、縦軸値1.32~1.68に集中している。楕円礫によって構成されている。他には、棒状楕円礫の安山岩1個と楕円礫の片岩・礫岩・安山岩が各1個ある。各岩質をつうじて楕円礫・楕円扁平礫が多い。



図V-122 C地区I黒層礫グラフ・表(1)



I B₁ 砂岩 12個(砂028.8%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状	1	9.1
	棒状積内層	1	9.1
	棒状扁平層	1	9.1
楕	積内層	4	36.4
	積内層	4	36.4
円	積内層	1	10.0
楕			
楕			
楕			

I B₁ 泥岩 18個(砂01.0%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状積内層	1	11.1
	積内層	4	44.4
楕	積内層	3	33.3
	積内層	1	11.1
楕	積内層	3	75.0
楕	積内層	1	25.0
楕			
楕			

- a - 棒状層
- b - 棒状積内層
- c - 棒状扁平層
- d - 積内層
- e - 積内層
- f - 積内層

I B₁ チャート 5個(砂01.9%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状扁平層	1	33.3
	積内層	2	66.6
楕			
楕			
楕			
楕			

I B₁ 泥岩 1個(砂0.3%)

円筒度	形質	個数	百分率
楕	積内層	1	100
楕			
楕			
楕			

I B₁ 片麻岩 11個(砂026.2%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状積内層	2	20.0
	積内層	1	10.0
楕	積内層	7	70.0
	積内層		
楕			
楕			

I B₂ 砂岩 29個(砂039.1%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状積内層	2	8.7
	棒状扁平層	1	4.3
	積内層	10	43.5
楕	積内層	9	39.1
	積内層	1	4.3
楕	棒状積内層	1	16.7
楕	積内層	4	66.7
楕	積内層	1	16.7
楕			
楕			

I B₂ 泥岩 27個(砂036.5%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状	1	5.0
	棒状積内層	1	5.0
楕	積内層	6	30.0
	積内層	8	40.0
楕	積内層	4	20.0
	積内層	1	14.8
楕	積内層	4	57.1
	積内層	1	14.8
楕	積内層	1	14.8
楕			
楕			

I B₂ 片麻岩 10個(砂041.8%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状	1	11.1
	棒状扁平層	1	11.1
楕	積内層	7	77.8
	積内層		
楕			
楕			

I B₂ チャート 4個(砂05.4%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	積内層	3	100
	積内層		
楕			
楕			
楕			
楕			

I B₂ 安山岩 2個(砂0.7%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	棒状積内層	1	50.0
	積内層	1	50.0
楕			
楕			

I B₂ 泥岩 1個(砂0.4%)

円筒度	形質	個数	百分率
楕	積内層	1	100
楕			
楕			
楕			

I B₂ 砂岩 3個(砂041.8%)

円筒度	形質	個数	百分率
楕	積内層	1	100
楕			
楕			
楕			

I B₂ 片岩 1個(砂0.4%)

円筒度	形質	個数	百分率
楕	積内層	1	100
楕			
楕			
楕			

I B₂ 泥岩 1個(砂0.4%)

円筒度	形質	個数	百分率
楕	積内層	1	100
楕			
楕			
楕			

I B₂ 片麻岩 2個(砂028.6%)

円筒度	形質	個数	百分率
円	積内層	1	50.0
	積内層	1	50.0
楕			
楕			

I B₂ 泥岩 1個(砂0.4%)

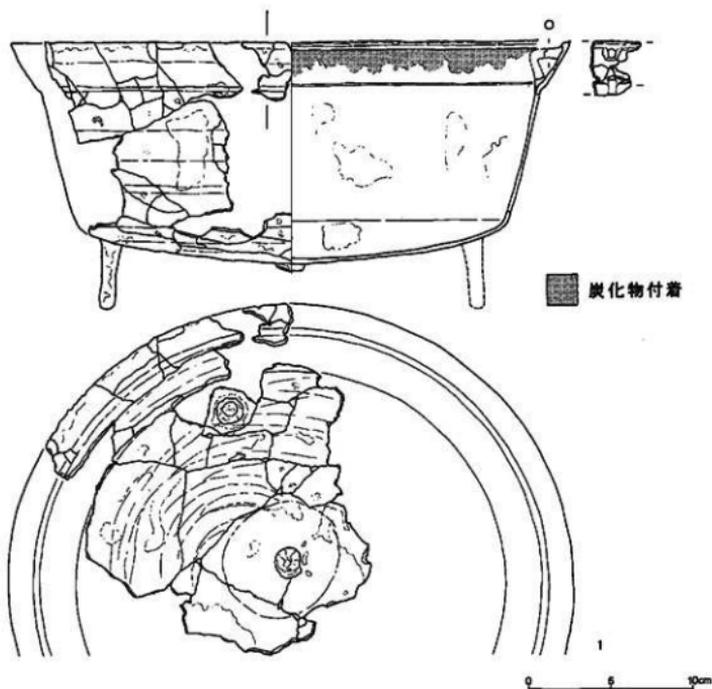
円筒度	形質	個数	百分率
楕	積内層	1	100
楕			
楕			
楕			

図V-123 C地区I黒層礫グラフ・表(2)

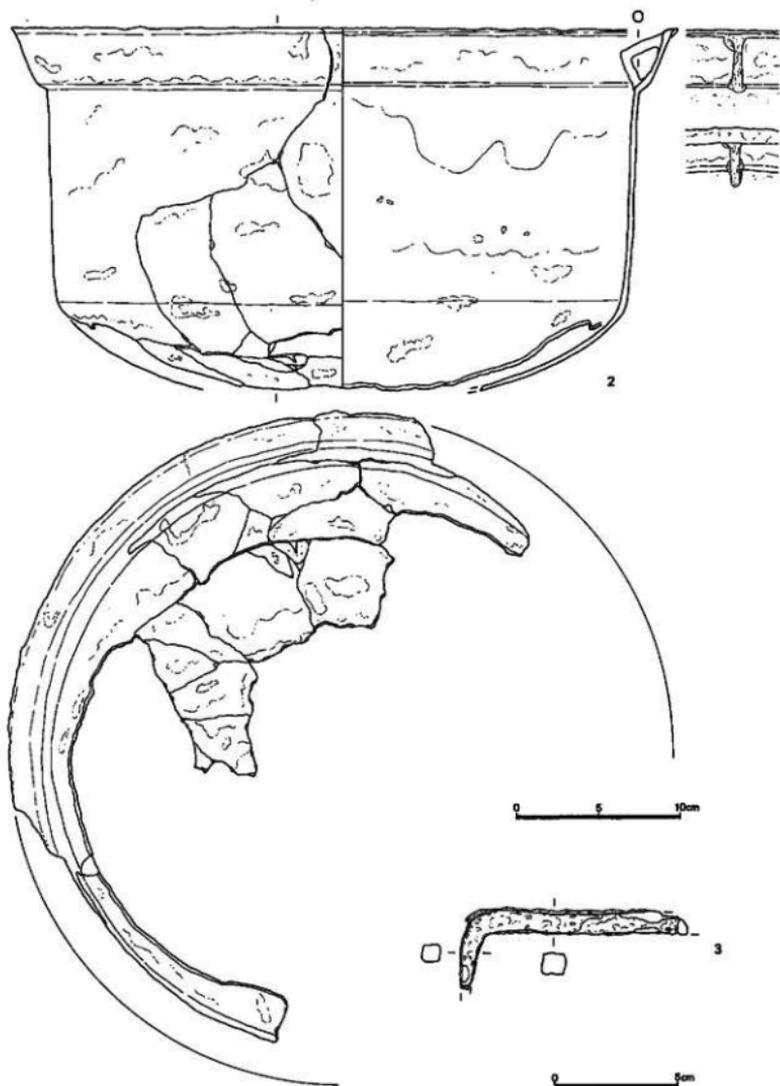
図V-123上のグラフは岩質ごとの形態別重量を示した。砂岩の55.1%は0~60gの範囲にあり、0~20gの範囲にピークがある。また0~60gの範囲における形態は、棒状楕円礫・棒状扁平礫・楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。ピークの範囲では楕円礫が多い。泥岩の81.5%は0~60gの範囲にあり、0~20gの範囲にピークがある。また0~60gの範囲における形態は、棒状礫・棒状楕円礫・楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。ピークの範囲でも同じである。片麻岩の63.4%は20~80gの範囲にある。また20~80gの範囲における形態は、棒状扁平礫・楕円礫・円扁平礫があり、特定の形態が特定の重量に偏ることはみられない。ピークの範囲でも同じである。砂岩・泥岩・片麻岩・は0~60gの範囲の重量が選択されている。

表V-46 C地区I黒層掘削金属製品

調査号	時期	名称	製造区	材料	長さ × 幅 × 厚さ (mm)	重量	断片数	材質	厚位	備考
1	4B	内瓦敷開口縁部	c-87-93	7	(16, 2) (94, 2) 0.3	(18.0)	143	鉄	1B	バラロイドB72地層 インクラック地層
2	47	鉄皿 口縁部	c-87-92	6	(22, 0) (40, 6) 0.3	(1800, 0)	15	鉄	1B	プライマルMV-1賦圧倉庫
3	4B	カスガイ	b-87-91	1	(9, 2) (3, 4) 1.0	(18, 0)	1	鉄	1B	バラロイドB72地層 プライマルMV-1賦圧倉庫



図V-124 C地区I黒層金属製品(1)



図V-125 C地区I黒層金属製品(2)

形態と重量の関係は、泥岩・片麻岩のように、代表的な形態が集中せず各重量に分散し、かつ特定の重量が選択されているものについては、選択の基準が重量にあること示している。砂岩についてもほぼ同じ傾向と見てようだろう。

図V-122 上段右のグラフはI黒₂層出土の完形礫7点(礫片は40点)についての形態を岩質別に示した。砂岩の1点を抜かずと、横軸値1.03~0.66、縦軸値1.06~1.14に集中している。楕円礫・楕円扁平礫・円扁平礫の形態が存在するけれども、主に円扁平礫(42.9%)によって構成されている。

図V-123 上のグラフは岩質ごとの形態別重量を示した。砂岩・泥岩はI黒₂層やI黒₁層出土のものと同様な重さである。片麻岩・珪岩はI黒₂層やI黒₁層出土のものに比べて重い。(鈴木 信)

3) 金属製品(図V-124・125、表V-46、図版V-56-3・4、図版V-57-1~3)

1は内耳鉄鍋。丸湯口をもつ丸い底から上方へ直線的に立ち上がる体部を持つ。外帯はわずかに内湾しながら外上方へ立ち上がる。口縁部はまるみを帯びた三角形で、口縁端面は水平で、内面側に肥厚する。内耳は直線的で、断面が円形である。足は断面が円形で、下の部分が若干太くなっている。この鍋は鉄分の溶脱が激しく非常に軽かった。またそのことによってか強度も無く変形した状態で出土した。2は内耳鉄鍋。丸い底から上方へ直線的に立ち上がる体部を持つ。外帯はわずかに内湾しながら外上方へ立ち上がる。口縁部はまるみを帯びた三角形で、口縁端面は内斜し、内面側に少し肥厚する。内耳は直線的で、断面が円形である。口径が非常に大きい。3はカスガイ。使用によって中央部分が少しV字状に変形している。(鈴木 信)

4) 木製品(口絵-3・4、図V-126~132、表V-47・48、図版V-57~59)

本年度の調査によりI黒層中にも木製品の存在することが確認された。木製品の密度は0黒層同様に希薄である。0黒層のような集中箇所はなく、c-67-83・93とその周辺から出土したものがやや多い程度である。分布は遺構の分布域の外側に少しずれている。

早稲柄部(1): 断面が楕円形となる棒状の材で、下端部はやや幅広となり欠損している。表面の全面が炭化している。長さや形態から水掻部の最上部から破損した早稲の柄と考えられる。

山刀柄部(2): 全体は柄頭に向かって緩く反り、柄頭側に山刀の特徴となる瘤状の突起が付けられている。柄の中央部に断面は楕円形であるが、突起部から柄頭にかけて平坦に削られている。縁部は基部を挟み込むようにスリット状となっており、渦巻の線刻のある部分を浮き彫りにして帯状に彫り込まれている。この部分には樹皮が巻かれていたと考えられる。目釘は樹皮を巻いている部分を挟んで2か所に認められ、対になる括弧状の線刻に囲まれている。表面のみに文様が描かれ、柄頭側には渦巻をモチーフとした線刻のみで文様が彫り込まれている。中央部には波状の線刻が一本描かれ、帯状に浅く彫り込まれた部分には鋸歯状の刻目がめぐり、対になる括弧状の線刻に挟まれている。帯状の彫り込みには樹皮が巻かれていた可能性がある。

柄・棒との接合部(3): 魚突き鉤台部または回転式離頭鉤中柄の基部である。中央に柄に装着するための帯状の挟り部と裏面に平坦面が作出されている。基部の先端は突がらない。

回転式離頭鉤中柄部(4): 先端部は欠損・摩耗し、中央部から先端部に向かって断面を丸形に細く削りだしている。中央部の断面は角形であり、柄に装着し紐で固定するための刻目状の挟りが両側つけられている。下端部には平坦面が作出されている。非常に短く形態も他と異なるが、回転式離頭鉤中柄部の可能性がある。

挟り付角棒状材(5・6): 5は表面の摩耗が著しい。角形の上端部の片角は斜めに削りだされ、帯状の浮彫りがめぐっている。その直下は摩耗し細く括れている。下端部はやや細くなり、断面が楕円形に削りだされている。6は角棒の中央よりやや下の部分が括られており、断面が半円形となってい

る。下端部はやや薄くなるように削りだされている。

方形頭付丸棒状材(7): 方形に加工された頭部に角孔がつけられ、楔状の木片が残存するものである。頭部端は斜めに切り出されている。方形頭部の直下は丸棒状に加工されている。

挟入付半円棒状材(8): 側縁部が挟られ、コケン頭状のとなっている。挟りの裏面には平坦面が作出され、断面が半円状となっている。棹や柄の接合部と考えられる。

円板状材(9): 木口取りした板材の破片である。

楔形製品(10・12・13): 10の正面は長方形であり、側面は上端部から下端部に向かって楔形に削りだされている。断面は楕円形である。上端部は平らに削りだされ、敲打痕が認められる。12は先の丸い楔形であり、断面は半円形である。13は先のやや鋭角となる楔形であり、断面は半円形である。いずれも表裏に削り痕が顕著に残り、端部は平らに削りだされている。端部にはわずかに敲打痕が認められる。

蒲鉾状材(11): 板目板を細く加工したもので、断面が半円形となっている。上端部は平らに削りだされている。先端部は腐朽・摩耗している。

箸状製品(14~20・23): 基準はA'地区と同様であるが、先端・基部を欠損するものが多いため細分は難しい。14・15はB類とされる片口箸で、端部の一方(基部)が太く、もう一方(先端部)に向かって細く削り出したものである。いずれも基部端を斜めに削ったB₁類である。16~18はA類とされる両口箸で、16~18は一方の端部を平らにし、もう一方の端部を細く尖らせたA₂類であろう。19はD類とされる先端部のみを鉛筆先状に削り出したものである。かんじきの枠の小孔に差し込まれる横木の可能性もある。20は先端部の破片である。23は胴部の破片である。

串状製品(21・22・25~27): 基準はA'地区と同様である。いずれも上端部を欠損し、両端が腐朽・摩耗している。21はB類とされる断面形が長方形のものである。22の断面は三角形となり先端部のみが削りだされている。25・26はF類とされる断面形が扁平な多角形となるものである。25の先端部は一面削りで幅広に削りだされている。26の端部は平らに削りだされ、先端部は腐朽している。27はG類とされる丸木材の先端部のみを鋭く削り出したものである。先端は極鋭角な二面削りである。

ピン状製品(24): 端部側から先端部に向かって全面を粗く削り出したものである。

丸棒状材(28・29): 28は丸木の上端部が平らに削りだされている。先端部は欠損し、表面に樹皮が残る。29は両端部欠損した丸木材である。上部に一本の刻目がある。下端部には摩耗してやや細くなった部分がある。魚突き鉤や回転式離頭鉈の柄・棹の可能性もある。

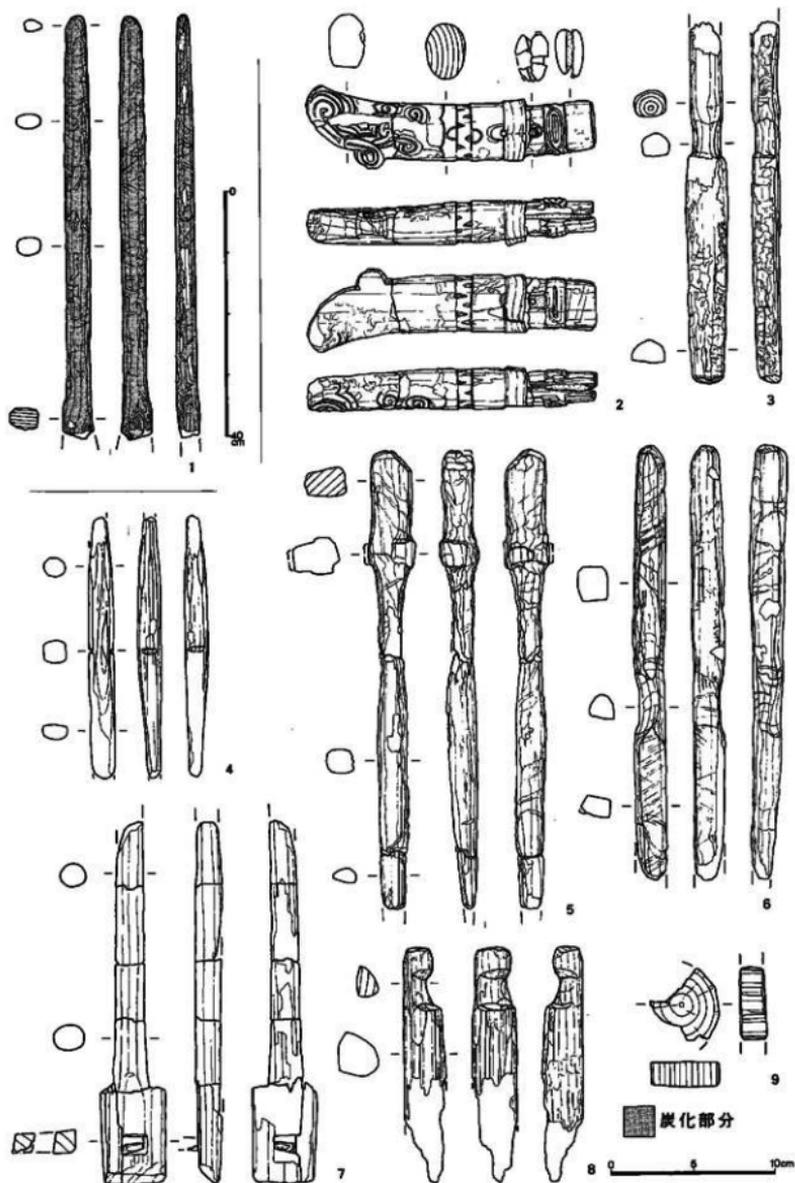
薄板目棒状材(30・31): 幅の細い板目材である。曲物などの破片であろうか。

有孔角材(32): 丸木材の曲面を削り落し、角材としている。表面には削りに使用した切載具の斜めの刃傷痕が多数残る。上端部は平坦面がやや斜めに作出され、角孔が穿孔されている。下端部は同部に比べやや細くなり、欠損している。

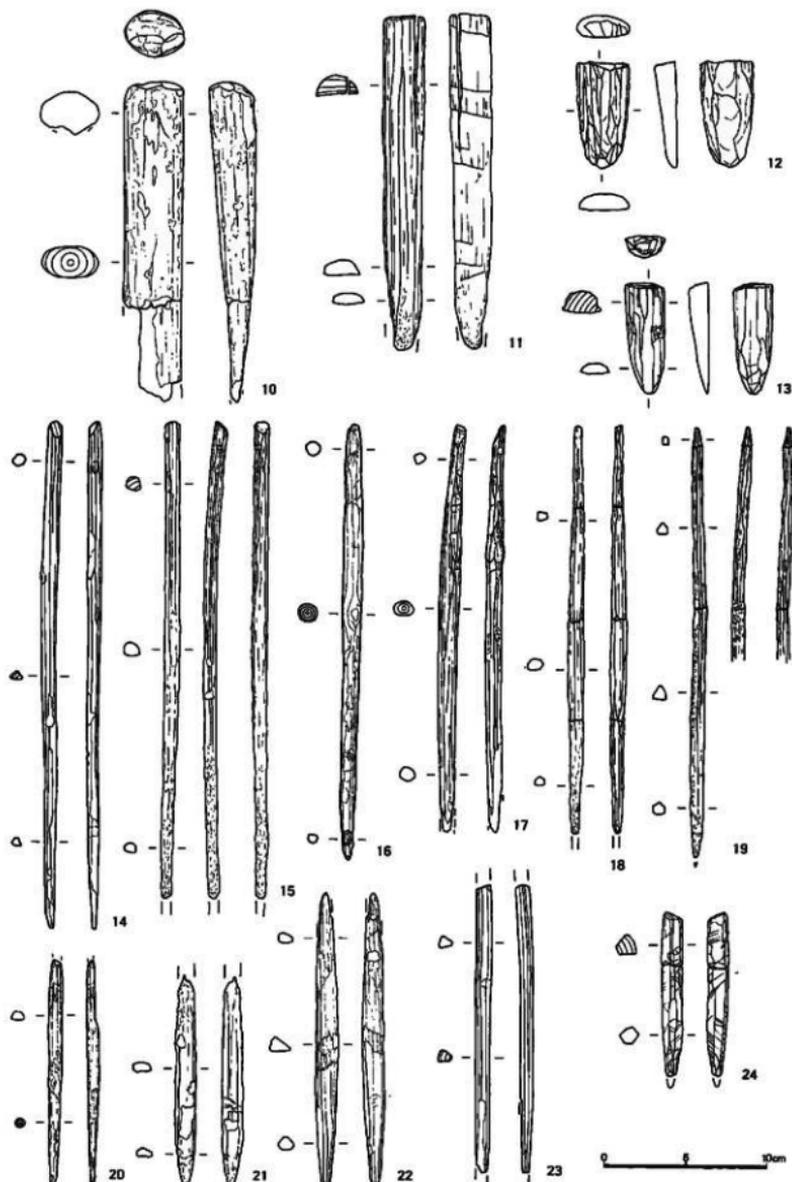
樽側板(33): やや薄い板目の側板である。口縁部側と底部側で幅に差がないことから寸胴型に近い樽と考えられる。表裏面は腐朽が著しいため、蓋・底板の挿入された痕跡は不鮮明であるが、口縁部下にかすかに推等が巻かれたように横走するつぶれが認められる。

板材(34・36): 34は板目に近い板目取りの板破片である。36は板目取りの破片である。

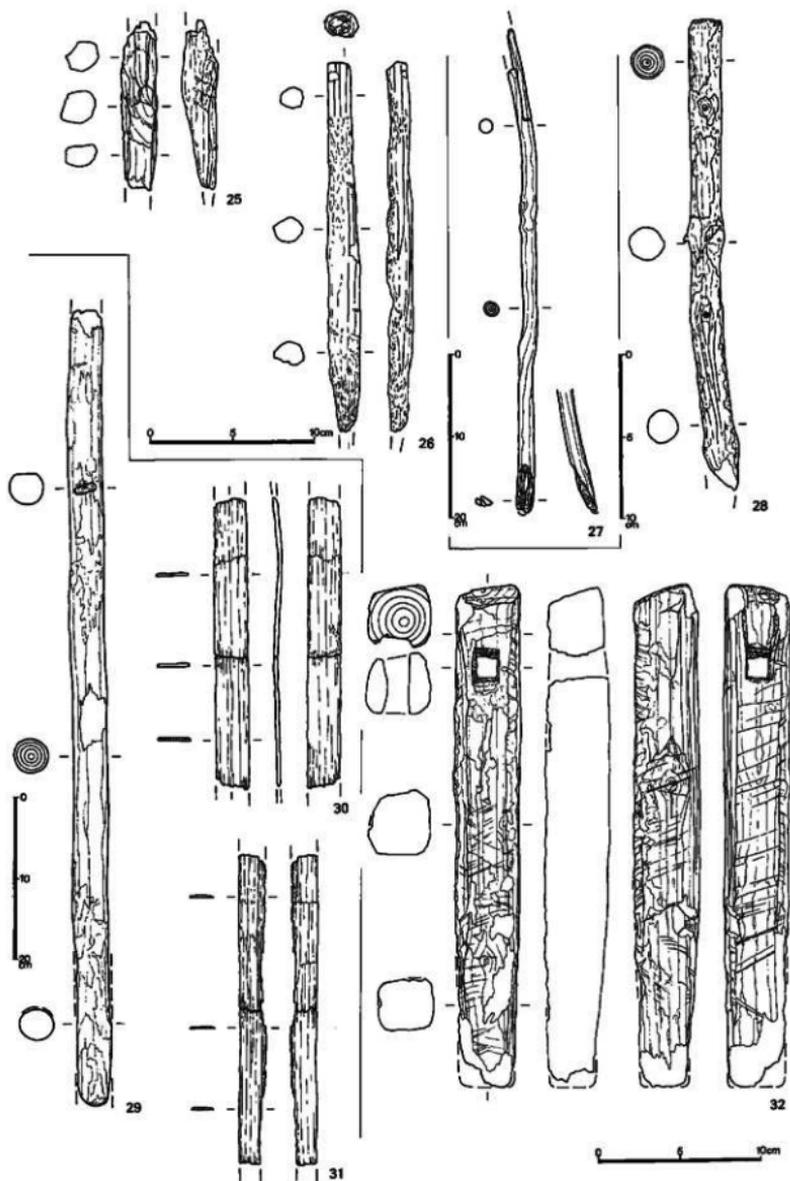
有孔板材(35・37~42): 35は板目板に3か所の角孔が当間隔に穿孔されている。上端と下端にも1か所ずつ角孔が存在したとみられ、計5か所の角孔が当間隔に直線的に並んでいたのであろう。板はその角孔部分から縦割られたものと考えられる。板縁舟の側板破片であろうか。37は板目板の上端側に小さな角孔が1か所穿孔されている。38は板目板で腐朽が著しく、下端部が土圧によりつぶれ湾曲



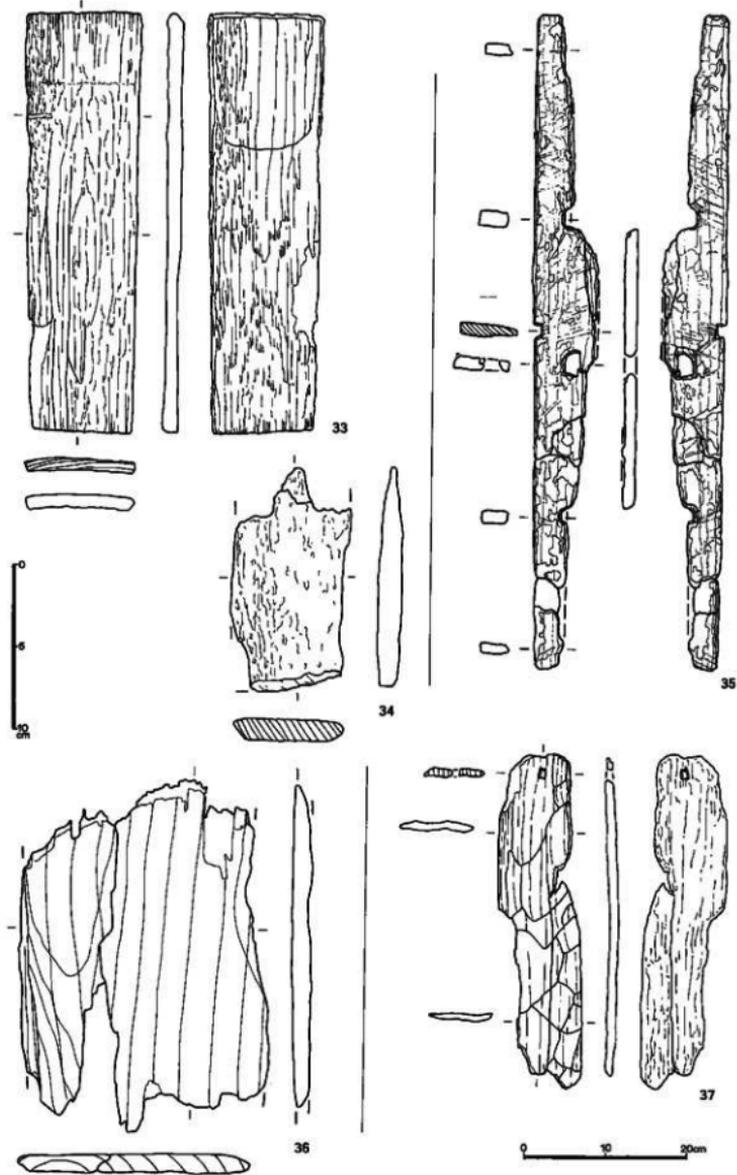
図V-126 C地区I黒層木製品(1)



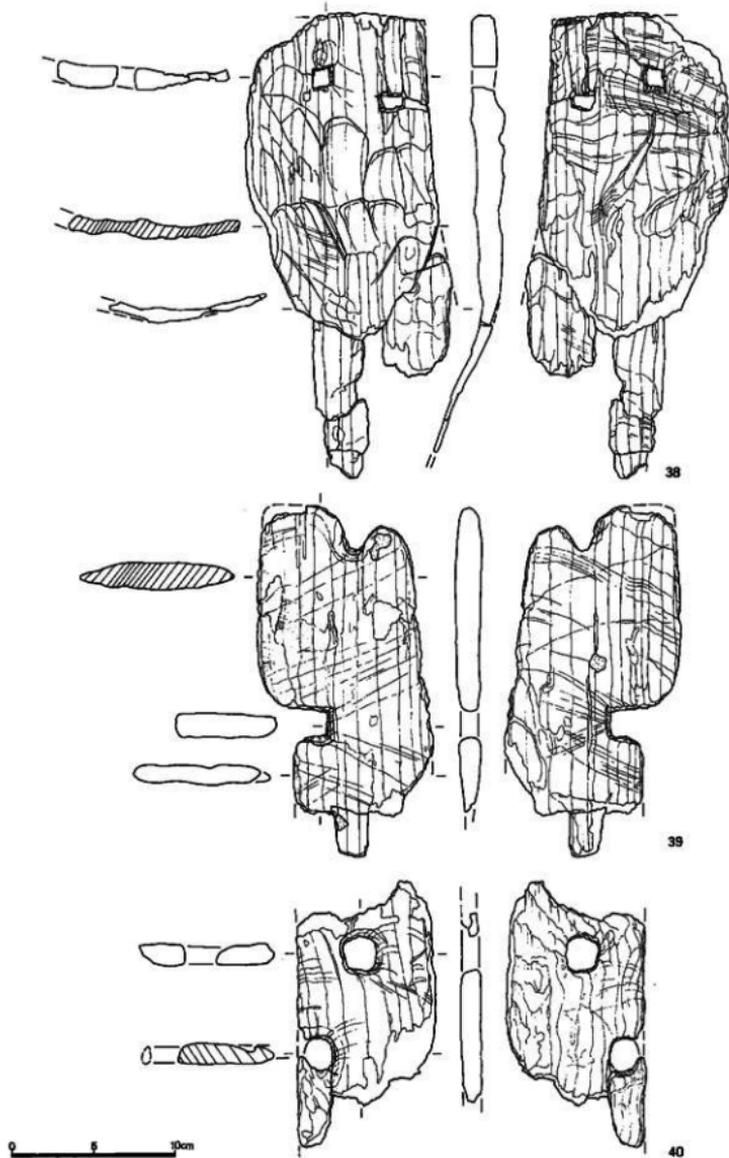
図V-127 C地区I 黒層木製品(2)



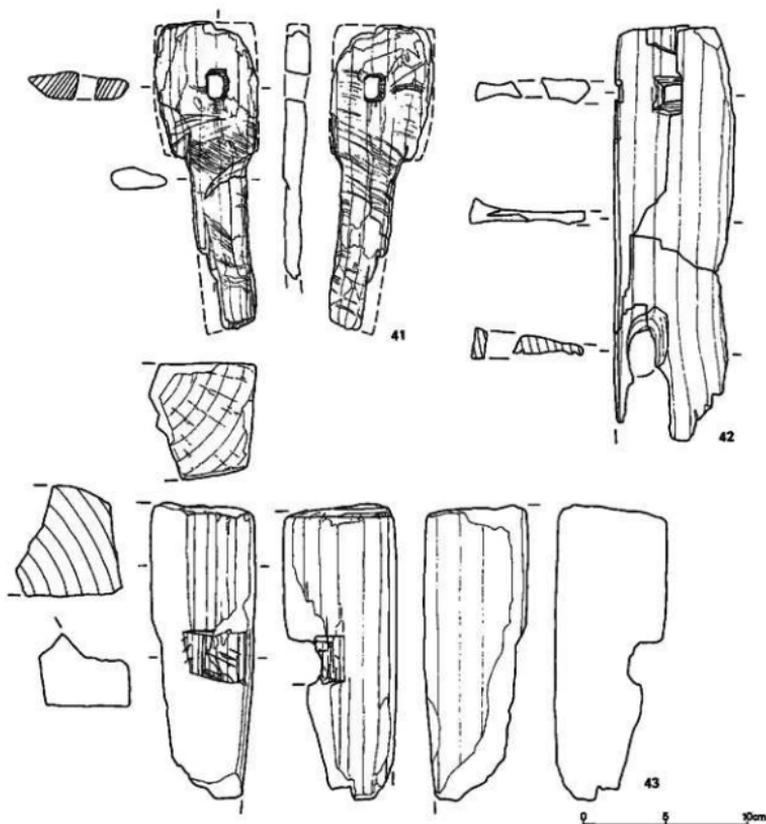
図V-128 C地区I 黒層木製品(3)



図V-129 C地区I黒層木製品(4)



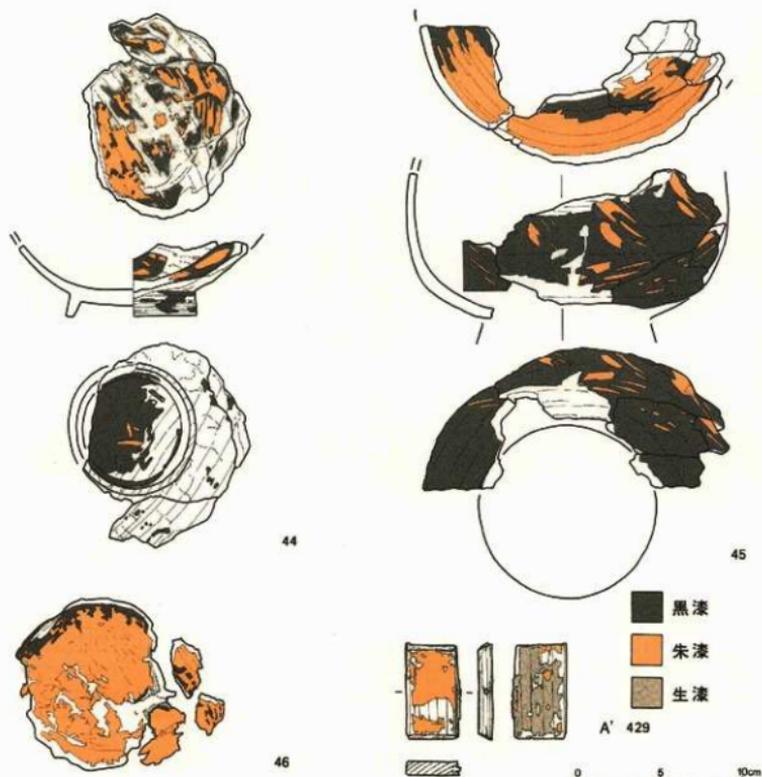
图V-130 C地区I黑層木製品(5)



図V-131 C地区I黒層木製品(6)

している。上部部に角孔が2か所穿孔されている。39は板目板で断面が凸レンズ形となっている。上部部には「V」字上の抉りがあり、中央部やや下には破損した角孔が認められる。40は両端部を欠損した板目板で、角孔が2か所穿孔されている。角孔の縁は、紐などの結束により円形に摩耗している。41の頭部は方形に加工され、その中央部に角孔が1か所穿孔されている。断面は凸レンズ形となっている。42は証目板で上部部は角孔が1か所穿孔され、そのすぐ横の側縁には角形の抉りがある。下部部側の角孔は紐ずれなどのより、上端に向かって斜めに摩耗した楕円形となっている。

扶入付角材(43)：上部部を平坦に削りだした角材の中央部が角形に抉られている。縦樋等が割れたものであろうか。



図V-132 C地区I黒層漆器(右下はA'地区)

漆器(44~46)：いずれも木質、漆膜とも遺存状態があまりよくない。44は漆塗りの碗の底部分である。低い高台がつき、漆膜は剝離が著しい。黒漆地に朱漆が塗られている。底には黒漆地に朱漆で漢字の「上」の文字が朱書きされている。45は漆塗りの鉢で、口縁部を破損したやや立ち上がる側縁部である。内面の漆膜の剝離が著しく、黒漆地に朱漆が塗られている。外面は黒漆地に朱漆で植物と思われる文様が描かれている。底部の欠損状態から高台がつくものと考えられる。46は木質の腐朽が著しく、土壌ごと取り上げたものである。漆塗りの碗または鉢の底部である。内面は黒漆地に朱漆が塗られている。

(田口 尚)

表 V-47 C地区 I 黒層埋藏木製品

Gはグリッド番号。*は推定資料。※は中間部をわがかに欠損する。数値は推定値。

種別 No	No	名	形状	発掘区	取上 No	計測値 (cm)		重量 (g)	材質	木取 構造	点 数	備 考		
						長さ	幅							
1	8753	438	楕円部	c-67-81	481	(58.2)	4.9	3.5	617.0	○	板目	A?T?P?	1	表面炭化。木炭部最上部を落して欠損。
2	8754	432	山刀形部	c-67-81	510	17.5	3.9	2.4	95.0	○	板目	板目	1	片面に葉巻状の痕跡。背面側に帯状の突起。目釘。
3	8755	457	柄・棒との接合部	c-67-83	752	(21.7)	2.5	1.6	54.3		丸木	板目	1	先端部欠損。帯状の欠りがある。
4	8756	440	直交した断面の中肯部	c-67-83	675	(15.9)	1.6	1.4	24.2		1/4割	7?H?	1	中央部の断面角形。側面に小さな欠りがある。
5	8757	4490	挿入片角棒状材	c-67-82	G	*(27.8)	2.6	2.1	60.4		板目	板目	3	角形断面に帯状の浮きがある。
6	8758	465	挿入片角棒状材	c-67-83	744	(26.3)	1.9	2.1	70.0		板目	板目	1	中央や下に欠りがある。
7	8759	380	方形部付丸棒状材	c-67-81	432	*(22.1)	4.0	1.6	58.4		板目	板目	4	方形の断面に角孔を穿孔。孔に木片残存。
8	8760	384	挿入片平円棒状材	c-67-92	484	(14.4)	2.5	2.7	50.2		板目	板目	1	断面はコゲシ類似。断面半円形。
9	8761	589	円筒状材	b-67-84	656	(4.4)	(4.2)	1.6	15.6		木口		1	半分まで欠損。
10	8762	513	棒状製品	c-67-83	757	*(19.4)	3.6	2.7	94.0		丸木	板目	2	正面は長方形。側面は細長い楔形。
11	8763	517	棒状製品	b-67-83	571	(20.2)	2.4	1.3	39.0		板目		1	上部に亀裂がある。下部は磨行。
12	8764	459	棒状製品	c-67-92	627	6.4	3.2	1.3	12.6		板目	板目	1	先が丸い。側り痕跡。
13	8765	508	棒状製品	c-67-92	660	6.7	2.3	1.3	9.9		板目	板目	1	先が尖る。側り痕跡。
14	8765	530	棒状製品	b-67-93	561	39.7	1.0	0.3	11.8		1/4割		1	B。側。断面三角形。
15	8767	578	棒状製品	b-67-93	597	(28.7)	1.0	0.8	15.1		1/4割		1	B。側。断面四角形。
16	8768	435	棒状製品	c-67-93	745	53.0	2.3	2.3	158.8		丸木		1	A。側。断面円形。下部に欠りがある。
17	8769	518	棒状製品	c-67-93	714	(24.6)	1.2	1.1	17.3		丸木		1	A。側。断面円形。下部欠損。
18	8770	527	棒状製品	c-67-91	G	*(24.7)	1.0	0.7	9.4		板目		4	A。側。断面八角形。下部部破片欠損。
19	8771	463	棒状製品	c-67-83	G	(26.0)	0.9	1.0	9.5		板目		1	D。側。先端部のみ破片剥出し。断面三角形。
20	8772	516	棒状製品	c-67-92	535	(12.6)	0.9	0.7	4.2		丸木		1	先端部破片。断面円形。
21	8773	535	棒状製品	b-67-93	G	(12.7)	1.3	0.7	7.3		半割		1	B。側。断面長方形。両端部が磨行している。
22	8774	466	棒状製品	c-67-83	786	(18.7)	1.3	0.9	11.0		1/4割		1	先端部欠損。断面三角形。
23	8775	536	棒状製品	c-67-93	676	(17.5)	0.9	0.8	7.7		1/4割		1	両端部欠損。断面三角形。
24	8776	515	ピン状製品	c-67-81	549	(10.0)	1.2	1.2	8.2		1/4割		2	先端部欠損。断面三角形。
25	8777	4490	棒状製品	c-67-82	G	(10.1)	2.2	2.2	23.6		板目		1	F。側。断面多角形。先端部破片。幅広の尖端で一箇削り。
26	8778	464	棒状製品	c-67-92	797	(22.3)	2.0	1.6	40.0		1/4割		1	F。側。先端部は磨行。
27	8779	433	棒状製品	c-67-82	733	*(58.7)	2.1	2.0	130.7		丸木		2	G。側。細枝の先を二箇削り。
28	8780	436	丸棒状材	c-67-83	750	(29.4)	2.5	2.4	83.1	○	丸木		1	上部部平らに削っている。

表V-48 C地区I黒層地蔵木製品・漆器

器料 No	木器 No	板 No	名	種	発掘区	取上 No	計測値 (cm)		重量 (g)	樹皮 成分	木取 樹種	点 数	備 考
							長さ	幅					
29	8781	437	丸座杖材		c-67-43	683	(96.5)	4.3	4.4	1244.0		1	上部に黒目がある。下端部に腐朽部分がある。
30	8782	511	帯柱目棒杖材		c-67-43	747	*(35.2)	4.0	0.6	51.3		2	2点除去。
31	8783	514	帯柱目棒杖材		c-67-43	763	*(37.9)	3.1	0.3	20.0		2	2点除去。
32	8784	439	有孔角材		c-67-43	674	(30.4)	4.0	4.0	331.5		1	上部に角孔がある。
33	8785	456	有孔板		c-67-43	728	25.4	7.1	1.5	121.0		1	上部に黒目の痕跡がわずかに見られる。
34	8786	512	板材		c-67-41	511	*(13.0)	(6.7)	1.5	80.6		2	上端部欠損。
35	8787	434	有孔板材		c-67-43	765	*(79.2)	(7.7)	1.9	521.0		6	角孔が5か所(測定3か所)。
36	8788	528	板材		c-67-43	G	*(21.4)	(5.1)	1.2	232.0		2	両端部欠損。
37	8789	442	有孔板材		b-67-44	756	*(40.6)	(10.0)	1.4	281.0		3	上部に小さな角孔。
38	8790	441	有孔板材		b-67-44	781	*(28.0)	(11.1)	1.9	218.0		9	上部に角孔2か所。下段土田により変形。
39	8791	510	有孔板材		c-67-41	509	*(21.3)	(9.8)	1.6	174.7		2	断面凸レンズ形。上部に狭り、側面に透孔した角孔。
40	8792	455	有孔板材		c-67-43	760	*(16.2)	(8.3)	1.4	83.0		9	両端部欠損。角孔2か所。
41	8793	462	有孔板材		c-67-43	713	(18.5)	(6.1)	1.7	77.5		1	角形の上部に角孔1か所。下部側縁を欠損。
42	8794	383	有孔板材		c-67-41	483	*(25.1)	(7.3)	1.9	121.5		5	角孔2か所。そのうちの1か所は楕円で楕円形。
43	8795	382	狭入付角材		b-67-43	514	(17.9)	(6.4)	6.4	376.6	1/4割	1	角形の狭り。
44	8796	445	漆塗板正部		c-67-42	659	*(12.4)	(10.1)	(4.3)	(70.0)	横木	3	内面の漆塗は劣化剥離。裏面に「上」の朱書き。
45	8797	452	漆塗板正部		c-67-43	610	*(19.0)	(8.5)	--	--	横木	7	内面漆塗は劣化剥離。外面に漆塗の文様が描かれる。
46	8798	387	漆塗板・縁正部		c-67-41	448	*(10.3)	(8.5)	--	--	横木	4	木質の腐朽著しい。漆塗は劣化剥離。

5) 自然遺物(表V-49)

掲載した遺物は、人力調査によって検出されたものである。遺物の時期は縄文時代～アイヌ文化期(1667年以前)である。遺物はI黒層から下層へゆくにしたがって種類数・量が減少していく。c-67-81、91、92、93に多い傾向は0黒層と同じだが、b-67-02、03、04にも検出されている。遺物の種類は木本が主体となる傾向は0黒層と同じである。あらたにヤマブドウが検出されている。ショウブ、ヒルムシロ、ハンノキ、など水辺や水湿のある低地に成育する植物がみあたらない。I黒層が形成されていた頃はC地区がわりと乾いていたことを示しているのかも知れない。また、A・B・C地区の各地区、0黒層までまんべんなく出土していたカワシンジュガイ殻皮はC地区のI黒層からは激減する。(鈴木 信)

表V-49 C地区I黒層自然遺物

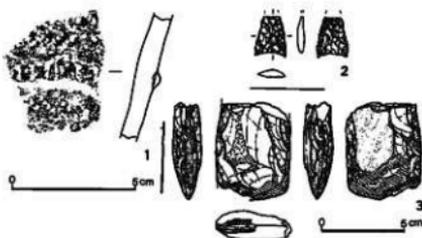
名 称	I 黒 層 出 土 の 自 然 遺 物					
	b-67-02	b-67-04	c-67-80	c-67-81	c-67-91	c-67-92
甲 殻 片			1 6 (0.01)	5 4 (0.04)	7 0 (0.02)	1 2 0 (0.06)
カワシンジュガイ殻皮				1 6 (1.10)	1 (0.18)	2 5 (3.54)
サルノコシカケ						
スギナ				1 (0.04)		1 (0.01)
ショウブ						
タデ科						
ヤマブドウ						1 (0.01)
ミンパウツギ	1 4 (0.10)					1 5 (0.08)
スモモ						
コブシ	4 (0.13)			4 (0.27)		
コナラ	2 8 (0.42)	2 2 (0.22)		3 9 (0.37)		1 5 (1.26)
ケルミ属			1 (0.73)	1 (0.22) / 8 (4.71)		3 (1.25)

名 称	I 黒 層 出 土 の 自 然 遺 物			I 黒 層 出 土 の 自 然 遺 物		
	b-67-02	c-67-80	c-67-92	c-67-93	b-67-03	c-67-82
甲 殻 片	8 0 (0.03)			3 (13.76)		
カワシンジュガイ殻皮					1 (40.98)	
サルノコシカケ						
スギナ						
ショウブ						
タデ科						
ヤマブドウ						1 1 (0.05)
ミンパウツギ	3 (+)	3 (0.01)		1 (+)		
スモモ					1 (0.17)	
コブシ	1 (0.01)					
コナラ					5 (0.20)	
ケルミ属			1 (3.18)	5 (0.24) 1 (0.79)		

(6) 第II黒色土層の遺物(図V-133、表V-50、図版V-59-2)

II黒層からは、土器が1点、石器が2点、礫が1点出土している。

1はコッタロ式に相当するもの。隆帯に縄端瓦痕文が付く。2は黒曜石製の石鏃。凹基である。3は緑色泥岩の石斧、刃部側の破片である。扁平な転石を素材とした。側縁は剝離調整のままで、刃部を研磨したものの。(鈴木 信)



図V-133 C地区II黒層土器・石器

表V-50 C地区II黒層掲載土器・石器

図番号	名称	発掘区	層位	備考
1	土器 破片	c-67-91	II B	1+1(コッタロ式)

図番号	名称	発掘区	層位	長さ×幅×厚さ(m)	重量(g)	材質
2	石鏃	c-67-82	II B	(21.0)×(12.5)×(1.6)	(0.8)	黒曜石
3	石斧	b-67-11	II B	58.0×46.1×17.9	52.1	緑色泥岩

8 各種分析

(1) 美々8遺跡低湿部出土の動物遺存体

千歳市教育委員会 高橋 理

遺構および出土状況

報告する動物遺存体は、平成3年度(1991年)に北海道埋蔵文化財センターによって行なわれた美々8遺跡低湿部C地区の調査において確認された、0F-1より検出された。この遺構は、直径約55cm、短径約45cm、深さ6cmの不整形円形プランを呈する土坑で、確認面は樽前a火山灰(Ta-a)下の0黒層と呼称する黒色土の上面である。

坑底は被熱して0黒層土が橙褐色化している。覆土は2枚の灰層で、上層にはサケ科魚類を主体とする動物遺存体が含まれ、下層には炭化物が少量混じる。下層に長径15cm程の円礫が確認された。礫は被熱していない。

17世紀後半から18世紀前半の焼土遺構である。

出土動物遺存体

動物遺存体はすべて魚類であり、サケ科魚類を主体としニシン科およびコイ科魚類がこれに加わる(表1)。すべて被熱し白色化している。

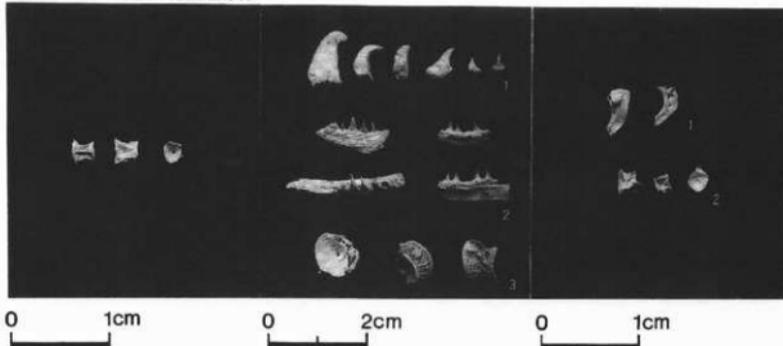
脊椎動物門	Vertebrata
硬骨魚綱	Osteichthyes
ニシン目	Clupeiformes
ニシン科	Clupeidae
マイワシ	<i>Sardinops melanostictus</i> (Temminck et Schlegel)
サケ目	Salmoniformes
サケ科	<i>Salmonidae</i>
コイ目	Cypriniformes
コイ科	<i>Cyprinidae</i>

最も多く出土しているサケ科魚類は脱落歯、顎骨および椎骨である。また頭骨と考えられる部位の破片も少なからず検出されている。完形の椎骨はないが、大きさがある程度推定できる資料は3点(腹椎)ほどあり、標準体長530mmのシロザケ(雌)の原生標本よりもいくぶん大きな個体である。ニシン科魚類は椎骨のみの出土であり、マイワシと考えられる。コイ科魚類の咽頭骨および椎骨(?)が検出されている。咽頭骨は細片化しているが、いずれも小型である。なお、学名表記は長澤・島澤(1991年)によった。

参考文献

長澤和也・高澤 雅編（1991）「漁業生物図鑑 北のさかなたち」 韓北日本海洋センター
 阿部宗明（1963）「原色魚類検索図鑑」 韓北陸館

写真1 0F-1出土動物遺存体



1 マイワシ尾椎 2 サケ(1. 歯 2. 顎骨 3. 腹椎・尾椎) 3 コイ科(1. 咽頭骨 2. 椎骨・頭骨)

表1 C地区0F-1出土動物遺存体

魚種	部位	破片数	重量(g)
サケ科	歯(脱落歯)	127	1.2
	顎骨(歯椎立)	16	0.3
	椎骨	117+	5.8
	鱗棘 他	1341+	5.8
	頭骨破片 (破片がままれる可能性あり)		5.7
ニシン科	椎骨	111	0.1
コイ科	咽頭骨片	5	
	椎骨(?)	6	
不明魚骨	椎骨 骨片	1	2.8

(2) 植物遺存体について

下に掲載した表はフローテーションによって遺構から出土した植物遺存体(種子)の一覧である。種名の同定は吉崎昌一氏に依頼した。今回は調査中なので属・種名だけを掲載した。

植物遺存体が出土した遺構の時期は、0F-1、0N-1、0C-1~8がアイヌ文化期(1667年~1739年)、IC-1~9が縄文時代~アイヌ文化期(1667年以前)である。

注目されるのは0黒層の遺構からアワ、ヒユ、アサの栽培植物が検出されたことである。また、知里真志保「分類アイヌ語辞典 植物動物編」平凡社(1976)や更級源藏・更級 光「コタン生物記 I」法政大学出版局(1976)によると、アイヌの人々にとっての有用植物も0黒層の遺構から出土しており、例えば、ヨモギ、ニワトコ、タラノキ、キハダ、ホウノキが薬として用いられるようであり、バラ属(ハマナス)、キイチゴ、マタタビ、キハダ、ブドウ、クルミは食べる植物である。またミツバウツギ、ホオノキ、クルミは材として用いられる。加えてキハダ、ブドウ、ミツバウツギ、クルミは人力調査によって包合層からも確認されており、積極的に利用されていたことがわかる。

0黒層において、種子の種類数の多い遺構は0C-4~7で、可食植物が主体となる。植物遺存体の種類数の少ない遺構は、0C-3・0F-1である。0F-1からはサケなどの骨が検出されておりこの遺構からは動植物両方が含まれていた。

I黒層の遺構からは、IC-7で唯一栽培植物が検出された。有用植物はあまり検出されていない。そのなかではタラノキ、ブドウが比較的良好に検出されている。植物遺存体の種類数の多い遺構はIC-5・7である。植物遺存体の種類数の少ない遺構はIC-1~3・6・8・9である。(鈴木 信)

表1 美々8遺跡遺構出土植物遺存体

遺構名	層位	植物種別												
		アワ (粒)	ヒユ (粒)	アサ (粒)	タラノキ (粒)	ホウノキ (粒)	ヨモギ (粒)	ニワトコ (粒)	キイチゴ (粒)	マタタビ (粒)	キハダ (粒)	クルミ (粒)	不明種子 (粒)	
0F-1	0F-1	●												
0N-1	0N-1													
0C-1	0C-1													
0C-2	0C-2													
0C-3	0C-3													
0C-4	0C-4													
0C-5	0C-5													
0C-6	0C-6													
0C-7	0C-7													
0C-8	0C-8													
0C-9	0C-9													
IC-1	IC-1													
IC-2	IC-2													
IC-3	IC-3													
IC-4	IC-4													
IC-5	IC-5													
IC-6	IC-6													
IC-7	IC-7													
IC-8	IC-8													
IC-9	IC-9													

(3) 金属製品について

金属製品の材質調査は鉄鍋などの鋳造品を、岩手県立博物館の赤沼英男氏に依頼した。その結果、昨年度報告の0黒層出土の金属製品のなかで、カスガイ（図IV-17の10）の地金の材質に特徴があることが指摘されている。このカスガイは普通「平鏡」と分類されている。普通のカスガイに比べて刺さり込む部分が短く幅が広いことが特徴である。この形のカスガイがどのような機能を持っていたか、材質と形態を合わせて再考する必要がある。

その他に特筆すべきことは、C地区0黒層出土のキセル吸口についてである。今のところ、管見によれば北海道における出土例は確認されていない。材質は蛍光X線分析によって真鍮製ということが判明した。形態については前述したように古泉分類の吸口第I類Bの範疇に入る。製作技法は断面六角形の肩の上から狭義の吸口をかぶせており、吸口第I類の範疇に入るが、吸口第I類Bの製作技法とは異なっている。0黒層上面に近い層準から出土しており、年代についてはTa-a 降下火山灰層(1739年降下)に近い年代が考えられる。古泉分類の吸口第I類は江戸において16世紀末から17世紀前半に編年されるものである。本遺跡においては0黒層(1667年～1739年)上層から出土しており、18世紀前後の廃棄年代が考えられる。

以上より、このキセルは伝世されていた可能性が高い。キセルが北海道に登場した初期においては江戸と異なる受入れかたをされていた可能性も考えられる。今後、類例の増加を待ちたい。

(鈴木 信)

(4) 樹種同定

樹種同定は平成元年度の木製品・自然木（加工部欠損木を含む）902点の同定で24科35属、平成2年度の木製品は134点の同定で15科19属が確認されている（不確定樹種を含む）。

平成3年度出土木製品の同定は、実測作業および写真撮影の終了した掲載木製品の中から加工度の高い製品を289点抽出した。今回は時間の制約から大型の建材群、立杭、管状製品、串状製品等を除外しているが、今後の整理作業の中で同定を実施する予定である。掲載した樹種名はすべて属名である。

同定の方法は、試料から約5mm×5mmの木口、板目、柀目の種薄切片を片刃（または両刃）カミソリで採取したものを直接スライドガラスとカバーガラスに挟み、美々8遺跡（北埋調報69）同様に光学顕微鏡を用いて、無染色のまま顕鏡した。なお、同定に先だって、これまでの同定結果をもとに現世樹種の永久プレパラートを針葉樹6科8属8種、広葉樹24科35属42種作成し比較検討資料とした。

今回の同定では針葉樹4科6属、広葉樹20科26属が確認された。針葉樹ではカヤ属、クロベ属が追加され、広葉樹ではトチノキ属、シナノキ属が追加された。大部分の樹種は遺跡周辺に見られるものであるが、針葉樹のうちスギ属、ヒノキ属、クロベ属は本州材と考えられる。黒松内以北には自生しないとされるブナ属や小樽が北限とされるトチノキ属は本州或いは道南部からの移入品と考えられる。なお、不確定のためスギ属？と記載してきたものはクロベ（ネズコ）属の可能性があり今後注意を要する。当センターに導入された走査型電子顕微鏡等を使用して、他の不確定樹種と共に再同定する必要がある。

製品別に見ると曲物、折敷、桶・樽、薄柀板等の50%以上がスギ属であり、ヒノキ属やクロベ属がそれに続く。管状製品の45%はアジサイ属、36%がスギ属であり、他にイチイ属、ツゲ属等がある。串状製品ではスギ属が34%を占め、アジサイ属は13%程である。他にトネリコ属、イチイ属、カツラ属等の各種材が少量含まれている。アジサイ属以外の管状製品や串状製品は割裂性の良いスギ属等の再加工品と考えられ、釘穴の認められるものは桶・樽を加工したものであろう。他に特徴的な樹種選択の認められるものには回転式離頭銚中柄や矢中柄がある。80%以上がアジサイ属であり、アイヌの民具例では素材としてアジサイ属のノリウツギ（アイヌ語名チラスパ）が使用されている。回転式離頭銚中柄部をアイヌ語でラスパヤラシユパと呼ぶのも樹種名からと思われる。魚突き鉤はカエデ属が多く、アジサイ属がそれに次いで多い。小刀柄・山刀柄はカエデ属が70%と多く、これも民具例と類似する。早稲・車種はモクレン属が多く、他にサクラ属、ハンノキ属、コナラ属、ヤナギ属等がある。他にスギ属も同定されている。アイヌ民具の舟材には、カツラ、ヤチダモ、ハリギリ、ハコヤナギ等が使用され、それと同一の材で舟用具を製作したらしく材の選択には地方差が認められている。製作地等を検討する好試料と考えられる。昨年度のヒキリギネはスギ属であり、着火率が最も良い素材である。ヒキリ板はイヌエンジュ属、ヤナギ属の二種である。アイヌの民具例では素材としてハルニレ、トドマツ、コクワが使用されたらしく、今後の試料の増加が期待される。板材はハリギリ属とハンノキ属がやや多く、樹種の種類も多い。しかし、有孔の板材では50%以上がハリギリ属となったことが特筆される。他の製品については明確な樹種選択の傾向は認められていない。今後は特定の製品の同定点数を増やし検討試料としたい。

(田口 尚)

これまでに同定された28科41属名とその代表的樹種名を以下に列記する。

- イチイ科：イチイ属 *Taxus* (イチイ)、カヤ属 *Torreya* (カヤ)
 マツ科：モミ属 *Abies* (モミ・トドマツ)、トウヒ属 *Picea* (エゾマツ・アカエゾマツ)、カラマツ属 *Larix* (カラマツ)
 スギ科：スギ属 *Cryptomeria* (スギ)
 ヒノキ科：ヒノキ属 *Chamaecyparis* (ヒノキ・サワラ)、クロベ属 *Thuja* (ネズコ)
 ヤナギ科：ヤナギ属 *Salix* (エゾノカワヤナギ・ネコヤナギ)、ハコヤナギ属 *Populus* (ドロノキ・ヤマナラシ)
 クルミ科：オニグルミ属 *Juglans* (オニグルミ)
 カバノキ科：ハシバミ属 *Corylus* (ツノハシバミ)、クマシデ属 *Carpinus* (サワシバ)、アサダ属 *Ostrya* (アサダ)、シラカンパ属 *Betula* (シラカンパ・ウダイカンパ)、ハンノキ属 *Alnus* (ハンノキ、ヤチハンノキ)
 ブナ科：ブナ属 *Fagus* (ブナ)、コナラ属 *Quercus* (ミズナラ・コナラ)、クリ属 *Castanea* (クリ)
 ニレ科：ニレ属 *Ulmus* (ハルニレ・オヒョウ)
 クワ科：クワ属 *Morus* (ヤマクワ)
 カツラ科：カツラ属 *Cercidiphyllum* (カツラ)
 モクレン科：モクレン属 *Magnolia* (ホウノキ、キタコブシ)
 ニキノシタ科：アジサイ属 *Hydrangea* (ノリウツギ、ガクアジサイ)
 バラ科：サクラ属 *Prunus* (エゾヤマザクラ・シウリザクラ)、リンゴ属 *Malus* (ズミ・エゾノコリンゴ)、ナナカマド属 *Sorbus* (ナナカマド・アズキナシ)
 マメ科：イヌエンジュ属 *Maackia* (イヌエンジュ)
 ミカン科：キハダ属 *Phellodendron* (キハダ・ヒロハノキハダ)
 ニガキ科：ニガキ *Picrasma quassioides* Benn (ニガキ)
 ツゲ科：ツゲ属 *Bucux* (ツゲ)
 ウルシ科：ウルシ属 *Rhus* (ヤマウルシ・スルデ)
 ニシキギ科：ニシキギ属 *Euonymus* (マユミ・ツリバナ)
 カエデ科：カエデ属 *Acer* (イタヤカエデ、ヤマモミジ)
 トチノキ科：トチノキ属 *Aesculus* (トチノキ)
 シナノキ科：シナノキ属 *Tilia* (シナノキ)
 ウコギ科：ハリギリ属 *Kalopanax* (ハリギリ)
 ミズキ科：ミズキ属 *Cornus* (ミズキ)
 モクセイ科：トネリコ属 *Fraxinus* (ヤチダモ・アオダモ)、ハシドイ属 *Syringa* (ハシドイ)
 スイカズラ科：ガマズミ属 *Viburnum* (ガマズミ・オオカメノキ)
 イネ科：ササ属 *Sasa* (クマイササ・チシマザサ)、タケ等
 ツル性植物：(ヤマブドウ等)

9 まとめ

(1) 遺構

検出した遺構は、建物跡や建材群、木組、立杭、杭穴、双礎、集石、焼土、自然遺物集中、炭化物集中であった。これらは表土層、0黒層、I黒₁層、I黒₂層の各層において検出できたことが今年度の成果である。この成果によって縄文時代中期から江戸時代中期にわたって遺跡が形成されていることが明らかとなり、それを細分してとらえることができるようになった。来年度以降の調査および整理では、細分した遺跡形成の過程を各時期ごとの遺構の配置を把握し、その上で遺構の機能を推定する行くことが必要である。遺構については、人力調査を行ったC地区を主に述べることにする。

建物跡：柱は腐朽した立杭の状態を検出し、かつ周辺には建材などが出土しておらず、上部構造は不明である。柱はA'地区で出土した建材群に比べると細く、面積も小さいことから作業小屋と考えられ、建材群に付随するものとも考えることもできる。

木組：横木1本、立杭2本、杭状の材4本の出土状態から判断して、棚上の構造ではなく掃や物干しに近い構造が考えられる。周辺に簀状と串状製品がやや多く分布していることから生産加工にかかわる遺構とも考えられるが今後類例の増加を待たれる。

立杭：時期の細分は前年度までは不明であったが、今年度は残存していた上端部を確認した面が、立杭の所属する時期を示すことがわかった。立杭のほとんどは樹皮付きの丸木でありこの傾向は昨年度と同じである。分布・配列は0黒層において、建物跡や木組付近に集中し等高線と並行していることのほかは特に規則性はみられなかった。なお、調査においては、覆土による杭穴の時期別細分と杭先に付着した火山灰や杭先の直下の土の観察によって細分を試みた。

杭穴：覆土に含まれている火山灰によって時期を細別した。表土層、0黒層、I黒₁層で確認できた。表土層、I黒₁層では分布に規則性は確認できなかった。0黒層では直径と分布によって杭穴の性格が推定できたその結果同じ直径の杭穴が配列をもち0W-1のような遺構となることがわかった。

集石：0黒層から検出された。加熱や破壊は受けていないことから鍾石と考えられるが、昨年度報告の集石よりも小型のものであるため、鍾石の中にも複数の用途が考えられる。今後台地上の集石などとの比較を通じて性格を明らかにする必要がある。集石の礎はすべて搬入された礎であり、日高地方の河川から採取された可能性が高い。現地の河川に赴いて対照資料を観察・測定する必要がある。

焼土：0F-1からはフローテーションによって、サケ科、マイワシ、コイ科の動物遺存体が検出された。淡水棲魚類と海水棲魚類が同じ遺構の同じ層から検出されたことは、当時の人たちが海に赴いて漁を行っていたことを示している。同じ類例として平成元年度報告のH-1のHF-1・HF-3、H-2のHF-4、F-24がある。これらはカレイ、ニシン、ウバガイ、ホタテガイの海棲魚貝類を含み、イトウ、ウグイの淡水棲魚類も含む。また、0F-1からはアワ種子が検出された。栽培植物が見つかったのは初めてのことであり、アワはヒエについて重要な作物であった。0F-1(伊?)は動植物の両方が検出されており使い方に特徴がある。

自然遺物集中：0N-1はクルミの殻がままとまっていた。このような残滓の集積は物送り場として考えられることもできる。

炭化物遺物集中：0黒層、I黒₁層、I黒₂層において検出した。とくに0黒層、I黒₁層において検出したものは可食植物の炭化種子を複数種類含むものが多く、0黒層の炭化物遺物集中の中にはヒエ、アサの栽培植物を含むものがある。これらの結果、炭化物遺物集中には単に焚火の跡とはいえず、炊事場や物送り場とも考えられる。遺構の性格の推定には、炭化した大型の植物遺存体の中に薪用の材が含まれているかどうか問題となろう。

(鈴木 信)

(2) 遺物

本年度は良好な状態で包含層が残されていたことから木製品・樹皮製品・織物製品の質・量とも昨年度の調査以上に豊富となっている。遺物の内容は、先述の遺構同様に低湿度部内において生活が営まれていたことを示し、これまで推測されていた遺跡の性格を補強するものであった。

遺物名称は、基本的に「アイヌの民具」（萱野 1978年）および一般的な和名を使用し、他に形態や用途をある程度考慮した独自の造語を使用している。アイヌ民具の可能性のあるものには「アイヌの民具」のアイヌ語名称を（ ）内に片仮名で付している。しかし、現状では民俗学や言語学における地域を考慮した系統的なものでないことから、不備や誤認が多々あると思われる。今後の遺物名称および分類については、平成4年度出土遺物の整理と合わせて再検討すべきと考えている。これまでに報告した遺物等について、先学諸氏のご指導、ご助言頂ければ幸いである。

平成元年度から3年度まで出土した遺物には次のようなものがある。

建築・土木材：受部のある柱、桁、母屋、垂木、枕、木組材、建材、板材、角材、丸木材、半割材、偏割材、カスガイ、釘等。

交通具：板縁舟（イタオマチツ）舷側板、祖印（イトッパ）の刻まれた權受輪部（タカマ）、車權（カンヂ）、早權（アッサツ・サツカイ）、メカジキ（シリカフ）の線刻画が描かれた早權、イトッパの刻まれた權握部、舟のあか及び（ワッカケツ）等。

運搬具：背負繩（タラ）あるいはおぶり紐（イエオマツ）等。

漁撈具：魚突鉤台部（マレツニビヒ）、回転式離頭鉤（キチ）の中柄（ラシュバ）・柄（オツ）・手掛部（オッケン）、ヤス、魚叩き棒（イサバキツニ）等。

狩猟具：弓（ク）、仕掛弓台（クワリ）、矢中柄（マカニツ）・矢柄（アイヌツ）・矢筈（アイチヤシ）、矢筈（イカヨツ）の翼部分、打棒（カンニ）等。

農耕具：豚（トンカ）の風呂部、鉤型の木豚（ニシツタツ）等。

住用具：伊鉤（スワツ）、ビン（シンニヌツ）等。

加工具・道具類：縦槌、横槌（トッチ）、楔（センビ）、ビン類、織物の糸締め具（ベラ）、木製作業台、砥石（ルイ）、錐石（ビツ）、台石等。

切裁具：小刀（マキリ）の柄、アイヌ文様の彫刻付きの山刀（タシロ）、山刀の鞘帯執部、シラカバ樹皮製の鞘（ケベシベ）等。

調理・食用具：箸（イベバスイ）、串（イマニツ）類、杓子（カスツ）、筥、団子筥（シトベラ）、内耳鉄鍋（ス）等、碗・皿・搦鉢等の陶磁器類。

容器類：漆塗椀（イタンキ）、鉢（ニマ）、盆（イタ）、膳（オッチャ）、曲物、桶・樽などの側板・蓋・底、樽の栓等。

燈火・暖房用具：ヒキリ板、ヒキリギネ、火口入れの蓋？、火打石（カッサマ）、先の鈍けた燈火用シラカバ樹皮巻（チノイユタツ）、焚付用のシラカバ樹皮、燈火用樹皮挟木（スネニ）、薪の燃灰（アベケツ）および炭化材、燈明皿、石製火皿等。

喫煙具：煙管（キセリ）雁首・吸口等。

結束具：燃紐・縄類、組紐、挿入式や結束式の細帯状樹皮等。

祭祀具：上部に逆削り痕や連続する切り込みのある木幣（イナウ）のような棒状製品、捧酒箸（トキヤバスイ）、花矢（ヘベレアイ）、宝刀（イコホ）のミニチュア、篋のミニチュア等。

着用具：緒締・根付、下駄等。

装飾品：彫刻のある飾り板、ガラス玉、琥珀玉等。

銭貨：天禧通宝（北宋 1017年）、景祐元宝（北宋 1034年）、嘉祐通宝（北宋 1056年）、元豊通宝（北宋 1078年）、洪武通宝（明 1368年）等。

その他：木端、切片、枝切痕、炭化材、樹皮片、動物遺存体、植物遺存体、昆虫遺体等。

当遺跡では各種形態の櫂、櫂軸受部、あか汲み等の舟具が多数出土している。舟は交通具であるため採集地＝製作地とは考えにくい、河川・湖沼・湿地などの環境によって櫂等の推進具に形態差があったと推定される。ここで櫂について若干述べる。

本遺跡出土の各種の櫂は Ta-b 層（1667 降灰）と Ta-a 層（1739 降灰）に挟まれた 0 黒層から出土したものである。形態は早櫂（サツカイ、アツツ、アシナツ、アシナツツ、アシナツツ等）地域によってアイヌ語名称が異なる）と車櫂（カンチ）の 2 種に大きく分けられる。

早櫂は直接手で水を掻くパドルのような形態のものである。早櫂は水掻部の肩の張出したカナディアンカヌーのパドルのような形態のもので明確な肩を持たない細長い水掻部の櫂や舵に似た形態のものに分けられる。通常は柄末端部に握部が装着されていたようであり、挿入された柄や目釘の残る「T」字形や「Y」字形の握部が出土している。出土した完形の早櫂の柄部は長く、高い斜板の舟に使用されていた可能性がある。

なお、早櫂水掻部にアイウシ文やメカジキ（シリカッ）の線刻面の描かれたものは、アイヌ民族資料には皆無である。メカジキの肋骨は回転式離頭鉋先の素材にもなり、アイヌのメカジキ漁に深く関係する櫂と考えられる。この櫂は水上交通および漁撈活動に伴う精神生活の検討に欠かせない重要な遺物である。アイヌにとってメカジキは海の神様（レブン・カムイ）であり、数属の神霊が残されている。メカジキは 7 月から 11 月にかけて胆振から日高沿岸を回遊し、噴火湾沿岸の白老から幌別沖が好漁場であったとされる。通常は漁場に向かうまでは車櫂で漕ぐが、メカジキを発見すると早櫂に変えたい。それは、車櫂の場合には漕ぐときに波音が立つため、その音でメカジキが逃げてしまうからであったと言われる。メカジキの肉は普通煮て食べるが、薄く切って乾燥させ保存食としたり、眼玉の皮や背椎の髓などを鰓でたたいて、これに眼玉の汁とアイヌネギを混ぜ合わせたチタツツという料理が特に珍重されたらしい。

車櫂には軸差込孔があり、櫂受軸（タカマチ）に差込んでオールのように漕ぐタイプのものである。軸差込孔の周辺はややたく、孔は水の抵抗と回転運動のため楕円形に摩耗している。車櫂はすべて柄から軸差込孔にかけての部分や軸差込孔の周辺部の破片であり完形のものはない。軸差込孔が 2 か所穿孔されているものは、水の抵抗や水面の高さに合わせて回転軸の長さを変えるための構造であろう。車櫂の出土は、この地点まで板楯舟が往来していたことを示すものである。

早櫂・車櫂、櫂握部、櫂受軸部の樹種はモクレン属が多く、サクラ属、コナラ属、ハリギリ属、カエデ属、ハンノキ属、トネリコ属、スギ属、モミ属等の樹種がある。早櫂には握部と櫂本体の樹種が異なるものもある。櫂・櫂握部・櫂受軸部にイトツバが刻まれているものは、アイヌの丸木舟や板楯舟の舟具であり、本州や道南の黒松内以南に自生が限られるスギ属のものは、アイヌの板楯舟を模倣した松前藩の縄楯舟や和舟の舟具であった可能性を考慮する必要がある。

アイヌの舟や櫂については蝦夷拾遺（山口高品 1786 年）、蝦夷島奇観（村上嶋之丞 1799 年）、蝦夷器具図式（谷 元旦 1799 年）、蝦夷生計図説（村上貞助 1823 年）等に写生や風俗画として詳細に記録されている。アイヌの丸木舟、舟の雛形・模型は各地の博物館、資料館に多数収蔵されており、特に雛形や模型は舟の細部構造・櫂等を詳細に復元したものが多く。しかし、他の民具資料同様に採集年代は明治時代以後であり、多くのものは採集地や採集年代が不明である。また、アイヌの丸

木舟に関する研究は少ないが、堀江敏夫氏(1971年)や犬飼哲夫(1969年)の論文に詳しい。しかし、榎そのものにはあまり触れられていない。出土舟には、苫小牧市沼ノ端勇弘川(苫小牧市教育委員会1966年)で発見された5艘の丸木舟や千歳市ママチ川出土のものがある。苫小牧市出土のものはTaerb層から発見されたものであり、本遺跡の榎の年代に近い資料である。また、そのうちの2艇は舷側に穿孔された孔が連なる板艇舟であった。他の艇から発見された棹や櫂の端には本遺跡同様にイトツバが刻まれており、榎の長さや幅も本遺跡のものに近く興味深い資料である。

櫂や舟用具は「ユウフツ越」等の原形となる交通の拠点としての舟着場の存在を示すものである。メカジキの線刻画の描かれた櫂、回転式離頭鉤などの漁撈具は内陸のアイヌの漁猟基地的性格を推測させ、河川・湖沼・海上での漁猟活動や他地域との交易が盛んであったことを示す貴重な遺物である。メカジキ等の漁撈期や海獣猟期にはここから太平洋に舟出したり、往来する和人に舟を跳え行程の道案内や荷役を行っていたのであろうか。交通利便地という立地条件や多種多様な遺物から、アイヌ対アイヌ、アイヌ対和人と交易拠点的な性格を持っていたとも推測でき、今後は北方地域との物質文化の関わりについても考慮する必要がある。今後の調査ではアイヌ独自の生活用具、和人と交易による生活用具、和人の生活用具またはそれらの再加工品、北方との交易品等にてできる限り遺物を整理し、複雑に絡み合った当遺跡の性格を検討する必要がある。また、アイヌ独自の生活用具については、製品の形態や樹種選択等および製品に付されたイトツバを比較検討し、他地域のアイヌとの関わりや当時のイオル(生活・狩猟領域)の概念を再検討する必要がある。(田口 尚)

引用・参考文献

- アイヌ文化保存対策協議会編(1969)『アイヌ民族史 上』第一法規
 伊藤裕満(1986)『白老地方におけるシロカッ漁の事例(上),(下)』『アイヌ民族博物館だより No.11,12』
 大塚和義(1981)『失われたアイヌの儀礼』『アニマ』
 萱野 茂(1978)『アイヌの民具』すずさわ書店
 久保寺逸彦(1977)『アイヌ叙事詩 神話・聖伝の研究』
 古泉 弘(1985)『キセル』『江戸 都立一橋高校地点発掘調査報告』
 佐藤三三郎(1938)『北海道概別漁村生活誌』アチックミュージアム
 鈴木 信(1992)『美々8遺跡低層部の調査』『考古学ジャーナル12』ニューサイエンス社
 田口雅彦(1983)『北大式土器』『北奥古代文化14』
 谷元 且(1999)『蝦夷風俗図式』『蝦夷器具図式』(大塚和義監修(1991))安達美術
 千歳市教育委員会(1979)『ママチ川丸木舟遺跡発掘調査概要報告書』
 苫小牧市教育委員会・市立苫小牧図書館(1966)『苫小牧沼ノ端丸木舟発掘調査概要報告書』
 名取武光(1972)『アイヌと考古学(一),(二)』北海道出版企画センター
 林 善茂(1969)『アイヌの農耕文化』慶友社
 プロジェクトシーズ(1989)『Project Seeds News No.1, 2』
 北海道埋蔵文化財センター(1986)『エノイチャシ跡・ポロモイチャシ跡・二風谷遺跡』北埋調報 26
 “ (1989)『小樽市忍路土場遺跡』北埋調報 53
 “ (1990)『美沢川流域の遺跡群』XIII 北埋調報 62
 “ (1991)『美沢川流域の遺跡群』XIV 北埋調報 69
 “ (1992)『美沢川流域の遺跡群』XV 北埋調報 77
 村上貞助(1823)『蝦夷生計図説』[河野本道・谷澤尚一解説(1990)]北海道出版企画センター
 村上鳩之丞(1799)『蝦夷島奇観』[佐々木利和・谷澤尚一解説(1982)]雄峰社
 山口高品(1786)『蝦夷拾遺』

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第83集

美沢川流域の遺跡群 XVI

—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第2分冊

平成5年3月26日 発行

編集 財団法人北海道埋蔵文化財センター

● 064 札幌市中央区南26条西11丁目

TEL (011)561-3131

印刷 興国印刷株式会社

● 063 札幌市西区西町南13丁目1番40号

TEL (011)665-4155

